社会福祉学科

１　共通科目

文学

担当教員 髙　継芬

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義で日本文学においては、日本近代文学の巨匠夏目漱石が切り開いた近代小説の世界とは何か、彼の文学の人生についてアプローチし彼の心を理解する。中国文学から受けた影響、そして西洋文学から受けた影響を学ぶことで漱石についての理解を深める。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	ガイダンス明治時代の日本文学について説明する。
2	夏目漱石という人物について、人生歴、交友、側面からアプローチする。
3	『草枕』を始め、『虞美人草』『三四郎』『門』等の作品から文学観の変化をとらえる。
4	熊本小天温泉を舞台にした『草枕』の背景について初期の文学観について学ぶ。
5	『草枕』を読みながら作者の西欧文化に対する考えを理解する。
6	夏目漱石のイギリス留学について説明する。
7	『永日小品』を読みながら夏目漱石がイギリスに対する印象を理解する。
8	『永日小品』の「下宿」を解読する。
9	『永日小品』の「印象」を解読する。
10	『永日小品』の「昔」を解読する。
11	『永日小品』の「過去の匂い」を解読する。
12	『永日小品』の「暖かい夢」を解読する。
13	夏目漱石の作品を読みながら中国文学から受けた影響を理解する。
14	『草枕』を読みながら作者の東洋文学に対する考えを理解する。
15	夏目漱石の作品を学んだ総まとめ。（高）

【履修上の注意事項】

夏目漱石の作品を読んでいくが講義の時間だけでは限りがあるので、予習,復讐など積極して頂ければよりスムーズに講義が進むことができる。

【評価方法】

授業内に課す小リポート（４０点）＋学期末試験（もしくは学期末リポート）（６０点）

【テキスト】

講義時プリント配布。

【参考文献】

課題図書は授業時に適宜紹介する。

心理学Ⅰ

担当教員 永田　俊明

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
対人サービス領域の専門職に必要な心理学理論、心理学的な支援技法を学習し、心理学的な視点から人間を理解し、個人が直面し、抱える問題を心理学的に捉えられるようになることをめざす。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション、心理学における″行動”
2	感覚・知覚の現象、理論と心理学的理解
3	欲求・感情の理論と心理学的理解
4	認知と動機づけの理論と心理学的理解
5	記憶・学習・知能（創造性）の理論と心理学的理解
6	成長と発達の理論、老化の現象の心理学的理解
7	発達段階と発達課題、心理的危機の理解
8	集団、組織、社会と個人の関わりの理解
9	パーソナリティ、性格の心理学的理解
10	環境への適応とストレス、対処行動の理解
11	ストレス症状とこころの健康の心理学的理解
12	心理学的支援技法－心理検査、アセスメント－の理解
13	心理学的支援技法－カウンセリング、相談支援技法－の理解
14	心理学的支援技法－多様な心理療法－についての理解
15	「まとめ」

【履修上の注意事項】
シラバスに沿った進行に合わせてテキストの予定ページを確かめ、予習を行うこと。授業中に配布されたプリント内容をテキストで確認しておくこと。

【評価方法】
期末試験:100%　本科目は再試験を実施しないので履修時注意すること。

【テキスト】
『心理学 カレッジ版』医学書院

【参考文献】
必要の都度、指示する

心理学Ⅱ

担当教員 永田　俊明

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
心理学の視点から身近な疑問をどのように読み解くか理解できるようにする。
心理学Ｉで学んだ基礎心理学をベースに心理学の興味深い点を理解できるようにする。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション
2	無気力はなぜ起こるか
3	思考力・問題解決能力を伸ばす方法
4	向性でわかるもの
5	人間発達と臨界期
6	発達的逸脱を理解するためには
7	記憶と“ど忘れ”
8	詐欺の心理学　振り込め詐欺など
9	虐待の原因と予防法
10	うつ状態の心理と予防策
11	人を評価し判断する視点
12	因果関係を確認する
13	相関的方法　見えないものを数字で表す
14	こころと身体の健康
15	意思決定について考える

【履修上の注意事項】
予告されたテキスト範囲について授業前に目を通し、授業後は配布されたプリント内容についてテキストで確認しておくこと。

【評価方法】
期末試験　100%　本科目は再試験を実施しないので注意すること。

【テキスト】
未使用。　心理学Ｉを履修していた学生は、使用したテキストを持参すること。

【参考文献】
必要の都度、指示する

発達心理学Ⅰ（発達心理学）

担当教員 水間　宗幸

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
基本的な教養および対人専門職の基礎的位置づけとして発達心理を位置付け、これを学ぶことにより、自己及び他者をひとつの人格として考えることができる。またそれぞれの発達段階の一般的特性を理解し、望ましい発達およびその支援を考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	発達心理学を学ぶ意義～ガイダンス
2	発達心理学の基礎理解～何を学ぶのか
3	乳幼児期の発達的特徴～人・モノとの出会い
4	愛着形成～家族というのも
5	認知発達～なぜ子どもは遊ぶのか
6	ことばとコミュニケーションの発達
7	自己と情動の発達
8	仲間関係とこころの理解～こころの理論
9	道徳性と向社会的行動の発達
10	児童期の発達的特徴～学校という環境と発達の関係
11	思春期・青年期の発達的特徴とアイデンティティの形成
12	成人期から老年期の発達的特徴
13	発達の多様性～発達障害の理解
14	発達・家族支援とカウンセリング～社会の中の家族と個人の中の家族
15	発達心理学再考～これでいいのだ

【履修上の注意事項】
事前にテキストによる学習を行い、事後学習としてノートを含め知識を深めておくこと。

【評価方法】
期末試験結果に加え、受講態度を加味し最終的な評価とする。

【テキスト】
『新・プリマーズ/保育/心理　発達心理学』　無藤隆・中坪史典・西山修編著　ミネルヴァ書房

【参考文献】
適宜紹介する

コミュニケーション論

担当教員 佐藤　嘉倫

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

コミュニケーションについての基礎的な概念やモデルについて学ぶとともに、言語・非言語などのコミュニケーション手段、様々な状況におけるコミュニケーション行動や人間関係の特徴などについて主に心理学の立場から考え理解を深める。また対人援助場面における人間関係の特徴について学び、理解できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	コミュニケーション論とは
2	対人コミュニケーションの特徴
3	コミュニケーションの障害
4	対人交流パターンの分析（自らのコミュニケーションのあり方を見つめる）
5	コミュニケーションの様々な形1（コンピュータ）
6	コミュニケーションの様々な形2（電話）
7	コミュニケーションの様々な形3（マス・コミ）
8	援助技術としてのコミュニケーション
9	援助技術としてのコミュニケーション2
10	ストレスとコミュニケーション
11	人間関係とコミュニケーション
12	コミュニケーション・スキル1（言語的コミュニケーションの活用）
13	コミュニケーション・スキル2（非言語的コミュニケーションの活用）
14	自己分析
15	まとめ

【履修上の注意事項】

・講義前に参考文献や配布資料をもとに事前学習を行って下さい。
・講義後の振り返りを各自行うようにして下さい。

【評価方法】

授業態度60％、レポート40％

【テキスト】

なし（講義中に資料を配付）

【参考文献】

『インターパーソナルコミュニケーション～対人コミュニケーションの心理学』　深田博己　北大路書房

哲学

担当教員 田畑　博敏

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本科目「哲学」は、古代ギリシャに始まり、中世・近代のヨーロッパを通じて発達し、現代では世界中の多くの国で研究され学ばれている科目です。日本では、自然科学と同様に、明治時代にヨーロッパから輸入され、現在、多くの大学で教えられています。哲学の特徴は、常に物事の根源にさかのぼって、探究することです。探究の対象は森羅万象、探究手段は理性とことばによる論証です。本講義では、先行の哲学者の考えを参考にして、徹底的に考え抜き、自分なりの意見を表現できる力を養うこと、を目標にします。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	哲学とは何か、何が存在するのか、存在論を概観する：教科書序文および第一講義・第1.1節
2	存在のあり方、性質と関係、物とプロセス、部分と集まり：教科書第一講義・第1.2-1.4節
3	種と普遍者、可能的対象と虚構的対象：教科書第一講義・第1.5-1.6節
4	存在論の諸区分、領域的VS形式的、応用的VS理論的：教科書第一講義・第2.1-2.1節
5	形式的存在論VS形式化された存在論、存在論の道具としての論理学：教科書第一講義・第2.3-2.4節
6	メタ存在論、道具としての論理学（続）：教科書第一講義・第2.5節および「まとめ」、プリント
7	世界についてどう語るか、思考とひょ間、存在への関わり：教科書第二講義・第1.1-1.2節
8	パラフレーズ、修正的Ｖｓ解釈的：教科書第二講義・第1.3節
9	すぐれた理論の条件、単純性と説明力：教科書第二講義・第2.1-2.2節
10	非クワイン的メタ存在論：教科書第二講義・第2.3-3.1節
11	非クワイン的メタ存在論（続）：教科書第二講義・第3.2-3.3節および「まとめ」
12	存在者をどのように分類するか？　カテゴリーと形式的因子：教科書第三講義・第1.1-1.2節
13	４カテゴリー存在論における形式的関係：教科書第三講義・第2.1-2.2節および「まとめ」
14	ものが性質を持つということ：教科書第四講義・第1.1-1.3節
15	実在論の擁護：教科書第四講義・第2.1-2.3節

【履修上の注意事項】
講義終了後、本講義で「コミュニケーション・カード」と名づける小ペーパーを提出してもらいます。これには、予習の結果（重要と思われた３つのキーワードを書く）、講義を受けての感想、講義で学んだこと、講義についての注文など、を書いてください。

【評価方法】
コミュニケーション・カードの提出により「意欲的な受講態度」を評価し（２０％）、中間レポートで「基本的理解」の度合いを評価し〈３０％〉、最終レポートで「総合的理解と独自な思考力」を確認する（５０％）、というやり方で、総合的・全体的に評価します。

【テキスト】
倉田剛「現代存在論講義」新曜社（２０１７年）￥２２００＋税

【参考文献】
講義の進行に応じて、適宜、指示します。

倫理学

担当教員 未定

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 平成３０年度は閉講

【授業のねらい】
倫理が各分野で要求される時代に日本もようやく入りました。学問としての倫理学は、近代的な人間観に立脚しており、その基本形をまずドイツのカントとヘーゲルにおいて確定します。次に、20世紀後半に倫理の中枢へと登場した「責任」という原理をめぐって、「作為と不作為」を掘り下げて考察します。他者危害の作為は古来から今日まで「万人の義務」であるとされ、現代の我々の倫理観の中に入っておりますが、他方、他者支援の作為は「万人の義務」として感受されていません。このギャップを埋める道をともに探求することができます。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	I-1　近代的な世界観の確定「人間にとって先なる世界観」優位の倫理観
2	I-1-2　カント倫理学における「道徳性Moralitaet」、個人としての人格と良心
3	I-1-3　同上２
4	I-1-4　ヘーゲルにおける「人倫Sittlichkeit」：倫理の現実化としての国家、市民社会
5	I-1-5　同上２　倫理の現実化としての家族、法、制度、家族
6	I-1-6　近代日本の国家と倫理の一体化
7	I-1-7　現代日本の倫理的状況
8	II-1　作為と不作為という考え方：罪責の二類型の発見
9	II-2　ドイツ・戦後40周年ヴァイツゼッカー大統領演説の場合
10	II-3　不作為の定義付け：作為の変種から対概念の位置へ
11	III-4　不作為の概念分析（回数としての不作為、原因としての不作為）
12	III-5　不作為の特殊形態：「生起するままに放置すること」
13	IV-1　概念枠から現実が初めて見えるということ
14	IV-2　現代日本における不作為問題の事例研究：ハンセン病問題
15	IV-3　同上、薬害問題、いじめ、水俣病問題、アスベスト問題

【履修上の注意事項】
日本の現在進行中の出来事、たとえば、水俣病関西訴訟判決以降の様相、ハンセン病問題、薬害肝炎訴訟、中国残留日本人孤児問題、医療過誤など、活字メディアによく目を通して、それらを切抜きして、各自が独自の教材をつくるという意欲を求めます。予習復習を兼ねて、指定教科書の熟読と質問をしてください。

【評価方法】
毎回の感想文提示＝3 0点、レポート提出＝20点、定期試験＝50点。

【テキスト】
山本　務、熱田一信編著『ハンセン病・薬害問題　プロジェクト　作為・不作為へ』（本の泉社）
R.ヴァイツゼッカー著、山本務訳著『過去の克服・二つの戦後』（NHKブックス705、日本放送出版協会）。

【参考文献】
講義中に適宜教示。

教育学

担当教員 山本　孝司

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
自分が既にもっている教育に関する「常識」を踏まえつつ、それを超えて「教育」を「科学（学問）」的にとらえることができるようになる。「『教育』を根本から考える」作業を通して、自分なりの「教育観」をもち、今日の教育課題について主体的に考える態度をもつことができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	ガイダンス
2	教育とは何か
3	心身の発達
4	学校の歴史
5	子どもの歴史　①古代・中世
6	子どもの歴史　②教育対象としての子ども
7	子どもの歴史　③ルソーによる「子どもの発見」
8	近代教育の思想と実践　①ペスタロッチ
9	近代教育の思想と実践　②ヘルバルト、フレーベル
10	近代教育の思想と実践　③新教育運動
11	アメリカにおける進歩主義教育　①前史：超越主義の教育思想（エマソン、ソロー）
12	アメリカにおける進歩主義教育　②前史：超越主義の教育思想（ブロンソン・オルコット）
13	アメリカにおける進歩主義教育　③超越主義から進歩主義へ
14	アメリカにおける進歩主義教育　④デューイの教育哲学
15	現代の学校教育をめぐる論点

【履修上の注意事項】
授業には参加的態度で臨むこと。
その他、授業外でも教育にかかわる情報をキャッチする鋭敏なアンテナを持ち合わせて欲しい。
事前に資料を読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】
原則として学期末試験（７０％）、小レポート（３０％）を評価の対象とする。

【テキスト】
広岡義之編著『はじめての教職論』（ミネルヴァ書房、2017年）

【参考文献】
授業内において適宜紹介する。

法学Ⅰ

担当教員 野﨑　和義

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

今日の社会で要求される法感覚、さらに私たちが日常生活を送る上で必要な法知識を身につけることを目標とする。具体的には、以下の事項についての理解を目指す。

①社会生活における法の作用および役割、②民法の財産法および家族法の基本的な考え方、③医療・福祉サービス利用者の権利とその救済方法、④成年後見制度および日常生活自立支援事業、⑤医療・福祉職の専門性と法的責任

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	法と日常生活――講義計画の紹介、何をどこまで学ぶか、法というものの考え方
2	家庭生活と法（１）――親族の範囲・効果
3	家庭生活と法（２）――婚姻・離婚とその効果
4	家庭生活と法（３）――相続の一般原則、法定相続と遺言相続、相続をめぐる諸問題
5	消費生活と人権（１）――悪質商法の法的問題点、物権と債権の基本的異同
6	消費生活と人権（２）――クレジット取引の仕組み、契約の拘束力・相対性
7	刑事手続きと人権（１）――法的責任、犯罪と刑罰、刑務所と前科
8	刑事手続きと人権（２）――不法行為責任と刑事責任の異同、行政上の処分の独自性
9	医療・福祉サービスに関わる法（成年後見制度と日常生活自立支援事業、行政行為と行政争訟）
10	医療・福祉専門職の根拠法（医療・福祉職の専門性および資格、社会福祉各法の適用対象者）
11	医療・福祉職の連携（看護・介護事故、看護と介護の関係、職務の専門性と就業問題）
12	病院・施設の設置基準と法律問題（医療・福祉サービスの公共性、設置基準の法的拘束力）
13	障害者の雇用・就労支援（障害者雇用促進法、法定雇用率、勤労の権利と義務）
14	ふたたび人権を考える（雇用対策と差別の禁止、労働市場における公正、人権の普遍性）
15	医療・福祉職と法（高齢社会における課題と役割分担、行為準則としての法）

【履修上の注意事項】

・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】

定期試験(100%)の成績によって評価する。

【テキスト】

野﨑和義著『医療・福祉のための法学入門』2013年、ミネルヴァ書房。
野﨑和義監修『社会福祉六法』2018年、ミネルヴァ書房。

【参考文献】

各回の講義の際に紹介する。

法学Ⅱ（日本国憲法）

担当教員 野﨑　和義

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

医療・福祉さらには教育の実践にあたって必要な憲法感覚を身につけることを目標とする。具体的には、以下の事項についての理解を目指す。

①日本国憲法の基本原理、②基本的人権の意義および機能、③基本的人権を保障するための仕組み（国および地方公共団体の組織・権能・財政）、④行政情報へのアクセス（情報公開）、⑤行政の役割と法治国家原理（行政行為、行政手続き、行政不服審査・行政訴訟）

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	取引社会と医療・福祉の権利（取引社会のルール、契約原理の修正、国家と個人）
2	日本国憲法の考え方（人権規定の私人間効力、裁判例の分析、人権という思想）
3	日本国憲法の構成（三つの基本原理、基本的人権のカタログ、人権保障の仕組み、特別条項）
4	基本的人権と公共の福祉、基本的人権の主体　（内在的制約と外在的制約、外国人・法人の人権）
5	プライヴァシーの権利と個人情報の保護、情報公開制度（行政情報へのアクセス）
6	自己決定権の尊重と医療・介護　（インフォームドコンセント、身体拘束の禁止）
7	自由権（とくに人身の自由、少年の刑事手続き、資格制限と社会復帰）
8	法の下の平等と合理的差別　（男女共同参画、セクハラと雇用機会均等法）
9	家族生活における平等　（介護と扶養、介護保険制度導入の背景）
10	社会権の思想（平等権から社会権へ、生活保護法の基本原理と裁判例）
11	高齢社会における社会保障（社会保障の法体系、高齢者と住居、看護・福祉の労働）
12	その他の基本権――参政権、受益権　（施設入所高齢者・障害者の参政権保障、国家賠償請求権）
13	国家の機構（三権の抑制と均衡、裁判所の仕組み）
14	財政、地方自治　（財政の基本原則、自治体の行政権・立法権、行政争訟）
15	医療・福祉と日本国憲法（民主主義と少数者の人権、統治機構の役割）

【履修上の注意事項】

・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】

定期試験(100%)の成績によって評価する。

【テキスト】

野﨑和義著『医療・福祉のための法学入門』2013年、ミネルヴァ書房。
野﨑和義監修『社会福祉六法』2018年、ミネルヴァ書房。

【参考文献】

各回の講義の際に紹介する。

社会学Ⅰ

担当教員 安藤　学

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
社会理論による現代社会の捉え方について、生活の理解について、人と社会の関係について、社会問題について学び、それらを分析し解決する能力を修得することができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	社会システム(社会システム、文化・規範、社会意識、産業と職業、社会階級と社会階層、社会指標)
2	社会変動について(社会変動の概念、近代化、産業化、情報化など)
3	人口について(人口の概念、人口構造、人口問題、少子高齢化など)
4	地域について(地域の概念、コミュニティの概念、都市化と地域社会など)
5	地域について(過疎化と地域社会、地域社会の集団・組織など)
6	社会集団及び組織(社会集団の概念、第一次集団、第二次集団、ゲゼルシャフト、ゲマインシャフト)
7	社会集団及び組織(アソシエーション、組織の概念、官僚制など)
8	家族について(家族の概念、家族の変容、家族の構造や形態、家族の機能など)
9	生活について(生活構造、ライフステージ、生活時間、消費、生活様式、ライフスタイル、生活の質)
10	人と社会の関係について(社会関係と社会的孤立、社会的行為、社会的役割、社会的ジレンマなど)
11	社会問題について(社会問題の捉え方、社会病理、逸脱など)
12	具体的な社会問題について(差別、貧困、失業、自殺、犯罪、非行、社会的排除など)
13	具体的な社会問題について(ハラスメント、ＤＶ、児童虐待、いじめ、公害、環境破壊など)
14	生活支援と福祉について(生活の概念、福祉の考え方とその変遷など)
15	生活支援と福祉について(自助・相互・共助・公助など)・まとめ

【履修上の注意事項】
ノートを毎回きちんと取る。授業前にテキストを読み自分なりにまとめてから授業に臨み、授業後は授業前の自分のまとめと授業内容を比較して復習をすること。

【評価方法】
定期試験８０％、授業への取り組む姿勢２０％

【テキスト】
『社会学入門』秋元他３名　有斐閣新書

【参考文献】
適宜紹介する

社会学Ⅱ

担当教員 安藤　学

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
社会学Ｉを基礎に、社会学の具体的な理論と研究について、私たちの日常生活の中からてテーマを設定して学習することができ、また社会福祉士養成や精神福祉士養成に求められる社会学的事項についても修得することができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	現代社会とは
2	国民の生活と意識の変化について
3	科学技術の展開について
4	現代社会と科学技術について
5	情報化社会と国民生活について
6	現代社会における専門職について
7	家族の構造と形態について
8	家族の機能について
9	家族の変化について
10	家族と地域社会について
11	都市化と地域社会について
12	過疎化と地域社会について
13	地域社会の社会集団・組織について
14	現代社会における社会問題について
15	社会学の総まとめ

【履修上の注意事項】
授業前にテキストを読み自分でまとめてから授業に臨む、授業後は自分のまとめと授業内容を比較して復習をする。

【評価方法】
定期試験８０％、授業への取り組み２０％

【テキスト】
『社会学入門』秋元他３名　有斐閣新書

【参考文献】
適宜紹介する

経済学

担当教員 中宮　光隆

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
経済は私たちの生活の中の大きくて重要な部分を占めているのに、とかく「難しい」といわれる。聞き慣れない用語が多いこと、常に変化していることがその原因の一端になっている。そこでこの授業では、日本と世界の経済の動きに関心を持つようになること、また新聞やテレビ等メディアによる経済に関する報道内容がより良く理解できるようになって、経済の実情や課題に関する理解を深めることがねらいである。

【授業の展開計画】
授業内容は大きく分けて４つある。①経済学とはどのような学問か、現代社会の仕組みはどうなっているのか、②現代経済の実情と、それを知る方法は何か、③現代経済の課題（格差、貧困、バブル、長期の不況、国際化等）は何か、④課題を解決するにはどうしたら良いか、である。これらを順次考察する。

週	授　業　の　内　容
1	イントロダクション（経済学とは何か、その由来や対象を知る）
2	社会と経済（社会の仕組みと資本主義経済の成立と発展を概観する）
3	戦後経済発展の軌跡（1940年代から80年代の日本と世界の経済状況を振り返る）
4	日本のバブル経済（1980年代後半のバブル経済とはどのようなものだったのかを知る）
5	日本経済の長期不況とその対策（1990年代の不良債権処理、2000年代の金融政策等）を知る。
6	現代世界経済の焦点①（1990年代以降のアメリカ経済と住宅バブル）
7	現代世界経済の焦点②（金融危機と世界同時不況、欧州信用不安と新興国の台頭）
8	現代世界経済の焦点③（格差、貧困、バブル経済）
9	経済のグローバル化と経済連携（ＦＴＡ、ＥＰＡ，ＴＰＰ、ＡＰＥＣ、等々）
10	経済の実情を把握する①（経済の循環と経済統計の見方）
11	経済の実情を把握する②（貿易と国際収支、アベノミクスと財政赤字・消費税）
12	経済の実情を把握する③（グローバリーゼーションと保護主義）
13	地球環境問題と現代経済（温暖化防止対策と国際協力）
14	地球環境問題と現代経済（自然エネルギー開発と経済発展）
15	経済のグローバル化と食糧問題

【履修上の注意事項】
事前に配布するプリントをよく読んで、わからない言葉は辞典等で調べておくこと。

【評価方法】
試験　100％

【テキスト】
特に使用せず、講義（事前に）の際にプリントを配布する。

【参考文献】
講義の際に紹介する。

ボランティア論

担当教員 西島　衛治、川原　英照、宮田　喜代志

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
【 教育目標 】高齢者や障害児者と共に生きる社会が、ノーマルとする理念を現実化するためには、地域の人々の参加や協力が必要である。このようなボランティア活動にシステムやルールがあれば、より高いサービスが提供できるであろう。そのほか、受講する学生が、心理面のサポートのあり方等についても考え、実践のための基礎づくりを目指す。受講者が、将来にＮＰＯ法人を設立し、福祉や介護事業などの社会貢献が実践できる基礎知識を身に付けることができる。

【授業の展開計画】
オムニパス方式で4人の講義を展開し、それぞれのボランティアの考え方を情報源として、学生にボランティアのあり方を追求してもらう。1.〔西島衛治〕本科目全体のコーディネートを行う。児童福祉とボランティア. II.［川原英照〕本古来の発想に基づくボランティア論を押さえ、その具体的活動を紹介しつつ、国際協力としてのボランティア活動の現実を伝える。III.〔宮田喜代志〕NPO法人が行う事業の整理を試み、その活動内容評価についての視点を明らかにする。講義全体で、学生同士のディスカッションも重視する。

週	授　業　の　内　容
1	社会経済環境の変化とボランティア活動との関連性を学習する（西島衛治）
2	ボランティア活動の現状と問題点を把握する（西島）
3	ボランティア・ＮＰＯと企業・行政とのパートナーシップとボランティア社会の関係性（西島）
4	ボランティア概念の歴史的変遷を学ぶ（竹中健）
5	日本におけるボランティア動員の過去と現在を知る（竹中）
6	第二次世界大戦中の日本における戦時動員の事実を知る（竹中）
7	日本において病院ボランティアがなぜ進展しないのかを考える（竹中）
8	「最高のボランティアはお母さんだ」「愛ってなんだろう」を考える（川原英照）
9	「自分の存在価値って何？」を考える（川原）
10	「自分と他者（他者になることはできない）」との関わり合いを考える（川原）
11	「国際社会と日本のちがい」について議論する（川原）
12	ＮＰＯ法人の設立と活動を多くの資料から学ぶ（宮田喜代司）
13	ＮＰＯ法人の実践事例分析を通してＮＰＯ法人の将来性を理解する（宮田）
14	大きな福祉論とコミュニティケア活動の重要性を認識する(宮田)
15	地域の福祉ネットワークの中におけるＮＰＯ法人の役割を多くの実践を通して学ぶ（宮田）

【履修上の注意事項】
【準備学習】事前に講義テキストを予習し記録する（１２０分）【課題等に関するフィードバック】講義内容を記録し、不明な部分を調べる。記録を図化や表に整理する。（１２０分）【その他のアドバイス】講義の中でノートの作成方法を指導する。そして、講義内容を理解できる内容に構造化する。結論の整理を箇条書きにする。理解できない場合、講師に質問する。

【評価方法】
１．予習・復習による自主学習態度の確認(20%)。２．定期試験や中間理解度確認試験による評価（60%）。３．レポートによる評価（10%）。４．講義における質疑応答状況(10%),出席重視(6回以上の欠席は定期試験が受験不可）:学則により、欠席回数が講義回数の三分の一を超えると、定期試験が受けられないので注意する.履修届けがない場合は、出席しても単位が出ない。

【テキスト】
西島衛治編著「ボランティア・NPO論」(仮)、筒井書房、2018年4月発刊予定。
その他配布資料など

【参考文献】
参考書『季刊「みろくの風」』 ARTIC発行、西島衛治編著「実践的ボランティア論」筒井書房、2011

カウンセリング論Ⅰ（カウンセリング論）

担当教員 忽那　かずみ

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
他者援助において基本となる代表的なカウンセリング理論を理解し、それぞれのカウンセリングの実践における本質的な考え方や方法上の相違点を理解することができる。また、それぞれのカウンセリング理論および密接に関係する心理検査の学修やワークを通じて自己理解を深めることができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーションと序論
2	カウンセリングの基礎
3	カウンリングの実際
4	精神分析療法の理論と実際
5	来談者中心療法の理論と実際
6	行動療法の理論と実際
7	論理療法の理論と実際
8	認知療法の理論と実際
9	認知行動療法の理論と実際
10	ゲシュタルト療法の理論と実際
11	交流分析療法の理論と実際
12	日本の心理療法の理論と実際
13	箱庭療法とコラージュ療法（切り抜いてもよい雑誌2～3冊、はさみ、のりを持参すること）
14	カウンセリングと心理検査
15	カウンセリングと精神疾患

【履修上の注意事項】
テキストで事前学習してください。講義時間内にカウンセリングと関連する心理検査の実施を含みます。毎回の講義後に振り返りを行い、理解を深めてください。講義では実際のケースを取り上げたり、具体例を話すことがあります。また、演習（グループワーク等）の中で個人的な話が出されることもありますので、個人情報の扱いには細心の注意を払い、絶対に口外してはいけません。演習（グループワーク等）では、他の人の意見を否定・批判をしない、違う意見も尊重する、発言は最後まで聴く、そして全員が発言することをルールとします。

【評価方法】
定期試験50%、演習（ディスカッション、グループワーク、授業態度等を含む）20%、振り返りシート（レポートを含む）30%

【テキスト】
山蔦圭介著、宮城まり子監修『基礎から学ぶ　カウンセリングの理論』、産業能率大学出版部

【参考文献】
必要の都度、指示します。

人権教育

担当教員 隈　直子

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
この授業は、日本や世界に生起する人権問題を調査し、互いに議論を交わすことを通して、人権上の問題は何か、人権問題の現状を理解できるようにする。学生たちがグループで課題について調査・議論し、発表することを授業のねらいとしている。

【授業の展開計画】
１.オリエンテーション。グループワークのルールを考える。
２.子どもを守る①子どもをめぐる法（憲法、子どもの権利条約、児童虐待防止法）
３.子どもを守る②子どもを保護する責任
４.子どもを守る③児童虐待防止法を中心に、虐待の背景を探る
５.子どもの守る④支援策を考える
６.憲法と人権　歴史的沿革
７.こどもの学習権
８.勤労の権利と義務
９.人権尊重のための環境づくり①「デートDV」
１０.人権尊重のための環境づくり②「アルバイト」
１１.現代における人権の諸相―その①ここからは、学生が選び取った人権をめぐる様々な課題の発表を軸にする。「女性差別」
１２.現代における人権の諸相―その②「障害者差別」
１３.現代における人権の諸相―その③「高齢者差別」
１４.現代における人権の諸相―その④「地域差別」
１５.現代における人権の諸相―その⑤「少数者への差別」

【履修上の注意事項】
学生自身で人権をめぐる問題・課題を設定し発表を行うため、記載した15項目を変更することがある。
事前学習：各回のテーマに即した資料等を読んでおくこと。発表の際は、各自でレジュメを作成する。
事後学習：授業後は復習を行い、内容を整理する。

【評価方法】
レポート80％、発表20％。

【テキスト】
なし。

【参考文献】
授業の中で紹介します。

体育

担当教員 山下　忍

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
心身の健全な発達の促進、運動やスポーツに内在する楽しみや技能、健康、体力の保持・向上・増進のための運動処方などを総合的・実践的に自ら把握できるようになる。

【授業の展開計画】
１．運動行動と身体とのかかわりを説明できる
２．運動しないと身体へどのような影響が考えられるか説明できる
３．身体組成から見た運動行動の大切さについて説明できる
４．無酸素運動について説明できる
５．有酸素運動について説明できる
６．筋肉の種類から見た運動の適正について説明できる
７．運動の強度と運動時間について説明できる
８．運動とエネルギー供給の関係について説明できる
９．運動の種類と循環器の関係について説明できる
１０．メタボリック理解とその対策について説明できる
１１．運動と栄養・休養との関係について説明できる
１２．運動によって引き起こされる運動障害について説明できる
１３．トレーニングの種類とその効果について説明できる
１４．運動を行うに時に注意すべき事項について説明できる
１５．健康維持のための運動について説明できる

【履修上の注意事項】
授業前に資料の該当部分を読み、内容の予習を行うこと。また、復習として授業内容をふまえ、測定結果を500字程度の文章で所定の提出用紙にまとめておくこと。
体育資料を毎時間持参すること。
演習授業は体育着で行うこと。

【評価方法】
演習レポート30%、自主的学習態度10%、課題レポート20%、体育レポート作成40%による総合評価

【テキスト】
使用しない

【参考文献】
運動生理学　講談社　　岸恭一

比較文化論

担当教員 金　蘭九、安藤　学、A.J.サザランド、髙　継芬

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本講義では、欧米及びアジア諸国の文化・社会・価値観・人々の考え方を、具体的な事例に基づいて日本と比較し、異文化理解を図ると共に、人間と文化の総合的な関係を理解する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション。中国あるいは東南アジアの文化について（安藤・高）
2	日韓文化の遠近（金）
3	医療と福祉・日本と韓国（金）
4	障害者福祉の基本・国際比較（金）
5	メディアを通した異文化理解（サザランド）
6	映画と社会、文化（サザランド）
7	映画が語る欧米諸国の社会、文化、及び人間１（サザランド）
8	映画が語る欧米諸国の社会、文化、及び人間２（サザランド）
9	映画が語る欧米諸国の社会、文化、及び人間３（サザランド）
10	中国人の人間愛について（高）
11	中国人の結婚文化について（高）
12	日本と中国の教育政策について（安藤・高）
13	中国料理の由来について（高）
14	中国茶の文化について（高）
15	中国の孫子兵法と日本の太平洋戦争（安藤・高）

【履修上の注意事項】
授業前に資料（プリント）などを読み、キーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】
レポート80％、発表20％で評価する。

【テキスト】
毎回、資料（プリント）などを用意し、配布する。

【参考文献】
授業の中で、適宜紹介する。

英語 I

担当教員 角田　俊治

配当年次 1年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
実践的なコミュニケーション能力を向上させ、福祉・保健・医療等の専門分野に関わる初歩的な英語情報の受信・発信ができるようになる。読解、語彙力、基礎的なライティング力を包括した力の養成を目指す。
更に、語学が教養・全人教育の一部であることから、英語圏の国々の社会・歴史・文化への関心と知識を深め、これらについて自らの意見を持ち、自分の言葉で説明できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション、語学教育の意義、英語の特徴等の説明.
2	Unit 1.　What Worries Barbara 演習. 命令文、使役動詞及び知覚動詞の用法等の説明.
3	Unit 1 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習. 及び教員作成プリント(英作文等)
4	Unit 6. A Blind Pianist, 接続詞、関係詞の用法の説明と比較的長い文の作成.
5	Unit 6 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習. 及び教員作成プリント(英作文等)
6	Unit 9. Living a Healthy Life 演習. 関係代名詞の用法、大きな数と分数の読み方・書き方.
7	Unit 9　に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習. 及び教員作成プリント(英作文等)
8	Unit 10. Is the Treatment Different or Not?
9	Unit 10 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習. 及び教員作成プリント(英作文等)
10	Unit 11. Oh, Poor Elderly People 演習. 比較構文の説明.
11	Unit 11　に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習. 及び教員作成プリント(英文解釈等)
12	Unit 12. What Is Homeopathy 演習. 複文の構成等.
13	Unit 12　に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習. 及び教員作成プリント(英文解釈等)
14	プリント（テキストよりも程度の高い英文）演習.
15	14に続けて、テキストよりも程度の高い英文の演習.　及び、これまでの講義の補足及び総括

【履修上の注意事項】
*教科書は前年度と同じですが、教員が作成する補充問題や補助教材は同一ではありません。
・上記の展開計画は一部変更することがあります.
・講義では取り扱わないユニットについても福祉・医療等に関わる語彙については適宜説明します.
・講義は総て予習がなされていることを前提として行います.

【評価方法】
試験 70%. 発表 20%. 平常点（受講の積極性等）10%.

【テキスト】
（株）三修社
医療と看護の総合英語（改訂版）　著者：山崎朝子・笹島茂

【参考文献】
随時プリント配布

英語Ⅱ

担当教員 角田　俊治

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
ねらい：　後学期の英語IIに於いては、情報発信能力の向上を目指し、教員作成のプリント教材を用いて、可能な限りの基本的な英語による、初歩的な福祉や医療に関わるライティング力の向上を目指す。併せて英語圏の国々の社会や文化への関心と知識を高めて、国際感覚を身につける。
到達目標：　基礎的な英語による作文力を身につけ、福祉や医療に関わる一定の情報発信ができる。
　　高水準の語学力を必要とせずとも、それなりの英文が読める。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	オリエンテーション、英語学習の意義説明等
2	ごく簡単な英語を利用しての、自己紹介等のライティング演習
3	ライティングのための基本５文型の説明等
4	３を応用しての基本的なライティング演習
5	福祉や医療に関わる初歩的なライティング演習
6	５よりも幾分か専門性の高い福祉や医療に関わる英語表現を演習
7	リーディング：　一流作家の書いた平易な英文の短編小説を原文で読む
8	リーディング：　７に同じ．この短編小説のモチーフについて考える
9	リーディング：　福祉･医療等に関わる、やや程度の高い英文を原文で読む
10	リーディング：　９に同じ．高度な英語力を必要とせずに英語の原文を読む練習.
11	福祉、医療、科学一般に関わる、使用頻度の高い動詞（15個前後）について解説、演習
12	１１に関わる基本的なライティング演習
13	１１、１２に関わる幾分高度なライティング演習
14	１３に続き、福祉や医療に関わる幾分高度なライティング演習
15	１４までの講義の補足と総括

【履修上の注意事項】
・上記の展開計画は進度の状況に応じて一部変更することがあります．（その際は連絡します）
・総て、講義は予習が行われていることを前提として行います.
・辞書は必携.
＜本シラバスの内容は前年度のものと変わらないが、講義中に取り扱う設問は同一ではない．＞

【評価方法】
試験 70%．発表 20 %．その他（受講の積極性等）10%.

【テキスト】
教員自作プリント　＜プリント中の設問は前年度のものと同一ではない．＞

【参考文献】
随時配布

英会話 I

担当教員 池田　裕子

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
英会話Iでは、基本的なコミュニケーション能力を習得することを目標とします。特に、英語のリスニング・スピーキングを中心に学び、聞き取り・発音・暗記・会話を繰り返し、多様なタスクに積極的に取り組むことにより、日常生活の様々な場面で実際に役立つ生き生きとした英語を自然と身に着けることができます。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	ガイダンス
2	自己紹介文（vocabulary/ writing）
3	空港・機内での会話(speaking / listening)
4	自分の専攻・出身地・場所についての会話（vocabulary / reading）
5	趣味につての会話（speaking / listening）
6	交通手段についての説明（vocabulary / reading）
7	週末の予定についての説明（speaking / listening）
8	中間テスト
9	コーヒーショップ・レストランでの会話(speaking / listening)
10	ショッピングでの会話（speaking / listening）
11	スポーツについての会話　(vocabulary / reading)
12	キャンパス・授業での会話　(vocabulary / reading)
13	体調についての説明(vocabulary/ writing)
14	観光地での会話（vocabulary / reading）
15	帰国準備・将来の夢につての会話(speaking / listening)

【履修上の注意事項】
必ず予習をして授業に臨んでください。
授業中はペアワークによる活動をしますので、コミュニケーション能力を高めるため、積極的に参加してください。

【評価方法】
予習・授業中の活動・発表　20%　中間テスト　30%　　期末試験50%

【テキスト】
First Time Stdying Abroad（はじめての英会話コミュニケーション：留学編）
行時　潔・長田　順子・Antony J. Parker 著　　松柏社　1,900（税別）

【参考文献】
特になし

英会話Ⅱ

担当教員　Ａ．Ｊ．サザランド

配当年次　１年

単位区分　選択

開講時期　第２学期

授業形態　講義

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】

Class will be given a choice between (A) studying by group role play based on welfare drama or (B) to create a social welfare community project. This is decided on the first class meeting. Each one is outlined below as A or B.

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	Introduction- Opportunity to choose role play or project study programme
2	A) Print 1- Sections 1 & 2 / B) Project Stage 1
3	A) Print 1- Sections 3 & 4 / B) Project Stage 2
4	A) Print 1- Sections 5 & 6 / B) Project Stage 3
5	A) Print 1- Sections 7 & 8 / B) Project Stage 4
6	A) Print 1- Sections 9 & 10 / B) Project Stage 5
7	A) Print 1 review, preparation for speaking test / B) Review of project work
8	A0 Mid-term speaking test 1 / B) Mid-term assessment of project work
9	A) Print 2- Sections 1 & 2 / B0 Project Stage 6
10	A) Print 2- Sections 3 & 4 / B0 Project Stage 7
11	A) Print 2- Sections 5 & 6 / B0 Project Stage 8
12	A) Print 2- Sections 7 & 8 / B0 Project Stage 9
13	A) Print 2- Sections 9 & 10 / B0 Project Stage 6
14	A) Print 2 review, preparation for speaking test / B) Review of project work
15	A) Speaking test 2 / B) Second-stage assessment of project work

【履修上の注意事項】

Lectures based on prints given to students in class, used in group study.

【評価方法】

A) Class participation 10%, personal dictionary 30%, and Speaking tests 60%
B) Class participation 30%, project work 70%

【テキスト】

A) & B) any good electronic pocket English-Japanese Dictionary
A) Consult a Collins English dictionary in the library to make your personal dictionary.

【参考文献】

障害者言語Ⅰ

担当教員 吉住　寛之

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 必ず、指定のテキストと点字器、ワークショップで使用するアイマスクを準備すること。

【授業のねらい】

●一般目標

言語・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ文化の一つである点字の技法の学習を通じて、視覚に障害がある人への理解を深め、その支援の在り方を共に考える。情報・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ支援や移動・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ支援、福祉制度の学習を通じて、視覚に障害のある人への支援のための実践的な知識と・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力を養う。点字については、その簡単な読み書きが出来るように基礎的な実技の習得を目標とする。

【授業の展開計画】

●行動目標：

視覚障害の特性に応じた基本的な情報コミュニケーション支援と移動コミュニケーション支援ができる。
点字については、点字で手紙のやり取りができる。

01　ガイダンス：①オリエンテーション　②視覚障害のある人の状況　③まちや家の中にある点字について
02　情報コミュニケーション支援
　①情報保障と合理的配慮　②情報アクセシビリティと支援技術　③分かり易い視覚情報の提供の仕方
03　移動コミュニケーション支援
　①移動保障と合理的配慮　②視覚に障害のある人の移動の実際
　③視覚に障害のある人への接し方と移動支援技法
04　点字の基礎１：　点字の歴史と概要　点字の清音
05　点字の基礎２：　点字の器具と書き方　点字の濁音・拗音
06　点字の基礎３：　点字の読み方　点字の半濁音・拗濁音・特殊音
07　語の書き表し方：　①仮名遣い
08　語の書き表し方：　②数字
09　語の書き表し方：　③アルファベッド
10　分かち書き：　①文節分かち書き
11　分かち書き：　②複合語
12　分かち書き：　③固有名詞
13　記号類と点字の手紙の書き方
14　福祉制度
15　まとめ

【履修上の注意事項】

点字の実技についてはテキスト・配布資料等を参考にし、自宅においても予習、復習すること。
視覚に障害がある人の現状を具体的に把握するために、毎回関連の最新トピックスを情報提供し、
それをテーマにグループディスカッションなども行う。思考的理解のみならず、身体的理解を
深めるためにアイマスクなどを使った体験型ワークショップも実施する。
理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。

【評価方法】

授業での取り組みや態度：15%　宿題提出：15%　課題レポート：30%　試験：40%

【テキスト】

『初めての点訳』第2版　ＮＰＯ法人全国視覚障害者情報提供施設協会

【参考文献】

『臨床に必要な障害者福祉―障害者福祉論』（福祉臨床シリーズ９）編集委員会編著　指田忠司共著　弘文堂
『世界の盲偉人』指田忠司著　桜雲会、『視覚障害教育入門』　青柳まゆみ　鳥山由子著　ジアース教育新社

障害者言語Ⅱ

担当教員 福田　九

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
手話はろう者の言葉、もしくはろうあ運動から昇華してきた歴史がある。最近は、ろう者による当事者組織である(一財) 全日本ろうあ連盟が中心となって進めている手話言語法制定運動の全国的な取り組み、展開から地域では手話言語条例を制定しているところが増え、手話文化が定着している。手話でコミュニケーションを図るためには、スピーキング能力が不可欠であり、本講義では自分のことを手話で話し、身近なテーマについて手話で意見を述べることができるような力を育成する。

【授業の展開計画】
手話でのスピーキング能力を育成するために、様々な状況やテーマで一般的に使われる表現を学ぶ。基本的な文例表現を通して手話単語の語彙を増やすようにし、ただ手話単語を覚えるだけでなくろう者の暮らしや経験を通してまとまった考えを伝えることができるようにする。併せて実践練習を通して、ことばだけでなくジェスチャーも使いながら自然に手話で話せる能力を身につける。また各講義毎に前回の復習として、手話の読み取りテストを行う。

週	授　業　の　内　容
1	オリエンテーション（『手話単語を覚えることより手話を経験しよう』）
2	手話の仕組み
3	同音異義語と手話表現
4	指文字を覚えよう
5	あいさつ・名前・家族の紹介
6	出身地・地名
7	一日の生活・通勤・通学
8	趣味・スポーツ
9	旅行・観光地
10	仕事
11	病院・病気
12	基本単語を確実に身につけよう（1）
13	基本単語を確実に身につけよう（2）
14	クイズ 手話の反対語を探そう！
15	まとめ

【履修上の注意事項】
1)事前・事後学習については、講義毎に指示する(講義に出る前には、わからない言葉、用語の意味をある程度、辞典等で調べ整理して出席することが好ましい)。
2)授業では、パワーポイントと手話で話す(手話がわからない学生はパワーポイントや教科書等の文字情報を通して理解を深めてほしい)。

【評価方法】
試験(筆記・実技)１００％

【テキスト】
全日本ろうあ連盟著(2007年)『新手話ハンドブック』, 三省堂

【参考文献】
『手話教育今こそ！障害者権利条約から読み解く』高田英一(日本手話研究所長)著他

中国語会話Ⅰ

担当教員 髙　継芬

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本講義のねらいは、受講者が半期の学習期間において、あいさつや自己紹介などの基本的な表現を取得し、基礎的な日常会話ができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	前期の学習内容を復習
2	自分について中国語で表現してみよう
3	家族について中国語で表現してみよう
4	日常生活について中国語で表現してみよう①　上海料理を食べる
5	日常生活について中国語で表現してみよう② お腹がいっぱいです
6	にちじょう生活について中国語で表現してみよう③　外灘の夜景
7	日常生活について中国語で表現してみよう④　上海語は面白い
8	日常生活について中国語で表現してみよう⑤　ホテルの部屋から
9	これまでの学習内容をふりかえって
10	日常生活について中国語で表現してみよう⑥　どうしたの
11	日常生活について中国語で表現してみよう⑦　上海は魅力的
12	日常生活について中国語で表現してみよう⑧　またあいましょう
13	大学生のアルバイトを表現しよう
14	留学について中国語を表現してみよう
15	これまでの学習内容を確認

【履修上の注意事項】
予習と復習を必ずすること。
受講の際は、辞典を必ず持参すること。

【評価方法】
小テスト　20%
レポート　20%
試験　60%

【テキスト】
教科書：『LOVE 上海ー初級中国語ー』朝日出版社
辞　典：相原茂『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社最新版

【参考文献】
適宜紹介

中国語会話Ⅱ

担当教員 髙　継芬

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 本講義を受講する学生は、必ず中国語会話Ｉを履修しておくこと。

【授業のねらい】
本講義は、受講者が前期の中国語会話Ｉをもとに、より豊かな中国語の表現力および会話力を身につけることができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	前期の学習内容を復習
2	自分について中国語で表現してみよう
3	家族について中国語で表現してみよう
4	日常生活について中国語で表現してみよう①　上海料理を食べる
5	日常生活について中国語で表現してみよう②　おなかがいっぱいです
6	にちじょう生活について中国語で表現してみよう③　外たんの夜景
7	日常生活について中国語で表現してみよう④　上海語はおもしろい
8	日常生活について中国語で表現してみよう⑤　ホテルの夜景から
9	これまでの学習内容をふりかえって
10	日常生活について中国語で表現してみよう⑥　どうしたの
11	日常生活について中国語で表現してみよう⑦　上海は魅力的
12	日常生活について中国語で表現してみよう⑧　またあいましょう
13	大学生活について中国語で表現してみよう
14	留学について中国語を表現してみよう
15	これまでの学習内容を確認

【履修上の注意事項】
予習と復習を必ずすること。
受講の際は、辞典を必ず持参すること。

【評価方法】
ききとりテスト　20%
小テスト　20%
試験　60%

【テキスト】
教科書：　『LOVE 上海　初級中国語』　朝日出版社
辞　典：　相原茂『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社　最新版

【参考文献】
適宜紹介

韓国語会話Ⅰ

担当教員 李　玄玉

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
「ハングル」という文字についての理解と日本語と韓国語との比較をしながら、韓国語の基礎文法を理解する。また、韓国への観光・旅行などの場合、簡単な会話ができる。

【授業の展開計画】
１．オリエンテーション
２．「ハングル」文字の関する歴史的背景、文字の構成、文字の書き順について
３．韓国語の特性についての日本語との比較説明及び子音・母音について
４．「パッチム」とパッチムの連音化
５．基本的な挨拶に関連する会話
６．自己紹介などの簡単な会話
７．小グループに分け、挨拶・自己紹介などを韓国語で行う（復習と練習）
８．韓国の文化に関する理解（ビデオ鑑賞）
９．韓国での観光・旅行を想定した場面での会話１
10．韓国での観光・旅行を想定した場面での会話２
11．韓国での観光・旅行を想定した場面での会話３
12．日本と韓国との文化の差について(韓国人講師の特別講演)
13．日常生活での基本的な会話１
14．日常生活での基本的な会話２
15．日常生活での基本的な会話３

【履修上の注意事項】
授業後には、繰り返し復習する。

【評価方法】
①授業参加への態度及び発表　５０点
②授業中のミニテスト　５０点

【テキスト】
韓国語をはじめよう（初級）李　チャンギュ　朝日出版社

【参考文献】

韓国語会話Ⅱ

担当教員 李　玄玉

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 本講義を受講する学生は、必ず韓国語会話Ｉを履修すること。

【授業のねらい】
韓国語会話Ｉに続けて韓国の文化・歴史への理解・関心を深めながら、日常生活の中で、
簡単な会話が応用できる。

【授業の展開計画】
１．オリエンテーション
２．「韓流ブーム」に関する日本の若者の見解は？（ディスカッション）
３．韓国語会話Ｉの復習ー挨拶・自己紹介など
４．具体的な場面を想定した日常会話（１）
５．具体的な場面を想定した日常会話（２）
６．具体的な場面を想定した日常会話（３）
７．日本・韓国との大学生交流の重要性とその役割について（特別講演；韓国人講師）
８．日常場面で応用できる会話（１）
９．日常場面で応用できる会話（２）
10. 日常場面で応用できる会話（３）
11. 韓国の映画（ドラマ）鑑賞
12. 韓国語での日記・作文の練習（１）
13. 韓国語での日記・作文の練習（２）
14. 韓国の文化・医療・福祉の動向について
15. 韓国への留学に関する情報や諸大学の紹介・韓国留学の先輩からのメッセージ

【履修上の注意事項】
韓国語会話Ｉを履修してない方も可能です。
授業後には繰り返し復習する。

【評価方法】
１．授業への出席や授業参加への意欲・態度　５０点
２．授業中のミニテスト　５０点

【テキスト】
資料を配布する。

【参考文献】

ドイツ語 I

担当教員 竹中　健

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
「ドイツと言えば何を思い浮かべますか」というアンケート調査に関して、日本の若者による最も多い回答は、「ベルリンの壁崩壊」ですが、しかし学校教育で、その授業を実際に受けたことはないという、期待感の不満足という実情も判明してきました。そこで現代を生きる君たちにふさわしい、ドイツ語学習を通じたドイツ・ヨーロッパの現在を学びます。同時に、言葉の客観的構造を思考様式と併せて、理解できるようになります。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	オリエンテーション
2	名詞の性と冠詞
3	動詞の現在形（1）
4	冠詞と名詞の格変化
5	動詞の現在形（2）
6	接続詞
7	定冠詞類（dieser型）・疑問代名詞
8	人称代名詞・不定冠詞類（mein型）
9	名詞の複数形
10	分離動詞
11	３基本形・過去形と未来形
12	再帰・非人称
13	前置詞
14	完了形
15	まとめ

【履修上の注意事項】
独和辞典の購入と教室必携は、早い時期にすること。ドイツ語学習は、辞書の引き方それ自体が学習内容であるからで
す。それが予習と復習の要点です。

【評価方法】
講義内で合計10回のミニテスト（各回10点満点）を実施し、それらを合計して最終評価とする。

【テキスト】
高橋透著『今すぐ話せる！いちばんはじめのドイツ語会話』東進ブックス
橋本政義『あなただけのドイツ語家庭教師』国際語学社

【参考文献】
『過去の克服・二つの戦後』ヴァイツゼッカー著、山本　務訳著、日本放送出版協会。

ドイツ語Ⅱ

担当教員 竹中　健

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 本講義を受講する学生は、必ずドイツ語Ⅰを履修しておくこと。

【授業のねらい】
1989年11月ベルリンの壁崩壊、翌年10月ドイツ統一とともに、ヨーロッパは新たな統合の枠組みを目指してきましたが、これは、明治時代以後、初めて私たち日本にも「ヨーロッパの出現」という現象となって注目の対象となりました。国境を軽く超える、人的・物的交流は、観光の高まりとともに、この20年間で一変してきました。そのヨーロッパの一中心、ドイツの現在を、ドイツ語学習を通じて知ります。併せて、日本語それ自体をも対象としながら、言葉によって考えるということも学習できます。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	形容詞の格変化
2	話法の助動詞
3	形容詞の比較
4	関係代名詞
5	受動・分詞
6	zu不定詞（句）・命令法
7	接続法（1）要求話法
8	接続法（2）非現実話法
9	接続法（3）関節話法
10	指示代名詞
11	数詞
12	まとめ
13	ドイツ語の童話を読む
14	ドイツ語の歌を聞く
15	ドイツ語の映画を見る

【履修上の注意事項】
独和辞典を引きまくるという態勢を築いて欲しい。また、テレビ衛星放送でドイツのニュース番組「ZDF」を見るという習慣を形成できます。

【評価方法】
講義内で合計10回のミニテスト（各回10点満点）を実施し、それらを合計して最終評価とする。

【テキスト】
清水紀子著『すてきなドイツ語』白水社
岡本和子著『30日で話せるドイツ語会話』ナツメ社

【参考文献】
『過去の克服・二つの戦後』ヴァイツゼッカー著、山本　務訳著、NHKブックス

中国事情 I

担当教員 髙　継芬、孫　冬梅

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
中国語の文書を読むことによって中国の古代の文化や現代の中国事情について理解することができる。
現代の中国事情については中国の人口地理民族などについて理解することができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	全体オリエンテーション(孫・高)
2	中国の三字経①（孫）
3	中国の三字経②（孫）
4	中国の三字経③（孫）
5	中国の三字経④（孫）
6	中国の千字文①（孫）
7	中国の千字文②（孫）
8	中間復習まとめ（孫）
9	中国概況（高）
10	中国の飲食習慣（高）
11	中国の節日（高）
12	中国の交際礼儀（高）
13	中国の現代の大学生（高）
14	現代中国の抱える問題（高）
15	総括まとめ（孫・高）

【履修上の注意事項】
事前に授業の内容を予習することと毎回授業が終わった後復習すること。

【評価方法】
レポート　40%
小テスト　20%
試験　40%

【テキスト】
講義時プリント配布

【参考文献】
適宜紹介する。

中国事情Ⅱ

担当教員 髙　継芬、孫　冬梅

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
主として中国の現代事情を理解しつつ、その事象について分析考察します。
伝統文化と現代文化の関連性や、中国特有の事情と日本お違いを理解することができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション（孫・高）
2	中国の消費観念（高）
3	中国の就職事情（高）
4	中国の教育事情（高）
5	中国の健康観念（高）
6	中国の定年後の娯楽（高）
7	中国の婚姻（高）
8	今までの振り返り（高）
9	中国の医療事情（孫）
10	中国の観光事情（孫）
11	中国の伝統休日（孫）
12	中国の世界遺産（孫）
13	中国の伝統習慣（孫）
14	中国の伝統礼節（孫）
15	総括まとめ（孫・高　継芬）

【履修上の注意事項】
事前に授業内容を予習してくることと事後復習をしてくることができれば授業がスムーズに進みます。

【評価方法】
レポート40%
小テスト20%
テスト　40%

【テキスト】
講義時プリント配布

【参考文献】
適宜紹介する

アジア文化

担当教員 髙　継芬、金　蘭九、安藤　学、李　玄玉、孫　冬梅

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
アジアの国々と地域の文化形成過程(文化史)を学修し、それぞれの文化における共通性と異質性を認識することによって異文化への理解を深めることをねらいとする。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	文化とは（安藤）
2	タイの文化（その歴史と現在）（安藤）
3	日韓文化の遠近（金）
4	日中文化においての共通性と異質性　歴史の始点から（孫）
5	日中旅遊観光ぼ文化について（孫）
6	日中教育の文化について（孫）
7	台湾の文化について
8	韓国から日本へ伝えられた様々な文化について（李）
9	「飛鳥」という地名の意味、由来（李）
10	日本語の「鳥・とり」と韓国語の「Ｄｏｒｉ」について（李）
11	日中文化においての共通性と異質性　漢字の比較　（高）
12	日中文化においての共通性と異質性　論語の比較　（高）
13	日中文化においての共通性と異質性　衣食住の比較（高）
14	日本の文化を知る(高)
15	文化についてのディスカッション（担当者全員）

【履修上の注意事項】
アジア文化の関連する本を事前に読んでいただけると毎回授業内容を復習していただけるとスムーズに受講できます。

【評価方法】
レポート　20%
小テスト　40%
試験　40%

【テキスト】
講義時プリント配布。

【参考文献】
適宜に紹介する

環境生物学

担当教員 松岡　正佳

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 平成３０年度は第２学期に開講する

【授業のねらい】

微生物は私達の世界の一員として、多くは生命の維持に必要であり、また食品製造に使われているものもある。しかし少数の微生物は人間に病気を引き起こす病原菌であり、この授業では病原性微生物に焦点を当て、それらが人間との摩擦を起こす原因や環境要因について学ぶ。微生物の正確な知識を習得し、伝染病の防御の方法や、どのようにして微生物とうまく付き合っていくかについて知識を深める。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	微生物の挑戦とはどういうものか。伝染病の引き起こされる要因について考察する。
2	微生物の世界。微生物界を形成する多様な微生物種とその性質について学ぶ。
3	微生物の有益な側面。コインのもう一つの面。
4	細菌（バクテリア）。
5	ウィルス。
6	細菌の遺伝学。細菌における遺伝的交雑の機構について概観する。
7	微生物病の概念。微生物とその宿主の出会いは偶然であるという事実を認識する。
8	疫学と微生物病の周期および院内感染。
9	細菌による病気と感染経路。
10	ウィルスによる病気と感染経路。
11	原生動物および寄生虫による病気と感染経路。
12	免疫反応。免疫系により微生物由来の外来分子が認識・排除される機構について学ぶ。
13	微生物病の管理。対処方法について知る。
14	伝染病の管理における協力。伝染を防ぐ効果的な協力体制について知る。
15	生物兵器や現代の伝染病。この授業のまとめ。

【履修上の注意事項】

Power Pointを使った説明の後、設問が与えられる。次回までに解答しておいてください。

【評価方法】

3回のテストの合計点で評価します。

【テキスト】

プリントを配布します。

【参考文献】

The Microbial Challenge第２版、Jones and Bartlett Learnings（2010年、英文）

情報リテラシーⅠ

担当教員 森　信之

配当年次 １年

単位区分 必修

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
高校における「情報」の履修を踏まえ，大学生として，また社会にでてからも必要となっていく「情報活用力（情報リテラシー能力）」を高めていくことがねらいである．これにより，これからの高度情報化社会に対応した，身の回りのパソコンやネットワークなどの情報環境を，自ら積極的に，利活用できるようになることを目指す.

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	情報教育システムの利用について，教務システムLiveCampusの説明
2	キーボード・日本語入力練習 他
3	Ｅ－ｍａｉｌの利活用① ネットワークと電子メールの仕組み，アカウント設定，送信受信チェック
4	Ｅ－ｍａｉｌの利活用② アドレス帳の設定，署名作成，返信・転送の演習 他
5	情報リテラシーと情報モラル，情報セキュリティについて
6	Ｗｏｒｄの基本操作① 段落・ページ設定，　段組，段落番号 他
7	Ｗｏｒｄの基本操作② インデント，ヘッダー・フッター 他
8	Ｗｏｒｄの基本操作③ タブとリーダー 他
9	Ｗｏｒｄの基本操作④ 罫線，図の挿入とレイアウト 他
10	Ｗｏｒｄの基本操作⑤ Ｗｏｒｄの図形描画機能 図形描画，修正
11	Ｗｏｒｄの基本操作⑥ Ｗｏｒｄの図形描画機能 複数の図形の組合せ
12	Ｗｏｒｄの基本操作⑦ Ｗｏｒｄの図形描画機能 曲線とフリーフォーム
13	Ｅｘｃｅｌの基本操作① データ入力，計算式
14	Ｅｘｃｅｌの基本操作② 関数，罫線
15	Ｅｘｃｅｌの基本操作③ グラフ描画

【履修上の注意事項】
基本操作が充分理解できていない場合は，事前に予習をしておくこと.
また，講義中はゆっくりノートをしている時間はないので，復習する中で自分の理解を確かめながら，手順や注意事項をメモするように.

【評価方法】
課題レポートと，筆記・実技試験の結果を総合的に判断する．配点は，レポート40%，試験60%．再試験は行なう．レポートについては、次の講義の時間にフィードバックする.

【テキスト】
テキストは使用しない．適宜，資料を配布する.

【参考文献】
講義中に，適宜紹介する.

情報リテラシーⅡ

担当教員 森　信之

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
高校における「情報」の履修を踏まえ，大学生として，また社会にでてからも必要となっていく「情報活用力（情報リテラシー能力）」を高めていくことがねらいである．これにより，これからの高度情報化社会に対応した，身の回りのパソコンやネットワークなどの情報環境を，自ら積極的に，利活用できるようになることを目指す.

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	Ｅｘｃｅｌの応用① 複合グラフ，散布図，近似直線（回帰直線）
2	Ｅｘｃｅｌの応用② オートフィル，絶対参照と相対参照 他
3	Ｅｘｃｅｌの応用③ 日付・時間の表示形式 他
4	Ｅｘｃｅｌの応用④ 様々な関数の利用・関数の検索 他
5	Ｅｘｃｅｌの応用⑤ IF関数とIFの組合せ，COUNTIF，SUMIF，AVERAGEIF
6	Ｅｘｃｅｌの応用⑥ ピボットテーブル
7	Ｅｘｃｅｌの応用⑦ 並べ替え
8	Ｅｘｃｅｌの応用⑧ フィルター
9	Ｅｘｃｅｌの応用⑨ 検索，置換
10	Ｅｘｃｅｌの応用⑩ 条件付き書式
11	ＥｘｃｅｌとＷｏｒｄのデータ連携
12	Ｗｅｂ上のデータのＥｘｃｅｌ，Ｗｏｒｄでの利活用
13	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの基本① スライド作成，デザイン・配色，スライドショー
14	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの基本② スライドの切り替え効果，図・表・グラフの挿入
15	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの基本③ オブジェクトのアニメーション，ハイパーリンク

【履修上の注意事項】
基本操作が充分理解できていない場合は，事前に予習をしておくこと.
また，講義中はゆっくりノートをしている時間はないので，復習する中で自分の理解を確かめながら，手順や注意事項をメモするように.

【評価方法】
課題レポートと，筆記・実技試験の結果を総合的に判断する．配点は，レポート40%，試験60%．再試験は行なう．レポートについては、次の講義の時間にフィードバックする.

【テキスト】
テキストは使用しない．適宜，資料を配布する.

【参考文献】
講義中に，適宜紹介する.

認知活動とヒューマンエラー

担当教員 未定

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
人間は、目・耳・鼻・皮膚などで情報を知覚し、脳で処理し、外界を認知して自らの行動を決定しながら生きている。また家族・学校・会社など様々な社会的集団に属し、その集団的認知に基づく決定や慣習に従いながら生きている。本講義では、そのような人間の認知活動の特徴を概観し、ヒューマンエラーがどのように生じるのかを認知心理学的視点から理解することを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	情報処理システムとしての人間
2	視覚認知～見る仕組みと心の働き
3	感性認知～ものに感じる心の働き
4	注意～情報を選択・調整する認知の働き
5	ワーキングメモリ
6	長期記憶
7	日常世界の認知
8	言語理解
9	問題解決
10	推理
11	判断と意思決定
12	認知と感情
13	認知進化と脳
14	社会的認知
15	文化と認知

【履修上の注意事項】
欠席が多いと単位取得資格を満たせないことを理解しておくこと。
事前学習として各回の内容について参考文献などを参照しておくこと。
また講義終了後に、各回の配布資料の内容を復習すること。

【評価方法】
レポートの得点100%で成績を評価する。

【テキスト】
使用せず、講義中に随時資料を配布する。

【参考文献】
「認知心理学」　箱田祐司他（著）　有斐閣　2010
「グラフィック　認知心理学」　森敏昭・井上毅・松井孝雄（著）　サイエンス社　2000

生命倫理

担当教員 柴田　恵子、松本　鈴子、川本　起久子、二宮　球美、小林　幸人、村田　宮彦

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
生命に関する倫理的諸問題について、人はどのように対処すべきだと考えられるかについて理解する。先端医療を始めとするバイオテクノロジーの発展がもたらす恩恵とそれにともない問われることになった生命の意味について、基本的概念とその問題点の学びから生命倫理学に関心をもち、保健・医療・福祉の従事者としての考えを深められるようになる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション、現代社会と生命倫理：生命の質（柴田）
2	インフォームド・コンセント（柴田）
3	周産期医療と生命倫理（松本）
4	小児期の保健・医療と生命倫理（二宮）
5	尊厳死（川本）
6	安楽死（川本）
7	終末期ケア（川本）
8	パターナリズムと患者の権利（小林）
9	自律とwell-being（小林）
10	専門職の役割・責務（小林）
11	医療資源の配分（柴田）
12	パーソン論（柴田）
13	ケアと生命倫理（柴田）
14	倫理の源を考える：規範倫理学の時代（村田）
15	倫理の源を考える：応用倫理学の発展（村田）

【履修上の注意事項】
レポート発表、グループワークを行うので積極的に授業に参加をすること。課題に対して自分の意見を準備しておくこと。第１回目のオリエンテーション時に授業前・後の学習について説明をするので、具体的な学習方法を考え実践すること。課題レポートは授業前の事前学習であり、講義期間中の小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。

【評価方法】
定期試験：60%、学習態度・状況（レポート提出、グループ活動の参加と発表）：40%

【テキスト】
随時、紹介する。

【参考文献】
『生命倫理学を学ぶ人のために』（加藤尚武・加茂直樹編）世界思想社

人間工学

担当教員 西島　衛治

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本講義は、日常の生活環境の整備計画を行う上で「人間工学」的視点がどのように利用できるかを中心に行う。特に、受講者が、高齢者や障害者の心身の状態を踏まえた日常生活環境整備のあり方理解できることを講義の核心とする。対象学科：看護、社会福祉、れはびりてーション、口腔福祉。

【授業の展開計画】
看護業務や介護福祉業務、またリハビリテーション業務などのコメデイカルとしての業務において、身体の負担を軽減する方法を人間工学やボディメカニズムの視点から理解する。また、医療工学(ME)器具、ベッド、椅子、衣服、機器や道具が人間工学的にどのような配慮がなされる必要があるかを学ぶ。

週	授　業　の　内　容
1	人間工学の成立過程を歴史的背長から理解する(西島衛治)
2	人間工学の研究方法とは何か、またその応用分野について学ぶ(西島衛治)
3	人間工学を理解するうえで必要な基礎資料を学習する(西島衛治)
4	人間工学がどのように家具全般へ応用されているかを理解する(西島衛治)
5	人間工学がどのように「いす」への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
6	人間工学がどのように「ベッド」への応用なされているかを理解する(西島衛治)
7	人間工学がどのように「機器」への応用なされているかを理解する(西島衛治)
8	人間工学がどのように「衣服」への応用なされているかを理解する(西島衛治)
9	人間工学がどのように「履物」への応用なされているかを理解する(西島衛治)
10	人間工学がどのように「住宅」への応用なされているかを理解する(西島衛治)
11	人間工学がどのように高齢者(看護・介護)へのアプローチをしているかを理解する(西島衛治)
12	人間工学がどのように障害者(看護・介護)へのアプローチをしているかを理解する(西島衛治)
13	人間工学と関連分野(リハビリテーション工学)との関係性を考える(西島衛治)
14	人間工学と関連分野(福祉環境マネジメント論)との関係性を考える(西島衛治)
15	人間工学と関連分野(福祉環境工学)との総括的な関係性を考える(西島衛治)

【履修上の注意事項】
【準備学習】事前に講義テキストを予習し記録する（１２０分）反転学習【課題等に関するフィードバック】講義内容を
記録し、不明な部分を調べる。記録を図化や表に整理する。（１２０分）【その他のアドバイス】講義の中でノートの作成方法を指導する。そして、講義内容を理解できる内容に構造化する。結論の整理を箇条書きにする。理解できない場合、講師に質問する。

【評価方法】
１．予習・復習による自主学習態度の確認(20%)。２．定期試験や中間理解度確認試験による評価（60%）。３．レポートによる評価（10%）。４．講義における質疑応答状況(10%),出席重視(6回以上の欠席は定期試験が受験不可）:学則により、欠席回数が講義回数の三分の一を超えると、定期試験が受けられないので注意する.履修届けがない場合は、出席しても単位が出ない。

【テキスト】
小原三郎著「新版　暮らしの中の人間工学」実教出版、2015年

【参考文献】
小川鑛一　著「イラストで学ぶ看護人間工学」東京電機大学出版局、2011、全 208 ページ

環境科学

担当教員 安藤　学

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
環境問題というものをどのようにとらえるか、またその問題をどのように解決していくかを、自然と人間との関係から考え、その方法を修得できる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	環境科学オリエンテーション
2	環境とは何か
3	自然環境と人間
4	都市・工業国と農村・農業国
5	人間の活動と地球のバランス
6	地球・生物圏・生態系
7	食糧か環境保全か
8	農耕地生態系
9	農業の工業化・機会化
10	持続可能な社会を構築する条件
11	経済効率と入会地の悲劇
12	入会地としての税金
13	汚染者負担の原則
14	今後の環境問題
15	環境問題の解決策

【履修上の注意事項】
努めて出席すること。ノートをきちんと毎回とる。授業前に出された課題を完成させて授業に臨み、授業後は授業前の課題と授業で学んだことを比較して復習をすること。

【評価方法】
レポート提出（80%）授業への取り組み（20%）

【テキスト】

【参考文献】
適宜紹介する

社会調査法

担当教員 竹中　健

配当年次 ２年

単位区分 必修

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
１．社会調査の意義と目的および方法を理解し、調査結果についての的確な解釈の仕方を習得する能力を身につける。
２．量的調査の方法、質的調査の方法を学び、自ら調査ができる能力を習得する。
３．統計法の概要、倫理規定、個人情報の保護、インタビューの技法、参与観察の手法を学ぶ。
４．論文の書き方について学び、卒業研究論文作成に活用できるようにする。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	ガイダンス
2	社会福祉と社会調査(目的・役割・意義)
3	社会調査の計画と準備・倫理的配慮・個人情報保護・訪問面接調査・郵送調査・留め置き調査
4	量的調査の設計　調査票の質問項目の作り方　調査票の配布と回収
5	ダブルバーレル質問　キャリーオーバー効果　パーソナルな質問とインパーソナルな質問
6	統計法　量的調査の分析手法　相関・クロス集計・検定
7	測定　測定の水準　測定の信頼性と妥当性
8	単純集計と記述統計　コーディング
9	調査法の比較　量的調査と質的調査　ITの活用方法
10	リサーチデザインのつくりかた　グラウンデッドセオリーアプローチ
11	インタビューのしかた　自由面接法　構造化面接　半構造化面接
12	参与観察法　ゴッフマン『アサイラムス』誠信書房
13	質的調査　病院ボランティア組織の調査より　質的調査の手法・概念の整理
14	量的調査『大学生と語る性』より　量的調査の手法・概念の整理
15	計量分析における結果の図表化　アウトプットの分析と考察方法

【履修上の注意事項】
第1回目の授業では必要な事項についての説明がある。必ず出席すること。
各回の講義内容に沿って事前学習と事後学習をし、内容の理解を深めること。

【評価方法】
合計5回のテストを講義内で行う。試験週間（8月1日～7日）には、試験を行わない。
合計5回のテスト【各回の配点は20点】を合計した点を、最終評価点とする。

【テキスト】
特に指定しない。
必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】
E.ゴッフマン『アサイラム―施設被収容者の日常世界』誠信書房
その他、授業の中で適宜指示をする。

物理学

担当教員 森　信之

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
物理学は、自然界のあらゆる出来事に対し、科学的思考によってその本質を明らかにしようという学問です。本講義は、医療・福祉分野において必要となるであろう項目を取上げますが、その学修により、観察事実に基づく科学的思考、分析的思考を身に付けることも目指します。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	力とベクトル、力の合成・分解、作用反作用、力のつり合い
2	力のモーメント、梃子(てこ)の原理、モーメントのつり合い
3	体の構造と梃子、重心と安定性
4	圧力、サイフォン、ドレナージ(吸引)
5	速度、加速度、ニュートンの運動の法則
6	重力と重力加速度、一様重力による運動
7	等速円運動、単振動、波
8	運動量と運動量保存則、はね返り係数
9	仕事と力学的エネルギー
10	種々のエネルギーとエネルギー保存則
11	電場、静電気力；磁場、磁力
12	電流、電位差、オームの法則
13	電磁波、光
14	直流回路、交流回路
15	原子核と放射線、半減期

【履修上の注意事項】
黒板に書かれたことをただ写すだけでなく、講義を聞いて、なぜそうなのかを考えながら、要点をまとめてノートするようにしてください。自分の頭で考えることなしに、物理学を理解しや科学的思考を身に着けることはできないからです。

【評価方法】
筆記試験を行ない、その結果のみで評価します。

【テキスト】
使用しません。適宜、プリントを配布します。

【参考文献】
必要に応じ、講義中に示します。

数学

担当教員 森　信之

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
この講義では、数学の基礎を理解し、問題演習を通して「論理的思考」や「数学的思考」ができるようになることを目指す。

【授業の展開計画】
1. イントロダクション/数と演算
2. 度数と分布
3. 平均値のいろいろ
4. 比と比率と割合
5. 比率（静的・動的）
6. リスク比，オッズ比
7. 累乗関数とその性質
8. 指数関数とその性質
9. 対数関数とその性質
10. グラフの描き方・読み方
11. 経験的確率と理論的確率
12. 根元事象と場合の数，順列・組合せ
13. ２項分布とポアソン分布
14. 条件付き確率，期待値
15. ベイズの定理

【履修上の注意事項】
テキストを使用しないので、講義中のノートをしっかり取るだけでなく、事前学習が必要になる。また毎回、前の週の確認テストを行なうので、復習をし、特に授業中の演習問題は、もう一度解いてみて、その考え方のプロセスを学ぶこと。
「数理的な思考」を身に着けるには、自分の頭で考えてみることが大切です。

【評価方法】
毎回の小テストと定期試験を、1：4で評価する．小テストの結果は、その講義中にフィードバックします．

【テキスト】
テキストは使わず、必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】
講義中に、適宜、指示する．

化学

担当教員　水崎　幸一

配当年次　1年

単位区分　選択

開講時期　第1学期

授業形態　講義

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】

将来、医療・福祉系のスタッフとして社会で活躍し貢献するためには、人体の構造と機能や医薬品や医療機器などについても幅広く基礎知識を身につけ、これらの知識をもとによく考え的確に判断し対処しなければならない。そのために、共通・基礎専門科目として、医用工学、薬理学、生活栄養学などが設けられている。これらの科目は、本科目を受講することで化学的な基礎知識が身に付き、深く理解できる。また、社会生活においても、食品をはじめ身の回りにある物質について化学的（科学的）に考え、正しく理解できるようになる。

【授業の展開計画】

この授業では、初めに物質を構成する目では見えない主な粒子、原子、分子やイオンの成り立ちを知り、物質中に見られるこれらの粒子の結合の仕方（化学結合）を理解する。次に、化学や物理で決められている原子、分子、イオンの量的な取り扱い方を知り、物質の状態変化や化学的な変化（化学反応）を量的な変化として表す方法を学ぶ。また、日常生活や医療と関係の深い物質の濃度の表し方やその状態に関する現象（原理と法則）について学び、さらに主な物質（酸化剤・還元剤、酸・塩基）の性質とその定義、反応の理論についても理解する。

週	授　業　の　内　容
1	物質を構成する見えない粒子（原子）を想像する － 元素とその原子の構造（原子核と電子）
2	原子の性質は原子が持っている電子で決まる　－　原子の電子配置と周期性
3	原子が物質のもとになる粒子（イオンと分子）に姿を変える理由　－　オクテットルール
4	物質中の原子どうしの手のつなぎ方を見る　－　化学結合（イオン結合と共有結合）
5	原子・分子・イオンの質量（重さ）と物質量を考える　－　化学量と物質量(モルmolと当量Eq)
6	原子・分子・イオンの質量(重さ)をモルmolで表現する　－　物質量（molとEq)の換算方法
7	水溶液の濃度　－　百分率（%）とモル濃度（mol/Ｌ)、その他
8	水溶液の性質とヒトの血液　－　蒸気圧と浸透圧
9	物質が姿を変える　－　状態変化と化学変化そしてエネルギー変化
10	反応の速さと進む方向の偏り　－　可逆反応と化学平衡
11	酸化するものと酸化されるもの　－　酸化と還元、酸化・還元反応の理論
12	ヒトは生きるために酸素を必要とする　－　生体内での酸化・還元反応
13	酸性を示すものとアルカリ性をしめすもの　－　酸と塩基とｐＨ、酸・塩基反応の理論
14	ヒトのからだと血液のｐＨ　－　緩衝液とｐＨ
15	ヒトの細胞内はコロイド溶液　－　コロイド溶液とその性質

【履修上の注意事項】

この科目は、高校で化学を履修しなかった、化学を苦手としていた、化学が好きで履修したがもう一度学び直したい学生の皆さんを対象にしている。受講する前には「シラバス」を見て、その日の授業内容を確認しておくこと、また、受講したその日のうちに短時間でも復習し、記憶に残す努力をするとよい。授業の最初か最後に、皆さんの理解度を確認するための小テストを行いながら、「わかること」を「楽しめる」丁寧な講義を行う。

【評価方法】

定期試験８０％、学習態度(確認小テストを含む)２０％

【テキスト】

食を中心とした化学（第３版）（北原重登ら、東京教学社）

【参考文献】

コ・メディカル化学 - 医療系・看護系のための基礎化学 -（齋藤勝裕ら、裳華房）
まるわかり！基礎化学（田中永一郎ら、南山堂）

２　共通専門科目

臨床心理学

担当教員 永田　俊明

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業は、現代の心理学の全体的な動向をコンセプトにした「心理学・臨床講義」というスタンスに立って、必要な基礎的な知識の習得を目指す。とかく従来の臨床心理学は単なる学派の羅列的理解が中心であることが多いが、この授業では、正常との連続変数及び心理学的援助対象のケアシステムの一部として、現代の代表的な心理病理現象をどのように診立て、また、援助を行う必要があるかに関しての基本知識の習得と心理的援助の勘所に焦点を当てながら理解を深めていく。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	臨床心理学（1）史的概観
2	臨床心理学（２）精神医学との関係
3	アセスメント　面接と検査
4	観察と行動　データ収集
5	正常と異常　DSM-5を用いて
6	異常心理学　精神症状と心理
7	精神障害　心理的問題
8	発達臨床心理学　ライフサイクルと心理問題
9	介入理論（1）精神分析　クライエント中心療法
10	介入理論（2）認知行動療法　家族療法
11	介入技法（1）遊戯療法　箱庭療法
12	介入技法（2）ＳＳＴ　心理教育
13	技法モデル　さまざまな相談活動
14	コミュニティモデル
15	様々な領域での臨床心理学

【履修上の注意事項】

シラバス内容に沿って、事前学習を行い事後にはノートを含め知識の整理をしておくこと。

【評価方法】

出席率：100％で評価　＊この講義は再試験を実施しない。

【テキスト】

未定

【参考文献】

『精神医学事典』加藤・保崎他編　弘文堂2001年　『心理アセスメントハンドブック』上里監　2001年
『「DSM-Ⅳ精神疾患の診断・統計マニュアル』加藤他監編　医学書院　1996年

看護学概論

担当教員 柴田　恵子、上妻　尚子、新　裕紀子、古江　佳織、古堅　裕章

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
看護専門職としての自己の健康観、看護観を追及するために必要となる知識、概念を理解する。看護の対象および看護の提供、歴史・制度および将来の専門職の展望に関する知識から基礎的な看護学について理解する。保健・医療・福祉専門職者として相応しい高い知識と優れた技術を身につける必要性を知る。

【授業の展開計画】
第1回目のオリエンテーション時に、詳細な授業計画および本教科の履修について説明を行う。

週	授業の内容
1	オリエンテーション、看護学概論とは（柴田）
2	医療安全と医療の質保証（古江）
3	人間の欲求と健康、健康のとらえ方（上妻）
4	国民の健康状態（上妻）
5	看護の対象の理解（上妻）
6	国際化と看護、グループワーク：国際化と医療職者（古江）
7	災害時における看護（古堅）
8	小テスト1、ナイチンゲールについて（柴田）
9	サービスとしての看護、看護サービス提供の場（新）
10	職業としての看護・看護職者の養成制度と就業状況（古堅）
11	看護職者の教育とキャリア開発（柴田）
12	看護における倫理（柴田）
13	看護の提供のしくみ：看護をめぐる制度と政策（柴田）
14	小テスト2、看護とはなにか（柴田）
15	グループワーク：医療職者における専門性、学習のまとめ（柴田）

【履修上の注意事項】
課題について考え、レポートを提出する。第１回目のオリエンテーション時に授業前・後の学習について説明をするので、具体的な学習方法を考え実践すること。課題レポートは授業前の事前学習であり、講義期間中の小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。

【評価方法】
定期試験（筆記）：60%、学習態度・状況（小テスト、レポート提出、グループ活動の参加と発表）：40%

【テキスト】
『系統看護学講座　基礎看護学［1］』茂野香おる　他（医学書院）

【参考文献】
随時、紹介する。

社会福祉原論Ⅰ

担当教員　金　蘭九

配当年次　1年

単位区分　必修

開講時期　第1学期

授業形態　講義

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1　現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
2　福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。
3　福祉政策におけるニーズと資源について理解する。
4　社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解する。
5　福祉政策の課題について理解する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション、現代社会と福祉
2	福祉制度の概念と理念
3	福祉政策の概念と理念
4	福祉制度と福祉政策の関係
5	前近代社会と福祉１（救貧法、慈善事業）
6	前近代社会と福祉２（博愛事業、相互扶助、その他）
7	近代社会と福祉１（第二次世界大戦後の窮乏社会と福祉）
8	近代社会と福祉２（経済成長と福祉、その他）
9	現代社会と福祉１（新自由主義、ポスト産業主義、グローバル化）
10	現代社会と福祉２（リスク社会、福祉多元主義、その他）
11	需要とニーズの概念（需要の定義、ニーズの定義、その他）
12	資源の概念（資源の定義、その他）
13	福祉政策と社会問題１（貧困、失業、要援護〈児童、老齢、障害、母子・寡婦など〉、偏見と差別）
14	福祉政策と社会問題２（社会的排除、ヴァルネラビリティ、リスク、その他）
15	福祉政策の現代的課題

【履修上の注意事項】
授業前にテキストを読み、キーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】
定期試験60％、レポート20％、発表20％で評価する。

【テキスト】
社会福祉士養成講座編集委員会編『現代社会と福祉』第4版（中央法規、2018年）。

【参考文献】
厚生労働省編『（平成29年版）厚生労働白書』（ぎょうせい、2017年）。
内閣府編『（平成29年版）障害者白書』（日経印刷、2017年）。　『社会福祉六法』（最新版）。

地域保健論

担当教員 嶋　政弘

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1 地域保健の位置づけやその構造を理解し，具体的な活動や医療制度について理解する。
2 地域保健が目指す新しい健康の概念や地域集団としての健康づくりへの取り組みの例に着目し，今後の地域医療の在り方について考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	地域保健とその構造
2	保健・医療・福祉の組織と活動
3	地域保健①　保健所の組織と業務
4	地域保健②　市町村保健センターの組織と業務
5	救急医療①　救急医療体制
6	救急医療②　救急救命士
7	災害医療①　医療における災害の定義と解釈と災害拠点病院
8	災害医療②　災害時保健医療活動
9	災害医療③　トリアージ
10	へき地医療　へき地保健医療対策と遠隔医療
11	在宅医療①　在宅ケア
12	在宅医療②　訪問診療・往診と訪問看護制度
13	在宅医療③　訪問及び通所リハビリテーション
14	チーム医療
15	保健・医療・福祉の連携

【履修上の注意事項】
1 ペアによるディスカッションをするため，ペアを作って着席する。
2 すべてのペアに発言の機会があるので，常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】
ディスカッションへの参加40%，課題提出20%，期末試験40%で評価する。
追試験は実施しない。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献】
毎回，資料を配布する。参考資料については，授業の中で随時提示する。

行動療法論

担当教員 李　玄玉

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

○　行動療法の基礎理論や技法について理解する。
○　実際、現場で行動問題を示す子どもに対して、行動療法の理論や技法に基づいて具体的な支援のプログラムを作成することができる。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
２．行動療法について
３．行動療法の特徴
４．行動療法の動向および認知行動療法について
５．行動療法の知識の大要
６．行動療法と他の心理療法との相違点
７．行動療法に必要な条件づけに関する基礎知識
８．行動療法の諸技法
９．行動形成法の理論と具体的事例
１０．トークンエコノミク法と行動の改善
１１．臨床の場面での行動療法
１２．発達障害児の行動改善における行動療法
１３．発達障害児の支援に関するビデオ鑑賞と説明
１４．具体的な事例と行動療法の適用
１５．具体的な事例と行動療法の適用

【履修上の注意事項】

【評価方法】

授業態度及び発表　４０点、　レポート10点、　テスト５０点、　合計100点

【テキスト】

プリント資料を配布する。

【参考文献】

行動療法の理論と技術、　内山喜久雄、　日本文化科学社

解剖生理学Ⅰ

担当教員　二科　安三

配当年次　1年

単位区分　選択

開講時期　第1学期

授業形態　講義

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人体各部の構造と機能を勉強する。本講義で中心となる臓器は消化器系、血液および循環器系、呼吸器系、泌尿器系であり、その周辺（たとえば神経系等）にも注意を払いつつ勉強する。適切な教科書を指定するので、その７割程度は理解して他人に解説できるようになること。

【授業の展開計画】

週	授業の内容		
1	栄養の消化と吸収	消化器官の構造	二科
2		消化器官の構造	二科
3		消化器官の機能	二科
4		消化器官の機能	二科
5	呼吸と血液の働き	呼吸器の構造	二科
6		呼吸器の機能	二科
7		血液の成分	二科
8		血液の機能	二科
9		血液の機能	二科
10	血液の循環と調節	心臓の構造	二科
11		心臓の機能	二科
12		血液循環の調節	二科
13	体液の調節と尿の生成	腎臓の構造	二科
14		腎臓の機能	二科
15		体液の調整機構	二科

【履修上の注意事項】

教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。

【評価方法】

期末試験(100%)で判定する。

【テキスト】

解剖生理学（人体の構造と機能[1]）、坂井建雄、岡田隆夫　　医学書院

【参考文献】

なし。

解剖生理学Ⅱ

担当教員　二科　安三

配当年次　１年

単位区分　選択

開講時期　第２学期

授業形態　講義

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】
人体各部の構造と機能を勉強する。本講義で中心となる臓器は自律神経系、内分泌系、骨と筋肉、生殖器官系、生体防御免疫系が中心となる。適切な教科書を指定するので、その７割程度は理解して他人に解説できるようになること。

【授業の展開計画】

週	授業の内容		
1	内臓機能の調節	自律神経の構造	二科
2		自律神経の機能	二科
3		自律神経の機能	二科
4		内分泌系の構造	二科
5		内分泌系の機能	二科
6		内分泌系の機能	二科
7	身体の支持と運動	骨と筋の構造	二科
8		骨と筋の機能	二科
9	情報の受容と処理	中枢神経の構造と機能	二科
10		中枢神経の構造と機能	二科
11		末梢神経の構造と機能	二科
12		特殊感覚の構造と機能	二科
13	外部環境への対応と防御		二科
14	生殖、発生および老化の仕組み		二科
15	生殖、発生および老化の仕組み		二科

【履修上の注意事項】
教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。

【評価方法】
期末試験(100%)で判定する。

【テキスト】
解剖生理学Ⅰと同じ教科書を使用する。
解剖生理学　人体の構造と機能１、坂井建雄、岡田隆夫、医学書院

【参考文献】
なし。

生活栄養学

担当教員 本田　榮子

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

○食物と健康という観点から、基礎栄養学、食物の消化・吸収、栄養素の特徴や役割、臨床栄養学の面から疾病と栄養の関連について理解し、自らが幅広い視野と知識を身につけ実践する事、特に食事や栄養に関する情報量が急増している中、 自身や人々の健康の維持増進に努めてもらう事が出来るようになってもらいたい。
なお医療専門職として、様々な身体的状況にある人々に接する際に、自身が学んだ食事指導を効果的に行う技法や体験を活かし、サポートする事で自らも健康的な食生活が実践できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	オリエンテーション　栄養の基本概念(栄養とは　健康と栄養評価　　食と環境)
2	食生活の課題（食習慣と栄養・スポーツと栄養　栄養状態の評価と方法）
3	日本人の食事摂取基準（栄養素別基準・食品郡別摂取量・摂取エネルギーの算定・活動代謝）
4	栄養指導・保健指導（栄養指導の過程と栄養スクリーニング、特定健診・特定保健指導とは）
5	栄養素の機能と代謝（１）炭水化物の種類、エネルギー
6	栄養素の機能と代謝（２）脂質・たんぱく質の種類、代謝、栄養
7	栄養素の機能と代謝（３）ビタミン・無機質の機能と代謝
8	食物の摂取と消化・吸収　（食欲・消化の調節・栄養素の吸収）
9	ライフステージと栄養（妊娠・授乳期期・乳幼児期・）
10	ライフステージと栄養（学童期・思春期・）
11	ライフステージと栄養（成人期・老年期）
12	病態時の栄養（１）栄養障害・疾患別食事指導の実際
13	病態時の栄養（２）疾患別食事指導の実際
14	病態時の栄養（３）疾患別食事指導の実際
15	病態時の栄養（４）　疾患別食事指導の実際　（経管栄養と中心静脈栄養・ＮＳＴ）

【履修上の注意事項】

履修の中で、各単元の理解を把握するために演習課題を出すので、テキストと配付資料,
テキストの副読本としての「栄養学整理ノート」をもとに、きちんと予習復習をし受講すること

【評価方法】

筆記試験85％ 課題レポート10％　学習態度5％

【テキスト】

「わかりやすい栄養学 第４版 -臨床･地域で役立つ食生活指導の実際-」ヌーヴェルヒロカワ

【参考文献】

わかりやすい栄養学（三共出版）基礎栄養学（第一出版）日本人の食事摂取基準（２０１５年版）七訂補日本食品成分表、国民衛生の動向29年版　糖尿病の食品交換表、腎臓病の食品交換表、応用栄養学（医歯薬出版）

感染症学

担当教員 樋口　マキエ、齋田　和孝、三森　龍之

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
① ヒトは通常、どのような微生物と共生しているのか？常在正常細菌叢とその働きについて、 ② 病気の原因となる微生物（病原微生物）の分類と特性（構造、性質、病原性）について、 ③ 感染の成立と生体防御機構、代表的感染症の起因菌と臨床症状、特殊な患者における感染症について、 ④ 医療における感染予防とその方法について学ぶ。 ⑤ 抗病原微生物薬（殺菌薬、抗菌薬、抗真菌薬、抗原虫薬、抗ウイルス薬等)の微生物に対する作用と人体への作用（副作用）を学び，感染症に対する化学療法を理解する。

【授業の展開計画】

【 授業内容 】	【 授業担当者 】	【 授業日程】 (H30) 9:10-10:40
１）感染症学概論、自然免疫と常在正常細菌叢の働き	（三森）	4/06（金）
２）病原微生物の分類と特性（構造、性質、病原性、感染機構）	（三森）	4/13（金）
３）　細菌と感染(特徴)	（三森）	4/20（金）
４）　真菌と感染、原虫と感染	（三森）	5/11（金）
５）病原微生物の分類と特性：ウイルスと感染、寄生虫	（三森）	5/18（金）
６）感染症の診断における臨床検査（小テスト）	（三森）	5/25（金）
７）感染に対する生体防御機構、ワクチン接種	（齋田）	6/1 （金）
８）感染経路と感染症の症状（臨床像）、医療関連感染とその制御	（齋田）	6/8 （金）
９）特殊な患者における感染症（新生児、妊婦、高齢者、がん患者）新興・再興感染症、	（齋田）	6/15（金）
10）医療現場における感染防止対策　（感染管理認定看護師:熊大附病 非常勤講師）		6/22（金）
11）殺菌薬、化学療法について	（樋口）	6/29（金）
12）抗病原微生物薬の作用機序と使用の基本	（樋口）	7/06（金）
13）抗菌薬（抗生物質）	（樋口）	7/13（金）
14）抗菌薬（合成抗菌薬）、抗結核薬、抗真菌薬	（樋口）	7/20（金）
15）抗原虫薬、抗ウイルス薬、殺菌薬	（樋口）	7/27（金）
16）単位修得試験　(9:10～10:40: 90min)	（樋口）	8/03（金）

【履修上の注意事項】
１）授業時には、指定の教科書とノートを持ってくる。講義内容の要点を書留め、その日の内に整理復習する。
２）講義プリントはファイルし、専門用語は正確に覚え、その概念を正しく理解する。
３）教科書２冊を精読し自己学習する。①「わかる身につく病原体・感染・免疫」(主に4/06～6/15に使用）、
②「コメデイカルのための薬理学 第３版」－第12章 感染症に対する薬物と消毒薬－(6/22～8/03)
４）教科書･参考書・プリント等を読んでも理解できないときは、教員に質問する。

【評価方法】
１）学期末の筆記試験（100%）は、授業時間に比例した配点で評価する。
講義1～6(40点)、7～9(20点)、10～15(40点)
２）授授業への出席は最低要件であり、十分要件ではない。

【テキスト】
１）わかる身につく病原体・感染・免疫(藤本 編、目野・小島 著、南山堂　2,800円)、３）教員作成プリント
２）コメデイカルのための薬理学 第３版（渡辺 他 編，朝倉書店 3,900円）-薬理学、病態生理学Ｉでも使用-

【参考文献】
１）微生物学(南嶋・吉田・永淵 著、医学書院　2,200円)
２）看護の基礎固め：　６．微生物学編、４．薬理学編（メデイカルレビュー社　各1,600円）

薬理学

担当教員 樋口　マキエ

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

薬物とは、生体の恒常性（ホメオスタシス）の破綻による生体機能の異常（病態）を正常範囲に戻そうとする目的で使用される化学物質である。疾病の予防、診断および治療に用いられる。
日進月歩の薬物療法が、医療・看護の現場で適正に行われているか判断できるよう、各種の薬物を系統的に把握し理解する。基本的な薬理学の知識と論理的思考を学習し、副作用の発現防止に寄与する。

【授業の展開計画】

【 授業内容 】

原因療法薬(化学療法薬：抗病原微生物薬と抗がん薬)については、感染症学と病態生理学Ｉで教授した。ここでは、対症療法薬について教授する。　正常な人体の構造と機能および病態を復習しながら、人体に対する薬物の有益な作用と副作用およびその機序を、系統的に教授する。さらに、薬物の生体内運命を理解させ、対症療法薬の臨床応用および適用方法を把握させる。

【 授業日程 】

薬理学総論　　平成28-29年16:30-18:00(月)

１．薬とは、治験，薬と法令	
生体の情報伝達系（生体の信号と応答、情報伝達物質、受容体）、作用薬と拮抗薬	9/26（月）
２．生体に対する薬物の働きかけ：薬理作用、用量-反応関係	10/03（月）
３．薬物に対する生体の働きかけ：生体内の薬の動きと反応に影響を与える因子	10/11（火）
４．エイジングと薬	10/17（月）
生体の機能異常（病態）と薬	
５．末梢神経系作用薬：自律神経作用薬（アドレナリン作働薬・遮断薬）	10/31（月）
６．末梢神経系作用薬：自律神経作用薬（コリン作働薬・遮断薬）	11/02（水）
７．末梢神経系作用薬：運動神経作用薬（筋弛緩薬）、感覚神経作用薬（局所麻酔薬）	11/07（月）
８．代謝・内分泌系作用薬：糖尿病治療薬、消化系作用薬：潰瘍治療薬	11/14（月）
９．免疫系作用薬：抗アレルギー薬、解熱鎮痛薬（NSAIDS）、ステロイド性抗炎症薬	11/21（月）
10．循環系作用薬：抗高血圧薬、利尿薬薬	11/28（月）
11．循環系作用薬：虚血性心疾患治療薬、抗血栓薬、抗不整脈薬	12/05（月）
12．循環系作用薬：心不全治療	12/12（月）
13．中枢神経系作用薬：全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬	12/19（月）
14．中枢神経系作用薬：睡眠薬、抗不安薬、抗うつ薬、	1/16（月）
15．中枢神経系作用薬：抗精神病薬、抗パーキンソン病薬、抗てんかん薬	1/23（月）
16．単位修得試験	1/30（月）

【履修上の注意事項】

１）ノートを各自用意し講義内容の要点を記す。その日の内に教科書を読み込み内容を整理・復習する。
２）講義プリントはファイルし、薬理学授業時に、教科書、ノートと一緒に必ず持ってくる。
３）専門用語は正確に覚え、その概念を正しく理解する。理解できないときは、質問する。
４）授業参加は最低要件であり十分要件ではない。

【評価方法】

１）学期末の本試験（100%：筆記試験）で評価する。前提条件は2/3以上の出席。
２）「薬物療法の基礎知識を用い、論理的思考を展開できる」を評価基準とする。

【テキスト】

１）コメデイカルのための薬理学　第２版　（渡邊，樋口/編、 朝倉書店　3,900円）
２）教員作成プリント

【参考文献】

１）看護の基礎固め　ひとり勝ち薬理学（自律神経系）　片野/編　メデイカルレビュ-社 1,600円
２）薬理学 第13版 吉岡,泉,伊関著,医学書院 2,300円　３）『今日の治療薬2016』浦部,島田,川合編,南江堂

障害児教育概論

担当教員 李　玄玉

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
　最近増加している発達障害児（自閉症、アスペルガー障害、ＡＤＨＤ等）に関する特別支援教育について紹介し、合わせて障害児教育の本質的な考え方や社会的・現実的限界について講義する。
また、認知発達・行動問題などの基本知識をはじめ、障害児教育を幅広いスタンスで学ぶ。

【授業の展開計画】

１．オリエンテーション
２．「障害」の概念
３．障害児発達の基本問題
４．障害児の分類と教育の場
５．障害児の教育と親子関係
６．障害児と地域環境
７．障害児の就学前教育
８．今日の障害児教育と学校文化
９．特別支援教育の理念と教育目標
１０．特別支援教育の実施現況（全国と熊本の状況）
１１．障害児教育における現場の問題
１２．特別支援教育のコーディネーター
１３．発達障害児への支援・指導教育
１４．発達障害児の支援に関するビデオ鑑賞と説明
１５．発達障害児の認知・行動問題に関する支援・教育

【履修上の注意事項】
○「特別支援教育」や障害児への「合理的配慮」などについて調べてくる。

【評価方法】
　学習態度及び発表　４０点、　レポート１０点、　定期試験　５０点　　合計１００点

【テキスト】
プリント資料を配布する。

【参考文献】
『障害児の発達と教育』　村井潤一、　小山　正共著、　培風館

国際協力論

担当教員 安藤　学、川原　英照、川原　光祐、久家　誠司

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
今日、貧困・教育・紛争・環境破壊・エイズ・食糧問題など地球規模の諸問題はますます深刻な状況にあります。このような問題は、私たち日本人にとっても遠い国の問題ではありません。私たちも国際社会の一員として、世界の国々と協調連帯して国際協力を推進するための能力を修得することができる。

【授業の展開計画】
保健・医療・福祉分野の国際協力の事例を入れて授業を展開する

週	授業の内容
1	国際協力とは何か(安藤)
2	政府開発援助(安藤)
3	政府開発援助の事例（安藤）
4	NGOによる民間協力（安藤）
5	NGOによる民間協力の事例（安藤）
6	技術協力の方法（川原光祐）
7	技術協力の方法の事例（久家）
8	参加型開発（久家）
9	参加型開発の事例（安藤）
10	国際協力の理念（久家）
11	国際協力の理念の事例（久家）
12	国際協力の事例（民間（久家）
13	国際協力の事例（政府）（川原英照）
14	国際理解と支援活動（安藤・前田）
15	国際協力の総まとめ（安藤）

【履修上の注意事項】
オムニバスであるので、毎回出席を心がける。授業前に出された課題を完成させて授業に臨み、授業後は授業前の課題と授業で学んだことを比較して復習をすること。

【評価方法】
レポート80% 授業への取り組み20%

【テキスト】
資料を準備する

【参考文献】
適宜紹介する

危機管理と災害支援

担当教員 安藤　学

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
日常生活の中においても、危険は常に存在する。もちろん日常生活だけではなく拡大して考えれば地球上にはいろんな危険が存在しており、それに対する危機管理が必要である。家庭内の危険から出発し国際紛争までにいたる危機管理について学ぶ.
そして、災害についての危機管理と災害発生後の支援のあり方について検討できる能力を修得することができる.

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	危機管理論オリエンテーション
2	危機管理とは何か
3	危険とは何か
4	家庭における危険と危機管理
5	地域社会における危険と危機管理
6	学校における危険と危機管理
7	企業における危険と危機管理
8	国家における危険と危機管理
9	国家間のバランスと危機管理（安全保障）
10	現場からの危機管理（外部講師講話）
11	現場からの危機管理（外部講師講話）
12	災害支援の方法　1（災害発生時）
13	災害支援の方法　2（自活生存）
14	災害支援の方法　3（避難救助）
15	危機管理についての総まとめ

【履修上の注意事項】
外部講師の講話もあるので、毎回出席することを心がける。授業前に出された課題を完成させて授業に臨み、授業後は授業前の課題と授業で学んだことを比較して復習をすること。

【評価方法】
レポート提出（80%）、授業への取り組み姿勢（20%）

【テキスト】
なし

【参考文献】
適宜紹介する

３　専門科目

社会福祉原論Ⅱ

担当教員　金　蘭九

配当年次　１年

単位区分　選択

開講時期　第２学期

授業形態　講義

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1　福祉政策の課題について理解する。
2　福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む）について理解する。
3　社会福祉をめぐる日本及び諸外国の動向について理解する。
4　福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む）の関係について理解する。
5　相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション、福祉政策の現代的課題
2	福祉政策の課題と国際動向（社会的包摂、社会連帯、セーフティネット、その他）
3	福祉政策の論点１（効率性と公平性、必要と資源、普遍主義と選別主義、自立と依存、ジェンダー）
4	福祉政策の論点２（自己選択とパターナリズム、参加とエンパワーメント、福祉政策の視座）
5	福祉政策における政府の役割
6	福祉政策における市場の役割
7	福祉政策における国民の役割
8	福祉供給部門（政府部門、民間部門、ボランタリー部門、インフォーマル部門、その他）
9	福祉供給過程（公私関係、再分配、割当、行財政、計画、その他）
10	福祉利用過程（スティグマ、情報の非対称性、受給資格とシティズンシップ、その他）
11	福祉政策と教育政策、福祉政策と住宅政策など
12	福祉政策と労働政策、震災と福祉政策など
13	福祉供給の政策過程と実施過程
14	福祉政策の国際比較
15	福祉政策の課題と展望

【履修上の注意事項】
授業前にテキストを読み、キーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】
定期試験60％、レポート20％、発表20％で評価する。

【テキスト】
社会福祉士養成講座編集委員会編『現代社会と福祉』第4版（中央法規、2018年）。

【参考文献】
厚生労働省編『（平成30年版）厚生労働白書』（ぎょうせい、2018年）。
内閣府編『（平成30年版）障害者白書』（日経印刷、2018年）。　『社会福祉六法』（最新版）。

社会保障論Ⅰ

担当教員 未定

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会保険は、公的扶助とならんで社会保障制度の重要な柱として発展してきた。はじめに、社会保障の概念や対象及び理念を学び、欧米や日本の社会保障の発展過程を概観する。そして、社会保障の体系と財源、費用を学んだ後、各論（特に、年金保険制度と医療保険制度）の具体的な内容について理解する。社会保障論Ⅰでは、少子高齢化社会を迎えて、社会保障をどのように再構築したらよいのかを考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション、社会保障の概念
2	現代社会における社会保障制度の課題
3	欧米における社会保障の歴史（発展過程）
4	日本における社会保障の歴史（発展過程）
5	社会保障制度の体系と概要（社会保険と社会扶助）
6	社会保障の財源と費用
7	社会保障の行財政
8	年金保険制度の沿革と概要
9	年金保険制度の具体的な仕組みと財政、給付の内容
10	年金保険制度をめぐる動向と今後の課題
11	医療保険制度の沿革と概要
12	医療保険制度の具体的な仕組みと財政、給付の内容
13	医療保険制度をめぐる動向と今後の課題
14	年金保険制度と医療保険制度の将来像
15	社会保障制度の再構築

【履修上の注意事項】

(1) 必ず、テキストを持参して受講すること。
(2) 予習をして授業に臨み、授業後は、復習をすること。

【評価方法】

試験80%　レポート20%

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座12 社会保障【第５版】』（中央法規出版、2016年）

【参考文献】

椋野美智子・田中耕太郎編『はじめての社会保障【第13版】』（有斐閣、2016年）
今井伸編『わかる・みえる社会保障論-事例でつかむ社会保障入門-』（みらい、2016年）

社会保障論Ⅱ

担当教員　未定

配当年次　２年

単位区分　選択

開講時期　第２学期

授業形態　講義

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会保障論Ⅰで学んだ、社会保障の概念や対象及びその理念について再度、確認する。社会保障論Ⅱでは、介護保険制度、労働者災害補償保険制度、雇用保険制度について理解できる。特に、非正規労働者の増加、派遣切りによる大量失業者、失業の長期化など雇用保険に課された課題は多い。そして、社会保険と社会扶助の関係、公的保険制度と民間保険制度の関係について理解できる。諸外国における社会保障制度の概要を整理した後、日本の社会保障の将来像について考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション、社会保障の概念（社会保障論Ⅰの復習を含む）
2	介護保険制度創設の経緯と具体的な仕組み
3	介護保険制度をめぐる動向と今後の課題
4	労働者災害補償保険制度の具体的な仕組み
5	労働者災害補償保険制度をめぐる動向と今後の課題
6	雇用保険制度の具体的な仕組み
7	雇用保険制度をめぐる動向と今後の課題
8	労働保険制度（労働者災害補償保険制度と雇用保険制度）の課題と展望
9	社会保険と社会扶助の関係
10	公的保険制度と民間保険制度の関係
11	社会福祉制度の概要（公的扶助、社会手当、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉）
12	社会保障・社会福祉制度に対する相談援助活動や地域活動の実際（グループワーク）
13	諸外国における社会保障制度の概要
14	社会保障の国際化（日本の社会保障制度との比較を含む）
15	社会保障の将来像

【履修上の注意事項】

(1) 必ず、テキストを持参して受講すること。
(2) 予習をして授業に臨み、授業後は、復習をすること。

【評価方法】

試験80%　レポート20%

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座12 社会保障【第５版】』（中央法規出版、2016年）

【参考文献】

椋野美智子・田中耕太郎編『はじめての社会保障【第13版】』（有斐閣、2016年）
今井伸編『わかる・みえる社会保障論-事例でつかむ社会保障入門-』（みらい、2016年）

公的扶助論

担当教員 未定、隈　直子

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
はじめに、低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について把握する。次に、相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護に係る他の法制度を説明できる。また、公的扶助をめぐる最近の動向と自立支援プログラムの意義やその実際について理解する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション、公的扶助の概念（河谷・隈）
2	貧困・低所得者問題と社会的排除（河谷）
3	海外の公的扶助制度の歴史（隈）
4	日本の公的扶助制度の歴史（河谷）
5	生活保護制度の目的、原理、原則（河谷）
6	生活保護の種類と内容及び方法、保護施設（隈）
7	被保護者の権利及び義務、不服申立てと訴訟（隈）
8	最低生活保障水準と生活保護基準（隈）
9	生活保護の動向と予算・財源（河谷）
10	低所得者対策（住宅政策を含む）とホームレス対策の概要（河谷）
11	生活保護制度における組織及び団体の役割と実際（河谷）
12	貧困・低所得者に対する相談援助活動（隈）
13	生活保護制度に係る他の法制度の理解（隈）
14	生活保護における自立支援プログラムの意義と実際（河谷）
15	低所得者に対する支援の政策動向と課題（河谷・隈）

【履修上の注意事項】
(1) 必ず、テキストを持参して受講すること。
(2) 予習をして授業に臨み、授業後は、復習をすること。

【評価方法】
試験80%　レポート20%

【テキスト】
社会福祉士養成講座編集委員会編『低所得者に対する支援と生活保護制度－公的扶助論【第４版】』（中央法規出版、2016年）

【参考文献】
講義の中で、適宜紹介する。

社会福祉法制

担当教員 野﨑　和義

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
「社会福祉の権利」についてその意義・由来を日本国憲法の条項に即して検討するとともに、いわゆる福祉四権（福祉サービス請求権、処遇過程の権利、費用徴収に対する免除権、権利侵害に対する救済・争訟権）について実定法上の根拠を学ぶ。具体的には、以下の事項についての理解を目指す。
①社会福祉の法体系、②介護保険制度、③地域福祉と法、④社会福祉サービスと裁判

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	社会福祉の根拠法（社会保障と憲法、社会福祉の制度）
2	社会福祉法と老人福祉法（１）――老人福祉施設の類型と設置主体
3	社会福祉法と老人福祉法（２）――老人福祉施設の設置規制（許可・認可・届け出の法的性格）
4	社会福祉法人と法（１）――公益法人制度改革、社会福祉法に基づく特別法人
5	社会福祉法人と法（２）――社会福祉法人に対する行政監督
6	身体拘束の禁止（１）――介護保険制度（指定基準、事業者・施設の指定）と身体拘束の違法性
7	身体拘束の禁止（２）――一般病院と身体拘束の禁止（最判平成22年１月26日を素材として）
8	生活保護と介護保険（１）――生活保護法の原理、外国人に対する生活保護
9	生活保護と介護保険（２）――介護保険と最低生活の保障（最判平成15年７月17日を素材として）
10	児童虐待と民法・児童福祉法（１）――虐待への法的対応、児童相談所の公的介入
11	児童虐待と民法・児童福祉法（２）――親権制限の段階化、財産管理権の喪失、未成年後見人
12	高齢者虐待と老人福祉法――虐待の類型、養護者・養介護施設従事者による虐待とその対応
13	障害者虐待――障害者基本法の改正、虐待の対応範囲、通報とその後の対応
14	障害者差別解消法――差別の内容、権利義務の構造
15	社会福祉と権利救済――苦情解決システム、不服申立て、行政訴訟

【履修上の注意事項】
・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】
定期試験（100%）の成績によって評価する。

【テキスト】
野﨑和義著『福祉法学』2013年、ミネルヴァ書房。
野﨑和義監修『社会福祉六法』2018年、ミネルヴァ書房（過年度版でも可）。

【参考文献】
各回の講義の際に適宜紹介する。

児童福祉論Ⅰ

担当教員 金和　史岐子

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要を理解できる。
2 児童・家庭福祉制度の発展過程を理解できる。
3 児童の権利について理解できる。
4 相談援助において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解できる。

【授業の展開計画】
[授業全体の内容の概要]
児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度を児童の権利から理解できる。
[授業終了時の達成課題]
社会情勢を学び、社会福祉士に必要な児童・家庭福祉制度の最近の動向を理解できる。

週	授業の内容
1	児童や家庭に対する支援と家庭福祉制度の概要・課題
2	子ども家庭福祉の理念・定義
3	子どもと家庭の権利保障
4	子ども家庭福祉の発展
5	現代社会と子ども・家庭
6	子ども家庭福祉にかかわる法制度
7	児童相談所の役割と実際
8	子どもの貧困
9	母子保健
10	障害・難病のある子どもと家族への支援
11	児童健全育成・保育
12	社会的養護
13	非行・情緒障害
14	児童虐待
15	児童・家庭に対する相談援助活動

【履修上の注意事項】
社会福祉士国家試験受験資格取得者希望者は、必ず履修する。授業前にテキストを読むこと。授業後にポイントをおさえて復習しておくこと。

【評価方法】
試験（もしくはレポート）70点、授業内レポート30点で評価する。

【テキスト】
福祉士講座編『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』，新社会福祉養成士講座、中央法規.

【参考文献】
随時、授業時紹介する。

高齢者福祉論Ⅰ

担当教員 吉岡　久美

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 高齢者への支援に必要な介護保険法の概要、諸手続き方法、居宅・施設サービスの種類、地域支援事業、地域包括支援センターの機能や役割を説明できる。
2. 高齢者への総合的相談援助に必要な高齢者諸関係法を説明できる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	介護保険法の目的、保険者と被保険者、保険料を知る。
2	介護保険法の要介護認定の仕組みとプロセスを理解する。
3	介護保険サービスの種類と体系を理解する。
4	介護保険法の居宅・介護予防・地域密着型サービス、住宅改修を理解する。
5	介護保険法の施設サービスの種類、役割、機能を理解する。
6	地域包括支援センターの役割と実際を理解する。
7	介護保険法における地域支援事業、苦情処理、審査請求、介護保険制度の動向を理解する。
8	介護保険法における組織及び団体の役割を理解する。
9	介護保険法における専門職の役割と実際を理解する。
10	介護保険法におけるネットワーキングとその実際を理解する。
11	老人福祉法の歴史と概要、サービスと援助を理解する。
12	高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律を理解する。
13	高齢者の権利擁護と成年後見制度を理解する。
14	高齢者の居住の安定確保について理解する。
15	高齢者関連法とその関係、諸施策を理解する。

【履修上の注意事項】

該当する単元については、指定テキストを用いて事前に学習しておくこと。講義後もう一度通読して復習し、理解を深めること。
また、指示したレポートは期限を守り、提出すること。

【評価方法】

定期試験90%、課題レポート10%で評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『高齢者に対する支援と介護保険制度-高齢者福祉論-』(最新版)中央法規.
野﨑和義監修『社会福祉六法』(最新版)ミネルヴァ書房.

【参考文献】

授業中、適宜紹介

障害者福祉論Ⅰ

担当教員 金　蘭九

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1　障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む）について理解する。

2　障害者福祉制度の発達過程について理解する。　3　相談援助活動において必要となる障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要
2	障害者福祉制度の発達過程
3	障害者総合支援法
4	障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際
5	障害者総合支援法における専門職の役割と実際
6	障害者総合支援法における多職種連携、ネットワーキングと実際
7	相談支援事業所の役割と実際
8	身体障害者福祉法
9	知的障害者福祉法
10	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律
11	発達障害者支援法
12	障害者基本法
13	心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律
14	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律
15	障害者の雇用の促進等に関する法律

【履修上の注意事項】

授業前にテキストを読み、キーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

定期試験60％、レポート20％、発表20％で評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』第5版（中央法規、2018年）。

【参考文献】

厚生労働省編『（平成29年版）厚生労働白書』（ぎょうせい、2017年）。
内閣府編『（平成29年版）障害者白書』（日経印刷、2017年）。『社会福祉六法』（最新版）。

地域福祉論Ⅰ

担当教員 豊田　保

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
１．地域福祉の理念および内容について説明できる。
２．地域福祉の歴史的発展経緯および現状について説明できる。
３．在宅福祉サービスの内容や推進方法およびサービス提供システムについて解説できる。
４．在宅福祉サービスの実態や現状について解説できる。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	オリエンテーション
2	新しい社会福祉システム　これまでの社会福祉と地域福祉の発展について考察する
3	新しい社会福祉システム　社会福祉のメインストリームとしての地域福祉と主体形成について考える
4	地域福祉の基本的な考え方　地域福祉理論の発展過程について概観する
5	地域福祉の基本的な考え方　地域自立支援の考え方を理解する
6	地域福祉の基本的な考え方　地域社会のとらえ方と保健･医療・福祉圏域について考察する
7	地域福祉の主体と福祉教育　福祉教育と福祉教育の歩みについて理解する
8	地域福祉の主体と福祉教育　福祉教育の概念と内容について理解する
9	行政組織と民間組織の役割と実際　地方分権と地域福祉計画について理解する
10	行政組織と民間組織の役割と実際　社会福祉協議会の概要を把握する
11	行政組織と民間組織の役割と実際　社会福祉法人とボランティア活動の概要を理解する
12	行政組織と民間組織の役割と実際　民生委員・児童委員、保護司、コミュニティビジネスを把握する
13	コミュニティ・ソーシャルワークと専門職　コミュニティワークの考え方･方法について理解する
14	コミュニティ・ソーシャルワークと専門職　専門職チームアプローチと住民参加について考察する
15	まとめ

【履修上の注意事項】
地域福祉に関する日常的なニュースや報道の内容に関心を払い、また、実習やボランティアで見聞きしたことを土台にして、地域福祉の理論や方法がどのように実際の場面で活かされているかを考えながら受講し、事前学習および事後学習に努めること。

【評価方法】
レポートおよび期末試験を総合して判定する。

【テキスト】
新・社会福祉士養成講座　9 『地域福祉の理論と方法』社会福祉士養成講座編集委員会編集, 中央法規出版を使用する。

【参考文献】
1）必要に応じ、授業の進展に合わせて提示する。
2）授業ごとに必要な資料を配布する。

地域福祉論Ⅱ

担当教員 豊田　保

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1．住民主体の視点に立ち、地域社会での自立生活支援のあり方や内容について説明できる。
2．地域福祉計画の考え方や方法を理解し、地域福祉計画の必要性と内容について解説できる。
3．福祉教育の考え方や方法を理解し、地域共生社会のあり方と必要性を説明できる。
4．社会福祉協議会、ボランティア、ＮＰＯなどの具体的な地域福祉実践について、また、地域福祉に関わる制度や社会資源について説明できる。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	住民参加の方法と意義について理解する
2	ソーシャルサポート・ネットワークの考え方を理解する
3	地域社会における社会資源の活用・調整・開発について理解する
4	福祉のまちづくりとソーシャル・アクションについて理解する
5	地域社会における福祉ニーズの把握方法と実際について学ぶ（1）
6	地域社会における福祉ニーズの把握方法と実際について学ぶ（2）
7	地域トータルケアシステムの構築と実際（地域トータルケアシステムの考え方を理解する）
8	地域トータルケアシステムの構築と実際（地域トータルケアシステムの展開方法を学ぶ）
9	地域トータルケアシステムの事例と専門職の研修内容について学ぶ
10	地域社会における福祉サービスの評価方法と実際（背景と評価の考え方を理解する）
11	地域における福祉サービスの評価方法と実際（福祉サービスの評価方法を習得する）
12	地域福祉に関するイギリスでの考え方を理解する
13	地域福祉に関するアメリカでの考え方を理解する
14	地域福祉推進のための課題と展望について考察する
15	まとめ

【履修上の注意事項】
地域福祉論Ⅰの理解のうえに本講義を行うため、1学期の地域福祉論Ⅰを履修しておくこと。また、講義に際しては、教科書の該当箇所を事前に学習するとともに、講義の後には講義内容の再確認を行うこと。

【評価方法】
レポートの提出および期末試験を総合して判定する。

【テキスト】
新・社会福祉士養成講座　9 『地域福祉の理論と方法』社会福祉士養成講座編集委員会編集, 中央法規出版を用いる。

【参考文献】
1）参考書については、必要に応じて授業の中で提示する。
2）講義の都度、必要な資料を配布する。

ソーシャルワーク論Ⅰ

担当教員 茶屋道　拓哉

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1.社会福祉士、精神保健福祉士の役割と意義について説明できる。
2.ソーシャルワークの概念と範囲、理念について開設できる。
3.ソーシャルワークにおける権利擁護の意義と範囲について説明できる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	現代社会の特性から、地域生活における課題を理解できる。
2	社会福祉士、精神保健福祉士の役割と意義について、各身分法の定義と役割から理解する。
3	社会福祉士、精神保健福祉士の役割と意義について、法制度見直しの背景や義務から理解する。
4	社会福祉士、精神保健福祉士の専門性を理解する。
5	ソーシャルワークの概念を、国際ソーシャルワーカー連盟(IFSW)の定義から理解する。
6	ソーシャルワークの構成要素を、知識、技術、価値の側面から理解する。
7	ソーシャルワークの形成について、基礎確立期をもとに理解する。
8	ソーシャルワークの形成について、展開期をもとに理解する。
9	ソーシャルワークの形成について、統合化とジェネラリスト・ソーシャルワークから理解する。
10	ソーシャルワークの実践について、理念と価値や判断から理解する。
11	ソーシャルワークの理念として、人権尊重と社会正義、利用者本位、尊厳の保持から理解する。
12	ソーシャルワークにおける権利擁護の背景・定義・種類・システムを理解する。
13	ソーシャルワークにおける権利擁護の意義と実践を理解する。
14	自己決定と自立支援、エンパワーメントとストレングス視点を理解する。
15	ノーマライゼーションや地域生活支援、ソーシャル・インクルージョンを理解する。

【履修上の注意事項】
毎回講義資料を配布するので、授業後は教科書の内容とともに復習し、理解しておくこと。
また、授業終了時には次回の授業の展開を予告するので、事前配布の資料を予習しておくこと。

【評価方法】
授業時に指定した課題レポート（1課題10%以内の範囲）および定期試験（課題レポート評価を除いた配点）の合計で評価する。

【テキスト】
社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の基盤と専門職』中央法規（最新版）

【参考文献】
太田義弘『ソーシャルワーク実践と支援科学』相川書房, 2009.
室田保夫『人物でよむ社会福祉の思想と理論』ミネルヴァ書房, 2010.

ソーシャルワーク論Ⅱ

担当教員 茶屋道　拓哉

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1. 相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について説明できる。
2. 総合的かつ包括的な援助と理論および多職種連携の意義と内容について説明できる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	相談援助専門職の概念と範囲を理解する.
2	福祉行政における専門職と民間の施設・組織における専門職を理解する。
3	イギリス、アメリカ、スウェーデン等の諸外国のソーシャルワークの動向を理解する。
4	専門職としての倫理やその必要性を把握する。
5	各団体の倫理綱領やその他の倫理綱領を通して、その意義と内容を把握する。
6	ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマの内容と倫理的判断過程を理解する。
7	総合的かつ包括的な援助の動向と背景を理解する。
8	地域を基盤としたソーシャルワークの視座や地域福祉の基盤整備と開発について把握する。
9	多職種連携（チームアプローチ含む）の意義と内容を理解する。
10	ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義、特質、構成要素を把握する。
11	対象者とニーズの把握、エンパワーメントと社会資源の主体的活用を理解する。
12	ストレングス・パースペクティブやエコシステム、コミュニティを題材とした援助を理解する。
13	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携（チームアプローチ）を理解する。
14	予防機能や新しいニーズへの対応機能を把握する。
15	総合的支援機能や権利擁護機能を把握する。

【履修上の注意事項】
毎回講義資料を配布するので、授業後はテキストの内容とともに復習し、理解しておくこと。
また、授業終了時には次回の授業の展開を提示するので、事前配布の資料を予習しておくこと。

【評価方法】
授業時に指定した課題レポート（1課題=10%）および定期試験（課題レポート評価を除いた配点）の合計で評価する。

【テキスト】
社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の基盤と専門職』中央法規（最新版）

【参考文献】
ジョナサン・パーカーほか『進化するソーシャルワーク』筒井書房, 2008.
川村隆彦『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規, 2011.

福祉行財政と福祉計画

担当教員 豊田　保

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本講義では、近年の中央集権から地方分権への流れに伴う国と地方行政の関係の変化、行財政改革や規制改革と軌を一にした福祉サービスの多元化・民営化などの政策動向を踏まえ、①我が国の社会福祉行政の実施体制を解説できる、②福祉行財政の実際を理解できる、③福祉計画の意義や目的、主体、方法について理解できる、④地域福祉・次世代育成・障害者・介護高齢者計画が策定できる知識と技能を習得する。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	はじめに（「社会福祉行財政」とは社会福祉学のどの領域の課題なのかを把握する）
2	社会福祉の法制度の成立過程（社会福祉行政の歴史的展開）
3	福祉行財政の近年の動向　①社会福祉の基礎構造と社会福祉基礎構造改革
4	福祉行財政の近年の動向　②地方分権化の動向、福祉市場化や民営化の流れ
5	国の社会福祉行政の実施体制　（組織、実施機関）
6	地方自治体における福祉行政の実施組織と運営　①（福祉事務所）
7	地方自治体における福祉行政の実施組織と運営　②（児童相談所）
8	社会福祉の財政　①国家財政
9	社会福祉の財政　②地方財政
10	福祉計画の目的と意義
11	福祉計画の主体と方法（策定過程、策定方法、留意点を把握する）
12	福祉計画の実際　①地域福祉（国、地方自治体における計画の種類や具体的内容）
13	福祉計画の実際　②高齢者福祉、障害者福祉（国・地方自治体）
14	福祉計画の実際　③次世代育成（国・地方自治体　）
15	総合計画と福祉計画の理解

【履修上の注意事項】
本教科は、社会福祉士国家試験の指定科目である。
予習では、授業の内容を教科書や他の文献で事前に調べておくこと。
復習では、疑問点や理解不足と判断した事柄を参考書等で再度学習すること。

【評価方法】
期末試験によって評価する（100%）。

【テキスト】
社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座　10 福祉行財政と福祉計画』（最新版），中央法規出版

【参考文献】
必要に応じて、適宜、紹介する。

医学一般

担当教員 掃本　誠治

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
社会福祉士や介護福祉士が地域における医療チームの一員である以上、効果的にその役割を全うするためには人体の構造と機能、疾病や障害に関する医学的な基礎知識が必要不可欠である。本講義では、これらの医学的基礎知識を身につけることに加えて、成長と老化、リハビリテーションの概要、健康の概念や保健医療対策の現状についても理解し、健康科学としての医学的素養を養うことができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	
1	成長と老化①	身体と精神の成長と発達
2	成長と老化②	身体と精神の加齢と老化
3	人体の構造と機能①	体液、血液、循環器、泌尿器、呼吸器、消化器
4	人体の構造と機能②	神経、内分泌、生殖器、運動器、感覚器、皮膚、調節機構
5	疾病と障害の概要①	生活習慣病、悪性腫瘍、脳血管疾患
6	疾病と障害の概要②	心疾患、高血圧、糖尿病、呼吸器疾患、消化器疾患
7	疾病と障害の概要③	血液疾患、結合組織疾患、腎・泌尿器系疾患、運動器疾患
8	疾病と障害の概要④	感覚器疾患、感染症、神経疾患
9	疾病と障害の概要⑤	高齢者医療、終末期医療
10	疾病と障害の概要⑥	障害の概要、肢体不自由、内部障害
11	疾病と障害の概要⑦	認知症、精神障害
12	先天性疾患、遺伝子医療	
13	難病医療	
14	リハビリテーションの概要	
15	健康のとらえ方	健康の概念、健康づくり対策、感染症対策、その他

【履修上の注意事項】
教科書を予習してくること。復習も必ず行うこと。

【評価方法】
授業への積極性、筆記試験で総合的に評価する。60点以上を合格とする。

【テキスト】
新・社会福祉士養成講座　人体の構造と機能及び疾病－医学一般、社会福祉士養成講座編集委員会、編集、中央法規

【参考文献】
MINERVA社会福祉士養成テキストブック20　人体の構造と機能及び疾病、黒田研二・住居広士編著、ミネルヴァ書房

社会福祉発達史Ⅰ

担当教員 金　蘭九

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1　イギリス・アメリカ・日本における社会福祉政策の形成と展開の過程を、画期的なトピックスに照明を当てて、特有の社会的施策をできるだけ理論的に分析する。

2　上記の３か国のコンテクストの違いを比較・検討することによって、現代日本の福祉政策と運動の歴史的特質をより明確に理解する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容		
1	オリエンテーション　社会福祉の歴史的理解		
2	Ⅰ　イギリスの社会福祉	1	封建社会の崩壊と貧民問題
3		2	エリザベス救貧法と労役場テスト法
4		3	産業革命と救貧政策
5		4	新救貧法
6		5	社会改良・救貧法体制の解体
7		6	ベヴァリッジ報告・福祉国家体制
8		7	貧困の再発見
9		8	近年のイギリスにおける福祉改革
10	Ⅱ　アメリカの社会福祉	1	自助・貧窮・個人責任の論理（アメリカの救貧法）
11		2	ソーシャル・ワークの成立（リッチモンドの貢献）
12		3	ニューディールの救済政策（1935年 社会保障法）
13		4	貧困戦争の限界と福祉権運動（もう一つのアメリカ）
14		5	新しい社会福祉の動き
15	戦後社会福祉史の総括		

【履修上の注意事項】

授業前にテキストを読み、キーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

定期試験60％、レポート20％、発表20％で評価する。

【テキスト】

金子光一『社会福祉のあゆみ』（有斐閣、2018年）。

【参考文献】

授業の中で、適宜紹介する。

社会福祉発達史Ⅱ

担当教員　金　蘭九

配当年次　３年

単位区分　選択

開講時期　第２学期

授業形態　講義

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1　イギリス・アメリカ・日本・スウェーデンにおける社会福祉政策の形成と展開の過程を、画期的なトピックスに照明を当てて、特有の社会的施策をできるだけ理論的に分析する。

2　上記の４か国のコンテクストの違いを比較・検討することによって、現代日本の福祉政策と運動の歴史的特質をより明確に理解する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容		
1	Ⅰ　第２次世界大戦前の慈善・社会事業	1	隣保相扶を中心とした時代
2		2	世紀転換期の動き
3		3	国家介入による救済形態へ
4		4	社会事業の盛衰
5	Ⅱ　第２次世界大戦後の社会福祉	1	占領期の社会福祉
6		2	高度経済成長期の社会福祉・福祉六法体制
7		3	社会保障運動の発展・朝日訴訟
8		4	福祉元年と1980年代の動き
9	Ⅲ　新しい社会福祉の動き	1	社会福祉計画化の時代
10		2	社会福祉基礎構造改革以降の動き
11	Ⅳ　社会福祉思想の軌跡	1	社会福祉の思想および政策の流れⅠ（イギリスの社会福祉）
12		2	社会福祉の思想および政策の流れⅡ（アメリカの社会福祉のあゆみから）
13		3	社会福祉の思想および政策の流れⅢ（日本の社会福祉のあゆみから）
14		4	市民社会の構築へ向けて（スウェーデンの普遍的・包括的社会福祉政策）
15	アプローチとしての福祉社会		

【履修上の注意事項】

授業前にテキストを読み、キーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

定期試験60％、レポート20％、発表20％で評価する。

【テキスト】

金子光一『社会福祉のあゆみ』（有斐閣、2018年）。

【参考文献】

授業の中で、適宜紹介する。

基礎演習 I

担当教員 未定、橋本　眞奈美、福﨑　千鶴、隈　直子、田島　望

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考 当該科目は、各担当者ごとにクラスを分けて講義を実施する。

【授業のねらい】

大学初年次において、高校までとは違った大学生活、学習環境等への適応性を高める。また、「授業リテラシー」の獲得、コミュニケーション・スキルの習得等を目指すとともに、将来の専門職等への進路（キャリアプラン）について考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション：大学授業履修にかかわるガイダンス
2	環境適応　1　対人関係づくり
3	環境適応　2　対人関係づくり
4	環境適応　3　対人関係づくり
5	学生生活の設計　1
6	学生生活の設計　2
7	学問領域の探索準備
8	学問領域の探索（学科教員研究室訪問等）
9	学問領域の探索（学科教員研究室訪問等）
10	文献の講読　1
11	文献の講読　2
12	文献の講読　3
13	学生生活の設計　3
14	学生生活の設計　4
15	全体指導：　これまでの振り返りとキャリア形成について

【履修上の注意事項】

出席するだけでなく、授業の内容をもとに、予習・復習を行う。また、授業には積極的な態度で参加する。

【評価方法】

課題レポート50%、発表50%によって総合評価を行う。

【テキスト】

適宜、プリント資料等を配布する。

【参考文献】

担当教員から、授業中に、適宜紹介する。

基礎演習Ⅱ

担当教員 未定、橋本　眞奈美、福﨑　千鶴、隈　直子、田島　望

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考 当該科目は、各担当者ごとにクラスを分けて講義を実施する。

【授業のねらい】
「基礎演習Ⅰ」での学びを継続的に深化させながら、「基礎演習Ⅱ」では新たに次の２つの柱が目標として設定されている。
１．社会問題をピックアップした演習形式の授業を通じて、社会や福祉のあり方を考える。
２．フィールドワークを通して、身近な社会問題を把握できる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション：単位取得状況の確認および履修のガイダンス
2	フィールドワーク事前準備①全体指導
3	フィールドワーク事前準備②クラス別指導
4	フィールドワーク事前準備③クラス別指導
5	フィールドワーク実施①クラス別指導
6	フィールドワーク実施②クラス別指導
7	フィールドワーク事後指導　振り返り、整理とまとめ
8	フィールドワーク事後指導　プレゼンテーション準備　①
9	フィールドワーク事後指導　プレゼンテーション準備　②
10	フィールドワーク事後指導　プレゼンテーション実施　①
11	フィールドワーク事後指導　プレゼンテーション実施　②
12	社会問題①(担当者ローテーション式演習)
13	社会問題②(担当者ローテーション式演習)
14	社会問題③(担当者ローテーション式演習)
15	全体指導： 学生生活の設計と学習の方向性、キャリア支援、 専門教育へ

【履修上の注意事項】
出席するだけでなく、授業の内容をもとに、予習・復習を行う。また、授業には積極的な態度で参加する。

【評価方法】
課題レポート30%、フィールドワーク30%、発表40%による総合評価を行う。

【テキスト】
適宜、プリント資料等を配布する。

【参考文献】
担当教員から、授業中に、適宜紹介する。

社会福祉特講Ⅰ

担当教員 竹中　健、山本　孝司、吉岡　久美、橋本　眞奈美、平川　泰士、水間　宗幸

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
現代日本の社会福祉が誰にたいしてどのように関わってゆくことができるのかを考える力を養う。
社会福祉の理念である「人間の尊厳」「基本的人権」「生活の質」「幸福の追求」：これらの概念を理解することを目指し、それぞれの「当事者」を外部講師とする「語り」を「傾聴」する。「支援のありかた」を考える機会を提供する。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	担当全教員（本学教員）社会福祉特講という授業の位置づけ
2	竹中　健　（本学教員）なぜ聞き取りをおこなうのか？――「社会調査」と「傾聴」
3	橋本眞奈美　（本学教員＋外部講師）ハンセン病問題とは何か――療養所の内から
4	橋本眞奈美（本学教員）ハンセン病問題と偏見と差別
5	竹中　健　（本学教員＋外部講師）AAと私
6	竹中　健　（本学教員）自助組織を考える
7	平川　泰士（本学教員＋外部講師）障がいとともに
8	平川　泰士（本学教員）障がい者が生きるということ
9	水間　宗幸（本学教員＋外部講師）発達障がいとともに
10	水間　宗幸（本学教員）発達障害を考える
11	山本　孝司（本学教員）学生・市民とともに「多様な性のあり方」を考える
12	山本　孝司（本学教員＋外部講師）セクシュアル・マイノリティを生きる
13	吉岡　久美（本学教員＋外部講師）終末期の介護経験を語る
14	吉岡　久美（本学教員）終末期の介護を考える
15	担当全教員（本学教員）まとめ・課題の提出

【履修上の注意事項】
この科目は必修ではないが、社会福祉学科１年に在学する学生は，必ず履修しなければならない（社会福祉学科１年 履修指定科目）。また、2年以上の学生の受講も歓迎する。授業は外部講師の事情で順番が入れ替わることや講師が変更になることもある。また、どの授業にも社会福祉学科の複数の教員が出席し担当する。

【評価方法】
毎回の授業感想と要約　（50%）、レポート提出（50%）。

【テキスト】
テキストはとくに指定しない。随時、関連教材を配布する。

【参考文献】
随時、授業時に紹介する。

社会福祉特別演習 I

担当教員 金　蘭九

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
日ごろのレポートはもとより、社会福祉学科における学生生活の総決算である卒業研究論文を納得のいく内容で書くことができるように、指導（事前準備）を行なう。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	文章を書くとは
2	文章は自分の意見や考え、提言を伝える手段
3	文章が上手になる方法
4	レポートとは
5	卒業研究論文とは
6	原稿用紙はこう使う
7	執筆にあたって
8	執筆のルール
9	記号などの用い方
10	文献および統計・図表の引用法
11	文章の推敲
12	パソコンの活用法
13	福祉の一般用語
14	福祉の専門用語
15	卒業研究論文の書き方の総括

【履修上の注意事項】
授業前にキーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】
発表30%、レポート70%で評価する。

【テキスト】
本年度はとくに使用せず、授業の際にプリントや資料を配付する。

【参考文献】
各回の授業の際に紹介する。

社会福祉特別演習Ⅰ

担当教員 竹中　健

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
文献検索の手法、文献購読（専門書の精読）のしかた、プレゼンテーションのしかた、議論のしかた、コメントのしかたを学ぶ。

【授業の展開計画】
おもに医療と福祉にまたがる分野のなかからテーマをしぼり、専門書や論文を読んでいく。毎回事前に割り当てられたレポーターがレジュメを切り発表する。レポーターがまとめるのは要約と疑問点、鍵となる専門用語の解説などで、A4で2～4枚程度にまとめる。あわせてレポーターは議論したいポイントを2つ以上用意する。
取り扱う領域やテーマは、履修されたゼミメンバーの関心の広がりに応じて設定し、ゼミの進め方も変わります。共通の関心が定まっているばあいには、すぐに文献購読を開始します。そうでないばあいには、最初の数回は、毎回順番で各自が最も関心のあるテーマについて発表します。発表にたいしては、みんなでコメントを出し合い、議論します。
前期は、毎回指定された文献を読んできて、そこに書かれた内容を読み取り、議論します。順番に毎回発表者を定めます。発表者は必ずレジュメをきり、論点や疑問点を提示します。文献として扱う内容は、おもにライフヒストリー研究やナラティブアプローチの手法、その他様ざまな質的調査研究の方法を学びます。後期には、論文の書き方を学びます。各自が興味を持っている対象について、自分でデータを取り（予備調査の実施）、その結果を順番に発表します。発表にたいしては、みんなでコメントを出し合い、議論します。発表後には1週間以内にコメントを反映させた完成レポートの提出を求めます。
卒業論文提出時の文字数についても、本ゼミでは24000字以上というゼミ独自の基準を設ける。とくに４年次には非常にタイトなスケジュールとスケジュールに沿った章ごとの卒論提出を逐次履修者に要求する。最終的に提出された論文は、文字数や体裁を満たしていても論文として意味をなさないものについては、不合格とし、厳格に対応する。ゼミの議論においても、友人の発表にたいしては常に積極的な発言を求める。一生にたった一度きりの貴重な大学生生活であり、自己の持つ最大限の力を発揮し、一緒に少しでも意味のある論文を作成することを求める。自分が納得できるような研究を志す学生のみ、本ゼミでは受け入れを行う。

【履修上の注意事項】
評価基準の中で、必ず毎回ゼミに出席することは、最低要件となる。正当な理由のない欠席は認められない。また3分の１を超える欠席があったばあいには、いかなる理由があっても単位は認めない。本ゼミは学生の皆さんに高い水準の課題を課し、その達成を単位取得の条件とする。ゼミ希望者は、自分が研究したいテーマについて、あらかじめ5000文字（Ａ４で4～5枚）程度にまとめたものを持参すること。

【評価方法】
レポートのしかたや発言等、ゼミへの積極的なかかわりかたを総合的に判断する。

【テキスト】
事前に資料をコピーして配布するので、必ず毎回すべてを読み込んだうえで出席すること。

【参考文献】
授業の中で適宜、紹介する。

社会福祉特別演習Ⅰ

担当教員 福﨑　千鶴

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
社会生活における様々な社会問題に関心をもち、福祉的な立場から問題意識をもち、深めることができる。
論文の書き方を理解し、文献の検索方法、読み方を理解することができる。
社会福祉研究の方法などを理解することができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション、研究とはどのようなものか説明する
2	研究方法の理解①研究についての概要を説明する
3	研究方法の理解②文献検索について説明し、文献検索サイトを活用し文献検索を行う
4	研究方法の理解③文献整理について説明する
5	研究方法の理解④文献研究について説明する
6	研究方法の理解⑤研究レビューについて説明し、レビュー文献を音読する
7	研究方法の理解⑥量的調査の概要について説明する
8	研究方法の理解⑦量的調査の倫理的配慮や調査票作成について説明する
9	研究方法の理解⑧量的調査のデータ分析について説明し、量的調査研究の文献を音読する
10	研究方法の理解⑨質的調査の観察法について説明し、観察法に基づく文献を音読する
11	研究方法の理解⑩質的調査の面接法について説明し、面接法に基づく文献を音読する
12	研究方法の理解⑪質的調査の分析法について説明する（ＢＳ法、ＫＪ法、Ｍ－ＧＴＡ）
13	研究方法の理解⑫質的調査の分析法を行う（ＢＳ法、ＫＪ法）
14	研究テーマについて説明し研究テーマの選定を行う
15	研究テーマおよび目的について説明する

【履修上の注意事項】
報告・連絡・相談・確認を行い、自らの発言や行動に責任をもち、積極的にゼミ活動に取り組むこと。
事前に与えられた参考文献を一読し、問題意識をもち積極的に課題や演習に取り取り組むこと。
演習後は自らのテーマに沿って振り返りを行うこと。
フィールドワークなどを取り入れながら、観察法などについて学ぶ機会を設けるため、積極的に参加すること。

【評価方法】
課題レポート50%、積極的なゼミへの取り組み状況（発表など）50%で評価する。

【テキスト】
岩田 正美、中谷 陽明、小林 良二、稲葉 昭英（編集）『社会福祉研究法―現実世界に迫る14レッスン』有斐閣アルマ．2006

【参考文献】
講義中に適宜紹介する。

社会福祉特別演習Ⅰ

担当教員 橋本　眞奈美

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
4年次に卒業論文を書き進めていく上で必要になる論文検索や情報取集のやり方を身につける。また社会福祉領域の中から各人が関心を持つ領域を決定していくことを念頭に文献を要約することができる。

【授業の展開計画】
第１回　　オリエンテーション
第２回　　各人の関心領域について自由討論
第３回　　４年生を招いて卒業論文への取り組みを聞く
第４回　　図書館に出向いて文献検索等の説明を受ける
第５回　　自分が関心あるテーマで論文を持ち寄り、選んだ理由を発表する
第６回　　自身が選んだ論文を要約する
第７回　　自身がまとめた論文の要約を基にゼミ内で発表する
第８回　　ゼミのメンバーによる論文要約を聞き、討論する
第９回　　ゼミのメンバーによる論文要約を聞き、討論する
第10回　　自身の問題意識をゼミ内で討論することで問題意識の明確化を図る
第11回　　自身が選んだ論文もしくは専門書を持ち寄り、選んだ理由を発表する
第12回　　自身がまとめた論文の要約を基にゼミ内で発表する
第13回　　ゼミのメンバーによる論文要約を聞き、討論する
第14回　　ゼミのメンバーによる論文要約を聞き、討論する
第15回　　自身の問題意識に基づき情報収集並びに論文検索

【履修上の注意事項】
自分の研究テーマを決めていく上で必要になる、自身の関心事について積極的に情報取集を行うこと。ゼミの前には自身の問題意識の領域に関係する論文を読むこと。ゼミ終了時には、ゼミ内での討論を踏まえ自身の問題意識を掘り下げることで新たな論文を見つけること

【評価方法】
課題への取り組み方や相互批判的姿勢の保持 50%、レポート,論文要約の内容等　50%

【テキスト】
必要に応じて指示する

【参考文献】
必要に応じて指示する

社会福祉特別演習 I

担当教員 田島　望

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
論文の書き方をはじめとした基礎的な知識を獲得し，必要な文献等の収集や理解を行うことができるようになる．また，本演習を通して自身の関心を幅を広げ,課題の設定を行うことができる.

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	シラバスの説明　論文についての理解.
2	論文の構成や書き方について.
3	文献検索の方法の理解.
4	論文を用いて論文の読み方についての理解.
5	論文（研究）テーマの設定についての理解.
6	関心のあるテーマの論文を要約し目的や研究方法などについて理解する（報告を含む）
7	関心のあるテーマの論文を要約し目的や研究方法などについて理解する（報告を含む）
8	関心のあるテーマの論文を要約し目的や研究方法などについて理解する（報告を含む）
9	関心のあるテーマの論文を要約し目的や研究方法などについて理解する（報告を含む）
10	キーワードを抽出しいくつかの論文を基に自身のテーマ設定向けた報告
11	キーワードを抽出しいくつかの論文を基に自身のテーマ設定向けた報告
12	キーワードを抽出しいくつかの論文を基に自身のテーマ設定向けた報告
13	キーワードを抽出しいくつかの論文を基に自身のテーマ設定向けた報告
14	先行研究についての理解と考察
15	テーマ設定に向けた今後の課題について

【履修上の注意事項】
事前に自身の関心事項について，学習を進めておくこと．授業では自らの関心を基に進めるため，主体的に参加し，他者の考えや意見を積極的に聴くこと．また，授業で得た他者の意見や考えをもとに，事後学習において自身の関心事項についての理解を深めること.

【評価方法】
ゼミへの参加態度（50%）と課題報告・提出（50%）により判断する.

【テキスト】
必要に応じて適宜紹介・配布する

【参考文献】
必要に応じて適宜紹介・配布する.

社会福祉特別演習Ⅰ

担当教員 李　玄玉

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

１．自閉症・ADHD（注意欠陥多動性）・アスペルガ障害・学習障害（LD)・高機能自閉症など
発達障害児への理解、治療教育、支援に関わる領域や障害児の親、兄弟、家族の問題と支援に関する領域
また、不登校に関する領域について概説したのち、自分の関心領域について情報を収集する。

２．関連文献を収集・整理し、各テーマに内包されている障害児への教育・治療への社会的課題を先行研究から
把握し、障害児への支援について理解を深める。

【授業の展開計画】

1回；　導入。　演習計画の確認

２回～３回；　発達障害、発達障害児に関する研究領域や研究動向について概説する。

７回～１４回；　各自、関心のある障害の領域や学習分野を決定し、それぞれ自分の分野について先行研究
文献を収集、自分なりのテーマに沿ってレジメを作成する。
それを順次、発表とディスカッションする。

１５回　；　まとめと総合ディスカッション

【履修上の注意事項】

○　特になし。

【評価方法】

発表４０％、レジュメやレポート２０％、発言２０％、研究計画２０％の割合で総合的に評価する。

【テキスト】

特に、指定しない。

【参考文献】

各自のテーマに関連するもの個々に紹介する。

社会福祉特別演習 I

担当教員 永田　俊明

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本演習では、卒業研究論文作成に向けた基礎知識並びに技術の習得にある。
したがって、2年間で大学4年間の知識や技術の集大成としての論文を如何に考え、作成していくのかを集団ないしは個別に指導していく。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーションとスケジュール作成について
2	論文構成（1）スケジュールの立て方、一般的論文構成
3	論文構成（2）全体構成と文体
4	論文構成（3）用語について、図表の書き方
5	表題と「はじめに」について
6	目次・要約・研究史
7	研究史から目的までと引用の注意点
8	目的の構成、テーマの意義、仮説などの設定
9	方法（1）全般的な注意点と概略
10	方法（2）有効データ、自由記述のまとめ方
11	方法（3）単純集計、尺度分析、変数間関連
12	方法（4）検定結果の記述、多変量解析
13	考察（1）全体的注意点、理論的位置づけ
14	考察（2）結果の概略、結論
15	最後の仕上げ　引用・参考文献、資料・付表

【履修上の注意事項】
事前準備学習として科学的研究方法について、知識を深めておくこと。

【評価方法】
レポート　85%　演習発表　15%　100点満点評価

【テキスト】
未使用

【参考文献】
随時紹介

社会福祉特別演習 I

担当教員 豊田　保

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
研究課題の選定方法、先行研究の検索方法、研究方法論、研究内容の発表方法について理解し、実際に展開できる。

【授業の展開計画】
研究テーマの選定、研究の方法、研究成果の発表方法について理解し、実践できるようになること。

週	授業の内容
1	研究課題とは何かを社会の在り方との関係で考える（90分×3回）
2	自らの研究課題について発表する（90分×4回）
3	研究の方法について学習する（90分×3回）
4	研究内容の発表方法について学習する（90分×3回）
5	論文の書き方について理解する（90分×2回）
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】
ゼミ運営に積極的に関与し、必要な役割を担うこと。
自分の研究テーマを見出し、自ら研究を進める姿勢を持つこと。
先行研究を積極的に学習すること。

【評価方法】
ゼミ運営への貢献度、発言内容、研究状況によって評価する。

【テキスト】
授業開始時と必要に応じて提示する。

【参考文献】
授業開始時と必要に応じて提示する。

社会福祉特別演習Ⅰ

担当教員 山本　孝司

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
卒業研究論文執筆のための基礎を身につける。興味・関心に従った調査、先行研究についての理解、問題意識の明確化、論文作成の作法についての理解を通して論文執筆の力量をもつことができる。

【授業の展開計画】
第１回　オリエンテーション
第２～５回　各人の興味・関心のあるテーマに関する発表
第６～１０回　各人の興味・関心のあるテーマに関する調査
第１１～１３回　論文作法について学ぶ
第１４回～１５回　各人、今後の作業の見通しを立てる

【履修上の注意事項】
問題意識をもつこと。社会に向けてアンテナを拡げること。
事前に資料を読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】
各人が設定する課題のほか、教員側からリポートを課す。

【テキスト】
特に指定しない。

【参考文献】

社会福祉特別演習 I

担当教員 茶屋道　拓哉

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
こころの健康問題により生活のしづらさを抱える人々に対する援助方法や支援者の抱える困難さなどを探求する。
本演習を通じて、卒業論文の作成に関する基礎的な知識・方法論を身につけるとともに、「メンタルヘルスソーシャルワークとは何か？」について自分の言葉で説明できるようにする。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション（全体の鳥瞰の説明など）
2	社会福祉研究とは何か？(社会福祉のターゲットの確認と研究するということ)
3	社会福祉研究の分野と範囲①（社会福祉研究の具体的範囲）
4	社会福祉研究の分野と範囲②（社会福祉研究における理論研究と実証研究）
5	社会福祉研究の特徴①（現実世界をターゲットとした社会福祉研究）
6	社会福祉研究の特徴②（価値や倫理をターゲットとした社会福祉研究）
7	社会福祉研究の特徴③（実践分析・評価をターゲットとした社会福祉研究）
8	社会福祉研究の特徴④（社会的マイノリティ・アウトサイダーをターゲットとした社会福祉研究）
9	社会福祉研究の特徴⑤（時間的経過・パラダイム転換をターゲットとした社会福祉研究）
10	ソーシャルワーカーのキャリア①（新人～中堅者までの成長とディレンマ）
11	ソーシャルワーカーのキャリア②（中堅者以降のキャリアとディレンマ）
12	研究レビューの必要性（目的と意義）・研究文献の探し方
13	研究文献の読み方①（先行研究の評価・先行研究に対する批判的考察）
14	研究文献の読み方②（先行研究の整理・レジュメづくり）
15	研究の倫理

【履修上の注意事項】
自分の発言に責任を持って行動すること。報告・連絡・相談を行い、主体的にゼミ活動に取り組むこと。配布された参考文献などの資料について事前に一読し、問題意識を持って授業に臨むこと。また、他のゼミ生の研究内容にも関心を持ち、授業後に自身の研究テーマや現在の進捗と重ね合わせながら振り返りを行うこと。

【評価方法】
途中経過報告・担当発表・ゼミ活動内の相互批判的考察：70%，レポート：30%

【テキスト】
別途指示する。

【参考文献】
高木邦明ほか編『障害者福祉の研究課題と方法』2007，学文社
岩田正美ほか編『社会福祉研究法―現実世界に迫る14レッスン―』2006，有斐閣

社会福祉特別演習Ⅰ

担当教員 水間　宗幸

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
卒業研究論文執筆を前提にした、論文の読み方、文献収集の方法、テーマの設定を理解することができる。

【授業の展開計画】
主な指導内容

自分の興味関心の確認
文献の探し方
文献、論文の読み方
文献、論文のまとめ方

これらをディスカッションを交えて習得できるよう指導する。

【履修上の注意事項】
各自、自覚を持って取り組むこと

【評価方法】
態度80％、課題20％で評価を行う。

【テキスト】
特になし

【参考文献】
適宜紹介する

社会福祉特別演習 I

担当教員 山住　賢司

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
卒業研究に先立つ演習であり、4年次での卒業研究論文作成に必要な情報収集や基礎的技術を習得することを目的とする。

【授業の展開計画】
卒業論文の進め方を理解するため「よくわかる卒論の書き方」をテキストとし、各章の輪読並びに解説を行う。また、心理学における領域の広さや研究方法について理解するために、「心理学を変えた40の研究 ”FORTY STUDIES THAT CHANGED PSYCHOLOGY 4th Edition” (R. Hock, 2002) 」から、担当章を決めて各人でレジュメを作成・発表を行なう。

週	授業の内容
1	プレゼミに関するガイダンス
2	卒業研究に向けてのスケジュール作成
3	卒論とは何か
4	ゼミでの学び方
5	論文の書き方
6	卒論テーマについて
7	文献購読発表(1)「心理学を変えた40の研究」よりテーマを選択
8	文献購読発表(2)「心理学を変えた40の研究」よりテーマを選択
9	文献購読発表(3)「心理学を変えた40の研究」よりテーマを選択
10	パソコンを用いた図表の作成法
11	文献の集め方
12	先行研究の読み方
13	研究テーマの深め方
14	研究の倫理について
15	研究計画書の書き方

【履修上の注意事項】
ゼミでは各人の積極的な参加姿勢が求められる。
事前学習としてテキスト・配布資料等の確認を行い（120分）、各回の内容についてはゼミ終了後必ず確認を行うこと（120分）。

【評価方法】
ゼミでの発表内容等を考慮し総合的に評価する。

【テキスト】
「よくわかる卒論の書き方[第2版]」　白井利明・高橋一郎（著）　ミネルヴァ書房　2013

【参考文献】
「改訂新版　心理学論文の書き方」　松井豊（著）　河出書房新社　2010

社会福祉特別演習 I

担当教員 吉岡　久美

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
論文の書き方を理解し、文献の検索方法と文章の読み方について学び、研究論文の方法を理解する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	論文とはどのようなものか、参考資料をもとに知る。
2	文章を読み、その構成を学ぶ。
3	興味のある分野の図書をもとに説明し、自分の考えをまとめる能力を得る。
4	提示した資料を要約する方法を理解し、実践する。
5	自らの要約を振り返って説明し、グループでディスカッションする。
6	文献検索の方法を再確認し、文献（図書）を探してみる。
7	１つの文献（図書）の一部を全員で読み、その意味を考える。
8	学術論文を検索する。
9	学術論文を読み、論文の構成等を理解する。
10	自ら検索して得られた学術論文を要約する。
11	興味ある分野の図書や学術論文を探索する。
12	興味のあるキーワードの抽出とその構成を考える。
13	興味ある事柄に仮説を立て、立証する方法を考える。
14	仮説に対する賛成論、反対論を自分で述べてみることで、自らの考えを知る。
15	研究デザインについて学び、仮説を立証するための研究デザインを考える。

【履修上の注意事項】
演習前には、次回の予定を確認して文献のまとめや分担された範囲の要約をしておくこと。
演習後は、指導内容を振り返り、まとめなおしをすること。

【評価方法】
積極性、協調性、独自性を重視する。課題の提出50%、取組み50%で評価する。

【テキスト】
指定なし

【参考文献】
澤田昭夫：論文の書き方．講談社学術文庫

社会福祉特別演習 I

担当教員 馬場　敏彰

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
生活を営む上で「福祉」は欠かせない。現在の社会福祉・介護福祉の状況に興味を持ち、幅広い視点で考えることができる力を身につけることができる。
先行研究と向き合い、他者と語らい、自分に問うことができる、専門職者を目指し、探究できる人財になることができる。
そのために、この科目ではまず卒業論文の作成に関する基礎知識・方法論の習得をはかる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション
2	研究とは何かを考える
3	研究の基本的な考え方①
4	研究の基本的な考え方②
5	社会福祉研究の分野と範囲①
6	社会福祉研究の分野と範囲②
7	研究計画の立て方①（基本的な考え方）
8	研究計画の立て方②（事例を参考にみる）
9	研究計画の立案①
10	研究計画の立案②
11	研究文献の読み方①（先行研究の調べ方）
12	研究文献の読み方②（先行研究の評価）
13	研究文献の読み方③（先行研究の整理とレジュメつくり）
14	先行研究の調査①
15	先行研究の調査②

【履修上の注意事項】
主体的にゼミ活動に取り組むこと。報告・連絡・相談を行うこと。問題意識を持って授業に臨むこと。
他者（他のゼミ生など）の意見や考えに関心を持ち、自分の研究テーマや進捗状況と重ね合わせながら振り返りを行うこと。

【評価方法】
途中経過報告・課題担当発表・ゼミの活動状況等：７０％　　レポート提出：３０％

【テキスト】
別途指示

【参考文献】
別途指示

社会福祉特別演習 I

担当教員 嶋　政弘

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

社会福祉特別演習Ⅰ

担当教員 隈　直子

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

特別演習Ⅰでは、卒業研究論文作成を念頭に、研究テーマを見出し、基礎的な知識を身につけることを目的とする。

自分で文献・論文の検索ができ、レポート作成やグループ発表の能力を高める。

【授業の展開計画】

1 オリエンテーション
2 図書館の活用、文献検索
3 各人の関心領域、問題意識についてディスカッション
4 論文の構成について学ぶ
5 提示した図書をもとに報告資料の作成方法を学ぶ
6 一つの図書を全員で読み、内容を要約する。
7 一つの図書について、担当者が報告する
8 一つの図書について、担当者が報告する
9 各人の関心に応じた論文を検索する。
10 各人の選んだ学術論文を要約する。
11 各自で選んだ論文について報告し、グループディスカッション
12 各自で選んだ論文について報告し、グループディスカッション
13 各自で選んだ論文について報告し、グループディスカッション
14 関心ある事柄について資料収集を行う。
15 資料を要約して報告し、夏季休暇中の課題を整理する。

【履修上の注意事項】

積極的に議論に参加することが望ましい。予習復習を行い、課題に対し主体的に取り組むこと。

【評価方法】

報告内容・レポート内容50%、ゼミへの参加態度・意欲50%で評価する。

【テキスト】

別途指示する。

【参考文献】

適宜紹介する。

社会福祉特別演習Ⅰ

担当教員 平川　泰士

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
「障害」のある人々が、自身の望む普通の生活を実現するために、障害福祉の基本理念をもとに、考察し、制度・施
策、ソーシャルワークのあり方を検討することがてきるようになる。これらを検討するための基盤となる文献探索、整
理、検討方法などの知識・手法を身につけることができる。

【授業の展開計画】
1.オリエンテーション（演習の運営方針、年間予定等について）
2.研究の目的､意義の理解
3.社会福祉研究の分野と範囲（研究領域の理解）
4.社会福祉研究の分野と範囲（障害福祉に関連する理念）
5.社会福祉研究の分野と範囲（障害福祉の対象に関する理解）
6.社会福祉研究の分野と範囲（実践理論の理解）
7.先行研究の目的と意義
8.資料探索法（資料の検索方法、資源について）
9.資料探索法（図書館の活用方法について）
10.資料探索法（公的機関、Webからの収集について）
11.文献検討（障害児者福祉に関する文献収集）
12.文献検討（文献に対するレジュメ作成）
13.文献検討（障害児者福祉に関する文献輪読）
14.文献検討（収集文献の報告）
15.文献検討（プレゼンテーション）

【履修上の注意事項】
指定された課題について、あらかじめ調べ準備を整え､不明な箇所については自身で調べ直す予習復習を求める。

【評価方法】
講義への参加状況（30%）、報告内容（30%）、課題の事前・事後学習（40%）をもとに評価を行う。

【テキスト】
別途指定

【参考文献】
別途指定

社会福祉特別演習Ⅱ

担当教員 豊田　保

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
自らの研究課題について、進捗状況に応じて発表できるようになり、他のゼミ生との間でディスカッションができるようになる。

【授業の展開計画】
論文の作成、抄録の作成、研究内容の発表、発表に対する質問への応答ができるようになる。

週	授業の内容
1	論文の作成方法（90分×3回）
2	抄録の作成とキイワードの抽出方法（90分×2回）
3	研究内容の発表方法（90分×2回）
4	研究内容の発表と質疑応答（90分×8回）
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】
研究の進め方についての実践的な技能を習得するように努力する。

【評価方法】
ゼミ運営への貢献度、発言内容、発表内容によって総合的に評価する。

【テキスト】
ゼミの開始時と必要に応じて提示する。

【参考文献】
ゼミの進捗状況に応じてアドバイスする。

社会福祉特別演習Ⅱ

担当教員 馬場　敏彰

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
生活を営む上で「福祉」は欠かせない。現在の社会福祉・介護福祉の状況に興味を持ち、幅広い視点で考えることができる力を身につけることができる。
先行研究と向き合い、他者と語らい、自分に問うことができる、専門職者を目指し、探究できる人財になることができる。そのために、この科目ではまず卒業論文の作成に関する基礎知識・方法論の習得をはかる.

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	先行研究の状況報告
2	研究デザイン①（研究課題の絞り込み）
3	研究デザイン②（関連付け・整理）
4	仮説を考える
5	仮説を考え,検討する
6	研究資料（データ）の収集について①
7	研究資料（データ）の収集について②
8	研究資料（データ）の収集について③
9	研究資料（データ）の収集について④
10	研究資料（データ）の収集について⑤
11	研究資料（データ）の収集について⑥
12	経過報告書作成①（計画の進捗状況）
13	経過報告書作成②（先行研究・研究方法）
14	経過報告会（今後の計画立案）
15	まとめと振り返り

【履修上の注意事項】
主体的にゼミ活動に取り組むこと。報告・連絡・相談を行うこと。問題意識を持って授業に臨むこと。
他者（他のゼミ生など）の意見や考えに関心を持ち、自分の研究テーマや進捗状況と重ね合わせながら振り返りを行うこと。

【評価方法】
途中経過報告・課題担当発表・ゼミの活動状況等：７０％　　レポート提出：３０％

【テキスト】
別途指示

【参考文献】
別途指示

社会福祉特別演習Ⅱ

担当教員　嶋　政弘

配当年次　３年

単位区分　必修

開講時期　第２学期

授業形態　演習

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

社会福祉特別演習Ⅱ

担当教員 竹中　健

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
参考文献リストのつくりかた、要約や引用のしかた、その他論文の書きかたを学ぶ。

【授業の展開計画】
各自が興味のあるテーマについて、文献リストを作成し、順番に読みすすめる。そのうえで、複数冊の本または複数の論文をもとに、特定のテーマについてまとめ、発表をする。

【履修上の注意事項】
第二週までに、テーマと5つ以上の文献リストを作成し提出すること。

【評価方法】
発表用レジュメ（20%）＋プレゼンテーション（20%）＋他の発表者へのコメント（20%）＋プレ論文（40%）

【テキスト】
適宜紹介をする。

【参考文献】
適宜紹介をする。

社会福祉特別演習Ⅱ

担当教員 金　蘭九

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
日ごろのレポートはもとより、社会福祉学科における学生生活の総決算である卒業研究論文を納得のいく内容で書くことができるように、指導（事前準備）を行なう。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	福祉の一般用語
2	福祉の専門用語
3	福祉の枠組み　1　高齢者の福祉
4	福祉の枠組み　2　障害者の福祉
5	福祉の枠組み　3　児童などの福祉
6	福祉の枠組み　4　民間の福祉
7	福祉の学び方　1　サービスの利用者別に学ぶ
8	福祉の学び方　2　サービスの供給主体別に学ぶ
9	福祉の学び方　3　サービスの方法別に学ぶ
10	卒業研究論文全体ガイダンス
11	卒業研究論文個別ガイダンス
12	卒業研究論文執筆のためのスケジュール
13	テーマの選び方
14	指導教員の助言
15	卒業研究論文執筆のための総括・課題と習作

【履修上の注意事項】
授業前にキーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】
発表30%、レポート70%で評価する。

【テキスト】
本年度はとくに使用せず、授業の際にプリントや資料を配付する。

【参考文献】
各回の授業の際に紹介する。

社会福祉特別演習Ⅱ

担当教員 李　玄玉

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

１．達障害児に関連する様々な問題の中から、各自、関心あるテーマの先行研究論文を収集し、先行論文を読むことによって、一連の研究の流れを体験する。
２．自分の研究（卒論）に向けて、研究の意義・研究方法・分析・考察などについて理解を深める。
３．一つのテーマを取り上げ、自分なりの論文作成ができるような力を身に付く。

【授業の展開計画】

１回；　導入、演習計画

２回～　５回；　研究方法及び論文作成について基礎学習

６回～　８回；　資料収集と文献による再学習を通じて、各自、研究課題の方向性を探る。

９回～　１１回；　研究テーマ及び研究目的に応じた研究方法を検討する。

１２回－１４回；　卒業論文の完成に向けて

１５回；　まとめ

【履修上の注意事項】

自分の研究テーマに関連する先行文献を調べておくこと。

【評価方法】

発表４０％、レジュメやレポート２０％、発言状況２０％、研究計画２０％の割合で総合的に評価する。

【テキスト】

指定しない。

【参考文献】

各自、テーマに沿って個々に紹介する。

社会福祉特別演習Ⅱ

担当教員　吉岡　久美

配当年次　３年

単位区分　必修

開講時期　第２学期

授業形態　演習

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】
論文の作成方法を理解し、興味ある事柄からテーマの確定ができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	キーワードをもとに文献検索を行う。
2	文献の理解：文献の要約とそれについての自分の考えをまとめる。
3	文献の理解：前回のまとめを、発表し討議する。
4	文献の理解：文献の要約とそれについてグループでまとめる。
5	文献の理解：前回のまとめを発表し、全体討議をする。
6	研究方法について理解する。（調査、文献、実験等）
7	今後の論文完成までの行動計画を作成する。
8	これまでの文献等を整理し、キーワードとの照合を行い、研究の方向性について考える。
9	調査研究の文献を読み、その方法を理解する。
10	文献研究の文献を読み、その方法を理解する。
11	実験研究の文献を読み、その方法を理解する。
12	自らの研究方法について方向性を見直し、研究の可能性を探る。
13	動機、問題の背景、仮説を明確化する。
14	テーマの確定を行う。
15	テーマに沿ったキーワード、全体構成を検討する。

【履修上の注意事項】
演習前には、次回の予定を確認して文献のまとめや分担された範囲の要約をしておくこと。
演習後は、指導内容を振り返り、まとめなおしをすること。

【評価方法】
積極性、協調性、独自性を重視する。課題の提出50%、取組み50%で評価する。

【テキスト】
指定なし

【参考文献】

社会福祉特別演習Ⅱ

担当教員 隈　直子

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
社会福祉特別演習Ⅰに引き続き、卒業研究論文の作成に向け、全体指導を行う。
各学生の興味、関心に基づく研究テーマの決定を目指し、文献購読を行う。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション、夏季休暇中の課題整理
2	先輩からの報告
3	各人の興味・関心あるテーマの発表、レジュメ作成方法の指導
4	文献検索と研究方法の検討
5	先行研究の報告・ディスカッション（2名）
6	先行研究の報告・ディスカッション（2名）
7	資料収集、整理
8	研究テーマを明確化し、研究の方向性を検討する
9	研究テーマ、研究方法の発表、ディスカッション（2名）
10	研究テーマ、研究方法の発表、ディスカッション（2名）
11	研究の動機、背景を見直し、これまでの文献を読む。
12	テーマに応じた論文の要約報告・ディスカッション（2名）
13	テーマに応じた論文の要約報告・ディスカッション（2名）
14	卒論作成に向けた研究計画の作成
15	研究テーマの設定と全体構成の検討

【履修上の注意事項】
問題意識を持って、積極的に参加することが望ましい。発表に向けて予習を行い、資料等準備すること。授業後は、復習を行い、課題に対して主体的に取り組むこと。

【評価方法】
報告・発表内容(50%)、参加態度・課題への取り組み等（50%）により判断する。

【テキスト】
指定なし

【参考文献】
適宜紹介する。

社会福祉特別演習Ⅱ

担当教員 平川　泰士

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
授業のねらい□「障害」のある人々が、自身の望む普通の生活を実現するために、障害福祉の基本理念をもとに、考察し、制度・施策、ソーシャルワークのあり方を検討することがてきるようになる。これらを検討するための基盤となる文献探索、整理、検討方法などの知識・手法を身につけることができる。

【授業の展開計画】
1.研究資料の活用方法（収集）
2.研究資料の活用方法（評価）
3.研究資料の活用方法（整理､検討の方法）
4.研究資料の分析方法（文献レビューの方法）
5.研究資料の分析方法（調査研究法の理解）
6.研究手法に関する文献の輪読（質的研究法）
7.研究手法に関する文献の輪読（量的研究法）
8.研究課題の設定の検討、指導
9.研究課題についての報告（基礎資料の収集）
10.研究課題についての報告（文献リストの作成）
11.研究デザインの設定の方法（概略の説明）
12.研究デザインの設定の方法（課題の設定）
13.研究デザインの設定の方法（課題の絞り込み）
14.研究課題についての指導（課題設定）
15.研究課題についての指導（相互検討）

【履修上の注意事項】
指定された課題について、あらかじめ調べ準備を整え､不明な箇所については自身で調べ直す予習復習を求める。

【評価方法】
講義への参加状況（30%）、報告内容（30%）、課題の事前・事後学習（40%）をもとに評価を行う。

【テキスト】
別途指定

【参考文献】
別途指定

社会福祉特別演習Ⅱ

担当教員 永田　俊明

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本演習は、社会福祉特別演習Ⅰに引き続き卒業研究論文作成の基礎知識の習得にある。
演習Ⅱでは、前期内容を踏まえ各人の研究テーマの探索に重点を置く。つまり研究テーマの絞り込みと文献レビューを中心に展開していく。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーションとスケジュール再確認
2	研究テーマ（1）関心事、興味の領域
3	研究テーマ（2）テーマに関するキーワード検索
4	研究テーマ（3）文献検索の方法
5	研究テーマ（4）文献レビューの仕方
6	演習（1）レジュメ作成方法
7	演習（2）各自テーマに沿った文献レビュー発表（1）関心のある領域からの検索
8	演習（3）各自テーマに沿った文献レビュー発表（2）キーワードによる検索
9	演習（4）各自テーマに沿った文献レビュー発表（3）関心のあるテーマによる検索
10	演習（5）各自テーマに沿った文献レビュー発表（4）テクニカルタームによる検索
11	研究デザイン（1）研究時期と年間行事との擦り合わせ
12	研究デザイン（2）研究対象者の特定
13	研究デザイン（3）研究テーマの焦点化
14	研究デザイン（4）研究方法（量的・質的研究）の確定
15	研究デザイン（5）仮テーマの確定

【履修上の注意事項】
事前準備として、本人の関心やテーマを各自さまざまなツールから検索しておく。
卒業研究論文を念頭に置き、テーマの絞り込みをしておく。

【評価方法】
レポート　30%　演習課題　70%　100点満点で評価

【テキスト】
未使用

【参考文献】
随時紹介していく

社会福祉特別演習Ⅱ

担当教員 山本　孝司

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
「社会福祉特別演習Ｉ」に引き続き、卒業研究論文執筆のための基礎的能力を身につける。問題意識をさらに一層
明確化することができる。

【授業の展開計画】
第１回　オリエンテーション
第２～第７回　先行研究のレビュー
第８～第１４回　卒業研究論文の「問題設定」
第１５回　執筆に関する心構えと注意事項

【履修上の注意事項】
問題意識をもつこと。社会にむけてアンテナを拡げること。
事前に資料を読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】
各人の設定した課題への取り組み、教員側からかされたリポートを材料に総合的に評価する。

【テキスト】
特に指定しない。

【参考文献】

社会福祉特別演習Ⅱ

担当教員 茶屋道　拓哉

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
こころの健康問題により生活のしづらさ（生活障害）を抱える人々に対する援助方法・支援者の抱える困難さ等を探究す
る。本演習を通じて卒業論文の作成に関する基礎的な知識・方法論を身につけるとともに、「メンタルヘルスソーシャル
ワークとはなにか」について自分の言葉で説明できるようにする。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	研究デザイン①（研究課題の設定・課題の絞り込み）
2	研究デザイン②（関連付け・整理・ターゲットレベルの焦点化・現実的制約のクリア）
3	仮説の構築①（帰納法と演繹法）
4	仮説の構築②（機能・モデル、分類・類型）
5	研究資料（データ）の収集法①（質的データと量的データ）
6	研究資料（データ）の収集法②（対象としての個人・集団）
7	研究資料（データ）の収集法③（質的調査）
8	研究資料（データ）の収集法③（量的調査）
9	研究資料（データ）の分析法①（質的データの実証分析）
10	研究資料（データ）の分析法②（量的データの実証分析）
11	各ゼミ生の関心事に沿った参考文献・資料に基づくプレゼンテーション①（質的研究）
12	各ゼミ生の関心事に沿った参考文献・資料に基づくプレゼンテーション②（量的研究）
13	各ゼミ生の関心事に沿った参考文献・資料に基づくプレゼンテーション③（理論・文献研究）
14	研究テーマの絞込み
15	まとめと振り返り

【履修上の注意事項】
自らの発言に責任を持って行動すること。報告・連絡・相談を行い、主体的にゼミ活動に取り組むこ
と。配布された参考文献などの資料について事前に一読し、問題意識を持って授業に臨むこと。また、他のゼミ生の研究にも関心を持ち、授業後に自身の研究テーマや現在の進捗と重ね合わせながら振り返りを行うこと。

【評価方法】
途中経過報告・担当発表・相互批判的考察：70%，レポート：30%

【テキスト】
別途指示する。

【参考文献】
高木邦明ほか編『障害者福祉の研究課題と方法』2007，学文社
岩田正美ほか編『社会福祉研究法―現実世界に迫る14レッスン―』2006，有斐閣

社会福祉特別演習Ⅱ

担当教員 水間　宗幸

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
卒業研究論文執筆に向けてテーマ設定を行い、論文執筆に向けた準備ができる。

【授業の展開計画】
グループ学習と個別指導を用い、指導を進める。

テーマの決定と卒業研究論文執筆の準備に対する指導を行う。

興味関心などをもとにテーマを設定する。
このテーマに基づいたさらなる文献収集、および読み込みを行う。

実際の論文の文体に慣れるトレーニング、研究方法の学習、テーマをより具体化させ、研究テーマの決定へ向ける。

【履修上の注意事項】
各自、自覚を持って取り組むこと

【評価方法】
態度、意欲80％、課題20％で評価を行う。

【テキスト】
特になし

【参考文献】
適宜紹介する

社会福祉特別演習Ⅱ

担当教員 山住　賢司

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
「社会福祉特別演習Ⅰ」に引き続き、各自の研究内容について相互理解を深めるとともに、研究の進め方、論文の書き方、プレゼンテーションの方法を学び、独自の研究を遂行できるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】
卒業研究のテーマとして関心のある分野の文献を収集し、その内容についてまとめ、発表を各人で行なう。
各人の関心について絞りこんでいき、４年次の卒業論文に向けての研究計画書を最終的に提出する。

週	授業の内容
1	プレゼミに関するガイダンスとスケジュール確認
2	卒論テーマ計画書・研究計画書について
3	卒論テーマ計画書発表(1)
4	卒論テーマ計画書発表(2)
5	文献購読発表(1)　関心のある領域からの検索
6	文献購読発表(2)　関心のある領域からの検索
7	卒論の書き進め方
8	卒論の構成の仕方
9	序論・問題・目的の書き方
10	展開の仕方・結果の吟味の仕方
11	考察と結論の書き方
12	文献購読発表(3)　先行研究からの検索
13	文献購読発表(4)　先行研究からの検索
14	研究計画書発表(1)
15	研究計画書発表(2)

【履修上の注意事項】
ゼミでは各人の積極的な参加姿勢が求められる。
事前学習としてテキスト・配布資料等の確認を行い、文献購読発表等の準備を十分に行ってゼミに臨むこと（120分）。
また各回の内容についてはゼミ終了後必ず確認を行うこと（120分）。

【評価方法】
ゼミでの発表内容等を考慮し総合的に評価する。

【テキスト】
使用せず、随時資料を配布する。

【参考文献】
「改訂新版　心理学論文の書き方」　松井豊（著）　河出書房新社　2010

社会福祉特別演習Ⅱ

担当教員 福﨑　千鶴

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
社会生活における様々な社会問題に関心をもち、福祉的な立場から問題意識をもち、深めることができる。
関心のある事柄より、研究テーマを選定することを目指す。
関心のあるテーマに沿って文献検索を行い、文献研究について理解を深める。
社会福祉研究の方法、分析、まとめ方などを理解する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	文献の理解①文献の要約と考察を行い各自発表する
2	文献の理解②文献の要約と考察を行い各自発表する
3	文献の理解③文献の要約と考察を行い各自発表する
4	文献の理解④文献の要約と考察を行い各自発表する
5	研究方法の理解：質的調査の実際①面接法を理解しテーマに沿って面接を行う
6	研究方法の理解：質的調査の実際②面接法を理解し面接記録を行う
7	研究方法の理解：質的調査の実際③データ分析を行う
8	研究方法の理解：質的調査の実際④データ分析を行う
9	研究方法の理解：質的調査の実際⑤発表の仕方を理解し、質的調査研究結果を発表する
10	研究方法について説明し、各々の研究方法について考察する
11	文献収集により各々の研究テーマを検討する
12	研究テーマの焦点化をはかり、研究テーマ選定の動機や背景の明確化をはかる
13	研究テーマに沿って文献等により研究仮説を検討する
14	研究テーマに沿って研究方法を決定し、各々の研究方法について助言指導を行う
15	卒業研究論文の全体構成を検討する

【履修上の注意事項】
報告・連絡・相談・確認を行い、自らの発言や行動に責任をもち、積極的にゼミ活動に取り組むこと。
課題に沿って参考文献を一読し、問題意識をもち積極的に演習に取り取り組むこと。
演習後は自らのテーマに沿って振り返りを行うこと。
フィールドワークなどを取り入れながら、社会福祉研究を学ぶ機会を設けるため、積極的に参加すること。

【評価方法】
課題レポート（50%）、担当発表や相互批判的な考察など積極的なゼミへの取り組み状況（50%）で評価する。

【テキスト】
岩田 正美、中谷 陽明、小林 良二、稲葉 昭英（編集）『社会福祉研究法―現実世界に迫る14レッスン』有斐閣アルマ．2006

【参考文献】
講義中に適宜紹介する。

社会福祉特別演習Ⅱ

担当教員 橋本　眞奈美

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
社会福祉領域の中から自分の研究テーマを決めていく過程で、自身の関心事について積極的に情報取集を行うことができる。また、それに対する考察を深めていくための論文や専門書を検索し手元に集めることができる。併せて小論文の読み込み等を通して、卒業論文を作成していく手順や様式について理解する。

【授業の展開計画】
第１回　今後のスケジュール確認
第２回　夏季の課題到達の発表
第３回　問題領域について論文検索と読み込み、整理・分析方法についての検討
第４回　論文要約を行いつつ、キーワードについて調べる
第５回　自分の論文要約をゼミ内で発表、討論する
第６回　ゼミのメンバーによる論文要約を聞き、討論する
第７回　ゼミのメンバーによる論文要約を聞き、討論する
第８回　ゼミのメンバーによる論文要約を聞き、討論する
第９回　自身の問題意識から見て妥当と思われる専門書を探す
第10回　問題意識についてレポート作成
第11回　問題意識についてのレポートをゼミ内で発表する
第12回　ゼミのメンバーによる問題意識についての発表を基に討論する
第13回　自身の問題意識に関係する専門書や論文を読み込む
第14回　解らないキーワードや論文形式について学ぶ
第15回　４年次に書く卒業論文のテーマを発表する

【履修上の注意事項】
積極的な姿勢で自身の問題意識に向き合うこと。その為に、ゼミの前には自身の問題意識の領域の論文を読み込み要約すること。ゼミ終了時には、ゼミ内での討論を踏まえ自身の問題意識を掘り下げることで新たな論文を見つけること。

【評価方法】
課題への取り組み方や相互批判的姿勢の保持 50%、レポート,論文要約の内容等　50%

【テキスト】
必要に応じて指示する

【参考文献】
必要に応じて指示する

社会福祉特別演習Ⅱ

担当教員 田島　望

配当年次 ３年

単位区分 必修

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
論文や研究に関する基礎知識の習得と共に，研究テーマや目的，研究方法等を絞り込むことができる．

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	シラバスの説明　テーマ設定等に向けたスケジュールの確認.
2	研究デザイン　（研究課題を明確にし絞り込む）
3	研究デザイン　（研究仮説の構築）
4	研究デザイン　（研究対象の設定）
5	研究デザイン　（研究方法＜量的・質的＞の検討）
6	文献（研究資料）収集　（文献研究）
7	文献（研究資料）収集　（質的研究）
8	文献（研究資料）収集　（量的研究）
9	研究データの分析方法　（質的データの分析方法）
10	研究データの分析方法　（量的データの分析方法）
11	各ゼミ生によるテーマに沿った文献レビュー及び研究に関するプレゼンテーション（文献研究）
12	各ゼミ生によるテーマに沿った文献レビュー及び研究に関するプレゼンテーション（質的研究）
13	各ゼミ生によるテーマに沿った文献レビュー及び研究に関するプレゼンテーション（量的研究）
14	研究テーマ及びキーワードの絞り込み
15	研究テーマの設定

【履修上の注意事項】
・主体的な参加と発言によって，自身のテーマ等を絞り込んでいくこと.
・事前に必要な論文を熟読し，講義後には自身のテーマと関連させて深めていくこと.

【評価方法】
ゼミへの参加態度（報告や討議内容）50%とレポート50%により総合的に判断する.

【テキスト】
演習内にて適宜紹介・配布します.

【参考文献】
演習内にて適宜紹介・配布します.

卒業研究論文

担当教員 水間　宗幸

配当年次 ４年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
個々の興味関心に基づきテーマ設定を行い、研究論文を書く目的、方法、様式を学び、執筆の中で理論的科学的態度で考察を行うことができる。

【授業の展開計画】
基本的に個別指導を中心に行う。

【１学期の主な内容】
それぞれのテーマに合わせて、論文の構成スタイルを決定する。
テーマに沿ったさらなる文献収集及びその読み込みを行う。
必要に応じてデータの収集を行う。

【２学期の主な内容】
これまでの文献や収集したデータの分析を行い、適切な考察を行い、卒業研究論文の完成を目指す。

これらを個別指導の中でディスカッションを通じて指導をする。

【履修上の注意事項】
個別指導が中心となるため、自覚を持って卒業研究論文に取り組むこと

【評価方法】
卒業研究論文：80%　ゼミへの態度：20%　総合：100%で評価

【テキスト】
特になし

【参考文献】
適宜紹介する

卒業研究論文

担当教員 福﨑　千鶴

配当年次 ４年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
これまで学んだ事や3年次の特別演習Ⅰ・Ⅱで学修した事を活かし、学生の関心事から研究テーマを決定し、テーマに沿った研究論文作成する。
研究論文は基本的な研究方法を理解し、研究プロセスを大切にしながら論文を作成する。研究計画を意識して行動できることが求められる。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容	週	授　業　の　内　容
1	研究テーマに沿って問題意識を明確にする	16	執筆要綱の確認　執筆状況の報告及び指導
2	研究方法①研究計画立案	17	データ分析結果の考察
3	研究方法②研究目的・方法・倫理的配慮	18	データ分析結果の考察　まとめ
4	研究方法③文献活用・整理　研究方法設定	19	データ分析結果の考察　まとめ
5	研究方法④倫理的配慮　調査票作成	20	引用文献、参考文献活用
6	研究方法⑤調査票作成・実施	21	引用文献、参考文献活用
7	研究データ収集：文献研究・調査の実施	22	図表作成の適正化の確認および修正
8	研究データ収集：文献研究・集計表作成	23	論文構成の見直し
9	研究データ収集：文献研究・集計	24	論文構成の見直し
10	研究データ分析および文章化	25	卒業研究論文全体の構成確認
11	研究データ分析および文章化	26	卒業研究論文全体の構成確認
12	研究データ分析および文章化	27	卒業研究論文の発表と討論
13	研究データ分析および文章化	28	卒業研究論文の発表と討論
14	研究データ分析および文章化　中間報告	29	卒業研究論文の修正
15	研究データ結果および図表の作成	30	卒業研究論文の修正

【履修上の注意事項】
自らの研究テーマに沿って文献収集および文献を一読し相互批判的考察すること。
指導を受け修正を加えながら論文を作成すること。報告・連絡・相談・確認を行い、計画的に論文作成を行い、自らの発言や行動に責任をもつこと。
原則として、卒業研究論文指導は時間割上の開講時に行うこととする。しかし、それ以外に指導が必要な場合は、事前の相談に応じて時間の調整を行う。

【評価方法】
提出された卒業研究論文評価：60%
中間報告：20%
文献収集や相互批判的考察：20%

【テキスト】
使用しない

【参考文献】
講義中に適宜紹介する

卒業研究論文

担当教員 橋本　眞奈美

配当年次 ４年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
3年次での演習の成果を踏まえ、自身の卒業研究のテーマを決めることができる。その上で論文作成に必要になる先行研究の分析やデータの収集、結果の考察等を行うことができる。2学期は論文の完成に向けた指導を受けつつ卒業論文を完成させることができる。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容	週	授　業　の　内　容
1	研究テーマの確認並びに今後の進め方確認	16	作業到達点の確認とスケジュール確認
2	先行研究、データ等の収集と分析	17	章ごとに書き進めている到達点の発表
3	先行研究、データ等の収集と分析	18	問題意識についてゼミ内で討論及び共有化
4	データの整理、必要に応じて調査の準備	19	問題意識についてゼミ内で討論及び共有化
5	自身の意見に近い専門書の選定	20	問題意識についてゼミ内で討論及び共有化
6	調査項目検討もしくは専門書要点抜きだし	21	章ごとに書き進めている到達点の発表
7	調査の実施もしくは専門書の要点抜きだし	22	問題意識についてゼミ内で討論及び共有化
8	調査の集計もしくは論文章立ての検討	23	問題意識についてゼミ内で討論及び共有化
9	調査の集計もしくは論文章立ての検討	24	問題意識についてゼミ内で討論及び共有化
10	調査結果を補う論文検索、書き進める	25	各学生の進捗に合わせた個別指導
11	調査結果を補う論文検索、書き進める	26	各学生の進捗に合わせた個別指導
12	調査実施ゼミ生の論文章立て検討	27	各学生の進捗に合わせた個別指導
13	ゼミ内による中間発表	28	結論等の発表と討論（相互批判的検証）
14	ゼミ内による中間発表	29	結論等の発表と討論（相互批判的検証）
15	論文構成からみた修正点の確認	30	論文完成に向けた引用、文献の確認作業

【履修上の注意事項】
自身の研究テーマに積極的に取り組むこと、相談や報告を忘れずに行うこと。ゼミの前には自身の問題意識の領域の論文を読み込み要約すること。ゼミ終了時にはゼミ内での討論を踏まえ、自身の問題意識を掘り下げることで卒業論文の論点を確認及び修正すること。

【評価方法】
卒業論文の完成度70%、資料収集や課題検討時の積極性20%、他学生との相互批判的考察時の態度10%

【テキスト】
なし

【参考文献】
研究テーマに即して個別に指示する

卒業研究論文

担当教員 田島　望

配当年次 ４年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
3年次から積み上げてきた論文等に関する基礎知識をもとに関心のあるテーマについて卒業研究論文の作成を行うことができる.

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容	週	授　業　の　内　容
1	卒業研究論文指導（研究テーマ）	16	データ分析方法指導（個別指導）
2	卒業研究論文指導（研究目的）	17	データ分析方法指導（個別指導）
3	卒業研究論文指導（研究背景）	18	データ分析方法指導（個別指導）
4	卒業研究論文指導（先行研究）	19	データに基づいた図表の作成等
5	卒業研究論文指導（研究方法）	20	図表の表記や挿入方法
6	先行研究レビュー（文献研究）	21	分析・結果指導（個別指導）
7	先行研究レビュー（質的研究）	22	分析・結果指導（個別指導）
8	先行研究レビュー（量的研究）	23	分析・結果指導（個別指導）
9	研究計画の作成（研究資料・データ）	24	考察指導（研究目的に沿った考察）
10	研究計画の作成（論文執筆）	25	考察指導（学生同士の批判的検討）
11	データ収集指導（調査法等）	26	考察指導（まとめ）
12	データ収集指導（質問紙法等）	27	論文執筆指導（脚注等の体裁）
13	中間報告にむけた個別指導	28	論文執筆指導（論文の構成）
14	中間報告にむけた個別指導	29	論文執筆指導（引用・参考文献）
15	卒業研究論文中間報告	30	卒業研究論文総括

【履修上の注意事項】
1年という期間を有効に使うためにも，テーマ設定から卒業研究論文の執筆，完成までの計画をしっかりと立てて取り組むこと．他者の研究にも関心をもちお互いが高めあいながら完成を目指すこと．事前に個人学習を通してレジュメを作成し，講義・指導後にしっかりと復習し執筆を進めること

【評価方法】
卒業研究論文執筆過程での取り組み（40%）と，完成後，副査の意見を含めて（60%）総合的に評価する.

【テキスト】
必要であれば適宜紹介・配布する.

【参考文献】
必要に応じて紹介する.

卒業研究論文

担当教員 豊田　保

配当年次 ４年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
ゼミ生自らが設定した研究テーマに基づく研究を具体的に推進し、卒業論文として完成する。

【授業の展開計画】
研究の背景と意義、研究の方法とその妥当性、調査・研究の推進、研究結果についての考察、結論の提示という展開過程を踏まえた卒業論文を完成する。

週	授業の内容
1	先行研究のレビューと研究の意義について（90分×3回）
2	研究の意義とその社会的背景について（90分×3回）
3	調査・研究の具体的な方法について（90分×5回）
4	調査・研究の結果の分析と考察について（90分×5回）
5	考察から導き出される結論について（90分×3回）
6	討論を踏まえての卒業論文の執筆と完成（90分×10回）
7	まとめ（90分×1回）
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】
主体的に研究を推進し、内容が深められた卒業論文の完成を目標にする。

【評価方法】
卒業論文の内容とゼミ運営への貢献度で評価する。

【テキスト】
ゼミ生個々人の必要に応じて示唆する。

【参考文献】
ゼミ生個々人の必要に応じて示唆する。

卒業研究論文

担当教員 馬場　敏彰

配当年次 ４年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
研究に関心を持ち、研究テーマについて追及できる力を身につけることができる。
先行研究と向き合い、他者と語らい、自分に問うことができる、専門職者を目指し、探究できる人財になることができる。
卒業論文の作成方法に関する基礎知識・方法論の習得をはかる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	現在の状況報告、計画の確認	16	現在の状況報告、計画の確認
2	経過報告会	17	分析結果のまとめ①
3	研究目的に関する指導①	18	分析結果のまとめ②
4	研究目的に関する指導②	19	分析結果のまとめ③
5	研究方法に関する指導①	20	分析結果のまとめ④
6	研究方法に関する指導②	21	分析結果のまとめ⑤
7	研究目的・方法に関する指導（個別）	22	結果考察についての指導①
8	データ収集についての指導①	23	結果考察についての指導②
9	データ収集についての指導②	24	結果考察についての指導③
10	データ収集についての指導③	25	結果考察についての指導④
11	データ分析についての指導①	26	結果考察についての指導⑤
12	データ分析についての指導②	27	論文の構成についての指導①
13	データ分析についての指導③	28	論文の構成についての指導②
14	データ分析についての指導④	29	論文の構成についての指導③
15	現在の状況確認、計画の確認	30	研究のまとめと今後の展開

【履修上の注意事項】
提出期限を守り、時間を無駄につかわないこと。
主体的にゼミ活動に取り組むこと。報告・連絡・相談を行うこと。問題意識を持って授業に臨むこと。
他者（他のゼミ生など）の意見や考えに関心を持ち、自分の研究テーマや進捗状況と重ね合わせながら振り返りを行うこと。

【評価方法】
卒業論文：６０％　　途中経過報告・発表・ゼミの活動状況・取り組む姿勢：４０％

【テキスト】
別途指示

【参考文献】
別途指示

卒業研究論文

担当教員 嶋　政弘

配当年次 ４年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業研究論文

担当教員 竹中　健

配当年次 ４年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
1次資料及び２次資料を用いて、学術論文を書く技法を習得する。

【授業の展開計画】
各自の進路に合わせて個別に指導する。

【履修上の注意事項】
必ず毎週、面会すること。

【評価方法】
論文により評価する。本ゼミは学生の皆さんに高い水準の課題を課し、その達成を単位取得の条件とする。卒業論文提出時の文字数についても、本ゼミでは24000字以上というゼミ独自の基準を設ける。非常にタイトなスケジュールに沿った章ごとの卒論提出を逐次履修者に要求する。最終的に提出された論文は、文字数や体裁を満たしていても論文として意味をなさないものについては不合格とし、厳格に対応する。

【テキスト】
参考文献リストとして、執筆者により提示したもの。

【参考文献】
適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 永田　俊明

配当年次 ４年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
４年間の集大成として卒業研究論文を位置づけ、人間科学研究法に基づく研究論文作成を目指す。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	文献レビュー（1）関心のある論文探索	16	データ分析（1）データ要約
2	文献レビュー（2）仮テーマに近い論文探索	17	データ分析（2）記述統計
3	テーマに関する焦点化とキーワード	18	データ分析（3）パッケージ分析
4	仮テーマ決定ディスカッション	19	結果（1）目的に沿った結果抽出
5	テーマの決定と先行研究レビュー	20	結果（2）事実のみの記述と分析
6	研究計画の作成（1）研究のタイプ	21	結果の図表作成（1）図表作成のルール
7	研究計画の作成（2）計画書作成	22	結果の図表作成（2）文中挿入の仕方
8	研究目的の探索　問題意識から研究課題へ	23	考察（1）目的に沿った考察の仕方
9	研究目的に至るきっかけと動機	24	考察（2）新たな知見の発見
10	研究目的　理論と仮説	25	考察（3）関係性や因果関係
11	研究方法（1）量的・質的研究	26	論文執筆（1）論文の体裁
12	研究方法（2）方法論・アプローチ	27	論文執筆（2）論文の構成
13	データ収集（1）調査法・インタヴュー法	28	論文執筆（3）論文の実際
14	データ収集（2）質問紙法・実験法	29	結論　書き方と内容
15	統計手法　統計的推測・仮説検定	30	引用・参考文献　文献一覧の作成方法

【履修上の注意事項】
基本的には３年次の特別演習で習得した内容をベースに、人間科学研究に沿いながら論文作成できるように準備をしておくこと。

【評価方法】
卒業研究論文作成プロセス(出席も含む) 40%
完成論文の内容　60%　により総合的評価する。

【テキスト】
使用しない

【参考文献】
随時紹介

卒業研究論文

担当教員 西島　衛治

配当年次 ４年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
独自の調査、観察、聞き取りなどを行い論文のオリジナリティを確保する。

【授業の展開計画】
【学生指導関連】
３年生の特別演習では、論文の書き方や研究方法などについて卒論の基礎を身につけます。
４年生で卒論指導を希望する学生は、上記の研究課題に関連するから希望のテーマを選びます。
事前の面談を行います。なお、具体的な研究課題は、時間をかけて学生との協議の上決定します。

【履修上の注意事項】
【研究課題】以下のテーマから選択する。
① 障害者の生活環境整備に関する研究② 高齢者（認知症を含む）の生活環境整備に関する研究③ 発達障害児の教育環境の計画に関する研究④ その他福祉工学（バリアフリー、UD）に関する研究⑤ ボランティア、NPOなどの市民活動などに関する研究⑥そのほか、テーマは、希望により選べます
なお、予習と復習は行う。

【評価方法】
必ずゼミを受講し、論文の指導を受ける。予習・復習の自主的学習態度の確認を行う。

【テキスト】
川村著「改訂　福祉系学生のためのレポート＆卒論の書き方」中央法規2013

【参考文献】
白井・高橋著「よくわかる卒論の書き方」ミネルバ書房

卒業研究論文

担当教員　未定

配当年次　４年

単位区分　必修

開講時期　通年

授業形態　卒業研究・論文等

単位数　4

準備事項

備考

【授業のねらい】
大学４年間の集大成として、これまでの学びを基に、自ら研究テーマを選び、問題を提起し、深く調査・考察して独自の意見を確立して問題を解決するとともに、その研究結果を論文として著わすことができる。

【授業の展開計画】
・研究テーマ確認・研究計画書修正
・情報収集・整理・要約
・先行研究の課題分析・討論
・論文構成の検討
・必要に応じて社会調査実施・データ入力・統計処理
・論文作成
・読み合わせ・研究討論
・論文修正・推敲
・論文完成
１学期はゼミ全体でのグループワーク中心で行なうが、２学期は教員との個人ワークも行なう。
論文がある程度形になってきたら、読み合わせ・討論を行ない、研究の質を高めていく。

【履修上の注意事項】
目標をしっかり持って、計画的に研究を進めてもらいたい。ゼミで指摘された事項については、次回のゼミまでに解決しておくこと。

【評価方法】
研究の独自性、論理・主張の明確さ、論文の構成、また引用・参考文献等の収集情報の質・量などを総合的に評価する。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献】
必要に応じて文献の指示をする。

卒業研究論文

担当教員 李　玄玉

配当年次 ４年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

○　文献検索などを通じて関心のあるテーマを取り上げ、一連の研究の流れを体験し、研究の意義や方法について理解を深める。

○　自分の研究テーマを明確にし、そのテーマに基づく卒業論文を作成する。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容	週	授　業　の　内　容
1	顔合わせ・オリエンテーション	16	中間報告会の発表①ー２名
2	テーマに近い論文の紹介	17	中間報告会の発表②ー２名
3	文献要約ーの発表・ディスカッション(2名)	18	中間報告会の発表③ー２名
4	文献要約ーの発表・ディスカッション(2名)	19	中間報告会の発表④ー２名
5	文献要約ーの発表・ディスカッション(2名)	20	中間報告会の学びと今後の方向性の確認
6	テーマ及びキーワードの説明	21	研究結果のまとめ・文献要約
7	研究計画（案）発表ー２名	22	考察の方向性・文献要約
8	研究計画（案）発表ー２名	23	考察の文章化・文献要約
9	研究計画（案）発表ー２名	24	論文全体の流れ・文章化の確認
10	研究計画（案）発表ー２名	25	研究論文草稿完成
11	それぞれの研究計画書完成	26	研究論文修正
12	研究方法の具体化（調査票などの案）	27	抄録の作成・論文提出
13	自分の研究テーマに関連する先行研究の要約	28	自分の論文要約
14	自分の研究テーマに関連する先行研究の要約	29	ゼミの卒業論文発表会
15	研究方法の具体化・調査票などの完成	30	ゼミ論文集の作成

【履修上の注意事項】

○　先行研究、参考文献を多めに収集し、読むこと。

【評価方法】

完成した卒業研究論文を評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献】

卒業研究論文

担当教員 金　蘭九

配当年次 ４年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
日ごろのレポートはもとより、社会福祉学科における学生生活の総決算である卒業研究論文を納得のいく内容で書くことができるように、全体または個人指導を行なう。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	卒業研究論文の執筆にあたって	16	参考文献の集め方
2	執筆のルール	17	文献などの探し方
3	記号などの用い方	18	データの収集
4	文献および統計・図表の引用法	19	新聞記事の切り抜きと辞書の活用
5	文章の推敲	20	参考文献の活用法
6	福祉の一般用語	21	参考文献の読み方
7	福祉の専門用語	22	データのまとめ方
8	福祉の枠組み	23	アンケート調査の方法
9	福祉の枠組み	24	面接調査の方法
10	福祉の学び方	25	卒論の様式と体裁・執筆
11	福祉の学び方	26	卒論指導
12	卒論ガイダンス	27	卒論指導
13	卒論ガイダンス	28	卒論指導
14	卒論中間発表会	29	卒論指導
15	ふりかえり	30	ふりかえり

【履修上の注意事項】
授業前にキーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】
発表30%、レポート70%で評価する。

【テキスト】
本年度はとくに使用せず、授業の際にプリントや資料を配付する。

【参考文献】
各回の授業の際に紹介する。

卒業研究論文

担当教員 茶屋道　拓哉

配当年次 ４年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
各ゼミ生の関心事から精錬された研究テーマをもとに、基本的な研究方法を押さえた卒業研究論文の作成を行う。先行研究の精査やフィールド調査を通じて、社会で起こっている事象に対し、社会科学・社会福祉学的な視点を持って分析・考察出来るようになる。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容	週	授　業　の　内　容
1	研究目的に関する指導①（問題提起）	16	データ分析指導⑥（個別指導）
2	研究目的に関する指導②（レビュー）	17	データ分析指導⑦（個別指導）
3	研究方法に関する指導①（方法論の設定）	18	データ分析指導⑧（個別指導）
4	研究方法に関する指導②（倫理的配慮）	19	データ分析指導⑨（個別指導）
5	研究目的・方法に関する指導③（個別指導）	20	データ分析指導⑩（個別指導）
6	データ収集指導①（質的調査法）	21	分析結果のまとめ①（個別指導）
7	データ収集指導②（質的調査法）	22	分析結果のまとめ②（個別指導）
8	データ収集指導③（量的調査法）	23	分析結果のまとめ③（個別指導）
9	データ収集指導④（量的調査法）	24	分析結果のまとめ④（相互批判的検証）
10	データ収集指導⑤（理論・文献研究）	25	分析結果のまとめ⑤（相互批判的検証）
11	データ分析指導①（質的調査法）	26	考察の検討とまとめ方の指導①（個別指導）
12	データ分析指導②（質的調査法）	27	考察の検討とまとめ方の指導②（個別指導）
13	データ分析指導③（量的調査法）	28	考察の検討とまとめ方の指導③（個別指導）
14	データ分析に指導④（量的調査法）	29	考察とまとめ方の指導④（相互批判的検証）
15	データ分析指導⑤（理論・文献研究）	30	考察とまとめ方の指導⑤（相互批判的検証）

【履修上の注意事項】
自らの発言に責任を持って行動すること。報告・連絡・相談を行い、主体的にゼミ活動に取り組むこと。配布された参考文献などの資料について事前に一読し、問題意識を持って授業に臨むこと。また、他のゼミ生の研究にも関心を持ち、授業後に自身の研究テーマや現在の進捗と重ね合わせながら振り返りを行うこと。

【評価方法】
卒業研究論文：60%，途中経過報告・相互批判的考察：40%

【テキスト】
なし。

【参考文献】
高木邦明ほか編『障害者福祉の研究課題と方法』2007，学文社
岩田正美ほか編『社会福祉研究法―現実世界に迫る14レッスン―』2006，有斐閣

卒業研究論文

担当教員 山本　孝司

配当年次 ４年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
４年間の集大成として卒業研究論文を完成させることができる。

【授業の展開計画】
３年次「社会福祉特別演習Ⅰ」「社会福祉特別演習Ⅱ」では集団指導という形をとっていたが、４年次「卒業研究論文」では、個別指導を中心に各自が研究論文を作成できるよう指導する。

【履修上の注意事項】
事前事後学習については担当者の指示に従うこと。

【評価方法】
提出された研究論文に対し、指導教員が、副査の評価を勘案して、決定する。

【テキスト】

【参考文献】

卒業研究論文

担当教員 山住　賢司

配当年次 ４年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
各人の関心に基づく具体的な研究テーマに沿って研究を行い、卒業研究論文を完成させることを目的とする。

【授業の展開計画】
４年次１学期当初に卒業研究論文の題目を登録する。以後、担当教員の指導を受けつつ、論文作成を進め、提出締め切りに間に合うように作成・提出し、査読を受ける。

週	授業の内容	週	授業の内容
1	卒論に関するガイダンス	16	データ分析に関する指導(4)個別指導
2	卒論作成スケジュールの確認	17	データ分析に関する指導(5)個別指導
3	研究計画書の確認	18	結果の説明に関する指導(1)情報の選択
4	研究目的に関する指導(1)題目の設定	19	結果の説明に関する指導(2)図表の提示法
5	研究目的に関する指導(2)問題意識の説明	20	結果の説明に関する指導(3)検定結果
6	研究目的に関する指導(3)研究の意義	21	結果の説明に関する指導(4)個別指導
7	研究目的に関する指導(4)個別指導	22	結果の説明に関する指導(5)個別指導
8	研究方法に関する指導(1)手法の選択	23	考察に関する指導(1)根拠に基づく主張
9	研究方法に関する指導(2)倫理的配慮	24	考察に関する指導(2)対立仮説との比較検討
10	研究方法に関する指導(3)実験刺激作成	25	考察に関する指導(3)限界と今後の発展
11	研究方法に関する指導(4)調査用紙作成	26	考察に関する指導(4)個別指導
12	研究方法に関する指導(5)個別指導	27	考察に関する指導(5)個別指導
13	データ分析に関する指導(1)データ整理	28	総合考察・結論に関する指導
14	データ分析に関する指導(2)分析手法の選択	29	引用・参考文献リストに関する指導
15	データ分析に関する指導(3)統計検定	30	要旨・キーワードに関する指導

【履修上の注意事項】
各自の研究テーマに真摯に向き合い、意欲的に卒業研究を進めていくことが求められる。
指導内容に沿った論文執筆を進めてゆき、随時チェックを受けること。
論文執筆の過程において指摘された点は速やかに修正を行い、再度のチェックを受けること。

【評価方法】
提出された卒業研究論文に対して副査のコメントを参考に主査（指導教員）が評価を決定する。

【テキスト】
使用せず、随時資料を配布する。

【参考文献】

卒業研究論文

担当教員 吉岡　久美

配当年次 ４年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業研究論文は4年間の学修の総合である。3年次の特別演習Ⅰ・Ⅱで学んだことを踏まえて、自らのテーマについて知識を深め、文章化して表現する能力を身につけ、論理的な展開を行ってまとめることができることを目的としている。自らの課題の明確化を行い、計画的に行動する。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容	週	授　業　の　内　容
1	3年次におけるまとめとテーマの決定	16	卒業研究論文作成：草稿の報告（2名）
2	研究計画の確認と文献考察の発表	17	卒業研究論文作成：草稿の報告（2名）
3	これまでの資料まとめと研究の方向性見直し	18	卒業研究論文作成：草稿の報告（2名）
4	中間報告の説明および準備（背景～方法）	19	論文における論点の確認
5	中間報告に向けたレポート作成	20	論文構成の見直し（全体像、執筆要綱）
6	中間報告レポートの確認と修正	21	引用文献の活用方法の見直し
7	中間報告（2名）と討議	22	図・表の適正化の確認
8	中間報告（2名）と討議	23	全体構成、内容とテーマの整合性の確認
9	中間報告（2名）と討議	24	最終発表についての説明
10	研究の課題の明確化と方向性の見直し	25	卒業研究論文作成：学生間での理解の可能性
11	論文構成の理解と実践（緒言）	26	最終発表準備（PP作成）
12	論文構成の理解と実践（方法）	27	最終発表（2名）と討議
13	論文構成の理解（結果の書き方）	28	最終発表（2名）と討議
14	論文構成の理解（考察の推敲）	29	最終発表（2名）と討議
15	1学期の進捗状況報告および計画の見直し	30	論文の修正とまとめ

【履修上の注意事項】

卒業研究論文の執筆要綱を確認し、それに沿った形式で作成すること。
ゼミの学生全員で行う指導には必ず出席すること。
個別指導は原則として時間割上の開講時とするが、それ以外に必要な場合は、事前の時間調整等を積極的に行い、資料を準備すること。講義の事前・事後学習として、執筆した部分の整理と見直しを行うこと。

【評価方法】

論文の内容・完成度　50%
中間・最終発表　20%
討論への参加など積極的な取り組み　30%

【テキスト】

講義中に提示する。

【参考文献】

講義中に適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 隈　直子

配当年次 ４年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
学生がそれぞれの卒業論文テーマを選定し、文献収集・調査・結果・考察などを通して卒業研究論文を作成する。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容	週	授　業　の　内　容
1	3年次までのまとめ、テーマの設定	16	進捗状況の報告（全体指導）
2	研究の背景と研究方法の検討	17	卒論作成指導（個別指導）
3	研究計画の確認とテーマの見直し	18	卒論作成指導（個別指導）
4	文献検察指導	19	卒論作成指導（個別指導）
5	卒業研究論文執筆要領の確認	20	卒論作成指導（個別指導）
6	進捗状況の報告とディスカッション（2名）	21	論点の確認
7	進捗状況の報告とディスカッション（2名）	22	図表、引用文献等の書き方指導
8	研究テーマの明確化と方法の見直し	23	卒論作成指導（個別指導）
9	論文構成の理解と見直し	24	卒論作成指導（個別指導）
10	卒論レジュメ報告	25	全体構成の確認
11	卒論レジュメ報告	26	卒論作成指導（全体指導）
12	卒論レジュメ報告	27	卒論発表の準備
13	卒論レジュメ報告	28	卒論発表とディスカッション（2名）
14	資料のまとめと研究の方向性の見直し	29	卒論発表とディスカッション（2名）
15	研究計画の見直し	30	卒論まとめ、修正

【履修上の注意事項】
予習復習を行い、問題意識をもって臨むこと。主体的に卒論作成に取り組むこと。

【評価方法】
卒業研究論文・報告会の内容（70%）、ゼミへの出席状況、参加態度・意欲等（30%）から判断する。

【テキスト】
個別に指示する。

【参考文献】
適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 平川　泰士

配当年次 ４年

単位区分 必修

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
各自の研究テーマに基づき、具体的な実践・データをもとに、「障害」のある人々が、自身の望む普通の生活を実現するために、障害福祉の基本理念をもとに、考察し、制度・施策、ソーシャルワークのあり方を検討すること
ができるようになる。卒業研究論文を所定の様式に基づき提出できることを目指す。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容	週	授　業　の　内　容
1	オリエンテーション(運営方針、年間予定)	16	アウトラインの報告､検討
2	研究デザインの設定（先行研究の調査）	17	論文の構成の方法
3	研究デザインの報告（先行研究の概況）	18	論文の基本ルールの確認（提出要項）
4	研究課題についての指導（先行研究）	19	論文の基本ルールの確認（研究倫理）
5	研究デザインの設定（仮説の構築）	20	先行研究の指導
6	研究デザインの設定（理論モデルの検討）	21	先行研究の指導
7	研究デザインの報告（仮説設定、相互検討）	22	分析方法の指導
8	研究デザインの検討	23	分析方法の指導
9	研究資料の分析法（方法の概略）	24	分析結果、まとめの指導
10	研究資料の分析法（質的研究法の理解）	25	分析結果、まとめの指導
11	研究資料の分析法（量的研究法の理解）	26	考察の指導
12	研究成果の報告	27	考察の指導
13	研究デザインの設定（アウトラインの作成）	28	考察の指導（相互検討）
14	研究デザインの設定（アウトラインの検討）	29	提出形式の確認、修正
15	研究デザインの設定（アウトラインの指導）	30	提出形式の確認、修正

【履修上の注意事項】
指定された課題について、あらかじめ調べ準備を整え､不明な箇所については自身で調べ直す予習復習を求める。

【評価方法】
講義への参加状況（10%）、報告内容（20%）、課題の事前・事後学習（40%）､卒業研究論文（30%）をもとに評価
を行う。

【テキスト】
適宜指定する

【参考文献】

地域社会論

担当教員 竹中　健

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
「地域」という用語にこめられた歴史的文脈やその意味、諸問題を理解し、同時に近代化や国民国家との関連で「地域」やそこに生きる人びと、地域社会のありかたやあるべき姿を考えることができるようになることを、本講義の最終的な目標とする。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	オリエンテーション
2	urban sociology と rural sociology
3	コミュニティとはなにか？
4	「公共の福祉」とナチズム
5	戦時下のボランティア動員
6	現代日本のボランティア動員
7	国民国家と地域社会
8	「国家」の虚構と「地域」の虚構
9	中間集団とコミュニティ
10	水俣とフクシマ（1）
11	水俣とフクシマ（2）
12	玉名に生きる
13	熊本に生きる
14	九州に生きる
15	まとめ

【履修上の注意事項】
授業前に出された課題を完成させて授業に臨み、授業後は授業前の課題と授業で学んだことを比較して復習をすること。

【評価方法】
講義時間内に作成し提出する複数回にわたるミニ・レポートと第13回～15回において講義講義内で実施するプレゼンテーションを総合して評価する。

【テキスト】
使用しない

【参考文献】
講義のなかで適宜紹介する

家族福祉論

担当教員 橋本　眞奈美

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
高齢者、子ども、障害者、一人親家族といった方々に顕在化しやすい諸問題を、「家族」が抱え込まされている問題として把握することで、家族福祉の役割と重要性について理解することができる。また「家族」について考察する上で欠かすことができない、女性に求められている役割と現状を女性福祉として学ぶことで、家族に求められている役割が社会と密接に繋がっていることを説明することができる。その上で、家族に対する支援のあり方をソーシャルワーカーの立場から考察することができる。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	オリエンテーション：家族福祉の位置づけ
2	現代における新たな家族観の登場、及び家族の類型について学び考える
3	家族が果たしている役割と、その変遷
4	現代社会と家族　―　家族福祉の沿革
5	家族福祉と法制度（血縁の有無、事実婚、同性婚等）
6	家族福祉と女性福祉、近代日本における女性に求められる役割
7	家族福祉と女性福祉、現代の労働力としての女性にフォーカスする
8	社会から家族へ要請される役割、高齢者介護を題材に
9	社会から家族へ要請される役割、「こうのとりのゆりかご」を題材に
10	社会から家族へ要請される役割、社会の変容に応える役割変化
11	モデル事例検討　高齢者問題、実際の支援について考える
12	モデル事例検討　障害者問題、実際の支援について考える
13	モデル事例検討　母子家庭問題、実際の支援について考える
14	モデル事例検討　ＤＶ問題、実際の支援について考える
15	家族福祉の課題を整理する

【履修上の注意事項】
授業の前にテキスト、および配布資料を熟読しておくこと、授業終了後は語句の確認といった復習をしておくこと。

【評価方法】
１．試験６０％　　２．課題レポート等２０％　　３．受講態度２０％

【テキスト】
『よくわかる現代家族』第2版　神原文子　他編著　　ミネルヴァ書房

【参考文献】
『家族福祉の視点』　野々山久也　編著　　ミネルヴァ書房

児童福祉論Ⅱ

担当教員　金和　史岐子

配当年次　２年

単位区分　選択

開講時期　第２学期

授業形態　講義

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1　児童福祉施策の実際を理解できる。
2　児童福祉のあり方について考察し、論じることができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	児童福祉施策の概要・課題
2	家族支援の実際とあり方
3	児童虐待の実態
4	児童虐待対策
5	胎児期の実態と支援
6	乳児期の実態と支援
7	幼児期の実態と支援
8	学童期の実態と支援
9	思春期の実態と支援
10	社会人への移行期の実態と支援
11	子どもの貧困
12	障害のある子どもと家庭の実態
13	障害のある子どもと家庭への支援
14	スクールソーシャルワーカー
15	子ども・家庭への援助活動の実際とあり方

【履修上の注意事項】
社会福祉士受験資格希望者は、可能な限り履修する。授業前にテキストを読むこと。授業後にポイントをおさえて復習していくこと。

【評価方法】
試験（もしくはレポート）70点、授業内レポート30点により評価する。

【テキスト】
山野則子・武田信子編『子ども家庭福祉の世界』有斐閣

【参考文献】
随時、授業で紹介する。

高齢者福祉論Ⅱ

担当教員　吉岡　久美

配当年次　２年

単位区分　選択

開講時期　第２学期

授業形態　講義

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1. 現代社会における高齢者福祉の理念と意義を説明できる。
2. 高齢者の身体的・精神的・心理社会的特長や特性、障害等を説明できる。
3. 認知症高齢者の障害特性とケアを説明できる。
4. 高齢者や家族に対する相談援助活動を説明できる。
5. 高齢者支援の地域活動や民間活動、シルバーサービス等を説明できる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	産業構造の変化に伴う高齢者への影響を理解する。
2	少子高齢社会における課題を理解する。
3	高齢社会における地域創世の取り組みを理解する。
4	居住世帯と家族介護の問題及び課題を理解する。
5	高齢者の所得や就労状況、地域社会との関係を理解する。
6	高齢者の身体的・心理的特性と疾病を理解する。
7	高齢者の精神的特性と疾病を理解する。
8	高齢者の社会的特性を理解する。
9	認知症を医学的・心理学的に理解する。
10	認知症高齢者のケアの理念と方法を理解する。
11	高齢者やその家族、地域住民への支援の方法を理解する。
12	独り暮らしや寝たきりの高齢者やその家族に対する支援と相談援助活動を理解する。
13	認知症高齢者やその家族に対する相談援助活動を理解する。
14	社会福祉協議会の取り組みやボランティア活動、非営利民間活動を理解する。
15	シルバーサービスの現状と展望を理解する。

【履修上の注意事項】
該当する単元については、指定テキストを用いて事前に学習しておくこと。講義後もう一度通読して復習し、理解を深めること。
また、指示したレポートは期限を守り、提出すること。

【評価方法】
定期試験90%、課題レポート10%で評価する。

【テキスト】
社会福祉士養成講座編集委員会編『高齢者に対する支援と介護保険制度-高齢者福祉論-』(最新版)中央法規.
野﨑和義監修『社会福祉六法』(最新版)ミネルヴァ書房.

【参考文献】
授業中、適宜紹介

介護概論

担当教員 前田　公江

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

１．介護の理念とその枠組みについて学習し、人間尊重と自立支援を目指した新しい介護の考え方を理解する。
２．歴史的展開を理解すると共に、現代社会における介護の在り方や関係職種間の連携の重要性について学ぶ。
３．介護援助における倫理および援助者としての基本的態度を身につけ、個々の利用者に応じた介護技術の在り方を探求する。
４．介護を通して「人間としての尊厳」や「その人らしい生き方」について学び、人間観や思考を深める。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	今、なぜ専門職が担う介護が必要なのか、少子高齢化社会の背景から把握する
2	高齢者の特性を理解する：社会的理解・身体的理解
3	高齢者の特性を理解する：心理的理解・介護従事者としての総合的理解
4	介護の概念や対象について
5	介護保険制度の仕組みとサービス体系について
6	地域で支える介護の必要性と介護予防の概念を理解する
7	高齢者の尊厳を支える介護における専門職の役割と実際
8	介護過程の概要と展開
9	介護各論①：自立に向けた介護・家事における自立支援
10	介護各論①：身支度、移動、睡眠の介護の実際・食事、口腔衛生の介護
11	介護各論①：入浴、清潔、排泄の介護
12	介護各論②：認知症ケア
13	介護各論②：終末期ケア・住環境
14	事例検討:介護サービス計画
15	事例検討:認知症ケア

【履修上の注意事項】

単位認定資格は出席３分の２以上が条件です。２０分以上の遅刻は欠席とみなします。
授業展開計画は多少前後することがあるため、毎回プリントを配布します。授業で触れた内容については教科書を読み込みしっかり復習し、次回の講義に備えてください。

【評価方法】

授業内容感想小レポートの提出及び講義・演習への参加意欲２０％　　試験８０％

【テキスト】

「高齢者に対する支援と介護保険制度」社会福祉士養成講座編集委員会編（中央法規）

【参考文献】

適宜、講義の中で紹介する。

障害者福祉論Ⅱ

担当教員 金　蘭九

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1　障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要について理解する。
2　障害者福祉及び関連分野の専門職とその連携のあり方について理解する。
3　相談援助活動において必要となる障害者総合支援法や福祉・介護に係る他の法制度について理解する。
4　障害者福祉全般に関する制度改革を理解し、地域生活支援という懸案の課題を認識する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	障害者総合支援法におけるサービス １（障害福祉サービスの種類、障害者支援施設の種類など）
2	障害者総合支援法におけるサービス ２（補装具・住宅改修の種類、自立支援医療など）
3	地域生活支援事業
4	介護保険と障害者サービス
5	障害者福祉の関連分野 １（保健・医療）、２（教育）
6	障害者福祉の関連分野 ３（雇用・就労）
7	障害者福祉の関連分野 ４（所得保障・経済負担の軽減）
8	障害者福祉の関連分野 ５（生活環境の改善）、６（情報保障・権利擁護）
9	障害者福祉の関連分野 ７（ボランティア、文化、スポーツ、レクリエーションなど）
10	障害者運動と当事者参加
11	ケアマネジメントとソーシャルワーク
12	障害者福祉におけるチームワーク
13	相談援助活動事例
14	障害者の自立と就労支援（work and support）
15	障害者福祉の課題と展望

【履修上の注意事項】
授業前にテキストを読み、キーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】
定期試験60％、レポート20％、発表20％で評価する。

【テキスト】
社会福祉士養成講座編集委員会編『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』第5版（中央法規、2018年）。

【参考文献】
厚生労働省編『（平成30年版）厚生労働白書』（ぎょうせい、2018年）。
内閣府編『（平成30年版）障害者白書』（日経印刷、2018年）。　『社会福祉六法』（最新版）。

医療福祉論

担当教員 竹中　健

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1.医療保険制度（診療報酬に関する内容も含む）の概要が理解できる。
2.医療ソーシャルワークの専門援助活動が理解できる。
3.保健医療サービスの概要と保健医療サービスにおける多職種協働が理解できる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション
2	戦後の保健医療サービスの整備・拡充の歴史、医療費に関する政策動向を理解させる。
3	多様な居住の場における在宅療養やターミナルケアを支援する診療報酬制度を理解させる。
4	自立支援医療、公費負担医療制度の概要を理解させる。
5	医療施設の機能・類型を理解させる。
6	介護保険制度（介護施設の基準・類型）と介護報酬制度の概要を理解させる。
7	医療、保健、介護の連携による在宅支援のシステムを理解させる。
8	医療ソーシャルワーカーと各専門職の視点と役割の実際を理解させる。
9	インフォームドコンセントの意義と実際を理解させる。
10	医療ソーシャルワーカーの歴史、資格化の議論、業務の枠組みを理解させる。
11	ミクロ、メゾ、マクロの視点から医療ソーシャルワーク業務の内容を理解させる。
12	医療連携やチーム医療の推進について、社会福祉士や精神保健福祉士の役割や業務を理解させる。
13	医師、保健師、看護師等の医療チームアプローチや機関・団体との連携方法と実際を理解させる。
14	地域の社会資源との連携、地域包括ケアにおける保健医療サービスの位置づけと役割を理解させる。
15	まとめ

【履修上の注意事項】
講義予定の範囲について、テキストをあらかじめよく読み、毎回予習をしておくこと。

【評価方法】
講義内で実施する合計5回のミニテストの結果を総合して評価する。

【テキスト】
社会福祉士養成講座編集委員会編『保健医療サービス』中央法規（最新版）

【参考文献】
講義中に適宜紹介する.

障害児療育支援論

担当教員 李　玄玉、水間　宗幸

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本講義では、最近増加している高機能自閉症、ADHD（注意欠陥多動性）、コミュニケーション障害など、教育現場で「気になる子ども」や発達障害をもつ子どもについての正しい理解とさらに、その子に合わせた適切な対応指導・支援の仕方を身に付くことができる。

【授業の展開計画】
１．　オリエンテーション　（李）
２．　発達障害児への援助　ー現状と課題ー　（李）
３．　援助の基礎となる理論と課題　（李）
４．　行動問題に関する援助について　（李）
５．　コミュニケーションに関する援助　（李）
６．　教育的対応としての援助　（李）
７．　地域や家庭における生活に関する援助（李）
８．　アセスメントと支援の方法　（李）
９．　困りごとの理解と対応するプログラムの作り方　（水間）
１０．　ＳＳＴにおける基礎的理解と応用　（水間）
１１．　スキルトレーニングの支援と実践　（水間）
１２．　リラクゼーションスキルの支援と実践　（水間）
１３．　コミュニケーションスキルトレニングの支援と実践　（水間）
１４．　ペアレントトレーニングの支援と実践　（水間）
１５．　ＡＳＤ（自閉症スペクトラム障害）の理解と適応指導について（李）

【履修上の注意事項】
○　事前学習；　発達障害児の行動特性について調べる。
○　事後学習；　発達障害児の療育支援について現場での事例文献を収集する。

【評価方法】
定期テスト５０点、授業態度及び発表・発言３０点、レポート２０点、合計１００点

【テキスト】
プリントを配布する。

【参考文献】
授業進行に沿って紹介する。

福祉法学

担当教員 野﨑　和義

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
以下の各点について理解する。
①相談援助活動と法、②相談援助活動と成年後見制度、③成年後見制度の実際、④社会的排除や虐待などの権利侵害、認知症などで日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	相談援助活動と法との関わり（１）：日本国憲法の基本原理、民法等の理解
2	相談援助活動と法との関わり（２）：行政法の理解、福祉関連法の理解
3	成年後見制度（１）：制度の概要（法定後見と任意後見、制限行為能力）
4	成年後見制度（２）：法定後見の各類型と申立て手続き
5	成年後見制度（３）：任意後見とその利用手続き
6	成年後見制度（４）：成年後見人の職務と権限、その課題（医療同意権等）
7	成年後見制度利用支援事業：事業の概要、対象者、制度の根拠
8	日常生活自立支援事業（１）：事業の概要（専門員、生活支援員の役割）
9	日常生活自立支援事業（２）：成年後見制度との連携
10	権利擁護に関わる組織と団体：家庭裁判所、市町村、社会福祉協議会等の役割
11	権利擁護に関わる専門職：弁護士、司法書士、社会福祉士等の活動の実際
12	成年後見活動の実際：消費者被害を受けた者への対応、障害児・者への支援等
13	権利擁護活動の実際（１）：被虐待児・者への対応、高齢者虐待への対応等
14	権利擁護活動の実際（２）：非行少年への対応、ホームレスへの対応等
15	障害者と法：障害者虐待防止法、障害者差別解消法

【履修上の注意事項】
・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】
定期試験（100%）の成績によって評価する。

【テキスト】
野﨑和義著『福祉法学』2013年、ミネルヴァ書房。
野﨑和義監修『社会福祉六法』2018年、ミネルヴァ書房（過年度版でも可）。

【参考文献】

更生保護制度

担当教員 野﨑　和義、未定

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
①相談援助活動において必要となる更生保護制度について理解する。
②更生保護を中心に、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について理解する。
③刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携の在り方について理解する。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	社会福祉士と更生保護（更生保護の意義、法的位置づけ）
2	満期釈放と仮釈放、執行猶予
3	更生保護活動の実際①（刑務所に配置された社会福祉士の活動）　（外部講師〔予定〕）
4	保護観察、更生緊急保護
5	生活環境の調整（含：特別調整）
6	更生保護活動の実際②（保護観察官、保護司の活動）　（外部講師〔予定〕）
7	更生保護施設、民間協力者（ＢＢＳ、更生保護女性会、協力雇用主等）
8	裁判所・検察庁・矯正施設、福祉事務所との関わり、児童相談所との連携
9	更生保護活動の実際③（地域生活定着支援センターの活動）　（外部講師〔予定〕）
10	医療観察法に基づく処遇制度の創設（社会復帰調整官の役割）、生活環境の調査
11	生活環境の調整、地域社会における処遇（精神保健観察等）、関係機関との連携
12	更生保護活動の実際④（社会復帰調整官の活動）　（外部講師〔予定〕）
13	医療観察制度の課題（措置入院・指定通院医療における精神保健福祉士の役割）
14	資格制限と社会復帰、恩赦、犯罪被害者等への施策
15	更生保護の今後の展望と課題（含：刑の一部執行猶予、社会貢献活動）

【履修上の注意事項】
・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】
定期試験(100%)の成績によって評価する。

【テキスト】
野﨑和義著『更生保護と刑事法』2016年、ミネルヴァ書房。
野﨑和義監修『社会福祉六法』2018年、ミネルヴァ書房（過年度版でも可）。

【参考文献】
各回の講義の際に適宜紹介する。

福祉サービスの組織と経営

担当教員 豊田　保

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
近年、社会福祉施設をはじめとする福祉サービス提供組織は、社会福祉基礎構造改革や福祉市場化などに伴う市場原理導入のなかで、新たな福祉経営への転換を迫られている。本講義では、こうした経営環境の変化や経営学などの組織・経営理論を踏まえたうえで、①社会福祉法人やNPO法人など法的な体系を理解すること、②良質なサービスを提供するための経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報など）の管理運営について理解すること、および、経営実務ができるための知識を習得する。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	オリエンテーション　福祉の組織と経営　福祉サービスとは
2	福祉サービスの組織と団体　社会福祉法人(その1)
3	福祉サービスの組織と団体　社会福祉法人(その2)
4	福祉サービスの組織と団体　NPO法人
5	福祉サービスの組織と団体　医療法人・公益法人
6	福祉サービスの組織と経営の基礎理論　事業計画・組織
7	福祉サービスの組織と経営の基礎理論　管理運営・財務
8	福祉サービスの運営管理の方法　管理・サービス評価
9	福祉サービスの運営管理の方法　苦情対応・リスク対策
10	福祉サービスの人事管理と労務管理　人事労務管理
11	福祉サービスの人事管理と労務管理　人材養成
12	福祉サービスの会計管理と財務管理　社会福祉法人の会計
13	福祉サービスの会計管理と財務管理　社会福祉法人の財務管理
14	福祉サービスの情報管理　情報の管理・活用
15	福祉サービスの組織と経営の総合理解

【履修上の注意事項】
本教科は、社会福祉国家試験の指定科目である。
予習を積極的に行い、授業内容を教科書や文献で事前に調べておくこと。
復習では、疑問点や理解不足と判断した事柄をテキスト等で再度学習すること。

【評価方法】
定期試験によって評価（100%）する。

【テキスト】
社会福祉士養成講座編集委員会編　11　『福祉サービスの組織と経営』（最新版），中央法規出版

【参考文献】
適宜紹介する。

精神保健福祉論Ⅰ

担当教員 茶屋道　拓哉

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1　精神保健福祉の歴史と理念、発達プロセスを過去の制度施策・歴史的事実を通して解釈できるようになる。
2　精神障害者の相談援助活動と法（精神保健福祉法）との関わりについてその根拠を説明できるようになる。
3　精神障害者の支援に関連する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について説明できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉に関する制度とサービス
2	精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化①精神病者監護法～精神保健法まで
3	精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化②精神保健法～精神保健福祉法まで
4	精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化③精神保健福祉法～総合支援法まで
5	精神保健福祉法の概要①法の目的、対象、医療及び保護、保健及び福祉
6	精神保健福祉法の概要②精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割（入院制度を中心に）
7	精神保健福祉法の概要②精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割（各種サービス）
8	精神保健福祉法の概要③最近の動向
9	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス①障害者基本法と精神障害者施策のかかわり
10	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス②障害者総合支援法における精神障害者福祉サービス
11	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス③精神障害者を対象とした福祉施策・事業
12	精神障害者に関連する社会保障制度の概要①精神障害者と社会保障制度
13	精神障害者に関連する社会保障制度の概要②医療保険制度
14	精神障害者に関連する社会保障制度の概要③介護保険制度
15	精神障害者に関連する社会保障制度の概要④経済的支援に関する制度

【履修上の注意事項】
1 期末試験の受験と合格（60点以上　学則参照）
2 本科目は精神保健福祉士国家試験における指定科目（精神保健福祉に関する制度とサービス）である
3 授業前に当該担当部分についてのテキストを一読しておくこと
4 授業後に配布された資料とテキストなどを照らし合わせながら授業の振り返り（復習）を行うこと

【評価方法】
1 授業中のレスポンス・ミニレポート30%）
2 期末試験成績（70%）

【テキスト】
新精神保健福祉士養成講座⑥『精神保健福祉に関する制度とサービス（第6版）』2018年，中央法規

【参考文献】
『精神保健医療福祉白書　2017年版』精神保健医療福祉白書編集委員会編,中央法規

精神保健福祉論Ⅱ

担当教員 茶屋道　拓哉

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1　精神障害者の支援において係わる施設、団体、関係機関等について説明できるようになる。
2　更生保護制度と医療観察法について説明できるようになる。
3　社会資源の調整・開発に係わる社会調査の概要と活用について基礎的な知識を備える。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	相談援助にかかわる組織、団体、関係機関①行政組織と民間組織
2	相談援助にかかわる組織、団体、関係機関②福祉サービス提供施設・機関の役割
3	相談援助にかかわる組織、団体、関係機関③インフォーマルな社会資源の役割
4	相談援助に係わる組織、団体、関係機関④専門職や地域住民の役割と実際
5	更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係①刑事司法と更生保護
6	更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係②保護観察所と更生保護の担い手
7	更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係③司法・医療・福祉の連携の必要性と実際
8	医療観察法の概要と実際①医療観察法の意義と内容
9	医療観察法の概要と実際②医療観察法の審判と精神保健参与員の役割
10	医療観察法の概要と実際③入院医療
11	医療観察法の概要と実際④地域処遇
12	医療観察法の概要と実際⑤社会復帰調整官の役割と実際
13	社会資源の調整・開発にかかわる社会調査①意義・目的・対象・倫理
14	社会資源の調整・開発にかかわる社会調査②量的調査法と質的調査法
15	社会資源の調整・開発にかかわる社会調査②ICTの活用・実践例

【履修上の注意事項】
1 期末試験の受験と合格（60点以上　学則参照）
2 本科目は精神保健福祉士国家試験における指定科目（精神保健福祉に関する制度とサービス）である
3 授業前に当該担当部分についてのテキストを一読しておくこと
4 授業後に配布された資料とテキストなどを照らし合わせながら授業の振り返り（復習）を行うこと

【評価方法】
1 授業中のレスポンスとミニレポート（30%）
2 期末試験成績（70%）

【テキスト】
新精神保健福祉士養成講座⑥『精神保健福祉に関する制度とサービス（第6版）』2018年，中央法規

【参考文献】
『精神保健医療福祉白書 2017年版』精神保健医療福祉白書編集委員会編,中央法規

精神保健福祉論Ⅲ

担当教員 茶屋道　拓哉

配当年次 ４年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1 精神障害者の生活支援の意義と特徴について説明できるようになる。
2 精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について基礎的知識を備える。
3 職業リハビリテーションの概念および精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動について基礎的知識を備える。
4 行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について説明できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	精神障害者の概念①障害の概念・ICFによる障害の概念
2	精神障害者の概念②障害者基本法・精神保健福祉法における定義、精神障害者の特性
3	精神障害者の生活の実際①精神障害者と家族の現状
4	精神障害者の生活の実際②精神障害者と地域社会
5	精神障害者の生活の実際③海外における生活支援モデルの動向
6	精神障害者の生活と人権①精神障害者の生活支援の理念と概念
7	精神障害者の生活と人権②地域生活における精神障害者の人権
8	精神障害者の地域生活支援システム①社会参加のための地域生活支援システム、相談援助
9	精神障害者の地域生活支援システム②雇用・就業以外の就労、余暇活動
10	精神障害者の地域生活支援システム③ソーシャルサポートネットワーク、クライシスケアシステム
11	精神障害者の居住支援①居住支援制度の歴史的展開と現在の動き
12	精神障害者の居住支援②居住支援における精神保健福祉士や専門職の役割
13	精神障害者の雇用・就業支援①雇用・就業制度の概要、歴史的展開
14	精神障害者の雇用・就業支援②雇用・就業・福祉的就労と専門職
15	行政における相談援助

【履修上の注意事項】
1 期末試験の受験と合格（60点以上　学則参照）
2 本科目は精神保健福祉士国家試験における指定科目（精神障害者の生活支援システム）である
3 授業前に当該担当部分についてのテキストを一読しておくこと
4 授業後に配布された資料とテキストなどを照らし合わせながら授業の振り返り（復習）を行うこと

【評価方法】
1 授業中のレスポンスとミニレポート（30%）
2 期末試験成績（70%）

【テキスト】
新・精神保健福祉士養成講座⑦『精神障害者の生活支援システム（第3版）』2018年，中央法規

【参考文献】
『精神保健医療福祉白書　2017年版』精神保健医療福祉白書編集委員会編,中央法規

ソーシャルワーク論Ⅲ

担当教員 豊田　保

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1. 相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解できる。
2. 相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解できる。
3. 相談援助の過程、知識や技術（介護保険及び障害者総合支援のサービス計画等を含む）について理できる。
4. 相談援助における事例分析の意義や方法について理解できる。
5. 相談援助の実際（権利擁護活動を含む）について理解し、支援が展開できる。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	ソーシャルワーク（相談援助）における援助関係の意義と概念を理解する（利用者の意思決定支援）
2	ソーシャルワーク（相談援助）における関係形成を理解する（ラポール、自己覚知など）
3	ソーシャルワーク（相談援助）の機能・役割を理解する（ミクロ・メゾ・マクロの役割）
4	インテークの意義、目的を理解する
5	インテークの方法、留意点を理解する（マイクロカウンセリング等傾聴・共感等のスキル）
6	アセスメントの意義、目的を理解する（問題把握・ニーズ確定支援等・エコマップのスキル）
7	アセスメントの方法、留意点を理解する（事前評価から支援目標等記入のスキル）
8	プランニングの意義、目的を理解する(援助計画、介護保険のケアプラン、ナラティブのスキル)
9	プランニングの方法、留意点を理解する（援助計画、センター方式のスキル）
10	説明と同意、及び各サービス計画を理解する(ケアプランの作成と契約スキル)
11	モニタリングと評価の目的、方法を理解する(プロセス評価とアウトカム評価)
12	再アセスメントを理解する（初期アセスメント・再アセスメント）
13	終結と効果測定の目的、方法を理解する(支援プロセスの視覚化)
14	予防的対応とサービス開発を理解する（個別援助から地域支援へ）
15	相談援助論の総合スキルを理解する（新たな福祉サービス支援・全世代型援助）

【履修上の注意事項】
1. 社会福祉士国家試験受験資格取得希望者は、必ず履修する必要がある。
3. 予習については、授業計画のテーマに基づいて、テキストや他の文献等で事前学習すること。
4. 復習については、疑問点や理解不足の部分をテキスト等で再確認すること。

【評価方法】
期末試験と必要に応じたレポート課題によって評価する。

【テキスト】
社会福祉士養成講座編『相談援助の理論と方法Ⅰ』新・社会福祉士養成講座⑦、中央法規出版。

【参考文献】
社会福祉士養成講座編『相談援助の基礎と専門職』新・社会福祉士養成講座⑥、中央法規出版。※1年の教科書

ソーシャルワーク論Ⅳ

担当教員 豊田　保

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1. 相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解する。
2. 相談援助の対象と様々な実践モデルについてそのスキルが実践できる。
3. 相談援助の過程、知識や技術について理解でき、援助のプランニングができる。
4. 相談援助における事例分析の意義や方法について理解し、実践できる。
5. 相談援助の実際（権利擁護活動を含む）について理解し、実践できる。

【授業の展開計画】
１.オリエンテーション　ソーシャルワーク論Ⅲの振り返り　（相談援助のプロセスを中心に）
２.相談援助の展開過程Ⅱ　個別支援から地域支援へ
３.相談援助のためのアウトリーチの技法
４.相談援助のための契約の技術
５.相談援助のためのアセスメントの技術
６.相談援助のためのアセスメントの技術
７.相談援助の介入技術
８.相談援助のための面接の技術
９.相談援助のための記録　意義と目的　記録の種類と活用
１０.相談援助のための記録　記録の方法とIT化　記録と倫理
１１.相談援助のための交渉と技術
１２.スーパービジョンの技術　スーパーバイザーとスーパーバイジーの関係
１３.事例研究・事例分析①　児童虐待が疑われた事例　ホームレスへの相談援助事例
１４.事例研究・事例分析②　ドメスティック・バイオレンスの事例　認知症夫婦の事例
１５.事例研究・事例分析③　社会的排除に対する事例

【履修上の注意事項】
1　社会福祉士国家試験受験希望者は、必ず履修すること。
2　予習については、授業の内容について、教科書や事例集で事前に学習しておくこと。
3　復習については、授業で疑問に思ったことや支援方法を参考書等で再確認すること。

【評価方法】
期末試験によって評価する(100%)。

【テキスト】
社会福祉士養成講座編集委員会編　7　『相談援助の理論と方法Ⅰ』（最新版）中央法規出版。

【参考文献】
授業の進展に応じて、適宜、提示する。

ソーシャルワーク論Ⅴ

担当教員 豊田　保

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
下位学年で学習したソーシャルワークの知識と得られた知見を用いて、相談援助を実践する際に求められる価値と倫理、専門知識と技術について理解する。特に以下の点について学習する。
①ソーシャルワークにおける対象、ケアマネジメント、グループワークを理解する。
②ソーシャルワークにおけるコーディネーション、ネットワーキングを理解する。
③ソーシャルワークにおける社会資源の調整及び開発について把握する。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	社会福祉士・精神保健福祉士の相談援助活動の対象及び基本的な考え方について
2	集団の性質やグループダイナミックスについて
3	集団を活用した相談援助の意義、目的について
4	集団を活用した相談援助の方法、留意点について
5	自助グループについて
6	ケアマネジメントの目的、方法について
7	アウトリーチの目的、方法について
8	社会資源の活用・調整・開発について
9	ネットワーキングの目的、方法について
10	各種のネットワーキングの実際について
11	ケア会議の意義と目的について
12	「個人情報保護法」の運用について
13	ＩＴを活用した支援方法の意義と目的について
14	ＩＴを活用した支援方法と留意点について
15	ソーシャルアクションによる社会システムづくりについて

【履修上の注意事項】
社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験を受験する者は、必ず履修しなければならない。
授業前の課題学習と授業後の復習を行うこと。

【評価方法】
期末試験によって評価する（100%）。

【テキスト】
社会福祉士養成講座編集委員会編　8　『相談援助の理論と方法Ⅱ』（最新版）, 中央法規出版。

【参考文献】
授業の進展に応じて提示する。

ソーシャルワーク論Ⅵ

担当教員 豊田　保

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
①社会福祉士及び精神保健福祉士の相談援助の対象や利用者の権利擁護について理解する。
②相談援助における専門職の概念および総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義や内容を理解する。
③相談援助における人と環境との交互作用に関する理論や様々な実践モデルを把握する。
④相談援助の過程と技術を把握する。
⑤相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	ジェネリック・ソーシャルワークとスペシフィック・ソーシャルワークについて把握する。
2	人と環境の交互作用を理解するためにシステム理論について把握する。
3	一般システム理論やサイネバテックス、自己組織性について理解する。
4	相談援助の対象の概念と範囲について把握する。
5	様々な実践モデルのうち、治療モデルのアプローチについて理解する。
6	生活モデルについてソーシャルワークの視点から理解する。
7	ストレングスモデルについて理解する。
8	心理社会的アプローチについて理解する。
9	機能的アプローチについて理解する。
10	問題解決アプローチについて理解する。
11	課題中心アプローチについて理解する。
12	危機介入アプローチについて理解する。
13	行動変容アプローチについて理解する。
14	エンパワメントアプローチについて理解する。
15	フェミニストアプローチについて理解する。

【履修上の注意事項】
社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験を受験しようとする者は、必ず履修しなければならない。
授業前の事前学習と授業後の復習を地道に行うこと。

【評価方法】
期末試験によって評価する（100%）。

【テキスト】
社会福祉士養成講座編集委員会編 8 『相談援助の理論と方法Ⅱ』（最新版）中央法規出版。

【参考文献】
授業の進展に応じて提示する。

相談援助演習 I

担当教員 田島　望

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
相談援助に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ，社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について，次に掲げる方法を用いて，実践的に習得するとともに，専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する．①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶ．②具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）やグループワークを中心とする演習形態にて実施し，必要な技術等について具体的にイメージできる．

【授業の展開計画】

週	授業の内容	
1	シラバスの説明．アイスブレーキング．	
2	相談援助の知識と技術に係る他科目との関連性の理解．個別指導及び集団指導の意義，方法の理解．	
3	グループダイナミクスを活用した他者理解と自己理解（自己覚知）	
4	基本的なコミュニケーション技術の実技指導	①コミュニケーションの種類
5	基本的なコミュニケーション技術の実技指導	②小集団の性質
6	基本的なコミュニケーション技術の実技指導	③対人コミュニケーションの性質
7	基本的なコミュニケーション技術の実技指導	④チームアプローチ
8	基本的な面接技術について実技指導を通して習得	①面接の過程（記録の技術）
9	基本的な面接技術について実技指導を通して習得	②インテーク（情報の収集・整理・伝達の技術）
10	基本的な面接技術について実技指導を通して習得	③アセスメント（課題の発見・分析等の技術）
11	基本的な面接技術について実技指導を通して習得	④プランニング
12	基本的な面接技術について実技指導を通して習得	⑤支援の実施とモニタリング
13	基本的な面接技術について実技指導を通して習得	⑥効果測定
14	基本的な面接技術について実技指導を通して習得	⑦終結とアフターケア
15	ふり返りとまとめ	

【履修上の注意事項】
・講義と実習をつなぐ重要な科目であることを理解して取り組んでください．
・内容をよく確認し，事前学習および講義内容についての復習を行い次回の講義に参加すること．
・演習形態での授業のため，各回のグループワークやロールプレイ等への主体的な参加（発言）を求めます
・毎回の講義を積み上げていきますので，出席は必須と考えてください．

【評価方法】
演習の参加態度と授業内の課題への取り組み（40%），課題レポート（30%），学期末総合課題（30%）により総合的に評価します．

【テキスト】
講義内にて，適宜紹介・配布します

【参考文献】
講義内にて，適宜紹介します

相談援助演習Ⅰ

担当教員 福﨑　千鶴

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基本的な知識、技術、価値を理解する。また、専門的な実践能力をつけるために、専門的援助技術を習得する。①総合的かつ包括的な相談援助について理解し、考察することができる。②地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学び理解することができる。③個別指導および集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング、モデリング等）を中心とする演習形態により専門的援助技術を習得する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション、アイスブレーキングを通して基本的なコミニュケーション技術を習得する
2	相談援助の知識と技術に係る専門科目との関連性の理解。個別指導・集団指導の意義、方法の理解
3	グループダイナミクスを活用した小集団活動における自己と他者の理解
4	基本的なコミュニケーション技術の実践①コミュニケーションの種類を理解する
5	基本的なコミュニケーション技術の実践②小集団の性質を理解する
6	基本的なコミュニケーション技術の実践③相談援助に伴う意図的な対人コミュニケーションの理解
7	基本的なコミュニケーション技術の実践④チームアプローチの手法について学ぶ
8	基本的面接技術の実践①面接の過程（記録の技術）に伴う専門的技術を習得する
9	基本的面接技術の実践②インテーク（情報の収集・整理・伝達の技術）について理解する
10	基本的面接技術の実践③アセスメント（課題の発見・分析・解決の技術）について理解する
11	基本的面接技術の実践④プランニングを行う
12	基本的面接技術の実践⑤支援の実施とモニタリングを行う
13	基本的面接技術の実践⑥効果測定について理解する
14	基本的面接技術の実践⑦終結とアフターケアについて理解する
15	基本的面接技術の実践について総合的な理解を深める

【履修上の注意事項】
グループ学習を通じて、相互に意見交換しあいながら授業課題に主体的に取り組むこと。
事前に与えられた課題に積極的に取り組むこと。
授業後に復習しておくこと。
学生状況をみながら、フィールドワークや特別講師による講話などを取り入れ、相談援助専門職としての基本的な知識・技術・価値・倫理などの実践力を修得する。

【評価方法】
出席日数（３分の２以上）があり、授業態度(予習・復習を踏まえた発表など）50%及びレポート提出等50%により、総合的に評価する。

【テキスト】
使用しない

【参考文献】
参考文献は授業中に随時紹介する。

相談援助演習Ⅰ

担当教員 平川　泰士

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
相談援助の知識と技術に係るほかの科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができることをめざす。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により実施する。

【授業の展開計画】
01　オリエンテーション。シラバスの説明。アイスブレーキング(自己紹介を含む)
02　相談援助の知識と技術に係る他科目との関連性の理解。個別指導及び集団指導の意義、方法の理解
03　グループダイナミクス活用（演習形態を含む)における他者認知と自己覚知の意義、方法と内容の理解、技術習得
04　基本的なコミュニケーション技術の実技指導①コミュニケーションの種類
05　基本的なコミュニケーション技術の実技指導②小集団の性質
06　基本的なコミュニケーション技術の実技指導③対人コミュニケーションの性質
07　基本的なコミュニケーション技術の実技指導④チームアプローチ
08　基本的な面接技術について実技指導を通して習得①面接の過程（記録の技術）
09　基本的な面接技術について実技指導を通して習得②インテーク（情報の収集・整理・伝達の技術）
10　基本的な面接技術について実技指導を通して習得③アセスメント(課題の発見・分析・解決の技術)
11　基本的な面接技術について実技指導を通して習得④プランニング
12　基本的な面接技術について実技指導を通して習得⑤支援の実施とモニタリング
13　基本的な面接技術について実技指導を通して習得⑥効果の測定
14　基本的な面接技術について実技指導を通して習得⑥終結とアフターケア
15　まとめ

【履修上の注意事項】
小集団による話し合いやグループワークを行うので、積極的に参加することを求める。本演習では，社会福祉士、
精神保健福祉士の国家資格の取得を前提とし､専門職として就労することを目標にする学生が望ましい｡また､指定された課題について、あらかじめ調べ準備を整え､不明な箇所については自身で調べ直す予習復習を求める。

【評価方法】
授業態度・発表の内容・技能習得状況が50%、予習復習による自主的学習態度・状況が10%、
課題の内容・提出状況・学期末時の課題が40%による総合評価とする。

【テキスト】
日本ソーシャルワーク学会『ソーシャルワーク基本用語辞典』川島書店、2013年
その他講義時指定する

【参考文献】
随時指示する。

相談援助演習Ⅰ

担当教員 後藤　秀昭

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1. 相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を理解できる。
2. 社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術を実践的に習得できる。
3. 専門的援助技術として概念化し、理論化して体系立てていくことができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	演習内容の説明と自己紹介を含むアイスブレーキングを行う。
2	相談援助の知識と技術に係る他科目との関連性を理解させる。
3	他者認知と自己覚知の意義、方法と内容を理解させ、その技術を習得させる。
4	基本的なコミュニケーション技術の実技指導を行い、コミュニケーションの種類を理解させる。
5	小集団の性質を理解した上で、基本的なコミュニケーションの技術を実技指導する。
6	実技指導により、基本的なコミュニケーションの技術を習得させる。
7	チームアプローチを意図した実技指導を行い、 基本的なコミュニケーションの技術を習得させる。
8	面接の過程として、記録の技術を実技指導して習得させる。
9	インテーク時の情報の収集と整理、伝達の技術を実技指導し、基本的な面接技術を習得させる。
10	アセスメントの実技指導を行い、課題の発見や分析、解決の技術等を習得させる。
11	プランニングの実技指導を行い、支援計画を習得させる。
12	支援の実施とモニタリングについて実技指導し、基本的な面接技術を習得させる。
13	効果測定について実技指導を行い、基本的な面接技術を習得させる。
14	終結とアフターケアについて実技指導を行い、基本的な面接技術を習得させる。
15	インテークからアフターケアまでの援助過程を振り返り、その要諦を整理させる。

【履修上の注意事項】
相談援助演習のもととなるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと。
演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと。

【評価方法】
①講義中のレポート提出及びレポート内容の評価
②学期末の課題レポートの評価
①、②の合計で評価する。

【テキスト】
特に指示しない。授業時、適宜、資料を配布する。

【参考文献】
適宜、配布する。

相談援助演習Ⅰ

担当教員 橋本　眞奈美

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる具体的な援助場面を想定した実技指導を通して、相談援助に係る知識や技術を実践的に習得することができる。
②相談援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶことで、相談援助を概念化、理論化し、体系立てて捉えることができる。
③相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を把握することができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	シラバスの説明、アイスブレーキング（自己紹介を含む）
2	相談援助の知識と技術に係る他科目との関連性についての理解、個別指導と集団指導の意義と方法
3	他者理解と自己覚知の意義と方法の理解、加えて技術を取得
4	基本的コミュニケーション技術の実技指導①コミュニケ―ションの種類
5	基本的コミュニケーション技術の実技指導②小集団の性質
6	基本的コミュニケーション技術の実技指導③対人コミュニケーションの性質
7	基本的コミュニケーション技術の実技指導④チームアプローチ
8	基本的な面接技術について実技指導と習得①面接の過程（記録の技術）
9	基本的な面接技術について実技指導と習得②インテーク（情報の収集・整理・伝達の技術）
10	基本的な面接技術について実技指導と習得③アセスメント（課題の発見・分析・解決の技術）
11	基本的な面接技術について実技指導と習得④プランニング
12	基本的な面接技術について実技指導と習得⑤支援の実施とモニタリング
13	基本的な面接技術について実技指導と習得⑥効果の測定
14	基本的な面接技術について実技指導と習得⑦終結とアフターケア
15	インテークからアフターケアまでの援助過程の振り返りと要諦の整理

【履修上の注意事項】
社会福祉士国家試験受験資格希望者は、必ず２年次１学期から履修すること。
グループでの話し合いでは、進んで発言することが望まれる。授業の前には配布されている資料を熟読しておくこと。授業後は専門用語の確認と授業内容を振り返っておくこと。

【評価方法】
授業態度、積極的姿勢から20%
課題レポートの提出＆内容から30%
試験から50%

【テキスト】
『ソーシャルワーク基本用語辞典』　2013年刊　川島書店

【参考文献】
必要に応じて配布、もしくは指示する

相談援助演習Ⅱ

担当教員 田島　望

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
相談援助に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ，社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について，次に掲げる方法を用いて，実践的に習得するとともに，専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する．①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶ．②具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）やグループワークを中心とする演習形態にて実施し，必要な力量を身につけることができる．

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	シラバスの説明．相談援助演習の意義，方法の理解．（演習Ⅰのふり返りを含む）
2	ソーシャルワークの過程（インテーク・アセスメント・プランニング等）の理解
3	身体障がい（社会的排除を含む）の事例の理解
4	身体障がい（社会的排除を含む）の相談援助場面及び過程の理解
5	身体障がい（社会的排除を含む）の実技指導（ロールプレイ・モデリング）
6	知的障がい（社会的排除を含む）の事例の理解
7	知的障がい（社会的排除を含む）の相談援助場面及び過程の理解
8	知的障がい（社会的排除を含む）の実技指導（ロールプレイ・モデリング）
9	精神障がい（社会的排除を含む）の事例の理解
10	精神障がい（社会的排除を含む）の相談援助場面及び過程の理解
11	精神障がい（社会的排除を含む）の実技指導（ロールプレイ・モデリング）
12	高齢者　（虐待を含む）の事例の理解
13	高齢者　（虐待を含む）の相談援助場面及び過程の理解
14	高齢者　（虐待を含む）の実技指導（ロールプレイ・モデリング）
15	ふり返りとまとめ

【履修上の注意事項】
・相談援助演習Ⅰを修得済であることを前提とする．
・講義と実習をつなぐ重要な科目であることを理解し，演習Ⅰでの学びを踏まえて取り組んでください．
・内容をよく確認し，事前学習および講義内容についての復習を行い次回の講義に参加すること．
・演習形態での授業のため，各回のグループワークやロールプレイ等への主体的な参加（発言）を求める．
・毎回の講義を積み上げていくため，出席は必須と考えてください．

【評価方法】
演習の参加態度と授業内の課題への取り組み（40%），課題レポート（30%），学期末総合課題（30%）により総合的に評価します．

【テキスト】
講義内にて，適宜紹介・配布します

【参考文献】
講義内にて，適宜紹介します

相談援助演習Ⅱ

担当教員 福﨑　千鶴

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基本的な知識、技術、価値を理解する。また、専門的な実践能力をつけるために、専門的援助技術を習得する。①総合的かつ包括的な相談援助について理解し考察する。②地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学び理解する。③個別指導および集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング、モデリング等）を中心とする演習形態により専門的援助技術を習得することができる。

【授業の展開計画】
相談援助実習･精神保健福祉援助実習及び社会福祉士･精神保健福祉士の業務に必要な知識･技術･倫理について、実技指導を中心とした演習形態の授業を通して体系的･理論的かつ具体的に習得する。

週	授　業　の　内　容
1	シラバスの説明 事例研究及び実技指導の意義を理解する
2	相談援助過程(インテーク･アセスメント･プランニング･支援の実施･モニタリング･終結)を理解する
3	事例の理解と相談援助場面及び過程を想定した実技指導 身体障害（社会的排除を含む)①事例の理解
4	身体障害（社会的排除を含む)②相談援助場面及び過程の理解
5	身体障害（社会的排除を含む)③実技指導(ロールプレイ･モデリング)
6	知的障害（社会的排除を含む)①事例の理解
7	知的障害（社会的排除を含む)②相談援助場面及び過程の理解
8	知的障害（社会的排除を含む)③実技指導(ロールプレイ･モデリング)
9	精神障害（社会的排除を含む)①事例の理解
10	精神障害（社会的排除を含む)②相談援助場面及び過程の理解
11	精神障害（社会的排除を含む)③実技指導(ロールプレイ･モデリング)
12	高 齢 者（虐待を含む）①事例の理解
13	高 齢 者（虐待を含む）②相談援助場面及び過程の理解
14	高 齢 者（虐待を含む）③実技指導(ロールプレイ･モデリング)
15	総合的な相談援助過程（効果測定を含む）を理解する

【履修上の注意事項】
社会福祉士の相談援助場面を想定し、指定された事例をもとに予習復習をして、演習課題に主体的に取り組むこと。
学生状況をみながら特別講師による講話やフィールドワークを通して相談援助に伴う実践力の習得を図ることもある。

【評価方法】
出席日数が3分の2以上あり、授業参加態度(予習・復習を活かした発表など）50%,課題レポート等50%により総合的に評価する。

【テキスト】
適宜、必要資料やプリントを配布する。

【参考文献】
適宜、紹介する。

相談援助演習Ⅱ

担当教員 平川　泰士

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
相談援助の知識と技術に係るほかの科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができることをめざす。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により実施する。

【授業の展開計画】
01　シラバスの説明。アイスブレーキング。事例研究及び実技指導（ロールプレイ等)の意義の理解。
02　面接の過程の（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果の測定・終結・アフターケア）の理解
03　身体障害（社会的排除を含む)①事例の理解
04　身体障害（社会的排除を含む)②相談援助場面及び過程の理解
05　身体障害（社会的排除を含む)③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
06　知的障害（社会的排除を含む)①事例の理解
07　知的障害（社会的排除を含む)②相談援助場面及び過程の理解
08　知的障害（社会的排除を含む)③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
09　精神障害（社会的排除を含む)①事例の理解
10　精神障害（社会的排除を含む)②相談援助場面及び過程の理解
11　精神障害（社会的排除を含む)③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
12　高齢者（虐待を含む）①事例の理解
13　高齢者（虐待を含む）②相談援助場面及び過程の理解
14　高齢者（虐待を含む）③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
15　まとめ（面接の過程の理解）

【履修上の注意事項】
小集団による話し合いやグループワークを行うので、積極的に参加することを求める。本演習では，社会福祉士、
精神保健福祉士の国家資格の取得を前提とし､専門職として就労することを目標にする学生が望ましい｡また､指定さ
れた課題について、あらかじめ調べ準備を整え､不明な箇所については自身で調べ直す予習復習を求める。

【評価方法】
授業態度・発表の内容・技能習得状況が50%、予習復習による自主的学習態度・状況が10%、
課題の内容・提出状況・学期末時の課題が40%による総合評価とする。

【テキスト】
講義時に紹介する

【参考文献】
講義時に紹介する

相談援助演習Ⅱ

担当教員 橋本　眞奈美

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる具体的な援助場面を想定した実技指導を通して、相談援助に係る知識や技術を実践的に習得することができる。
②相談援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶことで、相談援助を概念化、理論化し、体系立てて捉えることができる。
③相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を把握することができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	アイスブレーキング、授業についてのオリエンテーション、事例研究の意義を理解する
2	面接のプロセス理解とその重要性について考察を深める
3	重複（身体・知的）障害（社会的排除を含む）①事例の理解
4	重複（身体・知的）障害（社会的排除を含む）②相談援助場面及び過程の理解
5	重複（身体・知的）障害（社会的排除を含む）③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
6	子ども（虐待を含む）①事例の理解
7	子ども（虐待を含む）②相談援助場面及び過程の理解
8	子ども（虐待を含む）③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
9	精神（発達）障害（社会的排除を含む）①事例の理解
10	精神（発達）障害（社会的排除を含む）②相談援助場面及び過程の理解
11	精神（発達）障害（社会的排除を含む）③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
12	高齢者（虐待を含む）①事例の理解
13	高齢者（虐待を含む）②相談援助場面及び過程の理解
14	高齢者（虐待を含む）③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
15	相談援助場面及び過程の振返りを通して、アセスメントからプランニングまでの面接過程の再確認

【履修上の注意事項】
社会福祉士の相談援助場面を想定したグループによる学習が中心となるので積極的な姿勢で授業に参加すること。授業の前には配布されている資料を熟読しておくこと。授業後は専門用語の確認と授業内容を振り返っておくこと。

【評価方法】
授業態度、積極的姿勢から20%
課題レポートの提出＆内容から30%
試験から50%

【テキスト】
『ソーシャルワーク基本用語辞典』　2013年刊　川島書店

【参考文献】
必要に応じて配布、もしくは指示する

相談援助演習Ⅱ

担当教員 後藤　秀昭

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1. 相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を理解できる。
2. 社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得できる。
3. 専門的援助技術として概念化し、理論化して体系立てていくことができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	演習の説明と自己紹介を含むアイスブレーキングい、事例研究及び実技指導の意義を理解させる。
2	インテークから終結、アフターケアまでの面接の過程を理解させる。
3	身体障害（社会的排除を含む)の事例を通して実技指導を行い、相談援助場面を理解させる。
4	身体障害（社会的排除を含む)の事例を通して、相談援助場面および援助過程を理解させる。
5	身体障害（社会的排除を含む)の事例を通して、アセスメント、プランニングを理解させる。
6	知的障害（社会的排除を含む)の事例を通して実技指導を行い、相談援助場面を理解させる。
7	知的障害（社会的排除を含む)の事例を通して、相談援助場面および援助過程を理解させる。
8	知的障害（社会的排除を含む)の事例を通して、アセスメント、プランニングを理解させる。
9	精神障害（社会的排除を含む)の事例を通して実技指導を行い、相談援助場面を理解させる。
10	精神障害（社会的排除を含む)の事例を通して、相談援助場面および援助過程を理解させる。
11	精神障害（社会的排除を含む)の事例を通して、アセスメント、プランニングを理解させる。
12	高齢者（虐待を含む）の事例を通して実技指導を行い、相談援助場面を理解させる。
13	高齢者（虐待を含む）の事例を通して、相談援助場面および援助過程を理解させる。
14	高齢者（虐待を含む）の事例を通して、アセスメント、プランニングを理解させる。
15	相談援助場面および援助過程を振り返り、適切なアセスメントや支援プランの策定を理解させる。

【履修上の注意事項】
相談援助演習のもととなるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと。
演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと。
なお、この演習は「相談援助演習Ⅰ」を履修した上で、履修することが望ましい。

【評価方法】
①講義中のレポート提出及びレポート内容の評価
②学期末の課題レポートの評価
①、②の合計で評価する。

【テキスト】
特に指示しない。授業時、適宜、資料を配布する。

【参考文献】
適宜、配布する。

相談援助演習Ⅲ

担当教員 橋本　眞奈美

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる具体的な援助場面を想定した実技指導を通して、相談援助に係る知識や技術を実践的に習得することができる。
②相談援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶことで、相談援助を概念化、理論化し、体系立てて捉えることができる。
③相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を把握することができる。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	シラバスの説明、児童（虐待・貧困を含む）①事例の理解と実技指導
2	児童（虐待・貧困を含む）②相談援助場面及び過程の理解
3	児童（虐待・貧困を含む）③アセスメントからプランニングまでの理解と実技
4	ひとり親家庭・家庭内暴力（Ｄ．Ｖ）①事例の理解と実技指導
5	ひとり親家庭・家庭内暴力（Ｄ．Ｖ）②相談援助場面及び過程の理解
6	ひとり親家庭・家庭内暴力（Ｄ．Ｖ）③アセスメントからプランニングまでの理解と実技
7	低所得者①事例の理解とアセスメント
8	低所得者②相談援助場面及び過程の理解
9	低所得者③チームアプローチを活用したプランニング
10	ホームレス・ニート①事例の理解とアセスメント
11	ホームレス・ニート②相談援助場面及び過程の理解
12	ホームレス・ニート③社会資源の活用・調整・開発についての理解
13	事例の理解と相談援助場面及び過程を想定した実技指導　更生保護
14	事例の理解と相談援助場面及び過程を想定した実技指導　危機状態（権利擁護活動を含む）
15	振り返りとまとめ（面接場面の理解、プランニングに至るまでの過程の理解）

【履修上の注意事項】
社会福祉士の相談援助場面を想定したグループによる学習が中心となるので、積極的な姿勢で授業に参加すること。授業の前には配布されている資料を熟読しておくこと。授業後は専門用語の確認と授業内容を振り返っておくこと。

【評価方法】
授業態度、積極的姿勢から20%
課題レポートの提出＆内容から30%
試験から50%

【テキスト】
『ソーシャルワーク基本用語辞典』　2013年刊　川島書店

【参考文献】
必要に応じて配布、もしくは指示する

相談援助演習Ⅲ

担当教員 平川　泰士

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
相談援助の知識と技術に係るほかの科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができることをめざす。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により実施する。

【授業の展開計画】
01　シラバス説明。
　　児童(虐待を含む)①事例の理解
02　児童(虐待を含む)②相談援助場面及び過程の理解
03　児童(虐待を含む)③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
04　ひとり親家庭・家庭内暴力（D.V）①事例の理解
05　ひとり親家庭・家庭内暴力（D.V）②相談援助場面及び過程の理解
06　ひとり親家庭・家庭内暴力（D.V）③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
07　低所得者①事例の理解
08　低所得者②相談援助場面及び過程の理解
09　低所得者③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
10　ホームレス・ニート①事例の理解
11　ホームレス・ニート②相談援助場面及び過程の理解
12　ホームレス・ニート③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
13　事例の理解と相談援助場面及び過程を想定した実技指導　　更生保護
14　事例の理解と相談援助場面及び過程を想定した実技指導　　危機状態(権利擁護活動を含む)
15　まとめ（面接の過程の理解）

【履修上の注意事項】
小集団による話し合いやグループワークを行うので、積極的に参加することを求める。本演習では，社会福祉士、精神保健福祉士の国家資格の取得を前提とし､専門職として就労することを目標にする学生が望ましい｡また、指定された課題について、あらかじめ調べ準備を整え､不明な箇所については自身で調べ直す予習復習を求める。

【評価方法】
授業態度・発表の内容・技能習得状況が50%、予習復習による自主的学習態度・状況が10%、
課題の内容・提出状況・学期末時の課題が40%による総合評価とする。

【テキスト】
授業開講時に指示する。

【参考文献】
随時、授業時に紹介する。

相談援助演習Ⅲ

担当教員 後藤　秀昭

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1.相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を理解できる。
2.社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得できる。
3.専門的援助技術として概念化し、理論化して体系立てていくことができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	児童(虐待を含む)の事例を通して実技指導を行い、相談援助場面を理解させる。
2	児童(虐待を含む)の事例を通して、相談援助場面および援助過程を理解させる。
3	児童(虐待を含む）の事例を通して、アセスメント、プランニングを理解させる。
4	ひとり親家庭・家庭内暴力（D.V）の事例を通して実技指導を行い、相談援助場面を理解させる。
5	ひとり親家庭・家庭内暴力（D.V）の事例を通して、相談援助場面および援助過程を理解させる。
6	ひとり親家庭・家庭内暴力（D.V）の事例を通して、アセスメント、プランニングを理解させる。
7	低所得者の事例を通して実技指導を行い、相談援助場面を理解させる。
8	低所得者の事例を通して、相談援助場面および援助過程を理解させる。
9	低所得者の事例を通して、アセスメント、プランニングを理解させる。
10	ホームレスやニートの事例を通して実技指導を行い、相談援助場面を理解させる。
11	ホームレスやニートの事例を通して、相談援助場面および援助過程を理解させる。
12	ホームレスやニートの事例を通して、アセスメント、プランニングを理解させる。
13	更生保護に関する事例を通して実技指導を行い、アセスメントやプランニングを理解させる。
14	危機状態(権利擁護活動）の事例の実技指導を行い、アセスメントやプランニングを理解させる。
15	これまでの事例を振り返り、面接の過程、アセスメントやプランニングを理解させる。

【履修上の注意事項】
相談援助演習のもととなるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと。
演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと。
なお、この演習は「相談援助演習Ⅰ」および「相談援助演習Ⅱ」を履修した上で、履修することが望ましい。

【評価方法】
①講義中のレポート提出及びレポート内容の評価
②学期末の課題レポートの評価
①、②の合計で評価する。

【テキスト】
特に指示しない。授業時、適宜、資料を配布する。

【参考文献】
特になし。

相談援助演習Ⅲ

担当教員 福﨑　千鶴

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に関わる知識と技術について、次に揚げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る付帯的な相談援助事例を体系的に学ぶ。②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心とする演習形態により実施する。ソーシャルワーク実践力をつける。

【授業の展開計画】
1回目　シラバスの説明、演習Ⅰ・演習Ⅱの学びの共有、アイスブレーキング、アセスメントシートの説明
２回目　児童（虐待を含む）に対する支援について事例を理解する
（フェイスシート、ジェノグラム・エコマップ作成）
３回目　児童（虐待を含む）の相談援助場面および過程の理解する（社会資源の活用）
４回目　児童（虐待を含む）の相談援助の実技指導（ロールプレーイング、モデリング）
５回目　ひとり親家庭・家庭内暴力（ＤＶ）の事例を理解する
（フェイスシート、ジェノグラム・エコマップ作成）
６回目　ひとり親家庭・家庭内暴力（ＤＶ）の相談援助場面および過程の理解（社会資源の活用）
７回目　ひとり親家庭・家庭内暴力（ＤＶ）の相談援助の実技指導（ロールプレーイング、モデリング）
８回目　低所得者の事例の理解（フェイスシート、ジェノグラム・エコマップ作成）
９回目　低所得者の相談援助場面および過程の理解（社会資源の活用）
10回目　低所得者の相談援助の実技指導（ロールプレーイング、モデリング）
11回目　ホームレス・ニートの事例の理解（フェイスシート、ジェノグラム・エコマップ作成）
12回目　ホームレス・ニート相談援助場面および過程の理解
（フェイスシート、ジェノグラム・エコマップ作成）
13回目　ホームレス・ニート相談援助の実技指導（ロールプレーイング、モデリング）
14回目　更生保護の事例の理解と相談場面を想定した実技指導
15回目　危機状態（権利擁護を含む）の事例の理解と相談場面を想定した実技指導　まとめ

【履修上の注意事項】
社会福祉士の相談援助場面を想定した実技指導を含む演習形態の授業のため、教員からの発言を求めたりロールプレーイングを中心に授業を展開する。また、相談援助職に必要な知識・技術・価値・倫理を修得するため、専門領域の特別講師による講話を取り入れる。
「演習」科目であり、参加型の授業形態ということで、毎回の出席は必須と考えてほしい。
与えられた課題に積極的に取り組み、予習・復習を行い、次の講義に臨むこと。

【評価方法】
出席日数が3分の2以上あり、ペーパーテスト50％および授業参加態度（予習・復習を活かした発表等）50％により総合的に評価する。

【テキスト】
使用しない。授業時、適宜、資料を配布する。

【参考文献】
授業開講時に指示する。

相談援助演習Ⅲ

担当教員 田島　望

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ，社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について，次に掲げる方法を用いて，実践的に習得するとともに，専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する．①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶ．②具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）やグループワークを中心とする演習形態にて実施し，必要な力量を獲得することができる．

【授業の展開計画】

週	授業の内容	
1	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導　児童（虐待を含む）	①
2	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導　児童（虐待を含む）	②
3	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導　児童（虐待を含む）	③
4	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導　ひとり親家庭・家庭内暴力(DV)	①
5	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導　ひとり親家庭・家庭内暴力(DV)	②
6	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導　ひとり親家庭・家庭内暴力(DV)	③
7	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導　低所得者	①
8	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導　低所得者	②
9	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導　低所得者	③
10	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導　ホームレス・ニート	①
11	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導　ホームレス・ニート	②
12	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導　ホームレス・ニート	③
13	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導　更生保護	
14	事例の理解と相談援助過程及び場面を想定した実技指導　危機状態（権利擁護活動を含む）	
15	ふり返りとまとめ	

【履修上の注意事項】
・相談援助演習Ⅰ・Ⅱを修得済であることを前提とする．
・演習形態の授業であるため，各回のグループワークやロールプレイ等への主体的な参加（発言）を求めます．
・内容をよく確認し，事前学習および講義内容についての復習を行い次回の講義に参加すること．
・これまでに学習してきた演習Ⅰ・Ⅱや関連する科目を活かして取り組むこと．
・講義を積み上げて，ねらいの達成，実習の充実を目指すため，出席は必須と考えてください．

【評価方法】
演習の参加態度と授業内の課題への取り組み（40%），課題レポート（30%），学期末総合課題（30%）により総合的に評価します．

【テキスト】
講義内にて，適宜紹介・配布します．

【参考文献】
講義内にて，適宜紹介します

相談援助演習Ⅳ

担当教員 福﨑　千鶴

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に揚げる項目を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶ。②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング、モデリング等）を中心とする援助形態により実施し、ソーシャルワーク実践力をつける。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	コミニュティワーク及びコミニュティソーシャルワークの理解
2	コミニュティワーク展開過程の理解
3	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を理解し、地域アセスメントの実技指導
4	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を理解し、地域住民に対するニーズ把握の実技指導
5	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、地域住民に対するアウトリーチの理解
6	地域住民に対するアウトリーチの実技指導
7	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、地域福祉計画の理解
8	地域福祉計画の実技指導
9	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、ネットワーキングの理解
10	ネットワーキングの技術指導
11	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、社会資源の活用・調整・開発の理解
12	社会資源の活用・調整・開発の実技指導
13	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、サービス評価の理解
14	サービス評価の実技指導の理解
15	ミクロ・メゾ・マクロのソーシャルワークの理解

【履修上の注意事項】
グループによる学習が中心となるので積極的な姿勢で授業に参加すること。参加型の授業形態ということで、毎回の出席は必須と考えてほしい。福祉にかかわる相談援助関連科目の学びを活かしつつ、与えられた課題に積極的に取り組み、予習・復習を行い、次の講義に臨むこと。学生状況を見ながらフィールドワークや特別講師による講話などを取り入れ、ソーシャルワーク実践力の習得を図ることもある。

【評価方法】
出席日数が3分の2以上あり、授業参加態度(予習・復習を活かした発表など）50%,課題レポート等50%により総合的に評価する。

【テキスト】
使用しない。授業時、適宜、資料を配布する。

【参考文献】
開講時に指示する。

相談援助演習Ⅳ

担当教員 平川　泰士

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
相談援助の知識と技術に係るほかの科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができることをめざす。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により実施する。

【授業の展開計画】
01　コミュニティワーク及びコミュニティソーシャルワークの理解。
02　コミュニティワークの展開過程の理解（地域問題との出会い・活動の準備・活動主体の組織化・活動計画に作成・活動計画の実践・活動計画の評価と次の展開）
03　地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の理解と実技指導　地域アセスメント
04　地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の理解と実技指導　地域住民に対するニーズ把握
05　地域住民に対するアウトリーチ①地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の理解
06　地域住民に対するアウトリーチ②実技指導
07　地域福祉の計画①地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の理解
08　地域福祉の計画②実技指導
09　ネットワーキング①地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の理解
10　ネットワーキング②実技指導
11　社会資源の活用・調整・開発①地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の理解
12　社会資源の活用・調整・開発②実技指導
13　サービス評価①地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の理解
14　サービス評価②実技指導
15　まとめ

【履修上の注意事項】
小集団による話し合いやグループワークを行うので、積極的に参加することを求める。本演習では，社会福祉士、精神保健福祉士の国家資格の取得を前提とし､専門職として就労することを目標にする学生が望ましい｡また、指定された課題について、あらかじめ調べ準備を整え､不明な箇所については自身で調べ直す予習復習を求める。

【評価方法】
授業態度・発表の内容・技能習得状況が50%、予習復習による自主的学習態度・状況が10%、
課題の内容・提出状況・学期末時の課題が40%による総合評価とする。

【テキスト】
授業開始時に指示する。

【参考文献】
随時、授業時に紹介する。

相談援助演習Ⅳ

担当教員 後藤　秀昭

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1. 相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を理解できる。
2. 社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得できる。
3. 専門的援助技術として概念化し、理論化して体系立てていくことができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	コミュニティワークおよびコミュニティソーシャルワークについて概説し、理解させる。
2	地域問題との出会いや活動の準備、活動主体の組織化ついて指導し、理解させる。
3	活動計画の作成、活動計画の実践や評価等について指導し、理解させる。
4	事例を通して地域アセスメントの実技指導を行い、地域福祉の基盤整備と開発について理解させる。
5	事例を通して地域のニーズ把握の実技指導を行い、地域福祉の基盤整備について理解させる。
6	地域住民に対するアウトリーチの実技指導を行い、地域福祉の基盤整備と開発について理解させる。
7	地域福祉の計画の事例を通して、地域福祉の基盤整備と開発について理解させる。
8	地域福祉について実技指導を行い、地域福祉の基盤整備と開発について理解させる。
9	ネットワーキングの事例を通して、地域福祉の基盤整備と開発について理解させる。
10	ネットワーキングについて実技指導を行い、地域福祉の基盤整備と開発について理解させる。
11	社会資源の活用や調整、開発の事例を通して、地域福祉の基盤整備と開発について理解させる。
12	社会資源の活用や調整、開発について実技指導を行い、理解させる。
13	サービス評価の事例を通して、地域福祉の基盤整備と開発について理解させる。
14	サービス評価について実技指導を行い、地域福祉の基盤整備と開発について理解させる。
15	コミュニティワークおよびコミュニティソーシャルワークについて総括し、体系立てて理解させる。

【履修上の注意事項】
相談援助演習のもととなるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと。
演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと。
なお、この演習は「相談援助演習Ⅰ」、「相談援助演習Ⅱ」および「相談援助演習Ⅲ」を履修した上で、履修することが望ましい。

【評価方法】
①講義中のレポート提出及びレポート内容の評価
②学期末の課題レポートの評価
①、②の合計で評価する。

【テキスト】
特に指示しない。授業時、適宜、資料を配布する。

【参考文献】
特になし。

相談援助演習Ⅳ

担当教員 田島　望

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
相談援助に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ，社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について，次に掲げる方法を用いて，実践的に習得するとともに，専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する．①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶ．②具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）やグループワークを中心とする演習形態にて実施し，必要な力量を獲得・実施することができる．

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	コミュニティワーク及びコミュニティソーシャルワークの理解
2	コミュニティワークの展開過程の理解（地域問題との出会い・活動の準備・組織化等）
3	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を理解し，地域アセスメントの実技指導
4	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を理解し，地域住民に対するニーズ把握の実技指導
5	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から，地域住民に対するアウトリーチを理解
6	地域住民に対するアウトリーチの実技指導
7	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から，地域福祉（活動）計画の理解
8	地域福祉（活動）計画の実技指導
9	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から，ネットワーキングを理解
10	ネットワーキングの実技指導
11	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から，社会資源の活用・調整・開発を理解
12	社会資源の活用・調整・開発の実技指導
13	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から，サービス評価を理解
14	サービス評価の実技指導
15	ふり返りとまとめ

【履修上の注意事項】
・相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを修得済であることを前提とする．
・演習形態の授業であるため，各回のグループワークやロールプレイ等への主体的な参加（発言）を求めます．
・内容をよく確認し，事前学習および講義内容についての復習を行い次回の講義に参加すること．
・これまでに学習してきた演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲや関連する科目を活かして取り組むこと．
・講義を積みあげて，「ねらい」の達成，実習の充実を目指すため，出席は必須と考えてください．

【評価方法】
演習の参加態度と講義内の課題への取り組み（40%），課題レポート（30%），学期末総合課題（30%）により総合的に評価します．

【テキスト】
講義内にて，適宜紹介・配布します

【参考文献】
講義内にて，適宜紹介します．

相談援助演習Ⅳ

担当教員 橋本　眞奈美

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる具体的な援助場面を想定した実技指導を通して、相談援助に係る知識や技術を実践的に習得することができる。
②相談援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶことで、相談援助を概念化、理論化し、体系立てて捉えることができる。
③相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を把握することができる。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	コミュニティワーク及びコミュニティソーシャルワークの理解
2	コミュニティワークの展開過程の理解（地域問題との出会い・活動の準備・組織化等）
3	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の理解、地域アセスメントの実技指導
4	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の理解、地域住民に対するニーズ把握の実技指導
5	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、地域住民に対するアウトリーチの理解
6	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の振り返りから、ＣＳＷの役割理解
7	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、地域福祉（活動）計画の理解
8	地域福祉（活動）計画の実技指導、地域福祉の基盤整備と活動主体の組織化の理解
9	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、ネットワーキングの理解
10	地域福祉の基盤整備と活動主体の組織化、ネットワーキングの学びの振返りからＣＳＷの役割理解
11	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、社会資源の活用・調整・開発の理解
12	社会資源の活用・調整・開発に関する事例から地域福祉の理解の深化
13	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、サービス評価の理解
14	サービス評価の実技指導、地域福祉の基盤整備と開発について理解の深化
15	コミュニティソーシャルワーク、コミュニティワークの振返り、体系の理解

【履修上の注意事項】
グループによる学習が中心となるので、積極的な姿勢で授業に参加すること。
これまで学んできた相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを活かしつつ、関連する領域の科目も視野に入れて事例等に取り組むこと。授業の前には配布されている資料を熟読しておくこと。授業後は専門用語の確認と授業内容を振り返っておくこと。

【評価方法】
授業態度、積極的姿勢から20%
課題レポートの提出＆内容から30%
試験から50%

【テキスト】
『ソーシャルワーク基本用語辞典』　2013年刊　川島書店

【参考文献】
必要に応じて配布、もしくは指示する

相談援助演習Ⅴ

担当教員 平川　泰士

配当年次 ４年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
相談援助の知識と技術に係るほかの科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができることをめざす。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により実施する。

【授業の展開計画】
01　シラバスの説明・個別指導・集団指導（スーパービジョン）の意義について
02　相談援助の係る知識と技術について個別体験(実習体験を含む)の概念化・一般化・体系化　事例作成①
03　相談援助の係る知識と技術について個別体験(実習体験を含む)の概念化・一般化・体系化　事例作成②
04　相談援助の係る知識と技術について個別体験(実習体験を含む)の概念化・一般化・体系化　事例作成③
05　事例(実践報告を含む)の報告とスーパービジョン(実技指導を含む)①
06　事例(実践報告を含む)の報告とスーパービジョン(実技指導を含む)②
07　事例(実践報告を含む)の報告とスーパービジョン(実技指導を含む)③
08　事例(実践報告を含む)の報告とスーパービジョン(実技指導を含む)④
09　相談援助の係る知識と技術の実践的な習得と実技指導　社会的排除(障害者自立支援を含む)
10　相談援助の係る知識と技術の実践的な習得と実技指導　児童(虐待を含む）・家庭内暴力（D.V)
11　相談援助の係る知識と技術の実践的な習得と実技指導　低所得者・ホームレス
12　相談援助の係る知識と技術の実践的な習得と実技指導　高齢者(虐待を含む)
13　相談援助の係る知識と技術の実践的な習得と実技指導　更生保護
14　相談援助の係る知識と技術の実践的な習得と実技指導　地域福祉の基盤整備と開発
15　まとめ(個人情報保護と今後の学習)

【履修上の注意事項】
小集団による話し合いやグループワークを行うので、積極的に参加することを求める。本演習では，社会福祉士、
精神保健福祉士の国家資格の取得を前提とし､専門職として就労することを目標にする学生が望ましい｡また､指定さ
れた課題について、あらかじめ調べ準備を整え､不明な箇所については自身で調べ直す予習復習を求める。

【評価方法】
授業態度・グループへの貢献状況が40%、予習復習による自主的学習態度が20%、
報告・課題の内容が40%による総合評価とする。

【テキスト】
講義時に適時示す。

【参考文献】
講義時に適時示す。

相談援助演習Ⅴ

担当教員 橋本　眞奈美

配当年次 ４年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる具体的な援助場面を想定した実技指導を通して、相談援助に係る知識や技術を実践的に習得することができる。
②相談援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶことで、相談援助を概念化、理論化し、体系立てて捉えることができる。
③相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を把握することができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	シラバスの説明・スーパービジョンの意義について理解する
2	相談援助に係る知識と技術について個別体験（実習体験を含む）の確認作業
3	相談援助に係る知識と技術について個別体験（実習体験を含む）の概念化・一般化の理解
4	低所得者の事例の報告とスーパービジョンから相談援助の知識と技術を実践的に習得する
5	高齢者分野の事例の報告とスーパービジョンから相談援助の知識と技術を実践的に習得する
6	障害者分野の事例の報告とスーパービジョンから相談援助の知識と技術を実践的に習得する
7	子ども分野の事例の報告とスーパービジョンから相談援助の知識と技術を実践的に習得する
8	地域包括分野の事例の報告とスーパービジョンから相談援助の知識と技術を実践的に習得する
9	病院分野の事例の報告とスーパービジョンから相談援助の知識と技術を実践的に習得する
10	社協分野の事例の報告とスーパービジョンから相談援助の知識と技術を実践的に習得する
11	各実習場面の理解とスーパービジョンから相談援助の概念化・一般化の理解の深化を図る
12	各実習場面の理解とスーパービジョンから相談援助に求められる知識と技術の理解と応用
13	各実習場面の理解とスーパービジョンから利用者理解とＳＷ自身の自己覚知について省察する
14	各実習場面の理解とスーパービジョンを基にソーシャルワーカーに共通する専門性の理解の深化
15	ソーシャルワークの専門性とワーカーの価値、倫理、技術、知識についてまとめて発表する

【履修上の注意事項】
原則として「相談援助実習」の単位修得済の者のみが履修可能。
社会福祉士の相談援助場面を想定した授業形態になるため、教員から発言やロールプレイ等を求められることが多くなる。主体的、積極的に授業へ臨むこと。授業の前には配布されている資料を熟読しておくこと。授業後は専門用語の確認と授業内容を振り返っておくこと。毎回の出席は必須である。

【評価方法】
積極的な態度20%、レポート提出30%、レポートの内容50%

【テキスト】
指定しない、必要に応じて資料を配布する

【参考文献】
特になし

相談援助演習Ⅴ

担当教員 隈　直子

配当年次 ４年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
相談援助にかかわるほかの科目との関連性を視野に入れながら、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助にかかわる知識と技術を実践的に習得し、専門的援助として概念化し理論化して体系立てていくことができる能力を養う。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	演習内容を説明し、個別指導や集団指導（スーパービジョン）の意義を理解する。
2	実習で体験した事例をまとめ、体験を客観的に理解する。
3	実習体験事例を通して、相談援助の概念化や一般化、体系化を図る。
4	実習体験（障害者自立支援を含む）について、相談援助の知識と技術を実践的に習得する。
5	実習体験（児童（虐待を含む））について、相談援助の知識と技術を実践的に習得する。
6	実習体験（家庭内暴力）について、相談援助の知識と技術を実践的に習得する。
7	実習体験（低所得者・ホームレス）について、相談援助の知識と技術を実践的に習得する。
8	実習体験（高齢者（虐待を含む））について、相談援助の知識と技術を実践的に習得する。
9	更生保護の事例を理解し、相談援助の知識と技術を実践的に習得する。
10	実習体験（地域福祉の基盤整備と開発）について、相談援助の知識と技術を実践的に習得する。
11	社会的排除の事例を理解し、相談援助の知識と技術を実践的に習得する。
12	実習体験事例を通して、相談援助に必要な知識と技術を習得する。
13	スーパービジョンをもとに、利用者理解について洞察する。
14	実習体験を活かして、ソーシャルワークの専門性や機能について理解を深める。
15	社会福祉専門職に求められるものについて理解し、今後の学習課題を検討する。

【履修上の注意事項】
事前学習をして授業に参加し、授業後は復習として内容を整理しておくこと。
履修にあたっては、相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱおよび相談援助実習を終えていること。

【評価方法】
課題の提出・内容（50%）、演習への参加態度や取組み・発表内容（50%）により評価する。

【テキスト】
特になし。授業内に適宜資料を配布する。

【参考文献】
授業内で適宜紹介する。

相談援助演習Ⅴ

担当教員 田島　望

配当年次 ４年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
他の科目との関連性を視野に入れつつ，社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について，次に掲げる方法を用いて，実践的に習得するとともに，専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する．①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と関係に係る具体的な相談援助事例を学ぶ．②個別指導及び集団指導を通して，具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング，モデリング等）を中心とする演習形態により実施し，上記のねらいを達成することができる．

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	シラバスの説明　個別指導・集団指導（スーパービジョン）の意義の理解
2	相談援助に係る知識と技術についての個別体験（実習体験）の概念化・一般化の理解
3	相談援助に係る知識と技術についての個別体験（実習体験）の体系化の理解
4	相談援助に係る知識と技術についての個別体験（実習体験）の事例作成の実技指導
5	児童の事例（実習報告を含む）の報告とスーパービジョン（実技指導を含む）
6	高齢者の事例（実習報告を含む）の報告とスーパービジョン（実技指導を含む）
7	障がいの事例（実習報告を含む）の報告とスーパービジョン（実技指導を含む）
8	社会福祉協議会の事例（実習報告を含む）の報告とスーパービジョン（実技指導を含む）
9	社会的排除の事例（障害者総合支援法を含む）の事例の理解と相談援助の実技指導
10	子ども・家庭福祉（虐待・暴力を含む）の事例の理解と相談援助の実技指導
11	低所得者（ホームレスを含む）の事例の理解と相談援助の実技指導
12	高齢者（虐待を含む）の事例の理解と相談援助の実技指導
13	更生保護の事例の理解と相談援助の実技指導
14	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の理解と実技指導
15	まとめ（個人情報保護と今後の学習課題）

【履修上の注意事項】
1. 社会福祉士または精神保健福祉士国家試験受験希望者は必ず履修すること．
2. 演習形式で進めるため，毎回の出席はもちろんのこと，主体的な参加が求められる．
3. 内容をよく確認し，事前学習および講義内容についての復習を行い次回の講義に参加すること．
4. 履修の前提として相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱおよび相談援助実習を終えていること．

【評価方法】
演習への参加態度及び課題（報告を含む）への取り組み（50%），課題の提出（50%）により総合的に判断する．

【テキスト】
授業内にて適宜紹介・配布します．

【参考文献】
授業内にて適宜紹介・配布します．

相談援助演習Ⅴ

担当教員　後藤　秀昭

配当年次　４年

単位区分　選択

開講時期　第１学期

授業形態　演習

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1.相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を理解できる。
2.社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得できる。
3.専門的援助技術として概念化し、理論化して体系立てていくことができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	演習内容を説明し、個別指導や集団指導(スーパービジョン)の意義について理解させる。
2	実習で体験した事例をまとめ、その体験を客観化する。
3	実習体験(障害者自立支援を含む)について、相談援助の知識と技術を実践的に習得する。
4	実習体験(児童(虐待を含む)について、相談援助の知識と技術を実践的に習得する。
5	実習体験(家庭内暴力（D.V)について、相談援助の知識と技術を実践的に習得する。
6	実習体験(低所得者・ホームレス)について、相談援助の知識と技術を実践的に習得する。
7	実習体験(高齢者(虐待を含む)について、相談援助の知識と技術を実践的に習得する。
8	実習体験(更生保護)へのスーパービジョンから、相談援助の知識と技術を実践的に習得する。
9	実習体験(地域福祉の基盤整備と開発)について、相談援助の知識と技術を実践的に習得する。
10	実習体験事例を通して、相談援助の概念化や一般化、体系化を図る。
11	実習体験事例から、相談援助に必要な知識と技術を習得する。
12	実習体験事例(実践報告を含む)を報告し、教員からの実技指導も含めてスーパービジョンを受ける。
13	教員からのスーパービジョンをもとに、利用者の理解や自己覚知について洞察へと導く。
14	各事例に共通するソーシャルワークの機能と専門性についてまとめ、発表させて理解させる。
15	ソーシャルワークの専門性に関連する価値、知識、技術について理解、統合させる。

【履修上の注意事項】
相談援助演習のもととなるソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）の再学習をしておくこと。
演習後は、体験上学んだ内容をまとめて整理しておくこと。

【評価方法】
①講義中のレポート提出及びレポート内容の評価
②個別および集団での発表に際して、発表内容やプレゼンテーションの評価
③学期末の課題レポートの評価
①、②、③の合計で評価する。

【テキスト】
特に指示しない。授業時、適宜、資料を配布する。

【参考文献】
特になし。

相談援助演習Ⅴ

担当教員 福﨑　千鶴

配当年次 ４年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶ。②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング、モデリング等）を中心とする演習形態により実施し、相談援助実践力をつける。

【授業の展開計画】
1. シラバスの説明 個別指導・集団指導（スーパービジョン）の意義の理解
2. 相談援助に係る知識と技術についての個別体験（実習体験）の概念化・一般化の理解
3. 相談援助に係る知識と技術についての個別体験（実習体験）の体系化の理解
4. 相談援助に係る知識と技術についての個別体験（実習体験）の事例作成の実技指導
5. 児童の事例（実習報告を含む）の報告とスーパービジョン（実技指導を含む）
6. 障害の事例（実習報告を含む）の報告とスーパービジョン（実技指導を含む）
7. 高齢者の事例（実習報告を含む）の報告とスーパービジョン（実技指導を含む）
8. 社会福祉協議会の事例（実習報告を含む）の報告とスーパービジョン（実技指導を含む）
9. 社会的排除（障害者自立支援を含む）の事例の理解と相談援助の実技指導
10. 子ども家庭福祉（虐待・暴力を含む）の事例の理解と相談援助の実技指導
11. 低所得者（ホームレスを含む）の事例の理解と相談援助の実技指導
12. 高齢者（虐待を含む）の事例の理解と相談援助の実技指導
13. 更生保護の事例の理解と相談援助の実技指導
14. 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の理解と実技指導
15. 個人情報保護と今後の学習課題

【履修上の注意事項】
1. 社会福祉士又は精神保健福祉士国家試験受験希望者は、必ず履修する。
2. 原則として「社会福祉援助技術現場実習」「同指導Ⅰ」「「同指導Ⅱ」の単位修得済みの者のみ履修可能。
3. 規模を20人以下に編成し、社会福祉士又は精神保健福祉士の相談援助場面を想定した実技指導の演習。
4. 予習・復習が課せられ、授業中は主体的かつ真摯な授業態度が強く求められる。

【評価方法】
出席日数が3分の2以上あり、授業参加態度(予習・復習を活かした発表など）50%,課題レポート等50%により総合的に評価する。

【テキスト】
『社会保障の手引　平成30年度版 ―施策の概要と基礎資料―』中央法規

【参考文献】
随時、授業時に紹介する。

相談援助実習

担当教員 未定、橋本　眞奈美、平川　泰士、福﨑　千鶴、隈　直子、田島　望

配当年次 ３～４年

開講時期 第２学期

単位区分 選択

授業形態 実習

単位数 4

準備事項

備考 本科目は３年次第２学期から４年次弟１学期までの開講科目

【授業のねらい】
１.相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術を体得できる。
２.社会福祉士に求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得できる。
３.関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できる。

【授業の展開計画】
①健康診断等の方法により、学生が良好な健康状態にあることを確認したうえで配属実習を行わせる。
②実習指導教員は随時、実習先を訪問し、実習内容及び指導体制、実習の中のリスク管理等を実習先と十分協議し、確認しあう。
③巡回指導や帰学指導等を通して、以下のア～クについて学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行う。

※実習計画は、実習生・実習指導教員・実習指導者の三者で協議して作成する。

ア.利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成を指導する。
イ.利用者とその需要の把握及び支援計画の作成を指導する。
ウ.利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成を指導する。
エ.利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護および支援（エンパワメントを含む）とその評価方法を指導する。
オ.多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際を理解させる。
カ.社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任を理解するように導する。
キ.施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際を理解するよう指導する。
ク.当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関して理解するよう指導する。

【履修上の注意事項】
・相談援助実習の履修にあたっては、先修科目を満たしておくことが最低条件であるが、相談援助実習指導Ⅰおよび相談援助実習指導Ⅱでの指導内容、レポート等における実習先の事前学習内容を十分復習して履修すること。
・実習は原則一か所の実習先で23日間、180時間以上の実習となり、３年次２～３月、あるいは４年次８～９月に配属する。実習前の体調管理には十分留意するとともに、積極的な予習を怠らないこと。

【評価方法】
180時間（一日８時間・23日）以上の実習時間、実習日誌、実習終了レポートの内容(30%)および実習先の実習評価表等(70%)の合計で評価する。

【テキスト】
日本社会福祉士養成校協会監,長谷川匡敏ほか編『社会福祉士相談援助実習』中央法規出版(最新版)　注）相談援助実習指導Ⅰにおいて購入済み

【参考文献】
随時、紹介する。

相談援助実習指導Ⅰ

担当教員 未定、橋本　眞奈美、平川　泰士、福﨑　千鶴、田島　望、隈　直子

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
１.相談援助実習の意義について理解できる。
２.個別指導並びに集団指導を受けて、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得できる。
３.社会福祉士に求められる資質、技能、倫理、自己の学習課題等、総合的に対応できる能力を修得できる。
４.具体的な体験や援助活動を、専門援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていく能力を涵養できる。

【授業の展開計画】
[授業全体の内容の概要]
20人以下の規模に編成し、実習の事前・事後に実習指導教員から個別指導並びに集団指導を受ける。
[授業終了時の達成課題]
社会福祉士に必要な資質、技能、倫理等の能力を実践的に修得し、資格取得を目指す。

※相談援助実習指導Ⅰ・同Ⅱ共通

週	授業の内容
1	実習指導マニュアルに基づき、実習関連科目や今後の指導スケジュールを確認し、理解させる。
2	実習の意義や目的、方法、留意点について理解させる。
3	見学実習の注意事項および事前学習内容を理解させる。
4	高齢者福祉分野の指導者からの講話を元に、その実践活動の実際と課題を理解させる。
5	障害者福祉分野の指導者からの講話を元に、その実践活動の実際と課題を理解させる。
6	地域福祉分野の指導者からの講話を元に、その実践活動の実際と課題を理解させる。
7	児童福祉分野の指導者からの講話を元に、その実践活動の実際と課題を理解させる。
8	保健医療分野の指導者からの講話を元に、その実践活動の実際と課題を理解させる。
9	実習先の資料やレポート課題の学習を通して、各相談援助実践の場を理解する。
10	視聴覚教材を元に、福祉専門職として求められる価値、知識、技術を理解させる。
11	希望実習先の課題レポート作成を通して、その歴史や事業概要、サービス機能を理解させる。
12	希望実習先の課題レポート作成を通して、サービス利用の手続きや利用者を理解させる。
13	既実習者のソーシャルワーク報告会に参加し、ジェネリックソーシャルワークについて理解させる。
14	ソーシャルワーク報告会に参加し、実習先や事前学習の必要性を理解させる。
15	個別指導を通して希望する実習先を理解させるとともに、実習に向けての課題を指導する。

【履修上の注意事項】
相談援助実習は、これまでに講義や演習で学んできたことを基盤に総力で体験しながら学ぶものである。
したがって、実習指導においてもソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）等の再学習をしておくこと。
また、課題レポートなどにも積極的に取り組み、実習の目的や意義をはじめ、相談援助の実践能力が涵養できるように予習を行うこと。

【評価方法】
指導に対する積極的応答と関与(30%)およびレポート提出とその内容(70%)の合計で評価する。

【テキスト】
日本社会福祉士養成校協会監,長谷川匡敏ほか編『社会福祉士相談援助実習』中央法規出版(最新版)

【参考文献】
随時、授業時に紹介する。

相談援助実習指導Ⅱ

担当教員 未定、橋本　眞奈美、平川　泰士、福﨑　千鶴、田島　望、隈　直子

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 実習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
１.相談援助実習の意義について理解できる。
２.個別指導並びに集団指導を受けて、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得できる。
３.社会福祉士に求められる資質、技能、倫理、自己の学習課題等、総合的に対応できる能力を修得できる。
４.具体的な体験や援助活動を、専門援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていく能力を涵養できる。

【授業の展開計画】
[授業全体の内容の概要]　●印＝４月下旬に集中講義　■印＝配属実習終了後に集中講義
20人以下の規模に編成し、実習の事前・事後に実習指導教員から個別並びに集団指導をうける。
[授業終了時の達成課題（到達目標）]
社会福祉士に必要な資質、技能、倫理等の能力を実践的に修得し、資格取得を目指す。
※相談援助実習指導Ⅰと共通

週	授業の内容	週	授業の内容
1	●見学実習準備(事前学習の確認、指導)	16	感染症および予防方法の理解
2	●見学実習準備(事前学習の確認、指導)	17	実習計画書(案)に基づいたレポート作成指導
3	●見学実習(サービスや利用者の理解)	18	実習課題の整理、三者協議事項指導
4	●見学実習(サービスや利用者の理解)	19	三者協議時の実習内容・計画等の指導
5	●見学実習振り返り(学習課題の指導)	20	実習計画の再検討の指導
6	課題レポートの確認と事前学習指導	21	実習中の連絡方法や必要書類等の指導
7	実習先の理解(法的根拠、利用手続き等)	22	巡回指導や実習中の諸注意事項の指導
8	実習先の理解(配置基準、主な業務内容等)	23	■個別スーパービジョンにて実習の振返り
9	アセスメント、支援プラン作成指導	24	■記録類を参考にした個別スーパービジョン
10	実習計画書作成(目的や意義、方法の指導)	25	■総括レポート作成の指導
11	実習計画書(案)の策定指導	26	■総括レポート作成の指導と評価指導
12	実習先への事前訪問指導	27	■実習報告会の発表指導
13	実習記録の方法や内容の記載指導	28	■実習報告会での発表と相互研鑽指導
14	個人情報保護や守秘義務の指導	29	■実習報告会での発表と相互研鑽指導
15	実習計画書(案)に基づいたレポート作成指導	30	■ジェネリックソーシャルワーク検討の指導

【履修上の注意事項】
相談援助実習は、これまでに講義や演習で学んできたことを基盤に総力で体験しながら学ぶものである。したがって、実習指導においてもソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）等の再学習をしておくこと。
また、実習先への事前訪問やボランティア活動等を通して理解を深め、事前学習にもさらに取り組み、相談援助の実践能力が涵養できるように予習を行うこと。

【評価方法】
指導に対する積極的応答と関与(30%)およびレポート提出とその内容(70%)の合計で評価する。

【テキスト】
日本社会福祉士養成校協会監,長谷川匡敏ほか編『社会福祉士相談援助実習』中央法規出版(最新版)　注）相談援助実習指導Ⅰにおいて購入済み

【参考文献】
随時、授業内で紹介する。

こころのしくみの理解

担当教員 永田　俊明

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会から求められる医療人の育成のために、心理学の知見と医療現場で求められる知識や考え方理解することを目指す。そのために、人間についての基本的理解、現場に役立つ実践的な心理学の習得、患者理解のための心理学及び歯科患者の心理などについて理解できるようにする。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	シラバス説明　オリエンテーション　一般心理学との違い等
2	生理心理学と大脳生理
3	こころと身体の世界
4	こころと行動の形成
5	こころと行動の発達
6	こころの個性と深層
7	こころの適応と障がい
8	こころと身体の臨床心理
9	対人援助者と患者の人間関係
10	対人援助に役立つ心理テスト
11	医療に役立つ心理療法
12	被援助者の心理メカニズム
13	ストレスとコーピング
14	こころのしくみ
15	こころのしくみ(進化心理学)

【履修上の注意事項】

本科目は再試験を実施しない。したがって、日頃からの出席とノートテークをしっかりしないと単位取得は難しい。さらに事前・事後の学習を怠らないこと。

【評価方法】

定期試験：１００点で評価する

【テキスト】

未使用

【参考文献】

各単元ごとに紹介していく

発達と老化の理解

担当教員 吉岡　久美

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
ヒトは時間の経過とともに変化していく。
発達と老化の理解では、生殖機能から受精、その後の細胞の変化と成長過程を知り、
成長と老化について、その様子を解剖生理学的に説明できることをねらいとする。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	受精と胎児の発生、成長を知る
2	出生と、そこに生じる危険による影響を理解する
3	人間の発達について、生涯発達の視点と発達の可塑性を知る
4	乳児期の発達と発達課題を理解する
5	幼児期の発達と発達課題を理解する
6	学童期から思春期の発達と発達課題を理解する
7	青年期・成人期から更年期の発達と発達課題を理解する
8	老年期とは何か、法律や制度も含めて理解する
9	老化のメカニズム（身体におこる変化）を知る
10	老年期の発達課題と適応理論を理解する
11	老化に伴う心肺機能の変化と日常生活への影響を理解する
12	老化に伴う筋・骨格系、腎・肝機能の変化と日常生活への影響を理解する
13	老化と感覚器系の変化と影響を理解する
14	老化に伴って起こりやすい疾患と生活上の影響を理解する
15	細胞の死と身体の変化を知る

【履修上の注意事項】
事前学習として、講義で示している単元のテキストを読んでくること。
事後学習では、講義中にとったノートをまとめなおすこと。

【評価方法】
筆記試験100％で評価する。

【テキスト】
人体の構造と機能「解剖生理学」　メディカ出版

【参考文献】
解剖生理学　医学書院
こころとからだのしくみ　「発達と老化の理解」　メヂカルフレンド社、中央法規

こころとからだのしくみⅠ

担当教員 吉岡　久美

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
生活支援に必要な介護技術の根拠となる人体の構造や機能および生活援助サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。

【授業の展開計画】
【全体の内容の概要】医学・心理的知識をもとに、身じたく・移動・食事・排泄といった生活に欠かすことのできない分野に関連したこころとからだのしくみについて理解する。
【到達目標】身体構造・心理的側面を理解し、安全・安楽な身じたく・移動・食事・排泄のしくみが理解でき、発達段階をもとに障害や認知症などの心身の状況に応じた介護のアセスメント能力を身につける。

週	授業の内容
1	人体の構造と機能、障害や認知症を理解し、生活機能低下における生活行動への影響を理解する。
2	身じたくに関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響を理解する。
3	身体や認知機能低下・障害が及ぼす整容行動への影響、生活場面での変化の気づきと連携を学ぶ。
4	身じたくに関連したこころとからだのしくみを理解する。（事例をとおした演習による理解）
5	移動に関連した身体機能の名称おうよび役割と、心理的影響を理解する。
6	身体や認知機能低下・障害が及ぼす移動への影響と、生活場面における変化の気づきと連携を学ぶ。
7	移動に関連したこころとからだのしくみを理解する。（事例をとおした演習による理解）
8	食事に関連した身体機能の名称おうよび役割と、心理的影響を理解する。
9	食べることに関連したこころとからだのしくみを理解する。
10	身体や認知機能低下・障害が及ぼす食事への影響と、生活場面における変化の気づきと連携を学ぶ。
11	食事に関連したこころとからだのしくみを理解する。（事例をとおした演習による理解）
12	排泄に関連した身体機能の名称おうよび役割と、心理的影響を理解する。
13	身体や認知機能低下・障害が及ぼす排泄への影響と、生活場面における変化の気づきと連携を学ぶ。
14	排泄に関連したこころとからだのしくみを理解する。（事例をとおした演習による理解）
15	身じたく・移動・食事・排泄、認知症状の理解と心理的変化の理解を統合した支援の視点を学ぶ。

【履修上の注意事項】
学則の出席規定を遵守すること。出席不足の学生は評価対象としない。
演習等をおりまぜながら授業展開するため、積極的に取り組み、課題提出期限を守ること。
期限を過ぎた提出物は評価対象としない。
事前学習として、講義で示している単元のテキストを読んでくること。
事後学習では、講義中にとったノートをまとめなおし、課題に取り組むこと。

【評価方法】
筆記試験　80%
演習参加状況、課題提出　20%

【テキスト】
メジカルフレンド社　こころとからだのしくみ

【参考文献】
中央法規出版　こころとからだのしくみ

こころとからだのしくみⅡ

担当教員 吉岡　久美、石本　淳也、小阪　勝己

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。

【授業の展開計画】
1. 人体の構造と機能の基本を知り、障害や認知症を理解し、さまざまな生活機能低下における生活行動への影響を理解する。：吉岡
2. 入浴に関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響　：小阪
3. 身体や認知機能低下･障害が及ぼす入浴行動への影響と、生活場面における変化の気づきと連携　：小阪
4. 入浴に関連したこころとからだのしくみの理解（事例をとおした演習）：石本
5. 清潔に関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響　：吉岡
6. 身体や認知機能低下・障害が及ぼす清潔への影響と、生活場面における変化の気づきと連携　：小阪
7. 清潔に関連したこころとからだのしくみの理解（事例をとおした演習）　：石本
8. 睡眠に関連した身体機能の名称および役割と、心理的影響　：吉岡
9. 身体や認知機能の低下・障害が及ぼす睡眠への影響と、生活場面での気づきと連携　：小阪
10. 睡眠に関連したこころとからだのしくみの理解（事例をとおした演習）　：石本
11. 終末期とはなにか、法的な死について理解する。　：石本
12. 死をむかえるまでの身体的変化、受容プロセスとこころの変化　：吉岡
13. ターミナルケアにおける介護の役割と家族支援　：小阪
14. グリーフケアの理解　：吉岡
15. まとめ（生活に欠かせない行動に影響する身体機能低下や心理的変化、障害、認知症を含めた高齢者の特徴について振り返る。また、誰もが迎える死についての死生観を考える。）　：吉岡

【履修上の注意事項】
事前学習として、講義で示している単元のテキストを読んでくること。
事後学習では、講義中にとったノートをまとめなおし、課題に取り組むこと。
授業内ではディスカッション・ディベート等、話し合い活動を取り入れることが多い。
積極的に参加し、自らの考えを伝え、支援の方向性を見出すこと。

【評価方法】
原則として筆記試験（６０％）、積極性及び小レポート（４０％）を評価の対象とする。

【テキスト】
最新介護福祉全書　「こころとからだのしくみ」　メヂカルフレンド社

【参考文献】
介護福祉士養成講座編集委員会編「新・介護福祉士養成講座１４　こころとからだのしくみ」中央法規

発達と加齢現象

担当教員 永田　俊明

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
一般心理学の基礎理論・技術をベースに、高齢者への心理的援助のあり方を理解できること。
特に発達心理学・認知心理学及び老年学（ジェロントロジー）の視点を入れながら高齢者の理解や加齢現象に伴う問題及び心理的問題に対する対応方法について理解できるようにする。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	生涯発達心理学とエイジング心理学
2	ジェロントロジーと生涯発達
3	発達段階と課題
4	高齢者を含む心理学的人間理解
5	高齢期のサクセスフル・エイジングと生きがい
6	高齢者の健康（体力と機能）
7	感覚・知覚のエイジング
8	記憶・学習のエイジング
9	認知・知能のエイジング
10	性格・感情のエイジング
11	家族との関係
12	社会・仕事との関係
13	心理的問題への理解
14	認知症への理解
15	まとめ：生涯発達の観点から加齢を理解し、高齢者の心理や機能の変化に関する知識を総括する

【履修上の注意事項】
主に高齢者の加齢現象について、新聞や文献等で事前に学習しておくこと。
さらに生涯発達の観点から、高齢期の位置づけなどについて復習すること。

【評価方法】
単位認定試験：100点満点

【テキスト】
未定

【参考文献】
適宜、指示していく。

感覚・知覚の行動心理

担当教員 山住　賢司

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
我々人間は感覚・知覚を通じて外界の情報を得ている。感覚や知覚の働きがなければ、自己の存在を含め、どんな存在も認識することは出来ないだろう。心理学の分野では感覚・知覚の研究は古くから関心がもたれ、行動の科学としての心理学の実験テーマとして研究されてきた。本講義では、心のはたらきとしての感覚・知覚についての基礎的な知識や心理学における研究法などについて取り上げ、それらを理解し説明できるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	感覚・知覚とは
2	感覚・知覚心理学の歴史と方法論
3	精神物理学的測定法と刺激閾・弁別閾
4	視覚：視覚システムと基礎機能
5	視覚：明るさ・色の知覚
6	視覚：形の知覚
7	視覚：3次元空間の知覚
8	視覚：運動の知覚
9	聴覚：聴覚系の機能と構造
10	聴覚：聴覚の知覚的性質
11	聴覚：音声の知覚
12	聴覚：音楽の知覚・認知
13	身体感覚
14	味覚と嗅覚
15	多感覚相互作用

【履修上の注意事項】
講義に加え簡単なデモンストレーションも行う予定である。
欠席が多いと単位取得資格を満たせないことを理解しておくこと。
事前学習として各回の内容について参考文献などを参照しておくこと（120分）。
また講義終了後に、各回の配布資料の内容を復習すること（120分）。

【評価方法】
定期試験の得点100%で成績を評価する。
再試験は実施しない。

【テキスト】
使用せず、講義中に随時資料を配布する。

【参考文献】
「朝倉心理学講座6 感覚知覚心理学」　菊地正（編）　朝倉書店　2008
「知覚心理学　―心の入り口を科学する―」　北岡明佳（編著）　ミネルヴァ書房　2011

学習と人間行動

担当教員 山住　賢司

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
人間行動において学習が果たす役割は大きい。学習という過程なしに過ごす日々は皆無といって良いだろう。授業や本を読んで学ぶ知識の他にも、日常生活の様々な場面に学習は関与している。本講義では学習の分野における諸現象を学び、学習心理学の基礎的な知識を理解し説明できるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	「学習」について
2	馴化と鋭敏化
3	古典的条件づけの基本的特徴
4	古典的条件づけに影響を及ぼす諸要因
5	複雑な古典的条件づけ
6	古典的条件づけにおける信号機能
7	古典的条件づけで学習される内容とその発現システム
8	オペラント条件づけの基礎
9	オペラント条件づけにおける強化・消去と罰
10	オペラント条件づけの強化スケジュール
11	オペラント条件づけにおける弁別
12	オペラント条件づけにおける刺激般化
13	概念学習
14	観察学習・問題解決
15	記憶と学習

【履修上の注意事項】
欠席が多いと単位取得資格を満たせないことを理解しておくこと。
テキストは毎回必ず持参すること。
事前学習として各回の内容についてテキストの該当部分を確認しておくこと（120分）。
また講義終了後に、各回の配布資料の内容をテキストで確認し復習すること（120分）。

【評価方法】
定期試験の得点100%で成績を評価する。
再試験は実施しない。

【テキスト】
「コンパクト新心理学ライブラリ2　学習の心理－行動のメカニズムを探る－」　実森正子・中島定彦（著）
サイエンス社　2000

【参考文献】
「新心理学ライブラリ6　学習心理学への招待[改訂版]　―学習・記憶のしくみを探る―」　篠原彰一（著）
サイエンス社　2008

認知と人間行動

担当教員　山住　賢司

配当年次　３年

単位区分　選択

開講時期　第１学期

授業形態　講義

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】
人間が外界の情報を取り扱う過程を「認知」と呼ぶ。本講義では、広い意味での情報処理的アプローチにより認知系の働きを理解する認知心理学について学んでゆく。人間のこころの働きの中でも重要な役割をしめる記憶や思考・推論など複雑な過程が、認知心理学によりどのように説明されるのかを理解し説明できるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	「認知心理学」について
2	記憶の区分
3	記憶過程の説明モデル
4	忘却と検索
5	概念と言語
6	意味記憶とエピソード記憶
7	知識の表象
8	イメージと空間の情報処理
9	認知の制御過程
10	文章の理解
11	文章の記憶
12	推理
13	問題解決
14	意思決定
15	日常世界の記憶と認知

【履修上の注意事項】
欠席が多いと単位取得資格を満たせないことを理解しておくこと。
テキストは毎回必ず持参すること。
事前学習として各回の内容についてテキストの該当部分を確認しておくこと（120分）。
また講義終了後に、各回の配布資料の内容をテキストで確認し復習すること（120分）。

【評価方法】
定期試験の得点100%で成績を評価する。
再試験は実施しない。

【テキスト】
「グラフィック　認知心理学」　森敏昭・井上毅・松井孝雄（著）　サイエンス社　2000

【参考文献】
「認知心理学ワークショップ　実験で学ぶ基礎知識」　西本武彦・林静夫（編）　早稲田大学出版部　2006

発達心理学Ⅱ

担当教員 水間　宗幸

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
乳幼児期以降、特に思春期・青年期における変化を、生涯発達の視点から理解することができる。また生活における社会的変化に沿って、それぞれのライフステージの課題を理解し、特に発達障害の理解と支援を含めた生涯発達支援を行なう上での必要な考え方を習得する一方で、発達障害を中心とした発達上の課題を抱えた人たちの発達の様相を理解することができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	乳幼児期（１）世界を知りはじめる
2	乳幼児期（２）人との関係のはじまり
3	幼児期（１）ことばの獲得　イメージとことばの世界
4	乳幼児期（２）自己の育ちと他者との関係性の発達
5	児童期（１）考える力の発達　思考の深まり
6	児童期（２）友人とのかかわりと社会性の発達
7	発達障害と社会性
8	子ども虐と子どもの新しい問題
9	青年期（１）自分らしさへの気づき
10	青年期（２）自己の理解と他者
11	成人期　関係性ととまどいと成熟
12	老年期　人生の振り返り
13	文化と発達
14	教育と発達
15	まとめと考察

【履修上の注意事項】
次回内容の教科書を事前に読み込んでおくこと

【評価方法】
総合的な学びと理解を問う筆記試験により評価を行う。

【テキスト】
いちばんはじめに読む心理学の本３　「発達心理学　周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか」
　藤村宣之編著　ミネルヴァ書房

【参考文献】
適宜、紹介していく。

健康相談論

担当教員 古賀　由紀子

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
児童生徒の心の健康問題が深刻化し、保健室でも心身両面の対応が養護教諭の重要な職務として位置づけられていることを理解する。また養護教諭の専門性や保健室の機能を生かした相談活動としての「健康相談」についての理論と方法について理解し、具体的に子どもの状態のとらえ方と対応について説明できる。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	児童生徒の心身の健康問題の現状と背景/健康相談の基本的理解
2	養護教諭の職務の特質及び保健室の機能と健康相談
3	健康相談と健康相談活動（学校保健安全法との関連）
4	健康相談に関連する諸理論
5	健康相談のプロセス
6	ヘルスアセスメントについて
7	健康相談における子ども理解の方法（演習含む）
8	健康相談における心理的理解
9	健康相談における連携
10	諸問題の捉え方とかかわり方
11	諸問題への具体的な対応について（事例研究の目的）
12	事例から相談支援を具体的に学ぶ①　疾病を伴う事例
13	事例から相談支援を具体的に学ぶ②　非社会的行動、反社会的行動、生活上の課題を持つ事例
14	保健室登校と不登校の捉え方と対応
15	健康相談における記録、力量形成・研究・研修

【履修上の注意事項】
授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておくこと。
授業の最後に振り返りのための課題を提示するので、それを踏まえて振り返りまとめておく。次の授業の最初に前回のまとめを提出する。

【評価方法】
レポート30％、まとめのテスト70％として評価する

【テキスト】
養護教諭の行なう健康相談　　大谷尚子、森田光子編　東山書房

【参考文献】

病態生理学Ⅰ

担当教員 掃本　誠治、未定、大河原　進

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
病態生理学は、疾病を正常機能の破綻や調節機能の異常の観点から原因解明し、病理学は、疾病の原因、機序、診断を明らかにする学問である。病態生理学Ⅰでは、解剖生理学と生理学で学んだ人体の正常な仕組みをきちんと理解していることを前提として、疾病の成り立ちを基本的な機序によって整理し、その結果引き起こされる組織や臓器の変化における正しい知識を身につけ、各種疾患における病態生理や臨床症状を理解するための基礎を総論的に学ぶ。専門用語を正しく理解し、臓器ごとの各種疾患の成り立ちを理解するための基礎を身につける。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	病理学入門　病因論（１）　病理学で学ぶこと　（大河原）
2	病理学入門　病因論（２）　障害と修復（大河原）
3	腫瘍（１）腫瘍の定義と分類、発生原因　（掃本）
4	腫瘍（２）腫瘍の発生病理、転移と進行度　（掃本）
5	腫瘍（３）腫瘍の診断と治療　（掃本）
6	腫瘍（４）腫瘍の診断と治療（化学療法）　（樋口）
7	循環障害　局所性・全身性の循環障害（掃本）
8	代謝障害　（掃本）
9	小テスト　前半まとめ　（掃本）
10	感染症　（掃本）
11	老化と死　（掃本）
12	炎症と免疫（１）炎症、免疫　（掃本）
13	炎症と免疫（２）免疫・アレルギーと自己免疫疾患、膠原病　（掃本）
14	先天異常（１）先天異常、遺伝子異常、遺伝性疾患　（掃本）
15	先天異常（２）染色体異常、胎児の障害、診断　（掃本）

【履修上の注意事項】
多くの専門用語が出てくるので、必ず教科書を予習してくること。復習も必ず行うこと。

【評価方法】
授業への積極性（５％）、筆記試験（95%）で総合的に評価する。60点以上を合格とする。

【テキスト】
（系統看護学講座、専門基礎分野）疾病の成り立ちと回復の促進［１］「病理学」、大橋健一ほか編、医学書院

【参考文献】
１．新クイックマスター「病理学」、堤寛監修、医学芸術社
２．図解ワンポイントシリーズ３、「病理学　疾病のなりたちと回復の促進」、岡田英吉、医学芸術社

環境衛生学

担当教員 星野　輝彦

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
環境因子と人との相互関係を理解し、生活環境の安全の確保と健康の維持・増進の重要性を認識できる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	環境衛生学概論：環境衛生の歴史
2	環境因子と人体：環境物質の体内動態と毒性、安全の基準
3	環境化学：生態系と物質動態
4	地球環境の化学：オゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨
5	環境因子と健康：化学的因子（重金属、農薬、工業薬品など）の健康への影響
6	環境因子と健康：化学的因子（環境ホルモンなど）の健康への影響
7	環境因子と健康：生物学的因子（病原微生物など）の健康への影響
8	環境因子と健康：物理的因子（放射線など）の健康への影響
9	環境因子と健康：物理的因子（温熱、圧力、騒音など）健康への影響
10	大気環境と健康：大気汚染の状況と対策
11	水環境と健康：水に由来する健康被害、水質汚濁状況と対策
12	食品環境と健康：食品汚染と食中毒
13	生活環境と健康：室内の汚染物質
14	生活環境と健康：廃棄物の分類と処理方法
15	環境影響評価と対策：環境アセスメント

【履修上の注意事項】
講義予定の項目を予習すること。受講後、復習しておくこと。
出欠は出席カードを用います。出席カードの裏に講義の感想を書くこと。

【評価方法】
試験90%、レポート10%

【テキスト】
各講義の際に資料を配布する。

【参考文献】
「環境衛生の科学」篠田純男、那須正夫、黒木広明、三好伸一（三共出版）
「環境衛生科学」大沢基保、内海英雄　（南江堂）

公衆衛生学

担当教員 嶋　政弘

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
１ 現代における健康課題を理解するために，その基礎となる知識と技能を習得する。
２ 私たちを取り巻く自然・社会環境や人々の活動を理解し，心身ともに健康で豊かなQOLの向上を目指すことができる。

【授業の展開計画】
授業の概要
　現代の生活様式や環境に起因する様々な健康課題に関心を持ち，それに対し，私たちはどのようにかかわっていくかというテーマで構成する。
　そのために，ペアを中心としたディスカッションを随所に仕組み，根拠を示しながら自分なりの考えを述べることを目指す。

授業計画
第１回：健康の定義と位置づけ
第２回：健康の要因と公衆衛生の特徴
第３回：公衆衛生の歴史（公衆衛生の発展に寄与した人物を基に）
第４回：予防医学とヘルスプロモーション
第５回：健康な社会を目指して①　健康の測定と健康指標
第６回：健康な社会を目指して②　人口に関する現状と課題を中心に
第７回：健康な社会を目指して③　新生児～学童期の生命（母子保健を含む）
第８回：集団の傾向の把握①　疫学的考えに基づく解析
第９回：集団の傾向の把握②　実態把握の方法とバイアス
第10回：集団の傾向の把握③　データの種類と解釈
第11回：感染症とその予防①　感染症成立の条件と発症までの経緯
第12回：感染症とその予防②　感染症に関する現状と傾向（予防と根絶を含む）
第13回：食品保健と栄養①　食品の安全（食中毒）と現状
第14回：食品保健と栄養②　食品の機能と安全性
第15回：生活習慣病　主な生活習慣病の原因と健康影響（予防と対策を含む）

【履修上の注意事項】
１ ペアによるディスカッションをするため，ペアを作って着席する。
２ すべてのペアに発言の機会があるので，常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】
ディスカッションへの参加40%，課題提出20%，期末試験40%で評価する。
追試験は実施しない。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献】
毎回，資料（学習プリント）を配布する。参考資料については，授業の中で随時提示する。

精神保健Ⅰ

担当教員 茶屋道　拓哉

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1 精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について説明できるようになる。
2 精神保健を維持・増進するために機能している専門機関や関係職種の役割と連携について基礎的知識を備える。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	精神保健の概要
2	精神保健の歴史と現代における意義・課題
3	社会構造の変化と新しい健康観
4	ライフサイクルと精神の健康（出生前～思春期）
5	ライフサイクルと精神の健康（青年期～老年期）
6	ストレスと精神の健康
7	生活習慣と精神の健康
8	精神の健康、精神疾患、身体疾患に由来する障害
9	アルコール関連問題と精神保健
10	うつ病と自殺防止対策
11	現代社会を取り巻く諸相と精神保健（長寿・認知症・少子化を巡って）
12	精神の健康に関する心的態度
13	精神保健に関する予防の概念と対象
14	精神保健に関する国、都道府県、市町村、団体などの役割と連携
15	精神保健に関する専門職種

【履修上の注意事項】
1 必ず講義ノートを作成すること。また、配布するプリントをファイル化し毎回持参することが必要である（配布資料は何回か使用する可能性があるので）。
2 授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと。
3 授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること。

【評価方法】
1 試験による評価（70%）
2 授業中のレスポンスやミニレポート（30%）

【テキスト】
新・精神保健福祉士養成講座『精神保健の課題と支援（第3版）』中央法規，2018年

【参考文献】
『精神保健医療福祉白書2017年版』精神保健医療福祉白書編集委員会編，中央法規

精神保健Ⅱ

担当教員 茶屋道　拓哉

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
・現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実際及び精神保健福祉士の役割について説明できるようになる。
・精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種の役割と連携について説明できるようになる。
・国際的視野に立った精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について基礎的知識を備える。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	精神保健活動の実際Ⅰ（家庭における精神保健と家族支援）
2	精神保健活動の実際Ⅱ（学校における精神保健／いじめ・不登校・教員の精神保健）
3	精神保健活動の実際Ⅲ（学校コミュニティ／スクールソーシャルワーク）
4	精神保健活動の実際Ⅳ（職場におけるメンタルヘルス：EAP・復職支援／関連法規）
5	精神保健活動の実際Ⅴ（地域精神保健活動とネットワーク・多職種連携）
6	地域精神保健と地域保健Ⅰ（災害被災者・犯罪被害者・ニートや貧困など社会的排除）
7	地域精神保健と地域保健Ⅱ（地域移行・地域定着支援／社会的ひきこもり）
8	地域精神保健と地域保健Ⅲ（アルコール関連問題・薬物乱用／依存対策）
9	地域精神保健と地域保健Ⅳ（認知症や介護者のバーンアウト・ターミナルケア）
10	地域精神保健と地域保健Ⅴ（性同一性障害・発達障害・多文化と精神保健）
11	精神保健に関する社会問題と関連法規の理解Ⅰ（うつ病と自殺／自殺対策基本法）
12	精神保健に関する社会問題と関連法規の理解Ⅱ（地域保健法／母子保健法）
13	精神保健の現代的課題（偏見と差別／スティグマ／逸脱／コンフリクト）
14	地域精神保健に関する諸活動（関係法規・資源開発・ネットワーク・人材育成）
15	諸外国における精神保健（WHOの活動・アメリカ・イタリア・イギリス・フランス）

【履修上の注意事項】
1 必ず講義ノートを作成すること。また、配布するプリントをファイル化し毎回持参することが必要である（配布資料は何回か使用する可能性があるので）。
2 授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと。
3 授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること。
4 本講義における再試は実施しない。

【評価方法】
1 試験による評価（70%）
2 授業中のレスポンスやミニレポート（30%）

【テキスト】
新・精神保健福祉士養成講座『精神保健の課題と支援（第3版）』中央法規，2018年

【参考文献】
『精神保健医療福祉白書2017年版』精神保健医療福祉白書編集委員会編,中央法規
野村総一郎・樋口輝彦【監修】『こころの医学辞典』講談社　2003　　その他、講義時に適宜資料配布。

精神医学Ⅰ

担当教員 肥後　成美

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
脳の基本構造を把握し、個々の部位の総合作用として我々の精神が発動しているということを学ぶ。脳の構造と機能を結びつけることで、精神障害の病態像、治療法などに対するより深い理解力を育むことができ、そのことが障害を持つ人たちと接する医療者としての適格な人間形成にも繋がると考える。特定の教科書に沿った説明はせず、講義内容・配布資料を積み重ねることで一冊の新しい教科書（ダイジェスト版）が完成するような内容を目指す。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	精神医学の神経科学的基礎（脳の巨視的構造）
2	精神医学の神経科学的基礎（脳機能に対する概念の歴史的変遷）
3	精神医学の神経科学的基礎（神経細胞の形態学的、生理学的特徴）
4	精神医学の神経科学的基礎（大脳皮質の働き
5	精神医学の神経科学的基礎（前頭葉、分離脳）
6	精神医学総論（精神医学の歴史）
7	精神医学総論（精神障害における症状）
8	精神医学総論（精神障害における症状）
9	高次脳機能障害（失語、失行、失認）
10	高次脳機能障害（前頭葉症候群、側頭葉症候群）
11	器質性精神障害（大脳皮質の変性疾患による認知症、脳血管性認知症）
12	器質性精神障害（大脳基底核の変性疾患、脳の感染症、東部外傷）
13	器質性精神障害（中毒、脳腫瘍、正常圧水頭症）
14	身体疾患に基づく精神障害（代謝障害、膠原病、内分泌疾患）
15	身体因精神病（てんかん）

【履修上の注意事項】
耳慣れない専門用語を受け入れるためにも、予習・復習が要求されます。特に授業後の毎回の復習を積み上げることが全体の理解に繋がります。

【評価方法】
期末試験の成績で判断する

【テキスト】
講義で使用したスライドと同じ内容のプリント資料を配布する。講義終了時にはこれが教科書となると思う。よって、教科書を指定することはせず参考文献のみを挙げる。

【参考文献】
「精神医学テキスト」上島国利・立山萬里/編集、南江堂、「標準精神医学」野村総一郎他/編集、医学書院

精神医学Ⅱ

担当教員 肥後　成美

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
脳の構造と局在化している機能を勉強することで、個々の部位の総合作用として発露している我々の行動・思考の状態をより深く把握できる。それが精神障害の病像を適格に理解し、医療者としての治療、介護への正確な対応へと繋がると考える。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	精神作用物質による精神および行動の障害（アルコール）
2	精神作用物質による精神および行動の障害（モルヒネ、アンフェタミン等）
3	統合失調症（概念、疫学）
4	統合失調症（病因、病型）
5	統合失調症（治療、鑑別診断、統合失調症近縁の疾患）
6	気分障害（単極性気分障害）
7	気分障害（双極性気分障害）
8	神経症性障害（治療、病型：恐怖症性不安障害、強迫性障害）
9	神経症性障害（病型：重度ストレス反応および適応障害、解離性障害、神経衰弱など）
10	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群（摂食障害）
11	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群（睡眠障害など）
12	成人の人格および行動の障害（特定の人格障害）
13	成人の人格および行動の障害（習慣および衝動の障害、性同一性障害など）
14	高齢者と精神医学
15	精神保健と法律

【履修上の注意事項】
耳慣れない専門用語を受け入れるためにも、授業毎の予習・復習が必要である。

【評価方法】
期末試験の成績で判断する。

【テキスト】
プリント資料を配布する

【参考文献】
「精神医学テキスト」上島国利・立山萬里/編集、南江堂、「標準精神医学」野村総一郎他/編集、医学書院

精神科リハビリテーション学Ⅰ

担当教員 平川　泰士

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
１．精神科リハビリテーションの概念と構成について理解する。
２．精神科リハビリテーションの歴史、プロセス、体系について理解する。
３．精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割と方法を理解する。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	オリエンテーション
2	リハビリテーションの概念　障害の構造論
3	精神保健医療福祉領域の支援対象者
4	精神科リハビリテーションの理念、基本原則
5	精神科リハビリテーションのアプローチ
6	精神科リハビリテーションのプロセス
7	精神障害者支援の実践モデル
8	わが国の精神科保健福祉の歴史とパラダイムシフト
9	わが国の地域精神保健福祉活動の歴史と経過
10	専門技法について（社会生活技能訓練）
11	専門技法について（家族教育と家族支援）
12	専門技法について（エビデンスに基づく実践：ＥＢＰ）
13	作業療法, レクリエーション療法など
14	地域活動支援と精神保健福祉士の役割
15	諸外国の精神医療保健福祉

【履修上の注意事項】
「精神保健福祉士」国家試験受験科目である。各回の講義テーマについて事前にテキストに目を通し配布されたプリント内容をテキストで確認する、基礎的な用語を確認する、指定された課題に取り組むなど予習し、理解できなかった点を確認し復習をおこなうこと。再試は実施しない。

【評価方法】
試験70％、授業中のレポート等30％によって総合評価を行う。

【テキスト】
「日本精神保健福祉士養成校協会」編、「精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ」（「新・精神保健福祉士養成講座４」）、中央法規出版株式会社

【参考文献】
講義時に、指示する。

精神科リハビリテーション学Ⅱ

担当教員 平川　泰士

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について理解できる。精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーションの知識と技術及び活用法について理解できる。地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用及びケアマネジメント、コミュニティワークの実際について理解できる。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	医療機関における精神科リハビリテーションの展開①（精神専門療法・家族教育プログラム）
2	医療機関における精神科リハビリテーションの展開②（精神科デイケア・SST）
3	医療機関における精神科リハビリテーションの展開③（医療機関のアウトリーチ）
4	医療機関における精神科リハビリテーションの展開④（チーム医療・多職種連携と協働）
5	精神障害者支援の実践モデル①（意味と内容）
6	精神障害者支援の実践モデル②（治療モデル・生活モデル）
7	精神障害者支援の実践モデル③（ストレングスモデルの理論的背景）
8	精神障害者支援の実践モデル④（ストレングスモデルをベースとしたアセスメント）
9	相談援助の過程及び対象との援助関係①（概論・ケース発見、インテーク、アセスメント）
10	相談援助の過程及び対象との援助関係②（プランニング・モニタリング）
11	相談援助の過程及び対象との援助関係③（エバリュエーション・終結、アフターケア）
12	相談援助活動のための面接技術①（面接の種類と原則）
13	相談援助活動のための面接技術②（面接技法）
14	スーパービジョンとコンサルテーション①（スーパービジョン）
15	スーパービジョンとコンサルテーション②（コンサルテーション）

【履修上の注意事項】
本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な科目である。
講義とあわせ、発表、グループワークなどの共同作業、課題レポートをもうけるため、積極的に参加することを求めます。また､指定された課題について、あらかじめ調べ準備を整え､不明な箇所については自身で調べ直す予習復習を求める。

【評価方法】
1.理解度確認による試験評価（60%）
2.講義時指定の課題･レポート（40%）
再試は実施しない。

【テキスト】
日本精神保健福祉士養成校教会編『新・精神保健福祉士養成講座4　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ』中央法規

【参考文献】
随時、講義時に指示する。

精神保健福祉援助技術各論Ⅰ

担当教員 茶屋道　拓哉

配当年次 ４年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1 精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む）の展開について説明できるようになる。
2　精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的考え方と支援体制の実際について基礎的知識を備える。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	相談援助活動の展開①内容と方法
2	相談援助活動の展開②個別支援の実際と事例分析
3	相談援助活動の展開③集団を活用した支援の実際と事例分析
4	家族調整支援の実際①精神障害者と家族の関係
5	家族調整支援の実際②家族支援の方法
6	地域移行の対象支援体制
7	地域移行における精神保健福祉士の役割と多職種連携
8	地域移行・地域定着支援の取り組み
9	地域移行にかかわる機関と組織
10	事例による地域移行支援の検討
11	地域を基盤にした相談援助の主体と対象①精神障害者を取り巻く社会的状況
12	地域を基盤にした相談援助の主体と対象②地域相談援助の主体
13	地域を基盤にした相談援助の主体と対象③地域相談援助の対象
14	地域を基盤にした相談援助の主体と対象④地域相談援助の体制
15	地域を基盤にした相談援助の主体と対象⑤事例による地域を基盤とした相談援助活動の検討

【履修上の注意事項】
1 必ず講義ノートを作成すること。また、配布するプリントをファイル化し毎回持参することが必要である（配布資料は何回か使用する可能性があるので）。
2 授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと。
3 授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること。

【評価方法】
1 試験（期末レポート）による評価（70%）
2 授業中のレスポンスやミニレポート（30%）

【テキスト】
日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座 5 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ（第2版）』中央法規

【参考文献】
C・A・ラップ，R・J・ゴスチャ著，田中英樹監訳『ストレングスモデル 精神障害者のためのケースマネジメント 第3版』　金剛出版

精神保健福祉援助技術各論Ⅱ

担当教員 茶屋道　拓哉

配当年次 ４年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1　地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用及びケアマネジメント、コミュニティワーク（地域相談援助に係る組織、団体、関係機関及び専門職との連携についての理解を含む）の実際について基礎的知識を備える。
2　地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開について説明できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方①地域ネットワーク
2	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方②アウトリーチ
3	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方③生活支援事業と訪問援助
4	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方④セルフヘルプグループ・家族会
5	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方⑤精神保健福祉ボランティアの育成と活用
6	精神障害者のケアマネジメント①ケアマネジメントの原則
7	精神障害者のケアマネジメント②ケアマネジメントの意義と方法
8	精神障害者のケアマネジメント③ケアマネジメントの展開過程
9	精神障害者のケアマネジメント④チームケアとチームワーク
10	精神障害者のケアマネジメント⑤事例による精神障害者ケアマネジメントの検討
11	地域を基盤にした支援とネットワーキング①その概念と基本的性格
12	地域を基盤にした支援とネットワーキング②地域アセスメント・BSC・SWOT分析
13	地域を基盤にした支援とネットワーキング③地域を基盤にした支援の具体的展開
14	地域を基盤にした支援とネットワーキング④事例による地域を基盤にした支援の検討
15	地域生活を支援する包括的支援の意義と展開

【履修上の注意事項】
1 必ず講義ノートを作成すること。また、配布するプリントをファイル化し毎回持参することが必要である（配布資料は何回か使用する可能性があるので）。
2 授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと。
3 授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること。

【評価方法】
1 試験（期末レポート）による評価（70%）
2 授業中のレスポンスやミニレポート（30%）

【テキスト】
日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座 5 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ（第2版）』 中央法規

【参考文献】
C・A・ラップ，R・J・ゴスチャ著，田中英樹監訳『ストレングスモデル 精神障害者のためのケースマネジメント 第2版』金剛出版

精神保健福祉援助演習Ⅰ

担当教員 茶屋道　拓哉、平川　泰士、福﨑　千鶴

配当年次 ４年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
①精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について理解を深める。②精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について体系的な概念や理論をもとに、専門的援助技術として実践的に展開できる能力を身につける。③総合的包括的な相談援助・保健医療福祉のチームアプローチなどを具体的事例をもとに理解する。④ロールプレイを通した個別・集団での指導をもとに、具体的場面を想定した対応力を身につける。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	事例の理解（退院支援、地域移行、地域生活継続）茶屋道、平川、福﨑
2	包括的援助の実践的習得（退院支援,地域移行に関する相支援過程の実技指導）茶屋道
3	包括的援助の実践的習得（地域生活継続に関する相支援過程の実技指導）平川
4	事例の理解（社会的排除、貧困、低所得、ホームレス）平川
5	包括的援助の実践的習得（社会的排除に関する相支援過程の実技指導）福﨑
6	包括的援助の実践的習得（貧困等に関する相支援過程の実技指導）平川
7	事例の理解（自殺、ひきこもり、児童虐待、薬物・アルコール依存等、ピアサポート）平川
8	包括的援助の実践的習得（自殺に関する相支援過程の実技指導）平川
9	包括的援助の実践的習得（ひきこもり等に関する相支援過程の実技指導）福﨑
10	事例の理解（教育、就労（雇用））福﨑
11	包括的援助の実践的習得（就労（雇用）に関する相支援過程の実技指導）平川
12	包括的援助の実践的習得（教育に関する相支援過程の実技指導）茶屋道,平川,福﨑
13	事例の理解（精神科リハビリテーション・その他の危機状態）福﨑
14	包括的援助の実践的習得（精神科リハビリテーション等に関する相支援過程の実技指導）福﨑
15	自己の援助関係構築方法に対する理解と自己覚知　福﨑

【履修上の注意事項】
1 本科目と同時に履修する精神保健福祉援助実習・実習指導との関係から、常に臨床場面を想定し、専門職としてのロールプレイ・演習中の発言・事前学習準備など主体的参加を求める。
2 必要に応じて用いられるケースや学生同士の自己開示における専門職業人としての守秘義務の徹底。
3 ールプレイや事例学習にて得られた知見をもとに専門職としての自己と重ね合わせながら振り返りを行うこと。

【評価方法】
ロールプレイ（個別指導）における評価：30%
ロールプレイ（集団指導）における評価：30%
授業中のレスポンスやチームとして取り組む姿勢：40%

【テキスト】
特に使用しない。
必要な資料を適宜配布する。

【参考文献】
長崎和則ほか著『事例でわかる！精神障害者支援実践ガイド』日総研
田中英樹ほか編『ソーシャルワーク演習のための88事例』中央法規

精神保健福祉援助演習Ⅱ

担当教員 茶屋道　拓哉、平川　泰士、福﨑　千鶴

配当年次 ４年

開講時期 第２学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
①精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について理解を深める。②精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について体系的な概念や理論をもとに、専門的援助技術として実践的に展開できる能力を身につける。③総合的包括的な相談援助・保健医療福祉のチームアプローチなどを具体的事例をもとに理解する。④ロールプレイを通した個別・集団での指導をもとに、具体的場面を想定した専門職としての対応力を身につける。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	包括的援助の実践的習得（精神科リハビリテーション等に関する相支援過程の実技指導）
2	実習体験の振り返り（集団）①精神保健福祉士の活動内容と理論との結びつけ
3	実習体験の振り返り（集団）②精神保健福祉相談援助事例と理論との結びつけ
4	実習体験の振り返り（集団）③クライエントとの関係における困難場面の共有化と体系的理解
5	実習体験の振り返り（集団）④クライエントとの関係における困難場面の再構成とロールプレイ
6	実習体験の振り返り（集団）⑤各専門職との関係における困難場面の共有化と体系的理解
7	実習体験の振り返り（集団）⑥各専門職との関係における困難場面の再構成とロールプレイ
8	実習体験の振り返り（個別）①精神保健福祉士の活動内容と理論との結びつけ
9	実習体験の振り返り（個別）②精神保健福祉相談援助事例と理論との結びつけ
10	実習体験の振り返り（個別）③クライエントとの関係における困難場面の共有化と体系的理解
11	実習体験の振り返り（個別）④クライエントとの関係における困難場面の再構成とロールプレイ
12	実習体験の振り返り（個別）⑤各専門職との関係における困難場面の共有化と体系的理解
13	実習体験の振り返り（個別）⑥各専門職との関係における困難場面の再構成とロールプレイ
14	課題の発見・分析・解決（個別）
15	自己の援助関係構築方法に対する理解と自己覚知

【履修上の注意事項】
1 精神保健福祉援助実習終了後に実施する本科目においては、実習において得られた臨床における実践知識・技術を振り返りながら進める。よって、ロールプレイ・演習中の発言・事前学習準備など主体的参加を求める。
2 必要に応じて用いられるケースや学生同士の自己開示における専門職業人としての守秘義務の徹底。
3 ロールプレイや事例学習にて得られた知見をもとに専門職としての自己と重ね合わせながら振り返りを行うこと。

【評価方法】
事例研究（個別指導）における評価：30%
事例研究（集団指導）における評価：30%
授業中のレスポンスやチームとして取り組む姿勢：40%

【テキスト】
特に使用しない。
必要な資料を適宜配布する。

【参考文献】
日本社会福祉実践理論学会監修『事例研究・教育法―理論と実践の向上を目指して―』川島書店

精神保健福祉援助実習指導Ⅰ

担当教員 茶屋道　拓哉、平川　泰士、福﨑　千鶴

配当年次 ４年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
①精神保健福祉援助実習の意義について理解した上での態度を身につける。②精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について説明できるようになる。③個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。⑤具体的な体験や援助活動を、価値や倫理に基づき、専門的知識及び技術として習得していく。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	個別/集団指導の意義（全員）	16	権利擁護の視点による実習指導（全員）
2	精神疾患・障害の現状と基本的理解（福﨑）	17	障害者総合支援法の実際と実習指導（全員）
3	精神科専門用語の基本的理解（平川）	18	地域の社会資源の実際と実習指導（全員）
4	精神保健福祉法の現状と基本的理解（福﨑）	19	課題の整理と総括レポートの作成（全員）
5	社会保障制度の現状と基本的理解（平川）	20	課題の整理と総括レポートの作成（全員）
6	実習先,知識,技術の理解と実習計画（全員）	21	課題の整理と総括レポートの作成（全員）
7	職業倫理,法的責務,守秘義務の理解（全員）	22	課題の整理と総括レポートの作成（全員）
8	精神科病院の理解（全員）	23	課題の整理と総括レポートの作成（全員）
9	巡回指導・スーパービジョン①（全員）	24	課題の整理と総括レポートの作成（全員）
10	帰学指導・スーパービジョン①（全員）	25	課題の整理と総括レポートの作成（全員）
11	帰学指導・スーパービジョン②（全員）	26	三者（実習生,教員,指導者）協議会（全員）
12	巡回指導・スーパービジョン②（全員）	27	実習指導者を含めた実習報告会（全員）
13	帰学指導・スーパービジョン③（全員）	28	実習指導者を含めた実習報告会（全員）
14	帰学指導・スーパービジョン④（全員）	29	実習指導者を含めた実習報告会（全員）
15	帰学指導・スーパービジョン⑤（全員）	30	実習指導者を含めた実習報告会（全員）

【履修上の注意事項】
1 本科目と同時に履修する精神保健福祉援助実習との関係から、常に臨床場面を想定し、専門職としてのロールプレイ・演習・事例検討中の発言・事前学習準備など主体的参加を求める。
2 必要に応じて用いられるケースや学生同士の自己開示における専門職業人としての守秘義務の徹底。
3 実習や事例学習にて得られた知見をもとに専門職としての自己と重ね合わせながら振り返りを行うこと。

【評価方法】
実習報告書・事例検討報告書等による評価（60%）
スーパービジョン時の応答や態度、チームとして取り組む姿勢（40%）

【テキスト】
特に指定しない（必要に応じて随時資料配布）

【参考文献】
日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座　9　精神保健福祉援助実習指導・実習』中央法規

精神保健福祉援助実習指導Ⅱ

担当教員 茶屋道　拓哉、平川　泰士、福﨑　千鶴

配当年次 ４年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
①精神保健福祉援助実習の意義について理解した上での態度を身につける。②精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について説明できるようになる。③個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。⑤具体的な体験や援助活動を、価値や倫理に基づき、専門的知識及び技術として習得していく。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	精神保健医療福祉の現状に関する理解①障害者総合支援法における給付等の理解（平川）
2	精神保健医療福祉の現状に関する理解①障害者総合支援法における地域生活支援事業の理解（平川）
3	実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解（平川）
4	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解（平川）
5	実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む）（福﨑）
6	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解（福﨑）
7	実習先の理解と実習計画の作成（福﨑）
8	地域における障害福祉サービス事業所の理解（全員）
9	地域における障害福祉サービス事業所の理解（全員）
10	地域における障害福祉サービス事業所の理解（全員）
11	実習中における巡回指導・スーパービジョン（全員）
12	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成（集団）平川, 福﨑
13	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成（個別）平川, 福﨑
14	実習の評価全体総括会（実習指導者を含めた実習報告会の実施）①全体報告　平川, 福﨑
15	実習の評価全体総括会（実習指導者を含めた実習報告会の実施）②個別指導　平川, 福﨑

【履修上の注意事項】
1 本科目と同時に履修する精神保健福祉援助実習との関係から、常に臨床場面を想定し、専門職としてのロールプレイ・演習・事例検討中の発言・事前学習準備など主体的参加を求める。
2 必要に応じて用いられるケースや学生同士の自己開示における専門職業人としての守秘義務の徹底。
3 実習や事例学習にて得られた知見をもとに専門職としての自己と重ね合わせながら振り返りを行うこと。

【評価方法】
実習報告書等による評価（60%）
スーパービジョン時の応答や態度、チームとして取り組む姿勢（40%）

【テキスト】
特に指定しない（必要に応じて随時資料配布）

【参考文献】
日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座　9　精神保健福祉援助実習指導・実習』中央法規

精神保健福祉援助実習Ⅰ

担当教員 茶屋道　拓哉、平川　泰士、福﨑　千鶴

配当年次 ４年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 実習

単位数 5

準備事項

備考

【授業のねらい】
①精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。②精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。③精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に判断できる能力を習得する。④総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及び具体的内容を実践的に理解する。

【授業の展開計画】
１．精神科病院等の病院において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。
①入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助
②退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助
③多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助
２．学生は、精神科病院等の医療機関の実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受けるものとする。
①クライエントやその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
②クライエントの理解とその需要の把握及び支援計画の作成
③クライエントやその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成
④クライエントやその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワーメントを含む。）とその評価
⑤精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際
⑥精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解
⑦精神科病院等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
⑧精神科病院等の経営やサービスの管理運営の実際
⑨精神科病院が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
３．精神保健福祉援助実習指導担当教員は、巡回指導等を通して、実習事項について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行う。

【履修上の注意事項】
１．本科目は精神保健福祉援助実習指導や精神保健福祉援助演習と連動して行われる。専門職として必要な知識や技術について事前に総合的振り返り学習を行ったうえで実習に臨むこと。
２．専門職団体である日本精神保健福祉士協会の倫理綱領を遵守して実習を行うこと。
３．実習や事例学習にて得られた知見をもとに専門職としての自己と重ね合わせながら振り返りを行うこと。

【評価方法】
実習指導者による評価（30%）
実習報告書・事例検討報告書等による評価（30%）
専門職業人としての成熟度（40%）

【テキスト】
なし。

【参考文献】
随時紹介する。

精神保健福祉援助実習Ⅱ

担当教員 茶屋道　拓哉、平川　泰士、福﨑　千鶴

配当年次 ４年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】
①精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。②精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。③精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に判断できる能力を習得する。④総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及び具体的内容を実践的に理解する。

【授業の展開計画】
１．地域における障害福祉サービス事業所等において実習を行う学生は、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。
①利用者の地域における日常生活の理解
②障害福祉サービス事業所等利用における利用者及びその家族への相談援助
③多職種や障害福祉サービス事業所外の関係機関との連携を通じた援助
２．学生は、障害福祉サービス事業所等における実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受けるものとする。
①クライエントやその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
②クライエントの理解とその需要の把握及び支援計画の作成
③クライエントやその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成
④クライエントやその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワーメントを含む。）とその評価
⑤精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際
⑥精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解
⑦障害福祉サービス事業所等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
⑧障害福祉サービス事業所等の経営やサービスの管理運営の実際
⑨障害福祉サービス事業所が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
３．精神保健福祉援助実習指導担当教員は、巡回指導等を通して、実習事項について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行う。

【履修上の注意事項】
１．本科目は精神保健福祉援助実習指導や精神保健福祉援助演習と連動して行われる。専門職として必要な知識や技術について事前に総合的振り返り学習を行ったうえで実習に臨むこと。
２．専門職団体である日本精神保健福祉士協会の倫理綱領を遵守して実習を行うこと。
３．実習や事例学習にて得られた知見をもとに専門職としての自己と重ね合わせながら振り返りを行うこと。

【評価方法】
実習指導者による評価（30%）
実習報告書・事例検討報告書等による評価（30%）
専門職業人としての成熟度（40%）

【テキスト】
なし。

【参考文献】
随時紹介する。

精神保健福祉援助技術総論

担当教員 平川　泰士

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
・精神保健福祉士が行う相談援助の対象、業務内容、相談援助の概要について理解する。
・精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲、役割について理解する。
・精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。
・精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。

【授業の展開計画】
1. □精神保健福祉士が行う相談援助活動の概要
2. □精神保健福祉領域（保健、医療、福祉等）における援助の対象についての理解
3. □精神保健福祉士が行う相談援助の基本的考え方（対象、目的，倫理、価値，意義，内容，原則）
4. □相談援助に係わる医療機関における専門職（精神科病院、精神科診療所等）の概念と範囲
5. □相談援助に係わる福祉行政・関連行政機関等（保健所等）における専門職の概念と範囲
6. □相談援助に係わる司法領域（保護観察所の社会復帰調整官等）における専門職の概念と範囲
7. □相談援助に係わる就労支援領域（労働行政機関等の障害者職業カウンセラー、職場適応援助者等）における専門職の概念と範囲
8. □相談援助に係わる民間の福祉施設・組織（福祉サービス等）における専門職の概念と範囲
9. □相談援助に係わるにおける専門職の概念と範囲
10. □精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲
11. □精神障害者の自己決定、意思決定能力と法的問題
12. □精神障害者の人権擁護、権利擁護システムにおける精神保健福祉士の役割
13. □精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助の意義と内容
14. □精神保健福祉活動における多職種連携　（チームアプローチ、アウトリーチ）の意義と内容
15. □本講義の振り返りとまとめ

【履修上の注意事項】
本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な科目である。
講義とあわせ、発表、グループワークなどの共同作業、課題レポートをもうけるため、積極的に参加することを求めます。また､指定された課題などについて、あらかじめ調べ準備を整え､不明な箇所については自身で調べ直す予習
復習を求める。

【評価方法】
講義時の指定の課題･レポート（30%）、期末試験（70%）にて評価する。
再試は実施しない。

【テキスト】
精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『精神保健福祉士養成セミナー精神保健福祉相談援助の基盤［基礎］［専門］』、へるす出版

【参考文献】
講義時適時指定する

総合リハビリテーション論

担当教員　未定

配当年次　２年

単位区分　選択

開講時期　第１学期

授業形態　講義

単位数　2

準備事項

備考　平成３０年度は閉講

【授業のねらい】
「全人間的復権」を意味する、本来の”リハビリテーション”の理念、意義、方法について学習し、医学的リハビリテーションに偏らない”総合リハビリテーション”の視点から、社会福祉領域の専門家、実践家が備えるべき、障害特性に対応したリハビリテーションのしくみや支援技術を理解する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション
2	リハビリテーションの理念と障害の構造
3	身体障害のリハビリテーション（上肢損傷、対麻痺など）
4	身体障害のリハビリテーション（中枢性麻痺など）
5	身体障害のリハビリテーション（高次脳機能障害）
6	身体障害のリハビリテーション（視覚障害）
7	身体障害のリハビリテーション（聴覚障害）
8	中間まとめ、振り返り
9	知的障害のリハビリテーション
10	精神障害のリハビリテーション
11	社会リハビリテーションの役割
12	社会リハビリテーションのまとめ
13	職業リハビリテーションの役割
14	職業リハビリテーションのまとめ
15	国際動向、今後の課題

【履修上の注意事項】
「リハビリテーション」を本来の意味で捉え、「社会リハビリテーション」、「職業リハビリテーション」の重要性を考えるものである。予定されたテーマについて事前の情報収集を行い、授業で配布されたプリントの内容について確認してください。

【評価方法】
提出物80％、その他20％

【テキスト】
資料を配布する

【参考文献】
必要の都度、指示する

レクリエーション活動

担当教員 横田　真佐子

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
レクリエーションの基礎理論を理解し、支援者として心のこもった援助の方法を学ぶと同時に、レクリエーション種目の体験やグループワーク等を通して、福祉の現場で必要なコミュニケーションスキルを高めることができる。健康寿命延伸のためのスポーツレクリエーションについても学ぶことが出来る。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	レクリエーション概論 自己開示
2	アイスブレーキングとホスピタリティ
3	ニュースポーツ種目体験「フライングディスク」
4	楽しさと心の元気づくりの理論
5	グループワークによる人間関係訓練
6	レクリエーション財とアクティビティ
7	ウォークラリー体験
8	コミュニケーションと信頼関係づくり
9	暮らしを豊かにするクラフト
10	主体的にレクリエーションを楽しむ力を高める理論
11	福祉レクリエーションと歌の活用
12	体力アップエクササイズ・スポーツレクリエーション
13	魅力的なイベントの作り方
14	対象者に合わせたアレンジ法
15	レクリエーション支援の考え方

【履修上の注意事項】
授業前はテキスト等で内容の確認をし、授業後は関連する内容を調べるなどして学習内容を定着させること。
体育館や外で行う授業の時は、動きやすい服装を準備すること。

【評価方法】
定期試験　７０％　　レポート　２０％　　発表　１０％
（フィードバックとしてレポートにコメントして返却します）

【テキスト】
楽しさをとおした心の元気づくり　（公財）日本レクリエーション協会　発行

【参考文献】
コミュニケーション･ワーク　　（財）日本レクリエーション協会　編

福祉環境マネジメント論

担当教員 西島　衛治

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
ノーマライゼーションを達成するためには、個別対応を含めたバリアフリーデザインと多くの対象者を想定した普遍的なユニバーサルデザインの地域づくりが必要である。集合住宅をはじめ都市施設整備を点から線、面へとアクセスを発展させることが重要である。そのための方法とアクセシブルなシステムを学生が学ぶことができる。

【授業の展開計画】
福祉環境工学では、住宅環境を中心に居住福祉とその技術について講義した。
福祉環境マネジメントでは、個人住宅をはじめ集合住宅、福祉のまちづくり（公共施設、交通など）
環境整備に必要な人材養成、組織、関係機関の連携、関連専門家との連携、医学（専門家）モデルだけでなく生活・社会モデルを重視した「当事者主権」に基づいた環境整備のあり方を展開させる。

週	授　業　の　内　容
1	環境整備に必要な人材養成方法と関連する専門職・資格者について学ぶ
2	組織、関係機関の連携の在り方を学習する
3	関連専門家との連携（建築士、リハビリ関連の療法士、医師、保健師、介護福祉士、ケアマネ他）
4	医学（専門家）モデルの問題点を考える
5	生活・社会モデルに基づいた住環境整備の在り方について学ぶ
6	「当事者主権」とは何かを学習する
7	バリアフリーに関する法制度について学ぶ（法律、条令等）
8	建築基準法のバリアフリーの視点について学ぶ
9	バリアフリー新法ができるまでの経緯とこの法律の実効性について学ぶ
10	福祉のまちづくり条例（やさしいまちづくり条例）について熊本県の場合で考える
11	バリアフリーデザインの流れと今後の展開について議論する
12	ユニバーサルデザイン論とは何かについて議論する（バリアフリーとの違いとは）
13	関連演習（１）を行う：建築図面の見方や作図など(基礎的設計製図法を学ぶ)
14	関連演習（２）を行う：施設整備の現状視察を行う
15	これまで講義内容について多角的総括的に議論する

【履修上の注意事項】
【準備学習】事前に講義テキストを予習し記録する（１２０分）【課題等に関するフィードバック】講義内容を記録し、不明な部分を調べる。記録を図化や表に整理する。（１２０分）【その他のアドバイス】講義の中でノートの作成方法を指導する。そして、講義内容を理解できる内容に構造化する。結論の整理を箇条書きにする。理解できない場合、講師に質問する。

【評価方法】
１）定期試験や中間理解度確認試験による評価（60‰）
２）予習・復習の自主的学習態度の確認（20%）
３）レポートによる評価（10%）
４）講義における質疑応答状況（10%）

【テキスト】
ユニバーサル・バリアフリー検定３級公認テキスト、一般社団法人日本ユニバーサル・バリアフリー協会, 2015（1000円）、教員作成参考資料・正誤表（配布）

【参考文献】
西島衛治編著『高齢者・障害者を配慮した建築設計チエックリストと実施例』理工図書
その他 配布資料など（プレゼンは、PPT使用）パワーポイント

災害支援演習

担当教員 安藤　学

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
災害支援の場合、常に支援協力活動にあたる要員の為に、快適な宿泊設備、生活物資が用意されているとは限らない。むしろ多くの場合が、災害被災地であったり、生活物資の不足する場所での支援協力活動である。
支援協力活動において任務を遂行するために、まず自分自身の安全の確保と生命の維持が確保されなければならないし、またチームワークも重要である。この演習では、協力協同の精神を涵養し災害場面を想定して自活生存、生命維持のための基本的な方法と共に、支援活動に必要な基本技術を修得できる。

【授業の展開計画】
この演習では、「海上訓練」と「陸上訓練」に分けて集中的に実施する。
「海上訓練」では短艇(カッター)を用いて協同協力の精神を養い、「陸上訓練」では実際にテントを設営し野営して自活生存方法を修得する。また「海上訓練」「陸上訓練」を通じてチームワークの重要性を学ぶ。実施の時期については、前もってオリエンテーションを開き説明指導する。
ただしこの演習で、他の授業に支障(公欠で授業を欠席）がでないように、夏季休暇中の実施する。

「海上訓練」(9月上旬 4日間　長洲海洋センター/前面海域)
短艇(カッター)・帆走(ヨット)・結索(ロープワーク)・安全管理・気象観測・溺者救助・応急処置・信号通信・統率(指揮)法

「陸上訓練」(9月中旬 2泊3日　大学構内/蛇が谷公園)
オリエンテーリング(地図見・コンパス見方)・ロープ技術(ロープ渡り・降下等)・野営方法(テント設営・炊飯等）・安全管理・救急処置(傷病者搬送方法含む）・統率(指揮)法

※　「海上訓練」・「陸上訓練」とも、学内において事前指導を行った後に実施する。

【履修上の注意事項】
演習に際しては、安全確保のために指定の作業着・帽子・作業靴を着用する。（作業着等については、貸与するが、食事代と作業服のクリーニング代は各自負担）演習前に出された課題を完成させて授業に臨み、演習後は演習で学んだことを復習をすること。事前に配布された資料を学習しておき、演習終了後は各自で復習を定期的におこなうこと。

【評価方法】
技能（80%）、演習態度（20%）

【テキスト】
プリントを配布する

【参考文献】
なし

介護技術

担当教員 未定

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1．□介護に必要な基本的知識・技術を正しく理解し、実施できるようになる
2．□介護を必要とする人々の身体的・心理的状況に配慮し、自立を支援できるようになる
3．　生活支援技術（介護技術）におけるＩＣＦの意義と枠組みを理解できるようになる
4．□安全で安楽な基本的介護技術を展開できるようになる

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	生活支援の理解
2	ICFの視点とアセスメント
3	介護における基本的なコミュニケーション技術（認知症の方への対応等）・記録と報告
4	自立に向けた居住環境の整備・福祉用具の活用
5	移動・移乗の介護技術Ⅰ
6	移動・移乗の介護技術Ⅱ
7	身じたくの介護技術
8	衣服の着脱の介護技術
9	食事の介護技術
10	入浴・清潔保持の介護技術
11	排泄の介護技術
12	安楽と安寧の技法・睡眠の介護技術
13	緊急事故の対応・終末期の介護
14	介護技術を現場で提供する時に必要な「介護過程の展開」の考え方
15	介護過程の展開の実際（事例検討）

【履修上の注意事項】
授業で使用する物品は忘れずに持参すること。
授業前に学習する内容のテキストを読み予習をしておく。
授業計画は多少前後することがある。

【評価方法】
レポート７０％　　課題提出１０％　　授業中の参加意欲・発表２０％

【テキスト】
介護福祉士養成テキストブック　「生活支援技術Ⅰ」（ミネルヴァ書房）　柴田範子編

【参考文献】
適宜、講義の中で紹介する。

就労支援サービス論

担当教員 橋本　眞奈美、平川　泰士

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
社会福祉領域の専門職、実践者に求められる「就労支援サービス」について理解する。相談支援、就労支援に関する基本的な枠組みとともに、実践的な活動の概略についても理解する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション
2	「働く」意味、社会の仕組み
3	職業の分類、働き方の変化
4	「働く」ことにおける現状
5	「働く」ことに関係する法律
6	障害者の雇用・就業（労）の現状
7	障害者の雇用支援、就業（労）支援の仕組み
8	中間のまとめ
9	職業リハビリテーションの体系
10	障害者以外に向けた就労支援サービス（生活困窮者等）
11	障害者以外に向けた就労支援サービス（母子世帯、高齢者等）
12	特別支援教育と職業的移行
13	就労移行支援、就労継続支援
14	雇用・就業（労）支援施策の動き
15	新たな動向とまとめ

【履修上の注意事項】
社会福祉士国家試験科目「就労支援サービス」に対応する。テキストを利用しての事前学習、配布された資料を利用した受講後の学習が求められる。

【評価方法】
試験80%、レポート等の提出物10%、受講態度10%

【テキスト】
「就労支援サービス」　社会福祉士シリーズ18　弘文堂

【参考文献】
その都度、指示する

ジョブコーチング論

担当教員 吉光　清、小川　倫央、本田　壮一、平川　泰士 平川　泰士

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 平成３０年度は閉講

【授業のねらい】
障害者の就業（労）支援の実践のための基礎理論やジョブコーチ等、就労支援の実践者の支援内容、支援技法を理解する。実際の支援現場の担当者からの講義を踏まえて、就労支援のための職業相談、職業カウンセリング、就労支援サービス提供の実際を理解する。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	オリエンテーション（未定）
2	職業リハビリテーションと”ジョブコーチ”（未定）
3	”ジョブコーチ”とジョブコーチィング（未定）
4	ジョブコーチングのための基本的な考え方（未定）
5	精神障害者の職業問題（小川）
6	精神障害者への雇用・就労支援（小川）
7	精神障害者へのジョブコーチング（小川）
8	精神障害者の定着支援（小川）
9	障害者雇用促進とジョブコーチの歴史（吉光）
10	知的障害者等の職業問題（本田）
11	知的障害者等への雇用・就労支援（本田）
12	知的障害者へのジョブコーチング（本田）
13	知的障害者の定着支援（本田）
14	多様な困難を抱える障害者への就労支援（吉光）
15	就労支援における新しい動き（吉光）

【履修上の注意事項】
「就労支援サービス論」の既習を原則とする。「就労支援サービス論」の該当範囲と事前配布資料に予め目を通し、授業後に当日の内容を復習してください。

【評価方法】
期末レポートが70%、その他が30%で評価する

【テキスト】
『ジョブコーチ入門』エンパワメント研究所

【参考文献】
必要の都度、指示する

社会・組織の心理

担当教員 永田　俊明

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
社会・組織の心理は、人と人とのつながりの中で、どのように感じ、考え、振舞っているのかということややりとりを通してどのような集団・社会を作り上げているのかということを考えることができるようにする。
また、職場での人間関係やコミュニケーション及びメンタルヘルスに関する知見を活用し仕事の効率化や組織行動等について理解することが狙いとなる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	社会的認知Ⅰ：印象形成、バイアス、帰属
2	社会的認知Ⅱ：現実主義、対人認知、態度理論
3	社会的影響Ⅰ：態度変化、説得、勢力と服従
4	社会的影響Ⅱ：社会的比較、スティグマ、多数派と少数派
5	対人行動Ⅰ：自己呈示、マインドリーディング、社会的排除
6	対人行動Ⅱ：ソーシャルサポート、攻撃行動、コンフリクト解決
7	個人と集団Ⅰ：生産性、リーダーシップ、意思決定
8	個人と集団Ⅱ：囚人ジレンマ、社会的ジレンマ、個人と集団
9	ソーシャルネットワーク：組織のネットワーク、構造的すきま、クリティカルマス
10	マスコミュニケーション：フレーミング効果、沈黙のスパイラル、デジタルデバイド
11	職場の人間関係Ⅰ：集団特性、チームワーク、規範と社会化
12	職場の人間関係Ⅱ：マネジメント、意思決定、対人葛藤
13	仕事の効率と安全：ヒューマンエラー、作業負担、ユーザーインターフェイス
14	職場ストレスとメンタルヘルス：ストレス理論、過労死、職場サポート
15	統合的理解：社会・組織の心理について統合的に考査する

【履修上の注意事項】
事前準備として、関心のある社会現象等について文献や新聞などで確認しておくこと。
さらに組織の在り方や心理的内容について事前学習しておくこと。

【評価方法】
定期試験：100点

【テキスト】
未定

【参考文献】
適宜紹介していく。

学校教育の心理学

担当教員 水間　宗幸

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
学校教育の現場における現象を、発達心理学・教育心理学的見地を中心に考える。また教育現場に必要な心理学的視点を養い、学校現場への理解を深めることができる。
現在の学校の役割とそこにおける機能を理解し、教育現場への教育心理的支援の在り方を考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	イントロダクション：21世紀の学校教育が目指すもの
2	学習理論と学習評価：新しい学習と評価の考え方
3	学習指導と学習評価：具体的指導と評価
4	カリキュラムと教授法：学習のスタイル
5	発達に関する基礎理論：アタッチメント、ピアジェ、生態学的発達モデル
6	子どもを理解する基礎知識：ことば・身体・数概念・社会的知識と発達
7	子どもたちへの支援①：社会的背景、特別な支援が必要な子どもたち
8	子どもたちへの支援②：学校教育相談、スクールカウンセリング、スクールカウンセラーとの連携
9	子どもたちへの支援③ストレスマネージメント、共同学習、キャリア教育
10	学級集団の心理学①：社会的態度、対人関係、特別なニーズを必要とする児童・生徒
11	学級集団の心理学②：集団の意義としくみ、学級崩壊と学級支援
12	教師と子どもの人間関係：ほめ方叱り方とコミュニケーション
13	学校組織と教師集団：学校という文化と学校支援
14	社会における学校：学校組織の適応と健康、地域との
15	まとめと総括

【履修上の注意事項】
予習復習が必要。特に次回に触れる内容について、少なくとも事前にテキストを一読すること。
教職免許取得希望者には受講を推奨します。

【評価方法】
総合的な学びの理解の確認のため、筆記試験にて評価を行う。

【テキスト】
「よくわかる学校教育心理学」　森　敏昭編　ミネルヴァ書房

【参考文献】
適宜紹介する

学校ソーシャルワーク論Ⅰ

担当教員 古閑　智子

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
今日の学校教育現場においては、不登校やいじめ、引きこもり、非行、児童虐待、ネグレクト等、様々な困難や課題が深刻化しています。学校のみでは対応が困難な状況にあり、学校・地域・家庭をつなぎ、子どもを中心とした支援を展開するスクールソーシャルワーカーの役割が求められています。
本講義を通して、現代の子ども達を取り巻く状況を理解し、スクールソーシャルワーカーが果たすべき役割について理解できることを目指します。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション：学校ソーシャルワーク論とは？
2	学校ソーシャルワークの歴史（アメリカ）
3	学校ソーシャルワークの歴史（日本）
4	「教育」と「福祉」の接点
5	学校ソーシャルワークの専門的基盤と援助技術の概要
6	学校ソーシャルワークの目的と価値
7	学校ソーシャルワークの実践モデル
8	学校ソーシャルワークの実践過程と展開
9	学校スクールワーカーに求められる能力
10	日本におけるスクールソーシャルワーカーの活動
11	日本におけるスクールソーシャルワークの実践
12	支援ケース会議のあり方について
13	支援ケース会議の実際
14	協働支援の観点と技術
15	まとめ

【履修上の注意事項】
皆さんはこれまでに何らかの形で「学校」とかかわりを持ってきました。その体験的学校論を生かしながら授業に参加してください。

【評価方法】
１．課題レポート７０％　２．発表等の受講態度３０％

【テキスト】
「スクール〔学校〕ソーシャルワーク論」社団法人日本社会福祉士養成校協会＝監修　中央法規

【参考文献】
＊「スクールソーシャルワーカー養成テキスト」日本学校ソーシャルワーク学会 中央法規
＊「スクールソーシャルワーカーのしごと」門田 光司・奥村 賢一 中央法規

学校ソーシャルワーク論Ⅱ

担当教員　古閑　智子

配当年次　３年

単位区分　選択

開講時期　第２学期

授業形態　講義

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】
「学校ソーシャルワーク論Ⅰ」を踏まえて、学校ソーシャルワークに特徴的な援助手法や展開過程等について、学校文化の特質を踏まえて理解します。さらに、個別事例を通して、日本における学校ソーシャルワーク実践のあり方について考察できることを目指します。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	はじめに：学校を取りまく状況
2	「家庭」「学校」「地域」の固有性と接点
3	児童虐待問題の理解・基礎知識
4	児童虐待問題に対する学校ソーシャルワークの取り組み
5	発達障害の理解・基礎知識
6	特別支援教育における学校ソーシャルワークの取り組み
7	不登校・ひきこもりの理解・基礎知識
8	不登校・ひきこもり対する学校ソーシャルワークの取り組み
9	非行問題の理解・基礎知識
10	非行問題に対する学校ソーシャルワークの取り組み
11	高校中退・進路問題の理解・基礎知識
12	フリースクール等に対する学校ソーシャルワークの取り組み
13	事例検討会議のあり方について
14	事例検討会議の実際
15	振り返りとまとめ

【履修上の注意事項】
皆さんはこれまでに何らかの形で「学校」とかかわりを持ってきました。その体験的学校論を生かしながら授業に参加してください。

【評価方法】
１．課題レポート７０％　２．発表等の受講態度３０％

【テキスト】
「スクール〔学校〕ソーシャルワーク論」社団法人日本社会福祉士養成校協会＝監修　中央法規

【参考文献】
＊「スクールソーシャルワーカー養成テキスト」日本学校ソーシャルワーク学会　中央法規
＊「スクールソーシャルワーカーのしごと」門田光司・奥村賢一　中央法規

介護の基本Ⅰ

担当教員 馬場　敏彰

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

１．介護の歴史を踏まえ、介護問題の背景にある課題を理解し、介護にかかわる動向と介護福祉士の役割と機能を把握し介護の原理原則を学ぶ。
２．介護の社会化の形成過程の理解から介護福祉士の役割と活動について学び、専門職としての自覚を深める。
３．専門職としての介護福祉士の自覚と実践を展開できる視点と方法を身につける。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	介護の歴史（介護福祉の形成をを学ぶ意義）
2	日本における介護の成り立ちから介護福祉形成の背景
3	日本における介護の成り立ちから介護福祉形成の背景（明治・大正時代）
4	日本における介護の成り立ちから介護福祉形成の背景（戦前・戦後）
5	日本における介護の成り立ちから介護福祉形成の背景（老人福祉法制定）
6	介護福祉を取り巻く近年の動向（新介護システム　ADLとQOL）
7	介護福祉を取り巻く近年の動向（自立支援に向けた尊厳と自己実現）
8	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ（介護福祉士資格成立前史）
9	介護福祉士の役割と機能（社会的役割としての介護ニーズ）
10	介護福祉士の役割と機能（法的資格への期待）
11	介護福祉士の役割と機能（史的における介護福祉士の役割の理解）
12	介護福祉士の役割と機能（求められる介護福祉士に向けた知識・技術修得の意義）
13	介護福祉形成の理解①〈演習〉（「介護」の見方・考え方の変化）
14	介護福祉形成の理解①〈演習〉（社会的に求められる専門的な介護）
15	介護福祉形成から今後の介護福祉士の役割と課題

【履修上の注意事項】

授業後の復習、授業前の予習を行うこと

【評価方法】

期末試験８０％　　提出物５％　　授業態度５％　　取り組み状況１０％

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会『介護の基本Ⅰ』『介護の基本Ⅱ』中央法規　最新版

【参考文献】

講義のなかで、適宜紹介する。

介護の基本Ⅱ

担当教員 馬場　敏彰

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

１．尊厳ある介護の理解と、援助理念を学び、人権尊重の観点を踏まえて職業倫理を身につける。
２．人間の尊厳を支援する理念としてノーマライゼーション・利用者主体・プライバシーの保護・虐待防止等を学び、職業倫理を身につける。
３．介護福祉士が専門職として身につけておくべき、理念や職業倫理の理解を深めつつ、介護場面での援助関係構築の意義について学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	尊厳を支える介護とは
2	利用者への生活支援と尊厳を支える介護
3	生活支援に必要なノーマライゼーションとQOLの考え方
4	尊厳を支える介護の実際
5	利用者主体の介護
6	利用者主体の介護の実際
7	事例を通して考える「利用者主体の介護」
8	介護の倫理（職業倫理、介護従事者の倫理）
9	介護福祉士にとって必要な「倫理」の理解
10	倫理とプライバシー
11	演習を通して考える「倫理とプライバシー」
12	利用者の人権尊重の意義（介護場面における虐待の背景）
13	介護に必要な人権尊重の考え方
14	利用者の人権を尊重した介護の実際
15	尊厳を支える介護の考え方＜演習＞

【履修上の注意事項】

授業後の復習、授業前の予習を行うこと

【評価方法】

期末試験８０％　　提出物５％　　授業態度５％　取り組み状況１０％

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会『介護の基本Ⅰ』『介護の基本Ⅱ』中央法規　最新版

【参考文献】

講義のなかで、適宜紹介する。

介護の基本Ⅲ

担当教員 川俣　幹雄、小阪　勝己

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
介護職の立場からリハビリテーションの理念について説明できるようになる．また，障害とは何か，障害を持った方の家族支援の在り方や介護における多職種連携の在り方について説明できるようになる．

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	リハビリテーションとは？（川俣）
2	障害の理解（川俣）
3	ＩＣＦの概念（川俣）
4	介護を必要とする人の理解(生活暦と価値観）（小阪）
5	介護を必要とする人の理解（障がいや老いと向き合うことの難しさ（小阪）
6	羞恥心を守る介護の重要性（小阪）
7	家族支援の実際（家族の介護負担、虐待発生のメカニズム）（小阪）
8	家族支援の実際（精神的支援の具体的方法）（小阪）
9	介護福祉士とリハビリテーション専門職との連携の重要性（小阪）
10	生活環境と介護（小阪）
11	良い介護を生む組織・環境づくり（小阪）
12	安全確保、リスクマネジメント（ＫＹＴ活動等）（小阪）
13	多職種連携の重要性（施設内で行われる多職種連携の実際）（小阪）
14	多職種連携の重要性（在宅で行われる多職種連携の実際）（小阪）
15	介護福祉士に求められているものとは何か（小阪）

【履修上の注意事項】
各回の授業テーマと関連する教科書の該当箇所を事前に予習しておくこと。授業後に復習しておくこと。演習問題は2回以上解いてください。

【評価方法】
期末試験５０％, 日常的学習状況５０％で評価する。

【テキスト】
介護福祉士養成講座編集委員会『介護の基本Ⅰ』『介護の基本Ⅱ』中央法規（最新版）

【参考文献】
適宜講義中に紹介する。

介護の基本Ⅳ

担当教員 野島　謙一郎

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解すると共に、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習をし、介護従事者の倫理や介護における安全の確保とリスクマネジメントを理解できるようになる。

【授業の展開計画】
第１回　介護における安全の確保の重要性
第２回　リスクマネジメントとは．リスクの特定．
第３回　安全確保のためのリスクマネジメントの考え
第４回　事故防止、安全対策のためのリスクマネジメントのしくみ
第５回　生活の中のリスクと対策
第６回　生活の場での感染対策
第７回　高齢者介護施設と感染対策
第８回　感染症とリスクマネジメント
第９回　介護に携わる人の健康管理
第10回　介護職の健康と介護の質
第11回　こころの健康管理
第12回　からだの健康管理
第13回　労働環境の整備・改善
第14回　労働環境の改善
第15回　専門職業人としての介護福祉士

【履修上の注意事項】
講義前にテキストの当該箇所を一読してください。毎回ノートを取りましょう。参加者の知識・経験に合わせ適切に指導していきます。また、講義進捗や理解度を考慮し内容を変更することがあります。講義後の振り返りを各自行うようにしてください。

【評価方法】
試験結果70%　授業貢献度10%　レポート20%

【テキスト】
新・介護福祉士養成講座　4　介護の基本Ⅱ　第3版　（中央法規出版）

【参考文献】
授業中にて適宜紹介します。

介護の基本Ⅴ

担当教員 瀬川　綾

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
介護場面において、安全を確保するということにはどんな意味があるのかを学び、具体的な知識と技術を身に付けることができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	リスクマネジメントとは
2	ヒヤリハット・事故報告書の意義
3	利用者の視点から考える生活支援の方法
4	利用者・家族間との信頼関係づくり
5	事故防止・安全対策のマニュアル
6	チームケアの重要性
7	転倒・転落予防策
8	誤嚥予防の為の食事介助テクニック
9	感染対策の基本
10	感染症発生時の対応
11	高齢者を詐欺などの被害から守る為に
12	健康管理の意義
13	ストレス対策・腰痛対策
14	苦情処理の対応策
15	介護労働者の安全・健康管理

【履修上の注意事項】
実際に現場で起こりうるであろう事故や感染についてどんなものがあるかを調べてくること。また、そのような事故を起こさないためには、どんなことに注意が必要なのかを考え、自分の意見をはっきり発言できるようにして下さい。

【評価方法】
試験６０％ 小テスト１０％ 発表 ２０％ 学習態度 １０％

【テキスト】
介護福祉士養成講座編集委員会編「新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ」

【参考文献】
特になし。

介護の基本Ⅵ

担当教員 野島　謙一郎

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習をし、介護サービスでの介護福祉士の役割や姿を理解する.

【授業の展開計画】
第１回　介護サービスの意味と特性
第２回　ケアマネジメントの意味と仕組み
第３回　介護サービスの歴史的変遷と時代背景
第４回　介護サービスの種類と提供の場
第５回　介護保険制度によるサービス概要
第６回　障害者総合支援法によるサービス概要
第７回　介護サービス提供の場と特性
第８回　介護サービス提供の場と特性
第９回　介護サービス提供の場と特性
第10回　介護サービス提供の場と特性
第11回　多職種連携の意義と目的
第12回　協働職種の理解と連携のあり方
第13回　利用者を取り巻く多職種連携の実際
第14回　地域連携の意義と目的
第15回　利用者を取り巻く地域連携の実際

【履修上の注意事項】
介護保険制度及び障害者総合支援法の制度理解を事前学習とします。また、講義進捗や理解度を考慮し内容を変更
することがあります.

【評価方法】
試験結果70%　授業貢献度10%　レポート20%

【テキスト】
新・介護福祉士養成講座　4　介護の基本Ⅱ　第3版　（中央法規出版）

【参考文献】
授業中にて適宜紹介します.

コミュニケーション技術Ⅰ

担当教員 佐藤　嘉倫

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
・介護実践で必要とされる人間関係形成のための「コミュニケーション技術」を理解できるようになる。
・利用者に関わる人たちと利用者の関係調整能力を習得する。

【授業の展開計画】
[授業全体の内容の概要]
・利用者や家族との信頼関係を醸成するコミュニケーションのあり方を学ぶ。
・ロールプレイ等を通して実際的なコミュニケーションの取り方を学ぶ。

週	授業の内容
1	コミュニケーションの意義、目的、基本
2	コミュニケーションの基本
3	介護技術とコミュニケーション
4	利用者・家族と信頼関係を醸成するコミュニケーション
5	アセスメントにつながるコミュニケーション
6	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション（傾聴の技法）
7	利用者の感情表現を察する技法
8	利用者の納得と同意を得る技法
9	質問の技法
10	相談援助の技法
11	指導・助言の技法
12	利用者の意欲を引き出す技法
13	利用者と家族の意向を調整する技法
14	複数の利用者がいる場面でのコミュニケーション技法
15	振り返り

【履修上の注意事項】
・講義前にテキストの当該箇所を一読して下さい。
・講義後の振り返りを各自行うようにして下さい。

【評価方法】
・レポート
・授業への参加態度（積極的なロールプレイによるコミュニケーション技術の習得）

【テキスト】
新・介護福祉士養成講座「コミュニケーション技術」中央法規

【参考文献】

コミュニケーション技術Ⅱ

担当教員 佐藤　嘉倫

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
・コミュニケーション障害のある利用者を理解する視点を学び、適切なコミュニケーションの実践が可能とする
。
・文書（記録・報告書など）を通して、介護実践に必要とされる情報を関係者に伝達する技術を学ぶ。
・個人情報の扱い方や情報の共有、管理の仕方を理解し、実践可能とする。

【授業の展開計画】
[授業全体の内容の概要]
・事例を通して、コミュニケーション障害のある利用者へのコミュニケーションのとり方の基本
・介護実践に必要な記録、会議のあり方

週	授業の内容
1	コミュニケーション障害とその原因
2	コミュニケーション障害のある利用者への対応（視点、対応の基本　他）
3	高次脳機能障害のある人とのコミュニケーション（事例）
4	失語症、構音障害のある人とのコミュニケーション（事例）
5	認知症（若年、高齢者）のある人とのコミュニケーション（事例）
6	視覚に障害のある人とのコミュニケーション（事例）
7	聴覚に障害のある人とのコミュニケーション（事例）
8	知的、精神に障害のある人とのコミュニケーション（事例）
9	介護におけるチームのコミュニケーション
10	介護における記録の意義、目的、種類
11	介護における記録の書き方と留意点、活用と保護・管理
12	報告・連絡・相談の意義と目的、方法と留意点
13	会議の意義と目的
14	会議の種類、方法、留意点
15	振り返り

【履修上の注意事項】
・講義前に教科書の該当ページを一読してください。
・講義時の演習に積極的に参加してください。

【評価方法】
・レポート
・授業への参加態度（積極的なロールプレイによるコミュニケーション技術の習得）″

【テキスト】
新・介護福祉士養成講座「コミュニケーション技術」中央法規

【参考文献】

生活支援技術Ⅰ

担当教員 馬場　敏彰

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

１．どのような障害や生活の困難さがあっても生活そのものが個人としての自立・自律するために必要な援助や支援を学ぶ。
２．生活の理解と支援の方法について、基本的な視点としてのICFの理解を深めると同時に介護サービス提供の対象や場を把握しながら、基本的な介護の知識・技術を養う。
３．生活の仕組みの理解を深め、生活支援の考え方としてICFの視点を身につける。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	生活支援に必要な生活の理解
2	生活と生活習慣（生活の主体性）
3	生活形成のプロセスとアイデンティティ
4	生活の構成と要素
5	事例を通して考える「生活形成のプロセス」
6	生活の継続性
7	生活支援が必要な人の理解(生活関連動作と日常の生活)
8	生活支援の理解
9	生活支援の考え方①（意義・目的）〈演習〉
10	生活支援の考え方②（生活障害による生活のしづらさ）〈演習〉
11	生活支援とICFの視点
12	ICFの視点にもとづくアセスメント
13	ICFにおける「活動・参加」〈演習〉
14	利用者の生活と生活支援
15	生活支援の実際

【履修上の注意事項】

授業後の復習、授業前の予習を行うこと

【評価方法】

期末試験８０％　　提出物５％　　授業態度５％　　取り組み状況１０％

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術Ⅰ』『生活支援技術Ⅱ』中央法規　最新版

【参考文献】

授業のなかで適宜紹介する。

生活支援技術Ⅱ

担当教員 西島　衛治、馬場　敏彰

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
[授業の目的・ねらい]・自立に向けた生活空間としての居住環境の整備にかかわって、安全で快適な環境の整備について学ぶ。
[授業全体の内容の概要]・居住環境の整備は、介護を必要とする者にとって安全で快適であることがすべての場面で整備されることを理解する。

【授業の展開計画】
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・安全で快適な居住環境の確保に必要な視点と方法を身につけ、施設・在宅における環境整備を他職種とも協働して取り組むことのできる態度を身につける。
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数
1. 居住環境整備の意義と目的（馬場）
2. 生活空間と介護①（居場所とアイデンティティー、生活の場）（馬場）
3. 生活空間と介護②（すまい、住み慣れた地域での生活の保障）（馬場）
4. 居住環鏡のアセスメント①（ICFの視点にもとづく利用者の全体像のアセスメント）（馬場）
5. 居住環鏡のアセスメント②（ICFの視点にもとづく利用者の全体像のアセスメント）（馬場）
6. 安全で住み心地のよい生活の場づくりのための工夫①(快適な室内環境の確保、浴室、トイレ、台所等の空間構成等)（西島）
7. 安全で住み心地のよい生活の場づくりのための工夫②（プライバシーの確保と交流の促進、安全性への配慮、その他）（西島）
8. 安全で心地よい生活の場づくり①（住宅改修、住宅のバリアフリー化）（西島）
9. 安全で心地よい生活の場づくり②（ユニバーサルデザイン、その他）（西島）
10. 施設等での集住の場合の工夫と留意点①（ユニットケア、居室の個室化）（西島）
11. 施設等での集住の場合の工夫と留意点②（なじみの生活空間づくり、その他）（西島）
12. 居住環境整備と生活支援技術①（事例検討①…施設における住環境の整備）（馬場）
13. 居住環境整備と生活支援技術②（事例検討②…在宅における住環境の整備）（馬場）
14. 他の職種の役割と協働（馬場）
15. 学期末振り返り（馬場）

【履修上の注意事項】
必ず、予習と復習を行う。学則により、欠席回数が講義回数の三分の一を超えると、定期試験が受けられないので注意する。履修届けがない場合は、出席しても単位が出ない。

【評価方法】
[単位認定の方法及び基準]
１）期末試験70％
２）予習・復習の自主的学習態度の確認20％
３）レポートなどの提出物５％
４）授業態度（授業に適する取り組み姿勢等）５％

【テキスト】
介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術Ⅰ』中央法規　2015年

【参考文献】
福祉住環境コーディネーター２級、東京商工会議所、高齢者・障害者を配慮した建築設計チェックリストと実施例、理工図書、ユニバーサル・バリアフリー検定３級、一般社団法人　日本ユニバーサル・バリアフリー協会

生活支援技術Ⅲ

担当教員 馬場　敏彰、吉岡　久美

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
自立支援の観点から、身じたく・移動・食事・排泄にかかわる基本的な態度と方法について学び、演習を通じて具体的な方法の理解を深める
利用者体験を通して、利用者の気持ちを考えることができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容	週	授　業　の　内　容
1	身じたくの意義と目的	16	状態状況別留意点〈上方・水平移動等演習〉
2	身じたくに関する利用者のアセスメント	17	状態状況別留意点〈仰臥位から側臥位等〉
3	生活習慣と装いの楽しみを支える介護	18	状態状況別留意点〈起居から端座位等演習〉
4	整容行動、衣生活を調整するアセスメント	19	状態状況別留意点〈端座位から立位等演習〉
5	身じたくの介助の留意点(洗面)	20	利用者の状態と状況に応じた移動介護の方法
6	身じたくの介助（整髪）	21	食事の意義・目的
7	身じたくの介助（髭剃り他）	22	食事介護の留意点
8	身じたくの介助（爪切り他）	23	利用者の状態・状況に応じた食事介助の留意
9	身じたくの介助（口腔ケア)見守り一部介助	24	利用者の状態・状況に応じた食事介助の留意
10	身じたくの介助（口腔ケア他）全介助	25	排泄介護の意義と目的（気持ちよい排泄）
11	身じたくの介助（衣服着脱介護他）一部介助	26	排泄介護の留意点（安全・的確な排泄介助）
12	身じたくの介助（衣服着脱介護他）全介助	27	排泄介助の状態状況別留意点〈見守り〉
13	移動の意義と目的	28	排泄介助の状態状況別留意点〈一部介助〉
14	移動に関する利用者のアセスメント	29	排泄介助の状態状況別留意点〈全介助〉
15	状態状況別留意点〈上方・水平移動等演習〉	30	入浴に関するアセスメントの視点と方法

【履修上の注意事項】
授業前にテキスト等で、事前学習を行うこと。演習後のレポートは、期限までに提出すること。レポートを通して復習を行うこと。演習では、決められた服装等を準備すること。

【評価方法】
期末試験６０％、実技試験２０％、授業への取り組み態度２０％

【テキスト】
介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術II』中央法規 最新版

【参考文献】
適宜提示する。

生活支援技術Ⅳ

担当教員 馬場　敏彰、吉岡　久美

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
利用者体験を通して、援助者としての資質向上に努めることができる。
入浴介助における生活支援の技術について、具体的な方法と支援を学び、安全の確保と快適な支援について理解を深めると同時に援助場面でのスキルを身につける。

【授業の展開計画】
詳細な授業計画および準備物等については、第1回目の講義で説明する。

週	授　業　の　内　容	週	授　業　の　内　容
1	一連の生活支援技術(見守り　一部介助)	16	清潔保持の介助の技法（洗髪介護の方法）
2	一連の生活支援技術（全介助）	17	利用者の状態・状況に応じた介助の留意点
3	自立に向けた入浴のアセスメント	18	利用者の状態・状況に応じた介助の方法
4	ICFの視点にもとづいたアセスメント	19	利用者の状態・状況に応じた介助の演習
5	爽快感・安楽を支える入浴介護の意義	20	利用者の状態・状況に応じた介助のまとめ
6	爽快感・安楽を支える介護の工夫	21	一連の生活支援技術(見守り　一部介助)
7	清潔保持の介助の技法（入浴介護の留意点）	22	一連の生活支援技術（全介助）
8	清潔保持の介助の技法（入浴介護の方法）	23	健康状態確認技法
9	清潔保持の介助（シャワー浴介護の留意点）	24	状態状況別生活支援技術（視覚障害）
10	清潔保持の介助（シャワー浴介護の方法）	25	状態状況別生活支援技術（聴覚・言語障害）
11	清潔保持の介助の技法（清拭介護の留意点）	26	状態状況別生活支援技術（グループ演習）
12	清潔保持の介助の技法（清拭介護の方法）	27	状態状況別支援技術　運動機能障害の理解
13	清潔保持の介助（部分浴介護の留意点）	28	状態状況別生活支援技術（発達障害）
14	清潔保持の介助の技法（部分浴介護の方法）	29	状態状況別支援技術　運動器疾患による障害
15	清潔保持の介助の技法（洗髪介護の留意点）	30	状態状況別支援技術　脳血管障害・神経疾患

【履修上の注意事項】
授業前にテキスト等で、事前学習を行うこと。演習後のレポートは、期限までに提出すること。レポートを通して復習を行い、自分の技術習得の状況を振り返りを行うこと。演習では、決められた服装等を準備すること。

【評価方法】
期末評価(筆記試験・実技試験）８０％、提出物１０％、出席状況や授業への取り組み態度１０％

【テキスト】
介護福祉士養成講座編集『生活支援技術Ⅱ』中央法規　最新版

【参考文献】
適宜提示する。

生活支援技術Ⅴ

担当教員 有馬　留以子

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
家庭生活に必要な基礎知識を学び、健康で自立した生活に必要なものは何かについて考えていく。
１人暮らしの高齢者が生活を送るためにどのような生活支援をすればよいのか考えられるようにする。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容	週	授　業　の　内　容
1	家庭生活とは	16	被服と皮膚の衛生保持・管理
2	生活設計の考え方	17	被服実習Ⅰ
3	食生活の基本知識	18	被服実習Ⅱ
4	栄養の理解（炭水化物・脂質）	19	被服実習Ⅲ
5	栄養の理解（たんぱく質・無機質・ﾋﾞﾀﾐﾝ）	20	被服実習Ⅳ
6	献立の立て方・食品の購入と選択	21	家事支援の意義と目的
7	高齢者の食事	22	家事支援の介護技術（調理）
8	調理の基本	23	家事支援の介護技術（洗濯）
9	調理実習Ⅰ（調理の基礎）	24	家事支援の介護技術（掃除・ごみ捨て）
10	調理実習Ⅱ	25	家事支援の介護技術（裁縫）
11	調理実習Ⅲ	26	家事支援の介護技術(衣類・寝具の衛生管理)
12	調理実習Ⅳ	27	家事支援の介護技術（買い物）
13	被服の機能	28	家事支援の介護技術(家庭経営・家計の管理)
14	被服の素材・性能と表示	29	他職種の役割と協働
15	被服の管理（手入れと保管）	30	まとめ

【履修上の注意事項】
テキストを事前に学習すること。 生活に関連する授業なので、新聞なども読むこと。

【評価方法】
期末テスト７０％、作品３０％

【テキスト】
介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術Ⅰ』中央法規

【参考文献】

生活支援技術Ⅵ

担当教員 馬場　敏彰

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
利用者にとっての睡眠の確保と安眠への支援が、快適な生活の基本であることを学ぶ。さらに人間の尊厳にかかわる「終末期」における医療との連携の必要性を理解し、介護福祉士としての役割を身につける。

【授業の展開計画】
詳細な授業計画および準備物等については、第1回目の講義で説明する。

週	授　業　の　内　容	週	授　業　の　内　容
1	心臓・呼吸機能低下傾向の人の生活理解	16	終末期の介護（尊厳の保持）
2	心臓・呼吸機能低下傾向の人への介護方法	17	終末期におけるアセスメントの視点
3	腎臓機能，膀胱直腸低下傾向の人の生活理解	18	ICfの視点にもとづく終末期のアセスメント
4	腎臓機能，膀胱・直腸低下傾向の人への介護	19	終末期における医療との連携の意義と実際
5	認知・知覚機能低下傾向の人への介護留意点	20	終末期における介護（援助の基本姿勢）
6	認知・知覚機能低下傾向の人への介護方法	21	終末期における介護（他職種との連携等）
7	精神障害の人の生活理解と介護方法	22	終末期における介護（具体的援助）
8	精神障害の人への介護方法	23	臨終期の介護（症状の変化への援助）
9	発達障害者支援技法	24	死別期の介護の留意点と方法　死後のケア含
10	重複障害（重症心身障害）への介護方法	25	グリーフケア　意義・目的　援助者の役割等
11	自立に向けた睡眠の介護（意義・目的）	26	他の職種の役割と協働
12	睡眠に関するICFの視点によるアセスメント	27	多職種間の連携と介護福祉士の役割
13	安眠のための介護の留意点	28	一連の生活支援技術（施設生活）
14	安眠のための介護の方法と工夫	29	一連の生活支援技術（在宅生活）
15	終末期の介護（意義・目的）	30	尊厳ある支援を提供するための方法の理解

【履修上の注意事項】
授業後の復習、授業前の予習を行うこと

【評価方法】
期末試験８０％　授業態度及び取り組み状況２０％

【テキスト】
『生活支援技術Ⅱ』『生活支援技術Ⅲ』中央法規

【参考文献】
適宜提示する。

認知症の理解Ⅰ

担当教員　吉岡　久美

配当年次　１年

単位区分　選択

開講時期　第２学期

授業形態　講義

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】
認知症に関する基礎的知識を習得すると共に、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、生活支援の視点を習得する学習とする。

【授業の展開計画】
認知症を取り巻く状況や、医学的側面から見た認知症の基礎について学習する。認知症に伴うこころとからだの変化を理解し、日常生活における変化と支援についての知識を習得する。

週	授　業　の　内　容
1	認知症ケアの歴史と理念、認知症になった人の数の推移などの現状を知る
2	認知症に関する現在の支援対策を、報道等をもとに理解する
3	中核症状による生活困難を知る
4	BPSDによる生活困難を知る
5	認知症と間違えられやすい症状を理解する
6	認知症の原因となる疾患の症状とその特徴を理解する
7	認知症に対する検査・治療・予防を知る
8	若年性認知症の理解（DVDなどの教材をとおして）
9	認知症の人の生活の変化を理解する
10	認知症の人の心理的影響、行動障害の理解と対応
11	認知症の人の行動障害の理解と対応（事例をとおした演習）
12	周辺症状の背景にあるこころの理解（不安、孤独など）
13	認知症の事例検討（演習）
14	認知症に関する検査、診断、治療をもとに、生活を支える視点について総合的に理解する
15	認知機能が低下した人の人権をまもる成年後見制度をはじめとした制度の理解

【履修上の注意事項】
事前学習として、講義で示している単元のテキストを読んでくること。
事後学習では、講義中にとったノートをまとめなおすこと。

【評価方法】
試験やレポートの評価基準など　試験：60%　演習課題：30%　受講態度・演習へのとりくみ：10%

【テキスト】
新・介護福祉士養成講座　第１２巻　認知症の理解（中央法規）

【参考文献】
認知症の理解　（ミネルヴァ書房）

認知症の理解Ⅱ

担当教員　吉岡　久美

配当年次　２年

単位区分　選択

開講時期　第１学期

授業形態　講義

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1. 認知症高齢者の症状や生活に伴う困難を理解する。
2. 認知症ケアの基本的考え方やケアの実際を理解する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	認知症の原因疾患と症状を再確認し、その知識を支援に活用することができる
2	認知症の人を生活者の視点から捉え、生活支援の在り方を理解する
3	ワイズマンの3つの環境構成要素を踏まえ、環境による働きかけを工夫することができる
4	生活の独自性・全体性・地域制・継続性を考慮した支援を理解する
5	認知症の人へのかかわり方の基本を理解する
6	認知症の進行に応じた支援を理解する（初期・中期）
7	認知症の進行に応じた支援を理解する（後期・ターミナル期）
8	認知症の人に対する地域資源や、行政のサポート体制を知り、検討する
9	チームアプローチの事例を通して、認知症の支援に関わる者の役割を理解する
10	介護家族の４つの苦しみを理解し、家族支援に活かすことができる
11	家族へのレスパイトケアの方法を理解し、事例に応じて組み立てることができる
12	エンパワーメントを踏まえた家族支援ができる
13	介護保険制度における認知症対策を理解する
14	グループホームと小規模多機能事業所の役割を理解する
15	認知症の人の望ましい生活を考えることができる

【履修上の注意事項】
事前にテキストを読んで予習する。講義終了後は、授業内容をノートにまとめ、課題に取り組む。

【評価方法】
定期試験７０％、演習課題３０％

【テキスト】
『認知症の理解』中央法規

【参考文献】
進行の中で紹介、資料配布を予定している。

障害の理解

担当教員 水間　宗幸

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
障害の捉え方の変化、障害者支援の全体像を踏まえながら、主な障害種類について身体機能や心理機能の問題、障害特性を学習し、医学的側面、心理的側面から各障害の基礎的事項を理解できる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション
2	”障害”概念の理解
3	視覚障害（種類、原因、障害特性、支援の課題）
4	聴覚障害（種類、原因、障害特性、支援の課題）
5	肢体不自由（種類、原因、障害特性、支援の課題）
6	中途障害と心理的適応
7	難病（種類、原因、特性、支援の課題）
8	内部障害（種類、原因、障害特性、支援の課題）
9	高次脳機能障害（種類、障害特性、支援の課題）
10	精神障害（種類、障害特性、支援の種類）
11	知的障害（種類、障害特性、支援の課題）
12	発達障害（種類、障害特性、支援の課題）
13	障害児・者の支援のためのアセスメント
14	障害児・者の心理的支援
15	まとめ、”障害”をめぐる新しい動き

【履修上の注意事項】
「介護福祉士」国家試験を受験する場合の指定科目「障害の理解」は、本学においては「障害者福祉論Ｉ」とこの「障害の理解」を併せたものとなりますから、両方を履修しなければなりません。各回の講義テーマについて、事前の学習、事後の振り返り学習が求められます。

【評価方法】
レポートまたは試験80%、授業中の質問への応答20%とする

【テキスト】
「介護福祉士養成テキストブック12　障害の理解」　小澤　温　編著　　ミネルヴァ書房

【参考文献】
適宜、紹介する

介護過程Ⅰ

担当教員　吉岡　久美、馬場　敏彰

配当年次　１年

単位区分　選択

開講時期　第２学期

授業形態　講義

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】

１．介護福祉士養成の科目の学びを統合して、介護過程の意義・目的・目標を情報収集からアセスメントをし、介護計画を立案する力量を身につける。
２．介護過程の概要と構成要素を把握して介護過程の理解を深め、情報収集してアセスメントできるように学び、生活支援の目標設定から介護計画策定までの一連のプロセスの理解を深める。
３．介護過程の一連の流れを理解し生活支援の介護計画を立てる力を身につける。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	介護過程とは何かを知り、その概要と構成要素を理解する　:馬場
2	介護場面における生活上の課題から解決プロセスにおける考え方を知る　：馬場
3	生活上の課題から自立生活に向けた展開プロセスにつながることを理解する　：馬場
4	生活上の課題とその解決過程の基本視点を獲得する（事例をもとに検討する）　：馬場
5	介護過程の意義、目的と生活支援の関係性を知る　：馬場
6	生活支援における介護過程の必要性を理解する　：馬場
7	情報収集の意義と方法について、具体的場面から必要な知識と技術を考える　：馬場
8	アセスメントの目的を理解する　：吉岡
9	アセスメントから介護計画につながる全体像を理解する　：吉岡
10	生活支援の課題解決に向けた情報のとらえ方を知る　：吉岡
11	情報収集の方法と分類を理解する　：吉岡
12	情報収集の実際と分類を実践する（事例をもとに検討する）　：吉岡
13	情報の解釈・関連づけ・統合化の意味と方法を理解する　：吉岡
14	介護計画に向けたアセスメントの実践をする〈演習〉　：吉岡
15	アセスメントから生活支援の目標設定方法を理解する　：吉岡

【履修上の注意事項】

事前学習として、予定単元に該当するテキスト部分を読んでくること。
事後学習として、講義中のノートをまとめなおし、課題に取り組むこと。

【評価方法】

筆記試験:８０％　　課題提出:10%　　授業時の積極性：10%

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会『介護過程』中央法規　最新版

【参考文献】

講義中適宜提示する。

介護過程Ⅱ

担当教員　吉岡　久美、馬場　敏彰

配当年次　２年

単位区分　選択

開講時期　第１学期

授業形態　講義

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】
介護過程における自立支援とICFの視点を基本にした課題解決の過程を理解し、自立に向けたアセスメントが介護計画作成への重要な鍵となることを理解する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	介護過程における[自立]とは何か理解する
2	ICFの視点を含め、生活者としての対象者のとらえ方を理解する
3	「リハビリテーション」を目指す情報の関連付け・統合化・分析を理解する
4	介護過程におけるノーマライゼーションを知る
5	「活動・参加」「個人因子」「環境因子」を考慮した生活課題の抽出方法を知る
6	介護における支援の目標設定方法と具体的な援助計画の作成方法を理解する
7	日常生活の自立支援に向けた個別介護支援計画を作成する
8	個別介護支援計画の実施方法を理解する
9	個別介護支援計画の実施上の注意点を知る
10	個別介護支援計画の具体的な実施における記録について理解する
11	実践した介護の記録を基にした評価方法を理解する
12	評価の実践を知る（演習）
13	介護過程における評価、再アセスメントの過程の重要性とその効果を理解する
14	介護過程の一連としての実施・評価による対象者への影響を理解する
15	事例を通して、自立支援を目指した日常生活における援助のための介護過程を理解する

【履修上の注意事項】
必ず、予定されている授業内容を確認してテキストを読み、指示された事前レポートを作成すること。
講義終了後は振り返りを行い、指示された課題に取り組むこと。

【評価方法】
筆記試験：80%　　課題の提出：10%　　講義における積極性：10%

【テキスト】
介護福祉士養成講座編集　「介護過程」　中央法規　最新版

【参考文献】
講義中、適宜指示する。

介護過程Ⅲ

担当教員　吉岡　久美、馬場　敏彰

配当年次　２年

単位区分　選択

開講時期　第２学期

授業形態　講義

単位数　4

準備事項

備考

【授業のねらい】
個別介護計画の作成に必要な情報をアセスメントすることの意義を理解し、対象者の個々の状態・状況から個別介護計画作成の一連のプロセスを学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	生活者の生活活動動作を知る	16	計画立案の留意点を分析し理解する
2	生活活動動作の基本的な捉え方を知る	17	事例を用いて計画立案の実践を理解する
3	介護過程における介護計画を理解する	18	事例を用いて計画立案を実践する
4	個別介護計画を作成する方法を理解する	19	困難事例による計画立案の方法を知る
5	利用者にとっての介護計画の意義を知る	20	困難事例による計画立案を実践する
6	利用者にとっての介護計画作成を理解する	21	個別介護計画の実施における留意点を知る
7	状態・状況に応じた介護過程展開を知る	22	個別介護計画の評価方法を理解する
8	状態・状況に応じた介護過程の実際を知る	23	事例研究：体験した事例の情報を整理する
9	情報収集の留意点について分析する	24	事例研究：かかわりを振り返り検討する
10	アセスメントの留意点を理解する	25	事例研究：アセスメントの傾向を知る
11	事例を用いて情報収集の具体的方法を知る	26	事例研究：計画・実践の可能性を探求する
12	事例を用いて情報収集の実際を理解する	27	事例研究：まとめた事例を共有する（発表）
13	事例を用いてアセスメントを検討する	28	事例研究：事例を共有し検討する
14	事例からのアセスメントの課題を探求する	29	個別介護計画の見直しと再立案を実践する
15	計画立案における留意点を知る	30	評価の視点を探求する

【履修上の注意事項】
必ず予定されている授業内容を確認してテキストを読み、指示された事前学習レポートを作成すること。
講義終了後は振り返りを行い、指示された課題に取り組むこと。

【評価方法】
筆記試験：80%　　課題の提出：10%　　講義における積極性：10%

【テキスト】
介護福祉士養成講座編集　「介護過程」　中央法規　最新版

【参考文献】
講義中、適宜指示する。

介護過程Ⅳ

担当教員　吉岡　久美、馬場　敏彰

配当年次　３年

単位区分　選択

開講時期　第１学期

授業形態　講義

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】
介護の実践に必要な他職種とのチームアプローチを学び、個別介護支援計画作成のための介護専門職との連携、サービス担当者会議における他職種との調整、インテークからモニタリング、再アセスメントといった一連のプロセスを理解する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	チームアプローチとは何かを理解する　：馬場
2	チームに存在するメンバーの役割を理解する　：馬場
3	生活課題解決のためのチームアプローチの意義を理解する　：馬場
4	ケースカンファレンスの意義・目的を知る　：馬場
5	サービス担当者会議の意義・目的を知り、準備から実施までを理解する　：馬場
6	チームアプローチによる支援を理解する　：馬場
7	介護過程におけるチームアプローチを理解する　：馬場
8	介護過程とケアプランの関係性を理解する　：吉岡
9	ケアプランに基づいた個別介護計画を作成し、重要性を理解する　：吉岡
10	作成した計画におけるチームアプローチを探る　：吉岡
11	介護過程と他の職種との関係を理解する　：吉岡
12	介護過程における他の職種との連携を理解する　：吉岡
13	日常生活介護における社会資源を理解する　：吉岡
14	社会資源の活用方法を知る　：吉岡
15	事例をもとに、ケアプランと介護過程を理解する　：吉岡

【履修上の注意事項】
事前学習として、講義で示している単元のテキストを読み、まとめておくこと。
事後学習では、講義中にとったノートをまとめなおし、指示された課題に取り組むこと。

【評価方法】
筆記試験：80%　課題提出：10%　講義における積極性：10%

【テキスト】
新）介護福祉士養成講座編集『介護過程』中央法規

【参考文献】
授業の中で適宜提示する。

介護総合演習Ⅰ

担当教員　吉岡　久美、馬場　敏彰

配当年次　１年

単位区分　選択

開講時期　第１学期

授業形態　演習

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 利用者とのコミュケーションにより人間的な関わりを深めることで、利用者の生活について理解できることを学ぶ。
2. 体験学習の意義、重要性について理解できる。
3. 介護実習の意義、目的や利用者へのかかわり方について理解できる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	
1	介護実習の意義や目的、位置付けについて理解する	〈吉岡〉
2	実習施設の種類に関して知り、実習段階を理解する	〈吉岡〉
3	福祉施設（通所・居宅）の機能と職員の役割について理解する	〈吉岡〉
4	福祉施設（通所・居宅）利用者の特徴とコミュケーション方法を理解する	〈吉岡･馬場〉
5	実習生としての心構え（マナーを含む）を知る	〈吉岡〉
6	介護実習における記録の必要性とその意義について理解する	〈吉岡〉
7	実習に必要な書類について理解し、作成する	〈吉岡〉
8	実習準備としての事前訪問について理解する	〈吉岡〉
9	実習日誌の重要性を理解し、具体的方法を知る	〈吉岡〉
10	介護実習Ⅰの目的を明確化し、目標設定をする	〈吉岡〉
11	介護実習Ⅰの実践をイメージした行動計画を立案する	〈吉岡〉
12	介護実習Ⅰにむけた実習施設別の学習課題とその指導（個別指導）	〈吉岡〉
13	介護実習Ⅰ直前指導：目標設定の見直し、および施設理解を深める	〈吉岡〉
14	介護実習Ⅰ事後指導：自己の行動を客観的に振り返る	〈吉岡･馬場〉
15	介護実習Ⅰ事後指導：実習における目標の達成度の確認と学びの共有	〈吉岡･馬場〉

【履修上の注意事項】

大学における規定の出席回数を満たしていなければ評価対象としない。
事前学習として、講義で示している単元のテキストを読んでくること。
事後学習では、講義中にとったノートをまとめなおし、実習に向けた事前学習ノートを整理するとともに、課題に取り組むこと。

【評価方法】

演習への積極性、参加態度　60％　　提出物（課題・レポート等）40％

【テキスト】

介護福祉士養成講座編集委員会『介護総合演習・介護実習』中央法規

【参考文献】

適宜紹介する。

介護総合演習Ⅱ

担当教員　吉岡　久美、馬場　敏彰

配当年次　１年

単位区分　選択

開講時期　第２学期

授業形態　演習

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】
・学内で学んだ知識に基づいて利用者と関わりを深め、介護ニーズについて考える。
・高齢者施設での機能や利用者の特徴について理解をする。
・高齢者の日常生活援助に関する介護の目的や機能並びに施設職員の一般的な役割について理解する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	介護実習Ⅰを振り返り、高齢者施設での機能と福祉施設職員の役割を理解する
2	介護実習Ⅱの課題である、利用者の特徴とコミュケーション方法を理解する
3	介護実習Ⅱの要項をもとに、課題の理解と心構えについて深める
4	介護施設における各職種の業務内容と連携について理解する
5	高齢者施設を利用する人の生活について考える
6	カンファレンスの種類を知り、実習カンファレンスの意義・方法を検討する
7	介護実習日誌の重要性の理解と具体的方法を知り、実践することでその内容を検討する
8	介護実習における介護過程の展開（個別介護のための利用者情報獲得）方法を検討する
9	介護実習Ⅱの実習目標および行動計画を作成する
10	介護実習Ⅱの実習目標および行動計画を見直して具体化する
11	実習における自己評価項目を作成する
12	実習の全体像をイメージし、施設理解、利用者理解、生活支援技術実施を具体化する
13	介護実習Ⅱの直前指導として課題を確認し、実習における行動・学習を検討する
14	介護実習Ⅱを振り返り、課題を整理して報告書を作成する
15	実習における学びと実践について発表し、共有しながら高齢者施設における介護を探求する

【履修上の注意事項】
規定の出席回数を満たしていなければ評価対象としない。
事前学習として、指示された項目を調べてまとめておくこと。
事後学習として、講義終了後にノートを整理し、指示された課題に取り組むこと。

【評価方法】
取り組み状況20%　授業態度40%　提出物（課題・レポート等）40%

【テキスト】
介護福祉士養成講座編集委員会『介護総合演習・介護実習』中央法規

【参考文献】
適宜紹介する。

介護総合演習Ⅲ

担当教員　吉岡　久美、馬場　敏彰

配当年次　２年

単位区分　選択

開講時期　第１学期

授業形態　演習

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】
１．学習している知識に基づいて、日常生活に援助が必要な高齢者や障がい者の介護ニーズについて考える。
２．高齢者や障がい者の日常生活介護の目的や機能並びに施設職員の役割について理解する。
３．日常生活上の支障ある部分に応じた生活支援技術の適正な技法を理解する。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	障がい者支援施設の種類と特徴を理解する
2	障がい者支援施設の機能と職員の役割について理解する
3	障がいの特徴とコミュケーション方法について考える（グループワーク）
4	障がい者支援施設における介護の役割を理解する
5	障がい者支援施設と地域、家族の連携について理解する
6	実習生としての自己覚知をする
7	チームワークを理解し、実習におけるチームの一員としての関わりを検討する
8	実習記録の重要性を再認識し、具体的記入方法を理解する
9	介護実習Ⅲの目的から自己課題を明確にし、課題解決に向けた対策を考える
10	介護実習Ⅲの実習目標を設定し、実践をイメージした行動計画を立案する
11	実習目標および行動計画を見直して具体化する
12	介護実習における自己評価項目を作成する
13	介護実習Ⅲの直前指導として課題を確認し、実習における行動と学習を検討する
14	介護実習Ⅲを振り返り、課題を整理して報告書を作成する
15	介護実習Ⅲにおける目標達成度の確認と学びの共有を発表を通して実践する

【履修上の注意事項】
規定の出席回数を満たしていなければ評価対象としない
シラバスを確認して、単元の事前学習と準備を行い、演習後には課題にとりくむこと

【評価方法】
演習への積極性、参加態度：60％　　提出物（課題・レポート等）：40％

【テキスト】
介護福祉士養成講座編集委員会「介護総合演習・介護実習」　中央法規

【参考文献】
適宜紹介する

介護総合演習Ⅳ

担当教員　吉岡　久美、馬場　敏彰

配当年次　２年

単位区分　選択

開講時期　第２学期

授業形態　演習

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】
１．介護過程の展開を考え、個別介護について理解を深め、実践につなげることができる。
２．施設職員の組織を理解し、チームの一員として介護業務を行う能力を養う。
３．介護過程の展開を考え、個別介護について検討できる能力を獲得する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	介護実習Ⅲを振り返り、施設や技術、利用者の理解を深める
2	介護実習Ⅲにおける学習について、その成果と不足点を分析する
3	介護実習Ⅰ～Ⅲから、自己の課題を明確にする
4	介護実習Ⅳの目的を理解し、日常生活が困難な方への技術の提供を検討する
5	入所施設と地域、家族の連携について、現状と課題を検討する（討議）
6	これまでの体験から、連続した生活支援について考え、生活課題を見出す方法を探る
7	介護実習Ⅳの目的から自己課題を明確にする
8	介護実習Ⅳの実習目標を設定し、行動計画を立案する
9	実習目標及び行動計画を具体化し、日々の行動計画を作成する
10	実習課題である「介護福祉士の役割」について検討する（討議）
11	チームアプローチについて考え、具体的場面から介護の役割を見出す
12	介護実習における自己評価項目を作成する
13	介護実習Ⅳの直前指導として課題を確認し、実習における行動と学習を検討する
14	介護実習Ⅳを振り返り、課題を整理して報告書を作成する
15	介護実習Ⅳにおける目標達成度の確認と学びの共有を、発表を通して実践する

【履修上の注意事項】
規定の出席回数を満たしていなければ評価対象としない
シラバスを確認して、単元の事前学習と準備を行い、演習後には課題に取り組むこと

【評価方法】
演習への積極性、参加態度：60％　　提出物（課題・レポート等）：40％

【テキスト】
介護福祉士養成講座編集委員会「介護総合演習・介護実習」　中央法規

【参考文献】
適宜紹介する

介護総合演習Ⅴ

担当教員　吉岡　久美

配当年次　３年

単位区分　選択

開講時期　第１学期

授業形態　演習

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】
居宅介護、グループホーム等に関する制度を理解し、利用者の生活形態、家族関係を考慮した生活援助を学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	グループホームに関する制度と利用者の生活を理解する
2	在宅生活をする介護が必要な対象者の生活を理解する
3	在宅生活を支援する介護の専門性と実践を理解する
4	居宅支援に位置づけられる福祉サービスを理解する
5	居宅支援の実践者とその役割を理解する
6	居宅支援における介護福祉士の役割を探求する（グループワーク）
7	居宅支援のチームアプローチにおける連携方法を考える
8	居宅支援の実践に必要な接遇等を考える
9	これまでの実習を振り返り、居宅支援の実施にむけた自己課題を明確化する
10	介護実習Ⅴの目的を明確化し、目標設定をする
11	介護実習Ⅴの行動計画を作成する
12	実習施設の理解を深め、考えられる利用者像をもとに生活支援を検討する
13	介護実習Ⅴの直前指導として、課題を確認して実習における行動と学習を検討する
14	介護実習Ⅴを振り返り、自己評価をもとに目標達成状況の確認と報告書作成をする
15	介護の対象者の理解、施設理解、生活支援技術の提供等について総合的にまとめ発表する

【履修上の注意事項】
事前学習として、単元に関するテキストを読んでくること。
事後学習では、演習における課題に取り組むこと。

【評価方法】
演習への積極性、参加態度：60％　　提出物（課題、レポート等）：40％

【テキスト】
新）介護福祉士養成講座編集『介護総合演習・介護実習』中央法規　　最新版

【参考文献】
介護実習要項等

介護実習Ⅰ

担当教員 吉岡　久美、馬場　敏彰

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
通所施設や居宅施設を利用する日常生活援助が必要な人を知り、
その介護の目的や機能並びに施設職員の役割について説明でき
る。

【授業の展開計画】
利用者と関わることでその人を知り、講義、演習、学内実習で学んだ知識を基に介護ニーズを考える。

１．コミュニケーション能力を身につけ、対象者理解を意識して行動する。
２．福祉施設（ディサービス等）の機能と職員の役割を知る。
３．施設内の環境を知り、実際の介護技術の提供場面を体験する。
□
【実習内容】
１.利用者とかかわり、コミュニケーション技術を習得する。
２.利用者のニーズを考え、介護の実践の場を体験する。
３.記録を通して自己の学びを明確化する。

【履修上の注意事項】
実習前には、介護総合演習における事前学習を振り返ること。
実習終了後は、実習を振り返った報告書を見直し、自己課題を明確にしておくこと。

【評価方法】
施設指導者による評価　60%　　実習担当教員による評価30%　　実習への総合的な積極性　10%

【テキスト】
新）介護福祉士養成講座編集『介護総合演習・介護実習』中央法規

【参考文献】
本学で作成した「介護実習要項」と「実習日誌」等

介護実習Ⅱ

担当教員 吉岡　久美、馬場　敏彰

配当年次 １年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
・学内で学んだ講義、演習、学内実習を基にして、施設実習に応用する。
・生活障害を有する高齢者の施設を実習施設とし、要介護に応じて求められる介護技術の適正な用い方を身につけ、利用者の権利を尊重する態度を養う。
・利用者の自立支援の観点から、利用者の全人格的理解と福祉サービスの全体像を把握でき、適切な援助ができる能力を身につける。

【授業の展開計画】
【実習の概要】
1.利用者への適正な介護技術が援助でき、カンファレンスの意義やあり方、連携の必要性を理解して積極的な参加ができるようにする。
2.福祉機器や福祉用具の知識と活用を学ぶ。

【実習内容】
1.利用者の生活状況を理解する。
2.障害に応じたコミュニケーションの方法を習得する。
3.カンファレンスについて理解し、実践する。
4.利用者の状態やニーズに応じた介護技術や援助の方法を実践する。

【履修上の注意事項】
実習生として相応しい学修態度に留意し、実習中の課題に取り組むこと
実習前には、介護総合演習における事前学習を振り返ること
実習終了後は、実習を振り返った報告書を見直し、自己課題を明確にしておくこと

【評価方法】
施設評価60％、教員評価30％、その他10％

【テキスト】
新）介護福祉士養成講座編集『介護総合演習・介護実習』中央法規

【参考文献】
本学で作成した「介護実習要項」と「実習日誌」等

介護実習Ⅲ

担当教員 吉岡　久美、馬場　敏彰

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
講義・演習における学びを基本とし、高齢者および障がい者施設で生活する利用者を理解し、その介護を具体的にアセスメントする。また、日常生活に必要な支援技術を実践することで、介護技術を習得する。

【授業の展開計画】
【実習の概要】
・生活支援技術が必要な高齢者及び障がい者の生活を夜間の状況を含めて理解する。
・適正な介護技術の提供のための利用者理解とアセスメントを行い、課題の抽出と目標の設定を行うことで、尊厳に基づいた個別性のある介護を考える。
・カンファレンスの意義やあり方、連携の必要性を理解し、チームアプローチを学ぶ。

【実習内容】
１．様々な情報源から、日常生活に支障のある高齢者や障がい者の生活を把握し、その介護ニーズを見出す。
２．生活の困難に応じた介護技術の提供方法を習得する。
３．尊厳を重視する介護について学ぶ。
４．施設における介護の実践が終日継続されていることを体験し、連携の必要性を学ぶ。

【履修上の注意事項】
実習生としてふさわしい学習態度に留意し、実習中の課題に取り組むこと
実習前には、介護総合演習における事前学習を振り返ること
実習終了後は、実習を振り返った報告書を見直し、自己課題を明確にしておくこと

【評価方法】
施設評価：60%　教員評価：30%　その他提出物等：10%

【テキスト】
介護福祉士養成講座編集「介護総合演習・介護実習」　中央法規

【参考文献】
本学で作成した「介護実習要項」と「実習日誌」等

介護実習Ⅳ

担当教員　吉岡　久美、馬場　敏彰

配当年次　２年

単位区分　選択

開講時期　第２学期

授業形態　実習

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】
福祉施設職員の組織を理解し、チームの一員として介護を遂行する能力を養う。

【授業の展開計画】
【実習の概要】
１．施設運営のプログラムに参加し、福祉サービス全般について理解する。
２．施設の通所サービスに参加し、地域、家族、施設の関係について学ぶ。

【実習内容】
１．利用者の個別の特性を把握して個別介護計画を立案し実施することで、利用者の変化を把握する。
２．利用者を全人的に受け止め、その生活や存在全体を考える。
３．夜間学習を体験することで、介護の継続性やチームワークについて学ぶ。
４．多職種の業務を見学してそのかかわりを知り、介護専門職の役割を理解する。

【履修上の注意事項】
実習生としてふさわしい学習態度に留意し、実習中の課題に取り組むこと
実習前には、介護総合演習における事前学習を振り返ること
実習終了後は、実習を振り返った報告書を見直し、自己課題を明確にしておくこと

【評価方法】
施設評価：60%　教員評価：30%　その他提出物等：10%

【テキスト】
介護福祉士養成講座編集「介護総合演習・介護実習」　中央法規

【参考文献】
本学で作成した「介護実習要項」と「実習日誌」等

介護実習Ⅴ

担当教員　吉岡　久美

配当年次　３年

単位区分　選択

開講時期　第１学期

授業形態　実習

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】
　居宅介護、グループホーム等の実習を体験することにより、
高齢者が住み慣れた住宅や地域の中で自己の能力を最大限に生かして、
その人らしい生活が継続できるようにするための実践活動ができる。

【授業の展開計画】
【実習の概要】
１．居宅介護、グループホーム等の実習を体験することで、高齢者や障がい者が住み慣れた住宅や地域の中でその人らしい生活が継続できるようにするための実践活動を学ぶ。
２．居宅生活を支援する介護福祉士の役割を学ぶ。

【実習内容】
１．居宅、グループホーム等で介護を必要とする人の生活を把握し、介護ニーズにあった介護の提供を学ぶ。
２．居宅、グループホーム等での利用者と家族、地域とのつながりを知り、関連するサービスの必要性を学ぶ。
３．居宅生活を支援する医療・保健・福祉の連携について学び、介護福祉士の役割を理解する。

【履修上の注意事項】
介護実習Ⅳを修了していること
実習前には、介護総合演習における事前学習を振り返ること。
実習終了後は、実習を振り返った報告書を見直し、自己課題を明確にしておくこと。

【評価方法】
施設指導者による評価:60%　　実習担当教員による評価:30%　　実習への総合的な積極性:10%

【テキスト】
新）介護福祉士養成講座編集『介護総合演習・介護実習』中央法規

【参考文献】
本学で作成した「介護実習要項」と「実習日誌」等

医療的ケアの基礎Ⅰ

担当教員　吉岡　久美

配当年次　３年

単位区分　選択

開講時期　第２学期

授業形態　講義

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】
[授業の目的・ねらい]　介護福祉士に求められる医療的ケアに関する基本を理解する。
[授業全体の内容の概要] 医療的ケアに必要な個人の尊厳及びさまざまな医療に関する制度、
感染予防を理解す るとともに、医療的ケアである「たんの吸引」について理解する。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]医療的ケアを行う上での制度の理解と尊厳について説明できる。
適切な感染予防方法の説明、高齢者及び障害児・者に行う「たんの吸引」の必要性が説明できる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	個人の尊厳と自立、医療の倫理の理解、利用者や家族の気持ちの理解
2	保健医療制度、医行為に関する法律
3	チーム医療と介護職員の連携、安全な療養生活のための医療的ケアの提供の重要性
4	リスクマネジメントとアクシデント報告の重要性、救急蘇生の必要性の判断
5	救急蘇生法の理解と実際の方法
6	感染予防と清潔の保持
7	療養環境の清潔と消毒方法、消毒薬の使い方と留意点
8	身体・精神の健康の理解と健康状態の把握
9	健康状態を知る具体的方法の理解と急変時の対応
10	たんの吸引概論～呼吸のしくみとはたらき
11	異状の呼吸とそれに伴う苦痛と障害、たんの排出のしくみ
12	たんの吸引が必要な状態の理解、人工呼吸療法
13	人工呼吸器のしくみ、生活支援上の留意点と医療職との連携、子どもの吸引の留意点
14	吸引を受ける利用者・家族の気持ちと対応、呼吸器感染の予防
15	たんの吸引による危険、安全確認方法と事故発生予防・事故対策

【履修上の注意事項】
授業内ではディスカッションを取り入れることもあるため、参加的態度で臨むこと。
提示してある項目について、必ず事前にテキストを確認して課題に取り組むこと。
講義終了後は、ノートをまとめなおし、講義中に確認できた理解不足事項を補うとともに、課題を完成させること。

【評価方法】
原則として筆記試験（６０％）、ディスカッション参加＋小レポート（４０％）を評価の対象とする。

【テキスト】
メヂカルフレンド社　最新介護福祉全書１３　医療的ケア（DVD付き）

【参考文献】
講義中に適宜、指示する。

医療的ケアの基礎Ⅱ

担当教員　吉岡　久美

配当年次　４年

単位区分　選択

開講時期　第１学期

授業形態　講義

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】
介護福祉士に求められる医療的ケアに関する基本を理解する。
到達目標：「喀痰吸引」の実施手順が説明できる。栄養の必要性が説明できる。「経管栄養」の必要性が説明できる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	喀痰吸引の必要性を振り返り、実施の留意点と急変・事故時の対応、人工呼吸器について知る
2	喀痰吸引で使用する機材とその消毒を含めた取扱いを理解する
3	吸引の物品準備、利用者への説明と事前準備から片づけまでが説明できるようになる
4	吸引に伴うケア、医療職への報告、記録の意義と書き方を理解する
5	消化器系のしくみと働きの理解を深める
6	消化・吸収のしくみを振り返り、消化器症状、経管栄養が必要な状態を理解する
7	経管栄養のしくみと注入内容に関する知識を得る
8	経管栄養実施上の留意点を学び、子供の経管栄養について理解する
9	経管栄養に関する感染とその予防方法、利用者・家族の気持ちを理解した説明と同意を考える
10	経管栄養による危険、注入後の安全確認、急変・事故発生時の対応と事前対策を知る
11	経管栄養実施手順の理解～経管栄養に必要な器材と清潔保持を理解する
12	経管栄養の物品準備、利用者への説明と事前準備から片づけまでが説明できるようになる
13	経管栄養を受ける利用者のプライバシーを考える　　消化機能を促進するケアを理解する
14	経管栄養に必要なケア（体位、口腔、鼻腔、胃瘻部の確認等）の理解を深める
15	医療職への報告、連絡、記録について理解する

【履修上の注意事項】
講義内ではディスカッションを取り入れるため、参加的態度でのぞむこと。
事前学習として、次回の単元に関するテキストを熟読しておくこと。
事後学習では、講義のノートをまとめなおし、関連科目の復習も添えておくこと。

【評価方法】
原則として筆記試験60%、ディスカッション参加・小レポート40%を評価対象とする

【テキスト】
最新介護福祉全書１３　医療的ケア　　（メヂカルフレンド社）

【参考文献】
介護職員等のための医療的ケア　公益財団法人日本訪問看護財団編　ミネルヴァ書房　最新版

医療的ケアの実践

担当教員　吉岡　久美

配当年次　４年

単位区分　選択

開講時期　第１学期

授業形態　講義・演習

単位数　1

準備事項

備考

【授業のねらい】
介護福祉士に求められる医療的ケアに関する基本を踏まえた実践を行う。
到達目標：喀痰吸引、経管栄養の実施手順が説明でき、物品準備、教材モデルを対象にした実践、観察、片づけなどの一連の手技が説明でき、実施できる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	講義：吸引における身体状況の確認と準備から片づけ、観察、記録方法
2	演習：痰の吸引（口腔内吸引5回以上、鼻腔内吸引5回以上、気管カニューレ内部5回以上）の実践
3	講義：経管栄養における身体状況の確認と準備から片づけ、観察、記録方法
4	演習：経管栄養（胃瘻または腸瘻5回以上、経鼻5回以上）の実践
5	講義：救急時の判断と対応
6	演習：救急蘇生法（1回以上）の実施、観察と記録、報告の実践
7	講義：痰の吸引、経管栄養、救急時の対応の振り返り
8	演習：総合評価（すべての技術の実践）
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】
実践を中心とした演習はまじめに取り組み、講義中のディスカッションでは積極的態度で臨むこと
事前学習及び事後学習を行い、記録にとどめ、学習を深めること（これが不十分であれば演習を実施しないこともありうる）

【評価方法】
原則として、演習時の実践60%、実技試験40%

【テキスト】
最新介護福祉全書１３　医療的ケア　メヂカルフレンド社

【参考文献】

医療的ケア実習

担当教員 吉岡　久美

配当年次 ４年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
介護福祉士に求められる医療的ケアである「喀痰吸引」、「経管栄養」を、指導者の下で安全、安楽に実践する技術を習得し、対象者の尊厳、感染防止、以上の早期発見に留意しながら実践する。
到達目標：対象者の尊厳を守り、安全・安楽な吸引や経管栄養の援助に関する物品準備、観察、実践、片づけなどの一連の主義が説明でき、実施できる。

【授業の展開計画】
1.喀痰吸引（口腔内10回以上、鼻腔内20回以上、可能であれば機関カニューレ内部20回以上）を、指導者の指示を受けながら、利用者の心身の状態を正確に観察し、指導者と連携し医師に報告し、喀痰の吸引を安全、安楽、かつ効果的に実施する。

２．経管栄養（胃瘻または腸瘻20回以上、可能であれば経鼻20回以上）を、指導者の指示を受けながら、利用者の心身の状態を正確に観察し、指導者と連携し医師に報告し、経管栄養を安全、安楽、かつ効果的に実施する。

【履修上の注意事項】
実習施設のきまりを守り、個人情報保護、尊厳の順守、真摯な態度での実習をすること。
事前学習として、医療的ケアの基礎Ⅰ、Ⅱを振り返り、解剖整理、疾患の理解等を深め、医療的ケアの実践で行った技術の再確認と観察項目の確認をすること。
事後学習では、実際を振り返り、補助がなく実践できるための手順の確認と観察、対応を明確にすること。

【評価方法】
実習施設指導者評価60%、　指導教員評価30%、記録等の提出10%

【テキスト】
医療的ケア（メヂカルフレンド社）

【参考文献】

人間と福祉・平和思想

担当教員 未定

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 平成３０年度は閉講

【授業のねらい】
第二次世界大戦による歴史的現実との対決から現代世界は生まれました。その代表的な一例を、ドイツのヴァイツゼッカー大統領による戦後40周年演説に見て、その演説を正面から一緒に読み解きます。そして大きな二つの主題を引き出して、以下に示す講義内容へと展開します。「知ったかぶり」でもなければ「知らん振り」でもない、対象と自己意識との正確な対応を「知」として認める「知的良心」に資する核心を形成できます。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	I-1 テクストの再構成1　ヴァイツゼッカー演説を読む　①「終戦は敗戦か解放か」という問題提起
2	I-1-2 「にも拘わらず解放」という論理の急旋回（学習過程としての戦後40年間）
3	I-1-3　ヨーロッパにとっての第二次世界大戦＝当事者能力喪失一歩寸前、米ソによる欧州分断
4	II-1　テクストの再構成2 ホロコーストとの対決、ヴァ演説の独自性、パラダイムとシンタックス
5	II-2　知の否認の後に：罪と責任の生成、罪の伝統的二分法
6	II-3　作為の罪と不作為の罪、その非対称性の現状と克服という現代的課題
7	III-1　映画の現実「シンドラーのリスト」「戦場のピアニスト」「アーメン」（日本未公開）
8	IV-1　古典の復権：半世紀後の哲学者ヤスパース著の概念的豊穣さ
9	IV-2　対概念の形成と定義付け、「学問の瞥見」
10	IV-3　作為と不作為の非対称性の克服へ
11	V-1　人間とは何かに対する解答例１
12	V-2　人間とは何かに対する解答例２
13	V-3　近代的人間観の全体像
14	VI-1　平和と人権、福祉と介護責任の原理を求めて、もうひとつの作為へ
15	VI-2　平和と人権、福祉と介護責任の原理を求めて、不作為の支援へ

【履修上の注意事項】
人間の作品としての言葉に向かい合う、そして、自分の頭脳を使って考えるという訓練をしますので、集中して受講する態度を望みます。予習復習には教科書を活用して、質問を繰り返してください。

【評価方法】
毎回の感想文＝30点、レポート＝10点、定期試験＝60点。

【テキスト】
山本　務、熱田一信編著『ハンセン病・薬害問題　プロジェクト　作為・不作為へ』（本の泉社）
R.ヴァイツゼッカー著、山本務訳著『過去の克服・二つの戦後』（NHKブックス705、日本放送出版協会）。

【参考文献】
カール・ヤスパース著『戦争の罪を問う』（橋本文夫訳、平凡社）他、講義中に適宜、教示。

保健社会論

担当教員 嶋　政弘

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
1 我が国の国民衛生の歴史及び現状について説明することができる。
2 衛生の主要指標について理解し，現在課題となっている保健・医療問題を解説することができる。

【授業の展開計画】
前半は，国民衛生の歴史と現状という課題で，国民衛生の歴史や進歩を中心に学習する。
後半は，現在の医療経済や国民衛生に関する統計を基にした現状と課題について学習する。
授業の形態としては，課題を基にしたディスカッションを随所に取り入れ，自分の考えを持つことを目標とする。

週	授業の内容
1	保健社会論とは
2	病気と医療の関係
3	医療保障の歴史と目的
4	保健医療論①　保健・医療・福祉の資源
5	保健医療論②　地域保健・地域医療
6	保健医療論③　社会保障制度と医療経済
7	保健医療論④　国際保健
8	産業保健①　労働衛生対策
9	産業保健②　産業性疾病
10	産業保健③　産業中毒
11	環境保健①　環境と適応
12	環境保健②　地球環境の変化と健康影響
13	環境保健③　環境汚染の評価と対策
14	環境保健④　環境緯線の発生要因と現状（公害のエピソードを含む）
15	現代医療の課題

【履修上の注意事項】
1 ペアによるディスカッションをするため，ペアを作って着席する。
2 すべてのペアに発言の機会があるので，常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】
ディスカッションへの参加40%，課題提出20%，期末試験40%で評価する。
追試験は実施しない。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献】
毎回，資料（学習プリント）を配布する。参考資料については，授業の中で随時提示する。

福祉環境工学

担当教員 西島　衛治

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
学生は、ノーマライゼーションに基づく環境整備の方法にバリアフリーがある。高齢者や障害者が社会参加し、自立できる生活環境を整備するための方法を学ぶ、特に在宅をこれからの地域福祉の基点にするため、地域との関連性についても考えられるようにしたい。

【授業の展開計画】
要介護高齢者や障害者の住環境のバリアフリーの方法を学習する。また、都市の公共的施設建築のバリアフリー技術を学ぶ。なお、福祉住環境コーディネーター検定試験の基礎的学習ができる。

週	授業の内容
1	障害と障害者の基本的動作寸法について学習する
2	障害を考えた建築計画の基本について学習する
3	バリアフリーの基本的設計方針について学習する
4	福祉用具と住宅改善について学習する
5	住宅のバリアフリーについて学習する
6	アプローチ、出入口の計画について学習する
7	駐車場、動線（廊下等）の計画について学習する
8	水まわり（便所、洗面、浴室）の計画について学習する
9	居室の計画について学習する
10	設備の計画について学習する
11	要介護高齢者対応の住宅計画について学習する
12	住宅のバリアフリーのケース・スタディについて学習する
13	バリアフリー住宅の見学（または、設計事例の紹介）
14	車イスなど福祉用具の住環境での使用体験を行う
15	これまでの講義内容について総括的に議論する

【履修上の注意事項】
【準備学習】事前に講義テキストを予習し記録する（１２０分）【課題等に関するフィードバック】講義内容を記録し、不明な部分を調べる。記録を図化や表に整理する。（１２０分）【その他のアドバイス】講義の中でノートの作成方法を指導する。そして、講義内容を理解できる内容に構造化する。結論の整理を箇条書きにする。理解できない場合、講師に質問する。

【評価方法】
１．定期試験や中間理解度確認試験による評価（60%）
２．予習・復習の自主的学習態度の確認（20%）
３．レポートによる評価（10%）
４．講義における質疑応答状況(10%)

【テキスト】
西島衛治編著「ユニバーサル・バリアフリー検定　３級公認テキスト」一般社団法人　ユニバーサル・バリアフリー協会、2015年７月発行（税別1000円）及び配布資料:制度や用語の変更などに伴う正誤表配布

【参考文献】
西島衛治編著『高齢者・障害者を配慮した建築設計チェックリストと実施例』理工図書,
福祉住環境コーディネーター２級公式テキスト」東京商工会議所

福祉情報の保障と管理

担当教員

配当年次　４年

単位区分　選択

開講時期　第１学期

授業形態　講義

単位数　2

準備事項

備考　平成３０年度は閉講

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

東洋福祉論

担当教員　未定

配当年次　３年

単位区分　選択

開講時期　第１学期

授業形態　講義

単位数　2

準備事項

備考　平成３０年度は閉講

【授業のねらい】

1　東アジア諸国（日本、中国、韓国）の福祉戦略を理解する。
2　日本の福祉政策を理解・評価し、また同時に、あるべき方向性を検討する上で、国際比較研究は重要なツールとなる。
3　福祉政策は幅広い分野を対象とするが、主に介護保障（制度）に焦点をあてる。
4　将来の社会福祉士として、ローカルな実践に加え、グローバルな視点をもった発想や提案を試みる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容		
1	オリエンテーション、東洋社会と福祉文化・福祉オリエンタリズム		
2	Ⅰ　第二次世界大戦前の社会事業	1	隣保相扶を中心とした時代
3	2　世紀転換期の動き		
4		3	国家介入による救済形態へ、社会事業の盛衰
5	Ⅱ　第二次世界大戦後の社会福祉	1	占領期の社会福祉
6		2	高度経済成長期の社会福祉
7		3	社会保障運動の発展
8		4	福祉元年と1980年代の動き
9	Ⅲ　新しい社会福祉の動き	1	社会福祉計画化の時代
10		2	社会福祉基礎構造改革以降の動き
11	Ⅳ　社会福祉の思想および政策の流れ	1	日本の社会福祉の歩みから
12		2	中国の社会福祉の歩みから
13		3	韓国の社会福祉の歩みから
14		4	韓国の福祉文化・福祉戦略
15	Ⅴ　アプローチとしての福祉社会・市民社会		

【履修上の注意事項】

授業前に資料（プリント）などを読み、キーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

定期試験60％、レポート20％、発表20％で評価する。

【テキスト】

毎回、資料（プリント）などを用意し、配布する。

【参考文献】

社会福祉士養成講座編集委員会編『現代社会と福祉』第４版（中央法規、2017年）。
厚生労働省編『（平成28年版）厚生労働白書』（ぎょうせい、2016年）。

社会福祉特講Ⅱ

担当教員 西島　衛治、竹中　健、吉岡　久美、未定、隈　直子

配当年次 ２年

開講時期 第２学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
「高齢者等への情報支援」と「地域でのボランティア実践」という２つのコースに分かれ、通常の教科とは異なった内容の講義、演習、実習（実践）を経験して、福祉実践の視野を広げ、地域で活動する力を強化する。

【授業の展開計画】
「高齢者等への情報支援」　（15回の講義分担）
第１回　「オリエンテーション・高齢者等への情報支援と生きがい情報士」（西島）
第２回　「情報支援のためのインターネット技術」（竹中）
第３回～第６回「高齢者就業の現状」「課題」「対策」「支援」（河谷）
第７回～第９回「ライフプラン」「作成技術」「支援」（吉岡）
第10回～第13回「高齢者の余暇の現状」「問題点」「余暇支援」「支援技術」（隈）
第14回　「地域参加に向けた広報技術」（竹中）
第15回　「高齢者等の地域参加支援技術」（竹中）

「地域でのボランティア実践」（全15回を西島が担当）
第１回　「地元の福祉活動、NPO法人を調べる」
第２回　「NPO法人の活動内容を把握する、ディスカッション」
第３回～第７回「NPO法人等の活動に参加する」
第８回　「活動参加に関する報告」
第９回　「地元における就労支援活動、NPO法人を調べる」
第10回　「NPO法人の活動内容を把握する、ディスカッション」
第11回　「NPO法人等の就労支援事業に参加する」
第12回　「作業内容を把握し、個別支援計画について学ぶ」
第13回　「個別支援計画に沿った支援について学ぶ」
第14回　「活動参加に関する報告」
第15回　「全体報告、振り返り」

【履修上の注意事項】
「高齢者等への情報支援」コースにおいては、ライフプランの作成演習、パソコンを使った情報検索の実習、情報支援計画の作成演習を含む。各回の講義テーマに対して、テキストに沿った予習・復習が求められます。なお、15回の学習は「生きがい情報士」の受験資格のための科目として利用できます。
「地域でのボランティア実践」コースでは、事前学習の後、ボランティア活動を実践し、活動経過、結果を報告にまとめることが必要です。

【評価方法】
「高齢者等への情報支援」コースでは試験(70%)、提出物（30%）で評価する。
「地域でのボランティア実践」コースでは、事前学習結果、ボランティア活動の記録、活動に対するNPO等からのコメント、ボランテイア活動の報告書によって評価する。

【テキスト】
「高齢者等への情報支援」コースでは「生きがい情報士養成テキスト」（健康・生きがい開発財団編）を使用する。「地域でのボランティア実践」コースでは、必要の都度、参考資料を作製し配布提供する。

【参考文献】
①高齢者福祉に関する資料、地域福祉に関する資料　②NPO法人に関する本、ジョブコーチに関する本、障害者福祉・雇用の法規や制度に関する本、個別支援計画に関する本

学校ソーシャルワーク演習

担当教員 古閑　智子

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
この演習では、学校が抱えるさまざまな課題を知り、スクールソーシャルワーカーが学校においてどのようにソーシャルワーク実践を行うべきかについて学びます。子どもたちが抱える状況を把握するためのアセスメント方法、支援計画の立て方、ケース会議の方法、関係機関との連携等、学校ソーシャルワークのさまざまな支援方法を学んだのち、「自分がスクールソーシャルワーカーならどうするか」という意識をもちながら、実践事例を通して支援を考え、課題を抱えた子どもたちへ適切な支援が行えるようになることを目指します。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	スクールソーシャルワーカーの仕事
2	スクールソーシャルワーカーの専門性
3	学校ソーシャルワーク実践の導入
4	学校ソーシャルワークの支援方法
5	アセスメントの展開
6	支援計画の展開
7	学校ケースマネジメント、チームアプローチの理解
8	ケース会議の展開
9	関係機関との連携：学校外資源の活用
10	関係機関との連携：地域に根差した実践、協働システムの構築
11	記録の在り方、スーパービジョンについて
12	事例検討＜児童虐待、非行、不登校＞
13	事例検討＜特別支援教育、貧困家庭、精神疾患＞
14	事例検討＜接近困難な事例、コンサルテーション事例＞
15	まとめ

【履修上の注意事項】
皆さんはこれまでに何らかの形で「学校」とかかわりを持ってきました。その体験的学校論を生かしながら授業に参加してください。学校ソーシャルワークの役割や活動内容についてイメージを図ることが大切です。
授業に参加するに当たっては、授業中適宜提示される課題に真摯に取り組むようにしてください。

【評価方法】
１．課題レポート５０％　　２．発表等の受講態度３０％　　３．授業終了時に適宜提示する小課題２０％

【テキスト】
「ハンドブック 学校ソーシャルワーク演習 実践のための手引き」門田光司・鈴木庸裕編著　ミネルヴァ書房

【参考文献】
「スクールソーシャルワークのしごと」門田光司・奥村賢一著　中央法規

学校ソーシャルワーク実習

担当教員

配当年次　４年

単位区分　選択

開講時期　第１学期

授業形態　実習

単位数　2

準備事項

備考　平成３０年度は閉講

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

外国書講読

担当教員 未定

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 平成３０年度は閉講

【授業のねらい】
購読する論文などの詳細については、開講時に教示するが、現代における生と死に関わる古典的な論文（英国、ジョナサン・グラーバー）を「作為と不作為」の観点から読めるようになる。併せて、言語と思考の対応を、新しい概念「テーマとレーマ」の観点から解明し、聴講者は実践演習に取り組める。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	テーマ「作為と不作為」の導出（ドイツ・ヴァイツゼッカー演説に即して）
2	言語と思考：パラダイムとシンタグマ
3	「作為―不作為―教義」の伝統的な強固さの諸源泉について
4	作為と不作為に関する、現代の二大問題（ホロコーストと原爆投下）
5	作為と不作為の非対称性に浸透された現代人からの脱却を目指して
6	不作為の諸形態
7	不作為の罪の重さを測る秤りを作為の罪へと比べてきた伝統について
8	他者支援の作為という論理空間の探求１
9	他者支援の作為という論理空間の探求２
10	他者支援の作為という論理空間の探求３
11	言語活動と思考活動の連動：テーマとレーマ１
12	言語活動と思考活動の連動：テーマとレーマ２（冠詞の使い分け・選択という教育内容の創出）
13	法と倫理の区別の根拠：カントとヘーゲルの場合
14	社会的な諸出来事を「作為と不作為」の視点から手繰り寄せる実践教育１
15	社会的な諸出来事を「作為と不作為」の視点から手繰り寄せる実践教育２

【履修上の注意事項】
予習として、各人が論文内容に対して自分なりの理解によってまず向き合う。次いで、分かる個所と分かりにくい個所とを分別するという、基本的な勉学態度を形成。その意味で、各人の発表という形式を採用することもある。また、参考文献の使用も適宜、推奨するので、おおいに活用することができる。

【評価方法】
そのつどの授業時での「発表」を30点、レポートを20点、定期試験を50点という配点とする。

【テキスト】
○ Jonathan Glover:Causing Death and Saving Lives(Penguin Books)
○ 山本　務、熱田一信編著『ハンセン病・薬害問題　プロジェクト　作為・不作為へ』（本の泉社）

【参考文献】
講義のなかで適宜、教示する予定。

統計学

担当教員 森　信之

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
社会調査やアンケートなどで得られたデータは，そのままでは役に立たない．データを客観的，論理的に分析することが必要になってくる．本講義では，確率論の基礎知識を踏まえた上で，データを分析する手法や手順，得られた結果の評価方法等を，なるべく多くの事例に関する演習を通して実践的に理解し，得られたデータから適切な分析手法を選択し，データ分析ができるようになることを目標とする．

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	質的データと度数分布表・ヒストグラム
2	量的データと代表値，分散
3	正規分布，ｔ分布，χ２乗分布とその性質
4	母平均・母分散・母比率の推定
5	検定の考え方，第１種・第２種の過誤
6	母平均の検定，対応のある２つの母平均の差の検定
7	対応のない２つの母平均の差の検定
8	ノンパラメトリック検定（順位和検定）
9	ノンパラメトリック検定（符号検定）
10	ノンパラメトリック検定（符号付き順位和検定）
11	母比率の検定（対応のある場合，ない場合）
12	適合度の検定，独立性の検定
13	イェーツの補正，マクネマー検定
14	相関関係と相関係数
15	回帰分析

【履修上の注意事項】
テキストはなく、配布プリントを配布するだけなので、事前の予習、事後の復習が要求される。特に、わからないことは、わからないままで済ませずに、遠慮なく質問に来るようにしてもらいたい。

【評価方法】
筆記試験の結果のみで判断する．再試験は行なう．

【テキスト】
テキストは用いず，適宜，プリント資料を配布する．

【参考文献】
講義中に，適宜，紹介する．

社会調査演習／実習

担当教員 竹中　健

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
明確な調査目的を定め、社会福祉に貢献する知見を見出すための調査を実践する。「なにが問題なのか」を明確にし、仮説を立て、それを明らかにするためには「なにを聞けばよいのか」を事前に詰めたうえで調査に出る。聞き取ったデータから仮説を検証する。同時に新たな問題を発見し、整理し、記述する手法を学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	オリエンテーション
2	社会調査の概要
3	調査テーマの検討・文献探索の手法
4	調査テーマの確定
5	リサーチデザインの検討　（1）
6	リサーチデザインの検討　（2）
7	調査対象の検討
8	調査対象との交渉
9	予備調査
10	実地調査　（1）
11	実地調査　（2）
12	データの整理　（1）
13	データの整理　（2）
14	報告書作成準備　（1）
15	報告書作成準備　（2）

【履修上の注意事項】
調査はチーム活動になるので必ず出席する。
分担して作業を進めることになる。自分の役割を明確にして協力的態度で授業に臨むこと。また、調査実習に関わる項目について事前および事後学習に努めること。

【評価方法】
授業中の態度、グループワークへの積極性を評価し、実習の成果物としてのレポート提出を求める。
実習中の態度姿勢２０％、レポート８０％とする。

【テキスト】
とくに使用しない。

【参考文献】
必要に応じて授業中に指示する。

心理学研究法

担当教員 山住　賢司

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本講義では、科学的な学問としての心理学を成立させている心理学独自の研究法について、その基礎を学ぶ。「実験法」「質問紙法」「観察法」「面接法」といった主要な研究法についての理解を深め、それらの知識を実験や卒業研究において活用できるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	ガイダンス：心理学とは何か
2	心理学の研究とは何か
3	心理学研究法の特色
4	観察法
5	面接法
6	質問紙法
7	ＳＤ法
8	心理検査法
9	精神物理学的測定法
10	実験法
11	仮説とその検証：構成概念と観測変数
12	実験計画入門
13	実験計画と統制
14	準実験と単一事例実験
15	研究の倫理

【履修上の注意事項】
「心理学基礎実験Ⅰ」「心理学基礎実験Ⅱ」を履修する学生は、本科目を履修しておくこと。
欠席が多いと単位取得資格を満たせないことを理解しておくこと。
テキストは毎回必ず持参すること。
事前学習として各回の内容についてテキストの該当部分を確認しておくこと（120分）。
また講義終了後に、各回の配布資料の内容をテキストで確認し復習すること（120分）。

【評価方法】
レポートの得点100%で成績を評価する。

【テキスト】
「心理学研究法」　大山正・岩脇三良・宮埜嘉夫(著)　サイエンス社　2005

【参考文献】
「心理学研究法入門　調査・実験から実践まで」　南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編)
東京大学出版会　2001

心理統計学基礎

担当教員 山住　賢司

配当年次 ２～３年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 4

準備事項

備考 本科目は２年次第２学期から３年次第１学期までの開講科目

【授業のねらい】
心理学研究において必要とされる、主用な統計解析技法について学ぶ。統計学の基本的な考え方に始まり、平均・分散・相関といった記述統計や、母集団モデルに基づく推測統計などについて、実際にデータ分析演習を交えながら理解を深め、それらの知識を活用できるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】
1～15回までは2年次第2学期に、16～30回までは3年次第1学期に行う。

週	授業の内容	週	授業の内容
1	心理学と統計学	16	多重比較の各種の方法
2	度数分布表とグラフ	17	確率モデルの基本的な考え方
3	代表値と散布度	18	統計的推測で用いられる確率分布
4	データの分布に関する指標	19	母相関係数に関する検定
5	相関	20	区間推定
6	回帰分析	21	要因計画の導入
7	正規分布	22	2要因分散分析の基本的な考え方
8	母集団と標本	23	2要因分散分析の例
9	統計的仮説検定とは	24	2要因分散分析における交互作用の分析
10	独立な2群の平均の差の検定	25	単純主効果の検定の例
11	対応のある2標本の平均の差の検定	26	被験者内1要因分散分析の基本的な考え方
12	各種のｔ検定の例	27	被験者内1要因分散分析の例
13	3標本以上の平均の差の検定：分散分析入門	28	度数データの検定
14	分散分析の基本的な考え方	29	順位データの検定
15	1要因分散分析の例	30	多変量解析入門

【履修上の注意事項】
「心理学基礎実験Ⅰ」「心理学基礎実験Ⅱ」を履修する学生は、本科目も併せて履修すること。
講義に加え、データ分析課題や小テストなども随時行う。
欠席が多いと単位取得資格を満たせないことを理解しておくこと。テキストは毎回必ず持参すること。
事前学習として各回の内容についてテキストの該当部分を確認しておくこと（120分）。
また講義終了後に、各回の配布資料の内容をテキストで確認し復習すること（120分）。

【評価方法】
定期試験の得点80%、データ分析課題・小テスト20%とし、これらの合計得点で評価する

【テキスト】
「新心理学ライブラリ14　心理統計法への招待－統計をやさしく学び身近にするために－」
中村知靖・松井仁・前田忠彦（著）　サイエンス社　2006

【参考文献】
「心理統計学の基礎」　南風原朝和(著)　有斐閣　2002
「Excelで学ぶ統計解析」　涌井良幸　ナツメ社　2003

心理学基礎実験Ⅰ

担当教員 山住　賢司

配当年次 ２年

単位区分 選択

開講時期 第２学期

授業形態 実験

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
心理学は心を科学的に研究する学問であり、その過程において実験や調査などを通じてデータを収集し、分析を行い、論理的に考察を進め知識を深めてゆく。主観的なデータではなく観察可能な客観的データに基づく科学的研究方法について、心理学の主要な分野での実験を実際に体験し学んでゆく。正確なデータを得るための実験手続きやデータの統計的な分析評価方法について理解するとともに、科学的なレポートを書けるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】
履修者を少人数のグループに分け、グループ単位で下記課題を行なう。
原則として各実験課題は、①方法説明、②実験実施、③結果の処理と解析、④レポート提出の順に進める。
各回は2時限連続で行ない、次々回までにレポートの提出を求める。

週	授業の内容
1	心理学基礎実験の意味と心得、レポートの書き方
2	ミュラー・リヤーの錯視
3	大きさ知覚
4	触二点閾の測定
5	レポート評価・指導(1)
6	体積重さ錯覚
7	仮現運動
8	ポッケンドルフ錯視
9	社会的促進
10	レポート評価・指導(2)
11	線引き課題におけるフィードバックの効果
12	鏡映描写による両側性転移
13	自由再生法による記憶の系列位置効果
14	日常記憶
15	レポート評価・指導(3)

【履修上の注意事項】
「心理学研究法」「心理統計学基礎」を併せて履修すること。
実験はクラス全員の参加が必須であるため、遅刻・欠席は厳禁とする。各実験ごとにレポートの提出を義務づけるが、提出の期日を厳守すること。自己の健康管理に注意し、積極的な課題への取り組みを行なうこと。
実験テーマについては事前に学習しておくこと。また実験終了後、速やかにレポート作成へ向けて文献探索を行い、実験テーマへの理解を十分に深めた上でレポートを作成すること（120分）。

【評価方法】
レポート評価100%で成績を評価する。

【テキスト】
「改訂新版　心理学論文の書き方」　松井豊（著）　河出書房新社　2010
さらに各実験ごとに資料を配布する。

【参考文献】
「認定心理士資格準拠　実験・実習で学ぶ心理学の基礎」　日本心理学会認定心理士資格認定委員会（編）　金子書房　2015

心理学基礎実験Ⅱ

担当教員 山住　賢司

配当年次 ３年

単位区分 選択

開講時期 第１学期

授業形態 実験

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
2年次の心理学基礎実験Ⅰに引き続き、心理学の主要な分野での実験を実際に体験し学んでゆく。
実験手法やデータの解析法、科学的なレポートのまとめ方についてさらに習熟し、より完成度の高いレポートを書けるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】
履修者を少人数のグループに分け、グループ単位で下記課題を行う。
原則として各実験課題は、①方法説明、②実験実施、③結果の処理と解析、④レポート提出の順に進める。
各回は2時限連続で行い、次々回までにレポートの提出を求める。

週	授業の内容
1	心理学基礎実験Ⅱガイダンス
2	実体鏡視による立体視と視野闘争
3	空書
4	認知的葛藤とストループ効果
5	レポート評価・指導(1)
6	一対比較による尺度化
7	概念形成
8	視覚探索
9	連想プライミング
10	レポート評価・指導(2)
11	心的回転
12	文字の同異判断
13	思考過程のプロトコル分析
14	SD法によるイメージの測定
15	レポート評価・指導(3)

【履修上の注意事項】
「心理学研究法」「心理統計学基礎」を併せて履修すること。「心理学基礎実験Ⅰ」の履修を前提とする。
実験はクラス全員の参加が必須であるため、遅刻・欠席は厳禁とする。各実験ごとにレポートの提出を義務づけるが、提出の期日を厳守すること。自己の健康管理に注意し、積極的な課題への取り組みを行なうこと。
実験テーマについては事前に学習しておくこと。また実験終了後、速やかにレポート作成へ向けて文献探索を行い、実験テーマへの理解を十分に深めた上でレポートを作成すること（120分）。

【評価方法】
レポート評価100%で成績を評価する。

【テキスト】
各実験ごとに資料を配布する。

【参考文献】
「認定心理士資格準拠　実験・実習で学ぶ心理学の基礎」　日本心理学会認定心理士資格認定委員会（編）　金子書房　2015

４　教職に関する科目

学校保健

担当教員 古賀　由紀子

配当年次 ２年

単位区分 要件外

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
児童生徒の発育・発達、健康、そして学校教育法につながる指導要領等の教育の基礎を把握するとともに、児童生徒の実態から保健教育、保健管理、組織活動の諸活動等を理解し、これら学校保健活動の計画と組織を教育計画と学校組織との関連でとらえ、教育の中の学校保健の全貌を説明できる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	学校保健概論・・学校保健と関連法、学校保健の目的、学校保健の構造
2	学校保健概論・・学校保健の歴史、社会情勢との関連
3	学校保健計画・・学校教育目標との関連、保健室経営との関連
4	学校保健組織活動・・学校保健関係者と各々の職務、学校保健組織と運営、関連組織
5	学校保健の対象・・児童生徒の発育発達の現状と課題
6	学校保健の対象・・健康の基礎理論
7	学校保健の対象・・心の健康問題、精神保健
8	学校保健活動・・保健管理：領域側面、意義、方法
9	学校保健活動・・保健管理：健康観察、健康相談
10	学校保健活動・・保健管理：健康診断、保健調査
11	学校保健活動・・保健管理：学校環境衛生
12	学校保健活動・・保健管理：感染症予防
13	学校保健活動・・安全管理：学校安全と危機管理、救急処置
14	学校保健活動・・保健教育：学校における保健教育の考え方、保健学習と保健指導
15	学校保健活動・・性教育、薬物乱用防止教育、食育

【履修上の注意事項】
授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておくこと。毎時間の講義課題を明確にして、出席すること。
授業の最後に振り返りのための課題を提示するので、それを踏
まえて振り返りまとめておく。次の授業の最初に前回のまとめを提出する。

【評価方法】
レポート10％、試験90％で評価する

【テキスト】
学校保健ハンドブック　第５次改定　教員養成系大学保健協議会　ぎょうせい
新訂版　学校保健実務必携　第一法規

【参考文献】

養護概説

担当教員 古賀　由紀子

配当年次 ２年

単位区分 要件外

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
養護教諭の職務である保健教育、保健管理、救急看護、学校保健経営の４機能を理論的に理解し、具体的な職務内容と方法論で実証し、学校経営の中で、そして学校保健の各領域で養護教諭の職務がどう機能するかを把握し説明できる。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	養護の概念
2	養護教諭制度と歴史
3	養護教諭の専門性，養護教諭の倫理
4	養護教諭の活動拠点保健室ーその役割と機能
5	養護教諭の活動拠点保健室ー保健室経営計画
6	養護活動の過程
7	養護教諭の実践ー１　健康実態・健康問題の把握（健康観察、保健調査）
8	養護教諭の実践ー２　健康実態・健康問題の把握（健康診断）
9	養護教諭の実践ー３　支援の方法（救急処置活動）
10	養護教諭の実践ー４　支援の方法（健康相談）
11	養護教諭の実践ー５　養護活動の展開
12	養護教諭の実践ー６　環境整備（感染症予防、学校環境衛生）
13	養護教諭の実践ー７　健康教育活動（保健指導、保健学習、保健便り）
14	養護教諭の実践ー８　組織活動
15	養護教諭と研究

【履修上の注意事項】
授業の最後に次の授業に向けた課題を出すので、それについて調べておくこと。
各回の授業では振り返りを行い、それを授業後にまとめること。

【評価方法】
レポート15%、筆記試験85%として評価

【テキスト】
・養護学概論　編者　岡田加奈子、河田史宝　　東山書房
・「新訂版学校保健実務必携」　学校保健・安全実務研究会　　第一法規

【参考文献】
冊子「学校保健」松本敬子編　　、　「養護教諭の授業づくり」　松本敬子他　東山書房

養護実践論

担当教員 古賀　由紀子

配当年次 ３年

単位区分 要件外

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
これまでの養護専門科目学習の総まとめを行うとともに、養護教諭としての実践力を身につける。学校で養護実践を行う場合に必要な計画、実施、評価、改善の各過程をいくつかの職務を例に取り上げ、具体的に述べることができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	学校経営の中の保健室経営
2	保健室経営の考え方と進め方、保健室経営計画の立案
3	保健室経営の実際,保健室経営の評価
4	養護活動の実際①（健康診断の計画）
5	養護活動の実際②（健康診断の実施）
6	養護活動の実際③（健康診断の評価・改善）
7	養護活動の実際④（学校救急処置活動の計画）
8	養護活動の実際⑤（学校救急処置活動ー子供に起こりやすい疾病）
9	養護活動の実際⑥（学校救急処置活動―内科的対応-心因性含む）
10	健康教育の実際①　〈保健学習と保健指導について）
11	健康教育の実際②　〈指導案の作成〉
12	健康教育の実際③　〈模擬授業の実施〉
13	学校保健組織活動①（学校保健委員会の計画）
14	学校保健組織活動②（学校保健委員会の実施）
15	学校保健組織活動③（学校保健委員会の評価・改善）

【履修上の注意事項】
毎回次の学習への予習課題を提示するので、調べておくこと。毎回の授業終了後振り返りのための課題を提示するのでまとめておくこと。

【評価方法】
事前学習30％・レポート40％・プレゼン30％

【テキスト】
適宜プリントを配布する

【参考文献】
「つながる・ひろがる　学校保健」　東山書房　　松本敬子他著

教職論

担当教員 嶋　政弘

配当年次 １年

単位区分 要件外

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
１ 教員の身分と役割，義務と裁量権について理解する。
２ 最近の，教員を取り巻く状況や課題について理解する。
３ 教員に関わる教育制度，学校の組織構造，学級経営の現代的問題理解を通して，求められる新しい教師像と専門性について考察することができる。

【授業の展開計画】
授業の概要
　授業においては，各回のテーマに関連のあるニュース等を資料にするなど，具体的な事象を基に考える場面づくりを設定する。
　また，ペアによるディスカッションを随所に仕組んだ講義を中心に進め，提示または配布した資料を基に自分なりの考えを導き出すような展開にする。

授業計画
第１回：教職とは何か　教師の役割と使命感
第２回：教職の意義と教員の立場
第３回：教員の服務義務（法的義務と現状）
第４回：教育をめぐる現状と求められるもの
第５回：社会と教員に求められる資質能力
第６回：校務分掌と教員の多様な仕事
第７回：教師間の仕事量の均衡と公務員制度
第８回：一人一人の児童・生徒を守れる教師
第９回：児童・生徒のための学校に
第10回：学校・家庭・地域の役割と連携
第11回：教員の資質の向上と研修制度
第12回：教員の専門性の向上　免許更新制と教職大学院
第13回：教員の不祥事とその背景にあるもの
第14回：任命権者と教員採用の在り方
第15回：教職への道

【履修上の注意事項】
１ ペアによるディスカッションをするため，ペアを作って着席する。
２ すべてペアに発言の機会があるので，常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】
ディスカッションへの参加40%，課題提出20%，期末試験40%で評価する。
　追試験は実施しない。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献】
毎回，資料を配布する。参考資料については，授業の中で随時提示する。

教育原理

担当教員 山本　孝司

配当年次 ２年

単位区分 要件外

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
１）教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。
２）教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。
３）教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	教育とは何か／講義の目的・概要と進め方についてか
2	教育の目的と本質
3	教育と人間発達（１）発達のメカニズム
4	教育と人間発達（２）レディネスと教育
5	教育と社会／教育の理念についての理解
6	諸外国における教育の歴史と思想（１）古代の教育
7	諸外国における教育の歴史と思想（２）中世・近世の教育
8	諸外国における教育の歴史と思想（３）近代の教育
9	近代教育への批判と新教育運動の思想・実践（１）ヨーロッパ
10	近代教育への批判と新教育運動の思想・実践（２）アメリカ進歩主義教育
11	わが国における教育の歴史と思想　（１）戦前
12	わが国における教育 歴史と思想（２）戦後
13	教育における家庭の役割
14	社会のなかの子どもの変化
15	今日の子どもをめぐる諸問題　（いじめ、不登校などをめぐる状況と学校教育の在り方）

【履修上の注意事項】
授業には参加的態度で臨むこと。
その他、授業外でも教育にかかわる情報をキャッチする鋭敏なアンテナを持ち合わせて欲しい。
事前にテキストを読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】
原則として学期末試験（７０％）、小レポート（３０％）を評価の対象とする。

【テキスト】
石村華代・軽部勝一郎編著『教育の歴史と思想』ミネルヴァ書房、2013年。

【参考文献】
授業時に適宜紹介する。

教育行政論

担当教員 嶋　政弘

配当年次 ３年

単位区分 要件外

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
１　教育行政の基本概念を理解し，教育行政をめぐる諸問題について自分の考えを持つことができる。
２　日本国憲法及び教育基本法から導き出される教育の基本原理，及びその意義を理解する。
３　学校教育における具体的な事例について，その多くが教育行政と密接に関連していることを理解する。

【授業の展開計画】
　学校教育における様々な場面において，事例や判例を基に，学校教育に関する様々な場面や課題を想定し，その実態と問題点に視点を向けさせる。
　次に，その根拠となる関連法規や資料を判断基準として，実際の場面ではどのように判断すべきかについてのディスカッションを中心に展開する。

授業計画
第１回：学校教育制度の目的と構造
第２回：教育行政①　教育委員会の組織・機能，教職員の人事権
第３回：教育行政②　学校選択制の拡大，教育振興基本計画
第４回：学校組織①　校長の職務と権限と職員会議の機能
第５回：学校組織②　校長，副校長，教頭の資格要件とその緩和
第６回：学校組織③　養護･栄養・図書教諭等の職務
第７回：教職員①　教員の身分と職務・服務
第８回：教職員②　指導力不足の教員の人事管理と教員の研修体系
第９回：教職員③　教員免許更新制と教職大学院の役割・機能
第10回：教育課程①　学習指導要領の法的拘束力と基準性
第11回：教育課程②　学習指導要領とその改訂
第12回：教育課程③　教科書採択制度
第13回：児童・生徒への対応①　登下校時を含む安全の確保と現代的課題
第14回：児童・生徒への対応②　学校事故における法的責任
第15回：児童・生徒への対応①　懲戒の範囲と体罰，出校停止
定期試験　試験期間中に実施
　･知識・理解（基本的事項や学習指導の理解），学んだことを学習指導に生かす姿勢

【履修上の注意事項】
１ ペアによるディスカッションをするため，ペアを作って着席する。
２ すべてのペアに発言の機会があるので，常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】
ディスカッションへの参加40%，課題提出20%，期末試験40%で評価する。
　追試験は実施しない。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献】
毎回，資料を配布する。参考資料については，授業の中で随時提示する。

教育課程論

担当教員 山本　孝司

配当年次 ２年

単位区分 要件外

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
１）学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解する。
２）教育課程編成の基本原理、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。
３）教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	教育課程とは　：教育課程の意義
2	教育の目的と教育課程の編成原理
3	教育課程の歴史的展開と教育方法
4	日本における教育課程の歩み：戦前
5	日本における教育課程の歩み：戦後
6	教育課程の法と行政
7	学習指導要領の特徴と変遷（１）経験主義から系統主義、教育の現代化
8	学習指導要領の特徴と変遷（２）「ゆとり教育」と新学力観、「脱ゆとり教育」
9	教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法
10	児童又は生徒や学校、地域の実態を踏まえた教育課程や指導計画
11	学校教育課程全体のマネジメントおよび学習指導要領に規定する教育課程のマネジメント
12	授業計画（学習指導案）の作成
13	授業計画（学習指導案）の発表と相互検討
14	教育課程の経営と評価
15	今日の教育課題と教育課程：「学力」をどう捉えるか

【履修上の注意事項】
上記の計画は、受講者の数及びニーズに応じて一部変更する場合があります。
事前にテキストを読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】
期末試験70％＋リフレクションペーパー30%を原則とし、総合的に評価する。

【テキスト】
広岡義之編著『はじめての教育課程論』ミネルヴァ書房、2016年

【参考文献】
『学習指導要領』

道徳教育論

担当教員 山本　孝司

配当年次 ３年

単位区分 要件外

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
１）道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。
２）学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ、情報モラル等）
2	道徳教育の本質
3	学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び内容
4	道徳性 １（道徳教育の原則からみた道徳性）
5	道徳性 ２（コールバーグの道徳性発達理論）
6	日本における道徳教育の史的展開
7	学校における道徳教育の現状（新基本法と学習指導要領）
8	「特別の教科　道徳」について
9	道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴
10	道徳科における教材の特徴を踏まえた授業設計
11	道徳授業の指導計画
12	道徳科の学習指導案の作成（模擬授業　１）
13	道徳科の学習指導案の作成（模擬授業　２）
14	道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方
15	道徳教育に関する今後の課題

【履修上の注意事項】
授業内ではディスカッション・ディベート等、話し合い活動を取り入れることが多い。
参加的態度で臨むこと。
教育界における「常識」をラディカルな次元に立ち返り疑ってみる鋭敏なセンスを養って欲しい。
事前に資料を読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】
原則として学期末試験（７０％）、小レポート（３０％）を評価の対象とする。

【テキスト】
石村秀登・末次弘幸編著『道徳教育の理論と実践』大学教育出版（2018年3月）

【参考文献】
『「道徳」授業に何が出来るか』／宇佐美寛／明治図書

特別活動論

担当教員 山本　孝司

配当年次 １年

単位区分 要件外

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
１）特別活動の意義、目標及び内容を理解する。
２）特別活動の指導の在り方を理解する。
３）総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する（指導計画作成、評価を含む）。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	学習指導要領における特別活動の目標及び内容
2	教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連
3	学級活動・ホームルーム活動の特質
4	児童会・生徒会活動の特質
5	クラブ活動の特質
6	学校行事の特質
7	教育課程全体における特別活動の指導の在り方
8	特別活動における取組の評価・改善活動
9	合意形成に向けた話合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義と指導の在り方
10	特別活動における家庭・地域住民や関係諸機関との連携の在り方
11	「総合的な学習の時間」の意義と教育課程において果たす役割
12	学習指導要領における「総合的な学習の時間」の目標
13	各教科等と関連させた「総合的な学習の時間」の年間指導計画の作成
14	探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て
15	総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点

【履修上の注意事項】
　学級活動、児童会・生徒会活動、学校行事等の特質や内容について実践事例や受講生の経験等も活用しながらより具体的な講義を展開していきたい。
事前に手ｋストを読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】
レポート40％、期末試験60％

【テキスト】
広岡義之編著『新しい特別活動－理論と実践』ミネルヴァ書房、2015年

【参考文献】

教育情報科学

担当教員 元田　暁輝

配当年次 ４年

単位区分 要件外

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
高度情報化社会の進化を背景として，初等・中等教育における教科「情報」の導入とともに，非情報系科目のみならず学校運営においても，ICT(情報通信技術)の活用が国の教育･学校施策として推進されている．本科目では，情報の基本技術，社会の高度情報化に伴う種々の問題について学び，情報化が推進される教育現場で，ICTが創る新しい授業形態と学校運営の積極的担い手になるための基本的考えを身に付けることができる．

【授業の展開計画】
＜ガイダンス＞
PartⅠ．情報社会における新しい授業のあり方
１．教育の現状とICT活用の意義、教師のベーシックスキルとは
２．主体的・対話的な深い学びをICTを活用して授業に活用する
　・生徒にとって理想的な授業とは
　・なぜ教育情報科学を学ぶのか
　・ICTを活用することでできる授業の可能性を探る
　・健康とICTの問題をチームとして考える
PartⅡ．情報文明の発展とそれを支える技術
１．ディジタルデータの特長と仕組み
２．コンピュータの基本構造とデータの取扱い
３．インターネットの仕組みとセキュリティ
４．情報ネット社会の問題点と対策
５.プログラミングの考え方
PartⅢ．情報教育の現状と課題
１．情報モラル（著作権，個人情報保護等）
２．教育現場の情報管理とセキュリティ・ポリシー
３．AIの進歩が教育現場にもたらす環境の変化と教師の役割
＜教育情報科学の復習とまとめ＞

【履修上の注意事項】
授業では，教育現場の状況と問題をリアルに伝え，その状況を認識し，教師として成長するには何が必要かを皆さんに提起します．したがって，自身が教師として現場に立つことを想定し，毎回の授業で取り上げられたテーマについて，調べ，或いは自身ならどうするかなど考え，仲間と議論するなどのことを少なくても30分程度は取って復習として取り組んでください．そのような取り組みは，次回の授業の予習にもなります．それとともに，次回の授業までに出された課題は必ず取り組んでください．

【評価方法】
平常課題（プレゼンテーションを含む）とレポートのウェイトを6：4とし、満点を100として評価する。

【テキスト】
使用しない．

【参考文献】
授業の中で適宜紹介する．

教育方法論

担当教員 嶋　政弘

配当年次 ２年

単位区分 要件外

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
１　多様な学習者に配慮して 「教授と学習」という視点に立った学習指導の方法と技術を習得することができる。
２　学び方や思考の発展性に配慮した学習指導案の作成方法を理解し，作成することができる。
３　学習や学校生活における様々な場面に応じた指導方法について理解することができる。
４　授業効果を高めるための方法としての教育情報機器の利用について理解し，活用することができる。

【授業の展開計画】
授業の概要
　まず，教育における方法論的な立場から，教育方法の歴史や組織面（形態）及び改革等について学ぶとともにその成果の評価について学習する。
次に，学習指導案を作成するために必要な多面的な視点をもとに，学習指導案を作成するための知識と技術を習得する。
　さらに，教育効果を高めるために，各種情報機器の必要性を理解するとともに，その有効活用ができる知識と技術を習得する。
　授業形態は講義とするが、ペア等によるディスカッションを随所に取り入れ，特に，資料（動画や図表等）から読み取る目を育てることに力点を置く。

授業計画
第１回：授業のねらいと展開の方法
第２回：教育方法の歴史
第３回：教育方法の類型と特質
第４回：教育方法の改革と課題①　学力形成の方法論
第５回：教育方法の改革と課題②　学習の形態と，教師と子どもの関係性
第６回：教育方法の改革と課題③　学習の成果とその評価
第７回：学習指導の実際①　学習指導案作成の手順と目標設定
第８回：学習指導の実際②　指導計画と本時のねらい
第９回：学習指導の実際③　授業準備と学習活動における指導上の留意点
第10回：学習指導の実際④　思考の流れを育てるための学習展開の方法
第11回：教育情報機器の活用①　教育情報機器の例とその効果
第12回：教育情報機器の活用②　五感に訴える資料の条件
第13回：教育情報機器の活用③　プレゼンテーションの作成方法
第14回：具体的な場面における指導方法の実際①（生徒指導や生活に関する指導）
第15回：具体的な場面における指導方法の実際②（健康や安全に関する指導）

【履修上の注意事項】
１ ペアによるディスカッションをするため，ペアを作って着席する。
２ すべてのペアに発言の機会があるので，常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】
ディスカッションへの参加40%，課題提出20%，期末試験40%で評価する。
追試験は実施しない。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献】
毎回，資料を配布する。参考資料については，授業の中で随時提示する。

福祉科教育法Ⅰ

担当教員　日比　眞一

配当年次　３年

単位区分　要件外

開講時期　第１学期

授業形態　講義

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】
①高校福祉科免許取得に必要な知識や技能を習得する。
②福祉科9科目の内容を理解し、授業の実践力を養う。
③高等学校学習指導要領を理解し、教師としての実践に反映できるように考察する。
④目指す教師の理想像を持ち、説明できる。

【授業の展開計画】
＜到達目標＞
①高校福祉科教員として指導案作成や授業を展開できる。
②高校福祉科を卒業した生徒のキャリアパスについて概説できる。
③高校福祉科を含めた今日の教育問題の概要を理解し、議論することができる。

週	授業の内容
1	オリエンテーション
2	高校福祉科の歴史
3	高校福祉科9科目の理解
4	高等学校学習指導要領と学習指導案
5	教材研究と学習指導案①
6	教材研究と学習指導案②
7	授業の実践力①　～意欲の低い生徒など～
8	授業の実践力②　～反抗的な態度をとる生徒など～
9	学習指導案作成①
10	学習指導案作成②
11	ミニ授業と評価会①
12	ミニ授業と評価会②
13	ミニ授業と評価会③
14	教師の自覚
15	まとめ

【履修上の注意事項】
①教師を目指す自覚を持って臨んで頂きたい。
②講義とミニ授業に取り組み、アクティブラーニングを実践する。

【評価方法】
①授業取り組み、発言、成果物、ミニ授業等　60%
②定期試験　40%

【テキスト】
①検定教科書『社会福祉基礎』実教出版
②検定教科書『介護福祉基礎』実教出版

【参考文献】
①保住芳美編『高等学校学習指導要領の展開　福祉科編』（2009）明治図書
②大橋謙策・田村真広・辻浩編『福祉科指導法入門』(2006)中央法規出版

福祉科教育法Ⅱ

担当教員　日比　眞一

配当年次　３年

単位区分　要件外

開講時期　第２学期

授業形態　講義

単位数　2

準備事項

備考

【授業のねらい】
①高等学校専門教科「福祉」の教員免許取得希望者のための必要な知識・授業スキルを修得し、福祉科教員として実際に教壇に立ち指導ができる。②高等学校以外の社会福祉協議会等で地域や小・中・高への「出前福祉教育」ができる教育指導方法を学ぶ。③福祉科教育を通じて、人工知能時代に備えてコミュニケーション能力・対話力を磨く。④福祉科指導方法を理解する。

【授業の展開計画】
＜到達目標＞①福祉科教員として高校で授業ができる。②社会福祉協議会や福祉施設職員として、小・中・高・地域で福祉教育ができる。③指導案に基づき模擬授業ができる。

週	授　業　の　内　容
1	学習指導案の作成方法
2	学習指導案の作成と評価（子どもの虐待・貧困・認知症・障がい・地域など）
3	教材研究と模擬授業（アクティブラーニング・セブンクロス）
4	教材研究と模擬授業（アクティブラーニング・四段階討議法）
5	教材研究と模擬授業（アクティブラーニング・特定要因分析法）
6	教材研究と模擬授業（アクティブラーニング・コラージュ法）
7	模擬授業①　社会福祉の基礎１
8	模擬授業②　社会福祉の基礎２
9	模擬授業③　介護基礎
10	模擬授業④　コミュニケーション技術（ＳＥＩ）
11	模擬授業⑤　生活支援
12	模擬授業⑥　介護過程（アセスメント・ケアプラン）
13	模擬授業⑦　介護総合演習（ＤＶＤ）
14	模擬授業⑧　こころとからだ（認知症）
15	模擬授業⑨　福祉情報活用・まとめ

【履修上の注意事項】
①事前に学習指導要領を読み、授業後の振り返り表で検証すること。
②模擬授業でアクティブラーニングを実践する。
③高校教諭「福祉」の免許取得希望者は、必ず履修すること。

【評価方法】
レポート（学習指導案）８０％、模擬授業２０％

【テキスト】
①文部科学省『高等学校学習指導要領解説（福祉編）』海文堂出版
②保住芳美編『高等学校新学習指導要領の展開　福祉科編』明治図書

【参考文献】
・厚生労働省編『厚生労働白書』全国官報販売協同組合・厚生統計協会編集『国民の福祉の動向』他

教育と福祉

担当教員 山本　孝司

配当年次 ３年

単位区分 要件外

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
本講義においては教育内容としての「福祉」について学ぶ。
高校福祉の教科を内容的に研究し、理解を深めることを目的とし、「福祉科教育法Ⅰ,Ⅱ」と合わせて教科「福祉」の指導の力量を身に着けることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	「福祉」を教えることの意義（概要）
2	国民的教養としての「福祉」について
3	介護福祉士養成における「福祉」教育
4	「福祉」の内容研究―「社会福祉基礎」(1)
5	「福祉」の内容研究―「社会福祉基礎」(2)
6	「福祉」の内容研究―「介護福祉制度」(1)
7	「福祉」の内容研究―「介護福祉制度」(2)
8	「福祉」の内容研究―「コミュニケーション技術」(1)
9	「福祉」の内容研究―「コミュニケーション技術」(2)
10	「福祉」の内容研究―「介護過程」(1)
11	「福祉」の内容研究―「介護過程」(2)
12	「福祉」の内容研究―「生活支援技術」「こころとからだの理解」(1)
13	「福祉」の内容研究―「生活支援技術」「こころとからだの理解」(2)
14	「福祉」の内容研究―「介護実習」「介護総合演習」
15	「福祉」の内容研究―「福祉情報活用」

【履修上の注意事項】
事前にテキストを読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】
基本は講義形式であるが、受講者に調査報告を課したうえでディスカッションを行う。
評価の内訳は、調査報告（３０％）、ディスカッションへの参加（２０％）、ふりかえりレポート（５０％）とする。

【テキスト】
講義中に指示する

【参考文献】
講義中に適宜紹介する

生徒指導論

担当教員 山本　孝司

配当年次 ２年

単位区分 要件外

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
１）　生徒指導の意義や原理を理解する。
２）すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。
３）児童生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	生徒指導の今日的な意義と課題
2	教育課程における生徒指導の位置付け
3	各教科、道徳教育、総合的な学習の時間、特別活動における生徒指導の意義及び重要性
4	集団指導・個別指導の方法原理
5	生徒指導体制と教育相談体制
6	校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組
7	基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方
8	児童生徒の自己の存在感が育まれる場や機会の設定の在り方
9	生徒指導にかかわる法令（校則、懲戒、体罰、停学・退学等）
10	暴力行為、いじめ、不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応
11	生徒理解のための方法と技術
12	生徒指導における学級経営および地域や家庭との連携
13	進路指導の内容と計画
14	キャリア教育と生徒指導・進路指導
15	コミュニケーションと生徒指導―子どもの自己肯定感を高めるために

【履修上の注意事項】
授業内に課される活動には、積極的に参加をすること。
事前にテキストを読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】
原則として学期末試験（６０％）、小レポート（４０％）を評価の対象とする。

【テキスト】
広岡義之編著『教育実践に役立つ生徒指導・進路指導論 - 「生徒指導提要」に触れつつ』あいり出版

【参考文献】
授業時に適宜紹介する。

生徒指導・進路指導論

担当教員 山本　孝司

配当年次 ２年

単位区分 要件外

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
１）　生徒指導の意義や原理を理解する。２）すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。３）児童生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。４）進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。５）全ての児童生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。６）児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	教育課程における生徒指導の位置付け
2	各教科、道徳教育、総合的な学習の時間、特別活動における生徒指導の意義及び重要性
3	集団指導・個別指導の方法原理
4	生徒指導体制と教育相談体制
5	校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組
6	基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方
7	生徒の自己の存在感が育まれる場や機会の設定の在り方
8	生徒指導にかかわる法令（校則、懲戒、体罰、停学・退学等）
9	暴力行為、いじめ、不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応
10	生徒指導における学校と家庭、地域との連携の在り方（専門機関との連携を含む）
11	教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付け
12	学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方
13	キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義
14	生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義の理解
15	キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法

【履修上の注意事項】
授業へは参加的態度で臨むこと。
事前にテキストを読み、事後はテキスト、配布資料を読み返しておくこと。

【評価方法】
課題リポート（40%）＋学期末試験（60%）

【テキスト】
広岡義之編著『教育実践に役立つ生徒指導・進路指導論 - 「生徒指導提要」に触れつつ』あいり出版

【参考文献】
授業内で適宜紹介する。

教育相談（カウンセリングを含む）

担当教員 古賀　由紀子、三津家　律子

配当年次 ３年

単位区分 要件外

開講時期 第２学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
教育相談とは、一人一人の子どもの教育上の諸問題について本人または、保護者、教師などにその望ましい在り方について指導助言することを意味しているが、特に学校生活において不適応を訴える児童生徒、保護者に対して主として個別援助するとき、これらの悩みや問題行動に対してどのように理解し、具体的に対応していったらよいか説明できる。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	教育相談の考え方・教育相談の位置づけ、生徒指導と教育相談（古賀）
2	児童生徒理解の基礎Ⅰ（教育相談の内容、発育発達、疾病等の一般的理解）（古賀）
3	児童生徒理解の基礎Ⅱ（個別的理解とその方法）（古賀）
4	カウンセリングの意義（三津家）
5	カウンセリングの理論（三津家）
6	カウンセリングの技術（三津家）
7	問題行動の理解（三津家）
8	学校でできる遊戯療法　（三津家）
9	学校でできる認知行動療法（三津家）
10	発達促進的教育相談（三津家）
11	教育相談の事例研究、支援会議（三津家）
12	家族への援助、教師へのコンサルテーション（三津家）
13	教育相談の担い手（学級担任、教育相談担当者、養護教諭、スクールカウンセラー他）（古賀）
14	教育相談の機関と援助事業（古賀）
15	支援的ネットワーク、教育相談の課題（古賀）

【履修上の注意事項】
授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておくこと。
授業の最後に振り返りのための課題を提示するので、それを踏まえて振り返りまとめておく。次の授業の最初に前回のまとめを提出する。

【評価方法】
レポート等20%，期末試験80%により評価する

【テキスト】

【参考文献】
「改訂版心理臨床の基礎」小野けい子編著　放送大学教育振興会、
「学校でフル活用する認知行動療法」　神村栄一著　遠見書房

教職実践演習（高）

担当教員 嶋　政弘、柴田　恵子、山下　忍、古賀　由紀子、山本　孝司、吉岡　久美、水間　宗幸、古江　佳織、新　裕紀子

配当年次 ４年

単位区分 要件外

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
使命感や責任感に裏打ちされた教員としての確かな実践的指導力を身につける。
具体的には次の四つの事項（①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児・児童・生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項）に関する知識・技術を修得し、それに基づいた実践が行えるようになる。

【授業の展開計画】
Ⅰ教師に関する研究(教育実習自己評価用紙を基に自己省察を行う)
　自己省察(教育実習自己評価用紙を基に)

Ⅱ学校教育におけるエコロジカルアプローチ(事例研究や対人援助技術を学び最新の子どもの発達に関する理解を深める)
　(1)事例研究(保護者地域社会との連携・協働について)
　(2)学校に関連した対人援助技術を学ぶ(保護者との関係性の構築の仕方等に関するロールプレイングを含む)
　(3)最近の知見に基づく子どもの発達に関する理解を深める。

Ⅲ授業研究(実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究を行う)
　(1)実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その１)
　(2)実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その２)
　(3)実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その３)

Ⅳ生徒指導(生徒指導の在り方及び不登校といじめ問題・ロールプレイングを含めた事例研究を行う)
　(1)生徒指導の在り方について(「生徒指導上の諸問題の現状について」)を基に
　(2)事例研究(不登校といじめ問題等)
　(3)事例研究(ロールプレイング含む)

Ⅴ児童・生徒理解(玉名市内のスクールボランティア協力校・学校支援・市内協力高校でのフィールド学習を実施する)
　(1)スクールボランティアを活用したフイールド学習
　(2)スクールボランティアを活用したフイールド学習
　(3)スクールボランティアを活用したフイールド学習
　(4)フイールド学習の振り返りと評価
Ⅵ 総括

【履修上の注意事項】
事前事後学習については担当者の指示に従うこと。

【評価方法】
①授業態度（30%）、②ポートフォリオを通しての評価（50%）、外部講師による評価（20%）

【テキスト】

【参考文献】

教職実践演習（養護教諭）

担当教員 嶋　政弘、柴田　恵子、山下　忍、古賀　由紀子、山本　孝司、吉岡　久美、水間　宗幸、古江　佳織、新　裕紀子

配当年次 ４年

開講時期 第２学期

単位区分 要件外

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
使命感や責任感に裏打ちされた教員としての確かな実践的指導力が身についているかどうかの確認を行い、①自らの養護教諭としての実践実習を評価しまとめることができる。
②自らの能力・適性（資質）について、自ら描く養護教諭像と照らし合わせて研鑽すべき課題を述べることができる。

【授業の展開計画】
養護実習の学びを振り返り学校運営についての理解を確認するとともに、学校フィールドで再度児童生徒の理解を深める。学校保健を構成する保健教育・保健管理について、集団指導としての模擬授業、個別指導としての場面指導等の演習を通して実践的指導力を確認する。また課題解決のために組織活動をどのように行っていったらよいかを考える。具体的には下記授業計画のとおり。

Ⅰ「教師」に関する研究
　自己省察（養護実習自己評用紙を基に）（実習担当者）
Ⅱ学校教育におけるエコロジカルアプローチ
　(1)事例研究（保護者・地域社会との連携・協働について）
　(2)学校に関連した対人援助技術を学ぶ（保護者との関係性の構築の仕方等に関するロールプレイングを含む
　(3)最近の知見に基づく子どもの発達に関する理解を深める。ＬＤ、ＡＤＨＤをはじめとする特別支援教育に関する実践の基盤
Ⅲ授業研究
　模擬授業または現場での授業実施と現職教諭を交えての授業研究会(その１)～（その３）
Ⅳ健康問題への解決支援
　個別指導の場面指導(疾病の場面指導)
　個別指導の場面指導(生徒指導の場面指導：性の問題)
　個別指導の場面指導(健康相談)
Ⅴ児童生徒理解
　（１）スクールボランティアを活用したフイールド学習（１）～（３）
　（４）フイールド学習の振り返りと評価
　まとめ・評価

【履修上の注意事項】
これまでの教職に関する学習の総まとめの意味があるので、毎回関連する既習科目を復習し演習に臨むこと。
授業後は、行った演習を振り返り記録しポートフォリオを作成すること。

【評価方法】
講義についてのレポート、演習後の記録、グループワークでの活動、振り返りでの討論等を総合して評価する。

【テキスト】
新しく購入するものは特になし。これまで使った教科書や資料を利用する。

【参考文献】

看護学各論

担当教員 吉岡　久美

配当年次 ３年

単位区分 要件外

開講時期 第１学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
さまざまな疾患や症状の理解を深め、それぞれにおける看護の視点や方法について学習することを目的とする。また、養護教諭の職務の一領域である学校看護に必要な看護学を学ぶ。学校看護は、児童・生徒の生命を守り、健康の維持・増進をはかることを目的とし、また重要な教育活動である意義を理解する。心身のメカニズム、疾病・異常等、臨床看護実習にも必要な知識・技術を修得すると共に、これらを学校看護の教育としての独自性の中に生かすことを学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授　業　の　内　容
1	看護の基礎と看護行為の基本、疾病の経過や治療処置に伴う看護の理解を深める
2	循環器系疾患の発生機序、病態をもとに、疾患による看護を理解する
3	呼吸器系疾患の発生機序、病態をもとに、疾患による看護を理解する
4	消化器系疾患の発生機序、病態をもとに、疾患による看護を理解する
5	造血器系疾患　内分泌・代謝系疾患の発生機序、病態をもとに、疾患による看護を理解する
6	泌尿器・生殖器系疾患の発生機序、病態をもとに、疾患による看護を理解する
7	運動器系疾患の発生機序、病態をもとに、疾患による看護を理解する
8	脳神経系疾患、精神系疾患の発生機序とその看護を理解する
9	感覚器系疾患に関する病態とその看護を理解する
10	救命救急看護を理解する
11	発熱・腹痛・頭痛・嘔気嘔吐・呼吸困難・けいれんなどの症状別看護を理解する
12	小児看護と母性看護を理解する
13	思春期看護、障がいのある方への看護を理解する
14	老年、精神看護を理解する（在宅を含む）
15	ターミナルケアからグリーフケアまでの重要性を理解する

【履修上の注意事項】
事前学習として、それぞれの単元で扱う項目に関する事柄を、テキストから拾い上げておき、講義に臨むこと。事後学習では、講義終了後にノートをまとめなおし、関連する疾患や状態像と合わせて理解を深めること。

【評価方法】
課題の提出等　20%
筆記試験（小テストを含む）　80%

【テキスト】
養護教諭のための看護学　改訂版　藤井寿美子他　大修館書店

【参考文献】

基礎看護技術

担当教員 吉岡　久美、柴田　恵子、古江　佳織、新　裕紀子

配当年次 ３年

単位区分 要件外

開講時期 第２学期

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】
１．児童・生徒が健康に生活をするための援助法の一つとして、基礎看護技術を学ぶ。
２．看護の基礎技術を学習し習得することで、援助過程での活用の意義を理解する。

【授業の展開計画】
・第１回講義時に担当者等の詳細を説明する
・本教科は講義と演習で学習を進めるため、項目が前後することもありうる

週	授　業　の　内　容
1	病床環境調整の必要性とその方法について学習し実践する。
2	生命の兆候を観察する技術を知り、バイタルサインの示す意味と測定方法を習得する。
3	安全を守る技術を習得し、安楽な体位を理解して移動等の支援の実践方法を習得する。
4	運動と休息が身体に及ぼす影響を理解し、体位とバイタルサイン、運動の援助方法を習得する。
5	栄養管理を含めた食事の重要性を理解し、形態、摂取方法について理解する。
6	排泄の意義・目的を理解し、その管理方法と援助について実践する。
7	身体の清潔の目的を理解して、衣服管理・交換方法を含めた援助を実践する。
8	身体の清潔の目的を理解して、身体保清の具体的方法を習得する。
9	身体状況に応じた罨法の適応を理解して実践し、安楽かつ快適さを確保する技術を習得する。
10	検査・治療を安全かつ正確に行う技術を理解し、対象者の理解と看護の役割を知る。
11	感染の危険性を再確認し、その具体的予防としての管理方法、清潔操作、創傷管理等を実践する。
12	与薬についての知識を深め、薬剤の管理と投与方法を理解する。
13	安楽な呼吸のための吸引、吸入の目的と種類を理解し、手技と管理方法を習得する。
14	救急救命処置の技術を理解し、緊急時の判断ができる能力を習得する。
15	危篤・終末時の意味を知り、心理・生理的変化を踏まえて死を迎える時の援助を習得する。

【履修上の注意事項】
・演習は動きやすい服装（ジャージ等）と靴を準備すること
・準備物等は掲示板にて連絡するため、確認しておくこと
・講義及び演習の構成上、展開計画の流れが変更となることがあるが、事前に掲示するため注意し、
　十分に事前学習をしてレポート作成すること
・事後学習では、関連する疾患や状態像と合わせて理解を深め、課題に取り組むこと。

【評価方法】
筆記試験　70％　　学習への取り組み, 課題の提出　30％

【テキスト】
基礎看護技術　（メディカ出版）

【参考文献】
養護教諭講座３　新版　基礎看護学（東山書房）

臨床看護実習

担当教員 吉岡　久美、古賀　由紀子

配当年次 ３年

開講時期 第２学期

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】
看護学・基礎看護技術で学習した知識・技術を基に病院臨床の場でさらに観察し、またこれを実際に行ってみることにより、看護の理解を深める。
学校保健活動および養護教諭の職務、養護実習との関連を考え、臨床看護実習の意義を理解する。

【授業の展開計画】
１．病院施設、機構、環境、設備を理解する。
　病院における検査機器、医薬品の取り扱い
２．疾病理解とその対応
　様々な疾病について知り、それぞれの疾病に応じた対応を理解する
３．対象を理解し、適切なコミュニケーションをはかる
　患者理解とその対応、医療従事者への連絡・報告
４．看護業務を観察し、可能なことを実施してみる（指導者監督下）
①観察と測定
　情報収集
　バイタルサインのﾁｪｯｸ
②環境設備
　施設、環境、設備の理解と整備
　ベットメーキング
③日常生活の援助
　体位変換、病衣・シーツ交換、全身清拭、洗髪、入浴等介助、口腔の清潔、食事介助、
　経管栄養摂取、排泄介助
④処置
　診察介助、与薬、咽頭前吸引、導尿、包帯法
⑤清潔操作
　滅菌器具及び物品の取り扱い

【履修上の注意事項】
・実習事前指導に出席すること。
・事前学習として、これまで学んだ解剖整理、病態、医学一般、看護学各論、基礎看護技術、薬理学等を中心に復習しておくこと。
・事後学習では、報告会での他実習先での学びを振り返り、体験できなかった技術や対応について、その方法・留意点をまとめること。

【評価方法】
実習成績(90%)
実習出席状況、実習態度、看護実習レポート 看護カンファレンスへの参画、学内実習態度（発表内容等）(10%)

【テキスト】
実習要項、実習資料

【参考文献】
『基礎看護技術』　メディカ出版

教育実習（事前事後指導を含む）

担当教員 嶋　政弘、柴田　恵子、山下　忍、古賀　由紀子、山本　孝司、吉岡　久美、水間　宗幸、古江　佳織、新　裕紀子

配当年次 ４年

単位区分 要件外

開講時期 通年

授業形態 実習

単位数 3

準備事項

備考

【授業のねらい】
本学における教職課程で学んだ理論をもとに、学校現場における教育の実践的経験を通して、高校教諭に必要な資質や専門性、実践的指導力をもつことができる。

【授業の展開計画】
1. 事前指導（3年次～4年次実習前）
教育実習の意義・心得、実習の内容や過程の理解、教育現場の事前理解、指導案の作成、実習に必要な知識・技術・技能の獲得、及び実習校の確定とその手続き、実習校との打ち合わせにかかわる実際的な指導

2. 教育実習（4年次、2週間）
実習校の指導のもとで実習を行う

3. 事後指導（4年次、実習後）
実習に関する反省と指導―体験内容の相互共有により実習経験の充実・深化をはかる。また終了レポートの作成、自己評価、体験発表、討論会等を行う。

＊なお、事前事後指導については、別途指導計画表を配布する。とくに3年次は専門の実習の関係で、事前指導の日程は、変則的に組まれるので注意すること。初回のガイダンスで詳細に説明する。

【履修上の注意事項】
高校教諭1種免許状の取得希望者のみ。履修に当たっては教職課程履修細則が適用されるので、よく確認すること。
事前事後学習については担当者の指示に従うこと。

【評価方法】
実習校による評価（60%）、実習録・実習終了レポートによる評価（10%）、事前事後指導における平常の評価（授業態度等）（10%）、事前事後指導におけるレポート等による評価（20%）。
なお、事前事後指導、本実習のすべてにおいて、無断欠席は認められないので厳重に慎むこと。

【テキスト】
特に使用しない。資料を配布する。

【参考文献】
適宜紹介する。

養護実習（事前事後指導を含む）

担当教員　嶋　政弘、柴田　恵子、山下　忍、古賀　由紀子、山本　孝司、吉岡　久美、水間　宗幸、古江　佳織、新　裕紀子

配当年次　４年

単位区分　要件外

開講時期　通年

授業形態　実習

単位数　5

準備事項

備考

【授業のねらい】
①保健室の在り方および養護教諭の果たすべき役割と「養護」の対象である児童生徒の心身、生活の状況、健康問題について実習校の実態に基づいて述べることができる。②保健室に来室する児童生徒に対する中で、健康問題の発見・把握、健康問題の解決、予防のための指導などを適切に行うことができる。③自らが養護教諭になった時の姿（養護教諭増）を描くことができる。

【授業の展開計画】
１．１５日間の実習を行うものとする

２．実習の全期間を通じて学校教育の目的と、それを実現するための教育計画、教育課程、その他の日常教育活動及び、学校運営機構とその機能について理解を深めるとともに、学校教育のあらゆる場における養護教諭の活動について必要な事項を習得する。

３．実習校における実習は、主に「講義」「観察」「参加」「実習」という方法で行われる。

【履修上の注意事項】
・実習に当たっては１単位の事前事後指導を受けること
・履修に当たっては教職課程履修細則が適用されるのでよく確認をすること
・実習校の計画に基づき実習を行なうこと
・実習の事前学習を行うこと（学校組織、子どもの発育・発達、養護活動など）また、実習後には振り返りレポートを書くこと。

【評価方法】
実習校における評価（７０％）、実習録・実習終了レポートによる評価（１０％）、事前事後指導における平常の評価（出席、授業参加等）、事前事後指導におけるレポートによる評価（２０％）
なお、事前事後指導、本実習のすべてにおいて、無断欠席は認められないので厳重に慎むこと。

【テキスト】
養護実習の手引き及び配布資料

【参考文献】
適宜紹介する